玉名市文化財調査報告　第13集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ

平成13・14年度の調査

平成16年(2004).3月

玉名市教育委員会

玉名市文化財調査報告　第13集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ

平成13・14年度の調査

平成16年(2004).3月

玉名市教育委員会

本　文　目　次

ご挨拶
例言
本文目次
挿図目次
写真目次
Ⅰ　調査の概要……1
1　調査の体制……1
2　調査の方法……1
3　調査総括……1
Ⅱ　平成13年度の調査……5
1　岩崎城跡……7
2　岩崎原遺跡（A地点）……8
3　古閑遺跡……9
4　高瀬御茶屋跡……12
5　一本松遺跡……15
6　高岡原遺跡……16
7　保田木貝塚・保田木城跡……20
8　稲荷山古墳……22
9　岩崎原遺跡（B地点）……23
10　玉名平野条里跡……24
11　永安寺跡・永安寺古塔碑群……25
12　糠峯遺跡……28
13　山田松尾平遺跡……46
14　長福寺跡……47
15　築地市場遺跡……50
16　菊尾遺跡……52
17　伊倉古宮原遺跡……56
18　田嶋遺跡（A地点）……58
19　大塚・惣萩遺跡（A地点）……63
20　田嶋遺跡（B地点）……64
21　上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡……65
22　大塚・惣萩遺跡（B地点）……67
Ⅲ　平成14年度の調査……71
1　大塚・惣萩遺跡……73
2　青野原遺跡……74
3　稲荷山古墳……76
4　高岡原J遺跡……78
5　五郎丸遺跡（A地点）……95
6　狐ん路遺跡……96
7　西の山古墳群……103
8　長福寺跡……105
9　高瀬本町通遺跡……109
10　伊倉宮の後遺跡……111
11　亀甲遺跡（A地点）……113
12　五郎丸遺跡（B地点）……114
13　蓮華遺跡……115
14　亀甲遺跡（B地点）……116
15　一本松遺跡……117
16　保田木城跡・光蓮寺跡……118
17　ふれあい広場建設予定地……123
18　中村館跡……125
19　築地東遺跡……130
Ⅳ　石橋の調査……135
1　乙宮橋……135
2　石造十六橋……138
3　石貫車橋……141
付論　近世における「高瀬」の側面と出土陶磁器……143
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　玉名市内遺跡分布図…… 3
第２図　岩崎城跡調査地位置図…… 7
第３図　岩崎城跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 7
第４図　岩崎原遺跡Ａ地点調査地位置図 …… 8
第５図　岩崎原遺跡Ａ地点周辺地籍図・トレンチ配置図 …… 8
第６図　岩崎原遺跡Ａ地点トレンチ土層図…… 8
第７図　古閑遺跡調査地位置図…… 9
第８図　古閑遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 9
第９図　古閑遺跡トレンチ実測図…… 10
第10図　古閑遺跡遺物実測図…… 10
第11図　高瀬御茶屋跡調査地位置図…… 12
第12図　高瀬御茶屋跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 12
第13図　高瀬御茶屋跡トレンチ実測図…… 13
第14図　高瀬御茶屋跡遺物実測図…… 13
第15図　一本松遺跡調査地位置図…… 15
第16図　一本松遺跡トレンチ配置図…… 15
第17図　高岡原遺跡調査地位置図…… 16
第18図　高岡原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 16
第19図　高岡原遺跡トレンチ実測図…… 17
第20図　高岡原遺跡遺物実測図（1）…… 18
第21図　高岡原遺跡遺物実測図（2）…… 19
第22図　保田木貝塚・保田木城跡調査地位置図 …… 20
第23図　保田木貝塚・保田木城跡調査地周辺地籍図…… 20
第24図　保田木貝塚・保田木城跡トレンチ土層図…… 21
第25図　保田木貝塚・保田木城跡遺物実測図…… 21
第26図　稲荷山古墳調査地位置図…… 22
第27図　稲荷山古墳調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 22
第28図　稲荷山古墳トレンチ土層図 …… 22
第29図　岩崎原遺跡Ｂ地点調査地位置図 …… 23
第30図　岩崎原遺跡Ｂ地点地籍図・トレンチ配置図…… 23
第31図　岩崎原遺跡Ｂ地点土層図…… 23
第32図　玉名平野条里跡調査地位置図…… 24
第33図　玉名平野条里跡トレンチ配置図・土層図…… 24
第34図　永安寺跡・永安寺古塔碑群調査地位置図…… 25

第35図　永安寺跡・永安寺古塔碑群調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 25
第36図　永安寺跡・永安寺古塔碑群土層断面図…… 26
第37図　永安寺跡・永安寺古塔碑群遺物実側図…… 27
第38図　糠峯遺跡周辺古代～中世主要遺跡分布図…… 29
第39図　糠峯遺跡調査地位置図…… 31
第40図　糠峯遺跡調査範囲・確認調査トレンチ配置図…… 31
第41図　糠峯遺跡確認調査トレンチ実測図…… 33
第42図　糠峯遺跡遺構実測図…… 34
第43図　糠峯遺跡甕棺墓実図…… 36
第44図　糠峯遺跡甕棺実測図…… 37
第45図　糠峯遺跡遺物実測図…… 38
第46図　糠峯遺跡1号溝出土遺物実測図（1）…… 39
第47図　糠峯遺跡1号溝出土遺物実測図（2）…… 40
第48図　糠峯遺跡遺構外出土遺物実測図（1）…… 40
第49図　糠峯遺跡遺構外出土遺物実測図（2）…… 41
第50図　松尾平遺跡調査地位置図…… 46
第51図　松尾平遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 46
第52図　松尾平遺跡トレンチ土層断面図…… 46
第53図　長福寺跡調査地位置図…… 47
第54図　長福寺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 47
第55図　長福寺跡トレンチ実測図…… 48
第56図　長福寺跡遺物実測図…… 48
第57図　築地市場遺跡調査地位置図…… 50
第58図　築地市場遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 50
第59図　築地市場遺跡トレンチ実測図…… 51
第60図　菊尾遺跡調査地位置図…… 52
第61図　菊尾遺跡遺構配置図…… 53
第62図　菊尾遺跡遺構実測図…… 53
第63図　菊尾遺跡遺物実測図（1）…… 54
第64図　菊尾遺跡遺物実測図（2）…… 55
第65図　伊倉古宮原遺跡調査地位置図…… 56
第66図　伊倉古宮原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 56
第67図　伊倉古宮原遺跡トレンチ実測図…… 57
第68図　伊倉古宮原遺跡遺物実測図…… 57
第69図　田嶋遺跡Ａ地点調査地位置図…… 58
第70図　田嶋遺跡Ａ地点周辺地籍図・トレンチ配置図…… 58

第71図　田嶋遺跡Ａ地点トレンチ・遺構配置図…… 59
第72図　田嶋遺跡Ａ地点遺構･土層実測図…… 59
第73図　田嶋遺跡Ａ地点トレンチ実測図…… 60
第74図　田嶋遺跡Ａ地点遺物実測図（1）…… 61
第75図　田嶋遺跡Ａ地点遺物実測図（2）…… 62
第76図　大塚・惣萩遺跡Ａ地点調査地位置図…… 63
第77図　大塚・惣萩遺跡Ａ地点周辺地籍図・トレンチ配置図…… 63
第78図　田嶋遺跡Ｂ地点調査地位置図…… 64
第79図　田嶋遺跡Ｂ地点周辺地籍図・トレンチ配置図…… 64
第80図　上小田宮の前遺跡・古屋敷遺跡調査地位置図…… 65
第81図　上小田宮の前遺跡・古屋敷遺跡トレンチ配置図…… 65
第82図　上小田宮の前遺跡・古屋敷遺跡トレンチ土層図・遺物実測図…… 66
第83図　大塚・惣萩遺跡Ｂ地点調査地位置図…… 67
第84図　大塚・惣萩遺跡Ｂ地点周辺地籍図・トレンチ配置図…… 67
第85図　大塚・惣萩遺跡調査地位置図…… 73
第86図　大塚・惣萩遺跡周辺地籍図・トレンチ配置図…… 73
第87図　大塚・惣萩遺跡トレンチ土層図…… 73
第88図　青野原遺跡調査地位置図…… 74
第89図　青野原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 74
第90図　青野原遺跡トレンチ・遺物実測図…… 75
第91図　稲荷山古墳調査地位置図…… 76
第92図　稲荷山古墳調査地周辺地籍図・トレンチ配置図…… 76
第93図　稲荷山古墳遺物実測図…… 76
第94図　玉名市内縄文時代主要遺跡分布図…… 79
第95図　高岡原J遺跡調査地位置図…… 80
第96図　高岡原J遺跡調査範囲位置図…… 80
第97図　高岡原J遺跡確認調査トレンチ土層図…… 80
第98図　高岡原J遺跡Ⅳ層上面遺構配置図…… 82
第99図　高岡原J遺跡Ⅴ層上面遺構配置図…… 83
第100図　高岡原J遺跡遺構平面図（Ⅳ層上面）…… 85
第101図　高岡原J遺跡トレンチ土層図…… 86
第102図　高岡原J遺跡遺構実測図（Ⅴ層上面）…… 87
第103図　高岡原J遺跡遺物実測図…… 87
第104図　五郎丸遺跡Ａ地点調査地位置図…… 95
第105図　五郎丸遺跡Ａ地点周辺地籍図・トレンチ配置図…… 95
第106図　五郎丸遺跡Ａ地点トレンチ土層図…… 95

第107図　狐ん路遺跡周辺弥生時代主要遺跡分布図…… 97
第108図　狐ん路遺跡調査地位置図…… 98
第109図　狐ん路遺跡調査範囲…… 98
第110図　狐ん路遺跡確認調査トレンチ実測図…… 98
第111図　狐ん路遺跡遺構実測図……100
第112図　狐ん路遺跡遺物実測図……100
第113図　西の山古墳群調査地位置図……103
第114図　西の山古墳群調査地周辺地籍図トレンチ配置図……103
第115図　西の山古墳群トレンチ土層図……104
第116図　長福寺跡調査地位置図……105
第117図　長福寺跡トレンチ配置図……105
第118図　長福寺跡トレンチ土層図……106
第119図　長福寺跡遺物実測図……107
第120図　高瀬本町通遺跡調査地位置図……109
第121図　高瀬本町通遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図……109
第122図　高瀬本町通遺跡トレンチ実測図……110
第123図　高瀬本町通遺跡石列配置図……110
第124図　高瀬本町通遺跡遺物実測図……110
第125図　伊倉宮の後遺跡調査地位置図……111
第126図　伊倉宮の後遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図……111
第127図　伊倉宮の後遺跡トレンチ土層図……112
第128図　伊倉宮の後遺跡遺物実測図……112
第129図　亀甲遺跡Ａ地点調査地位置図……113
第130図　亀甲遺跡Ａ地点周辺地籍図・トレンチ配置図……113
第131図　亀甲遺跡Ａ地点トレンチ土層図……113
第132図　亀甲遺跡Ａ地点遺物実測図……113
第133図　五郎丸遺跡Ｂ地点調査地位置図……114
第134図　五郎丸遺跡Ｂ地点周辺地籍図・トレンチ配置図……114
第135図　蓮華遺跡調査地位置図……115
第136図　蓮華遺跡土層断面位置図……115
第137図　蓮華遺跡土層断面図……115
第138図　亀甲遺跡Ｂ地点調査地位置図……116
第139図　亀甲遺跡Ｂ地点周辺トレンチ配置図……116
第140図　亀甲遺跡Ｂ地点トレンチ実測図……116
第141図　一本松遺跡調査地位置図……117
第142図　一本松遺跡トレンチ配置図……117

第143図　一本松遺跡トレンチ土層図……117
第144図　保田木城跡・光蓮寺跡調査地位置図……118
第145図　保田木城跡・光蓮寺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図……118
第146図　保田木城跡・光蓮寺跡凝灰岩位置図……119
第147図　保田木城跡・光蓮寺跡トレンチ土層図……119
第148図　保田木城跡・光蓮寺跡遺物実測図(1)……120
第149図　保田木城跡・光蓮寺跡遺物実測図(2)……121
第150図　ふれあい広場建設予定地位置図……123
第151図　ふれあい広場建設予定地トレンチ配置図・土層図……123
第152図　中村館跡調査地位置図……125
第153図　中村館跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図……125
第154図　中村館跡全体図……126
第155図　中村館跡トレンチ土層図……127
第156図　中村館跡遺物実測図……128
第157図　築地東遺跡調査地位置図……130
第158図　築地東遺跡トレンチ配置図……130
第159図　築地東遺跡トレンチ土層図……131
第160図　築地東遺跡遺物実測図……131
第161図　乙宮橋位置図……135
第162図　乙宮橋実測図……135
第163図　石造十六橋位置図……138
第164図　石造十六橋実測図……139
第165図　石貫車橋位置図……141
第166図　石貫車橋実測図……141

ご　挨　拶

玉名市は、縄文時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。近年は、国道208号玉名バイパスの建設も進み、九州新幹線の整備も予定されており、県北部における政治経済・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を遂げようとしています。

このような中で、玉名市教育委員会ではさまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行のため、専門職員の増員を図るなど、体制の充実に努めてまいりました。今後予想される九州新幹線をはじめとする各事業に対応するため、玉名市内に所在する文化財の状況把握にも常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しているところであります。また、その成果の公開・活用を通じて、広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、平成13・14年度に実施した、各種開発に伴う試掘確認調査などの成果をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査、報告書作成にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成16年3月31日

玉名市教育委員会

教育長　森　義臣

例　　言

1．本書は、玉名市教育委員会が平成１３年・１４年の２カ年に国・県の補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2．調査は、玉名市教育委員会社会教育課竹田宏司、田中康雄、末永崇、古閑敬士、蜷父雅史、大倉千寿が担当した。
3．本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4．遺物の実測は、蜷父が行い、精図は、末永、蜷父、早川イツエが行った。
5．調査時の写真撮影は、各調査担当者が行い、遺物写真撮影は末永が行った。
6．挿図に使用している座標は、玉名市役所税務課の地籍図から転記した。座標値は日本測地系の第２座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7．同一年度に同遺跡の調査を複数行っている場合には、年度毎に、アルファベットによる調査地点名を付している。
8．調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
9．出土遺物の整理作業は、玉名市文化財整理室で行った。
10．出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
11．本書の執筆は、各担当者が調査後に作成した報文をもとに末永が校正・補足した。編集は末永が担当した。

Ⅰ　調査の概要

1　調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

平成１３年度

調査主体　玉名市教育委員会
調査責任　教育長　三次昭也
調査総括　教育次長　久多見澄夫
　　社会教育課長　牧野和明
　　社会教育課審議員兼文化係長
　　西田道杢
庶務担当　参事　徳永太一郎
　　主事　東田優子
調査担当　参事　竹田宏司
　　技師　田中康雄
　　技師　末永　崇
　　調査員　蜷父雅史

平成１４年度

調査主体　玉名市教育委員会
調査責任　教育長　三次昭也
調査総括　教育次長　久多見澄夫
　　社会教育課長　牧野和明
　　社会教育課審議員兼課長補佐
　　西田道杢
庶務担当　文化係長　岩永次郎
　　主事　髙田智華
調査担当　参事　竹田宏司
　　主任　田中康雄
　　技師　末永　崇
　　調査員　古閑敬士
　　調査員　蜷父雅史
　　調査員　大倉千寿

平成１５年度（報告書作成）

調査主体　玉名市教育委員会
調査責任　教育長　三次昭也（至12月19日）
　　教育長　森　義臣（自12月22日）
調査総括　教育次長　久多見澄夫
　　社会教育課長　牧野和明
　　社会教育課審議員兼課長補佐
　　西田道杢
庶務担当　文化係長　岩永次郎
　　主事　清田静香
報告書担当　技師　末永　崇
　　調査員　蜷父雅史

2　調査の方法

試掘確認調査については、重機掘削により幅0.7～１m程度のトレンチを設定しており、重機が使用不可能な場合や、包含層の一部、遺構については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積等ついては特に基準等定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20スケールを基本として、平面・断面図を作成している。トレンチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。地形測量図等が必要な場合には、平板及び光波測距儀を使用して、1/100スケールもしくは1/200スケールで作成している。

写真は、通常は35㎜カラーネガを用いており、重要な遺構などが確認された場合は35㎜モノクロ及びリバーサルフィルムによる撮影を行っている。

3　調査総括

玉名市では、平成11年度より、国・県の補助を受けて、各種開発に伴う試掘確認調査等を実施している。平成11年度、12年度はそれぞれ11件と27件の試掘確認調査を実施している。

平成13年度、14年度は、それぞれ22件と19件の試掘確認調査を実施した。地域的には、市域で最も住宅が集中している、玉名町校区、築山校区での調査が多い。調査原因は専用住宅、共同住宅に伴う調査が大部分である。

平成13年度の調査概要は次のとおり。

高瀬地区では保田木貝塚、高瀬御茶屋、長福寺跡の確認調査を実施しており、主に近世～近代の遺物が出土している。

築地、山田、立願寺地区では、菊尾遺跡、古閑遺跡、糠峯遺跡、大塚・惣萩遺跡、高岡原遺跡などの調査を実施している。

菊尾遺跡の調査では、古墳時代前期とみられる住居跡が確認されている。平成12年度に実施した確認調査で検出された住居跡からは古墳時代後期の須恵器が出土しており、今後の調査では集落の時期変遷なども考慮する必要がある。

糠峯遺跡では、確認調査後に本調査を実施しており、弥生時代の甕棺墓などが確認されている。その他、縄文時代や古代の遺物が出土している。

高岡原遺跡の調査では、弥生時代後期の住居跡が確認され、過去の調査と併せて集落の様相などの検討が必要であろう。

大塚・惣萩遺跡では、14年度も併せて３件の確認調査を行ったが、隣接する古墳に伴うとみられる遺構などは確認されなかった。調査した地点は既に植林や畑などの造成に伴い削平されており、周溝などの残存の可能性は低いと判断される。

永安寺跡・永安寺古塔碑群の調査では、主に中世の土師器などの遺物が多く出土している。

伊倉古宮原遺跡の調査では、主に弥生時代後期の土器片が検出されており、立地などから調査地点周辺には集落の存在が予想される。

平成14年度の調査概要は次のとおり。

高瀬地区では保田木城跡・光蓮寺跡、長福寺跡、高瀬本町通遺跡の調査を実施しており、13年度と合わせると６件になる。調査では、近世の陶磁器や、近世又は近代の建物の基礎などが確認されている。

高岡原J遺跡では、確認調査後に本調査を実施し、縄文時代とみられる遺構や、古代とみられる溝状の遺構などが確認された。

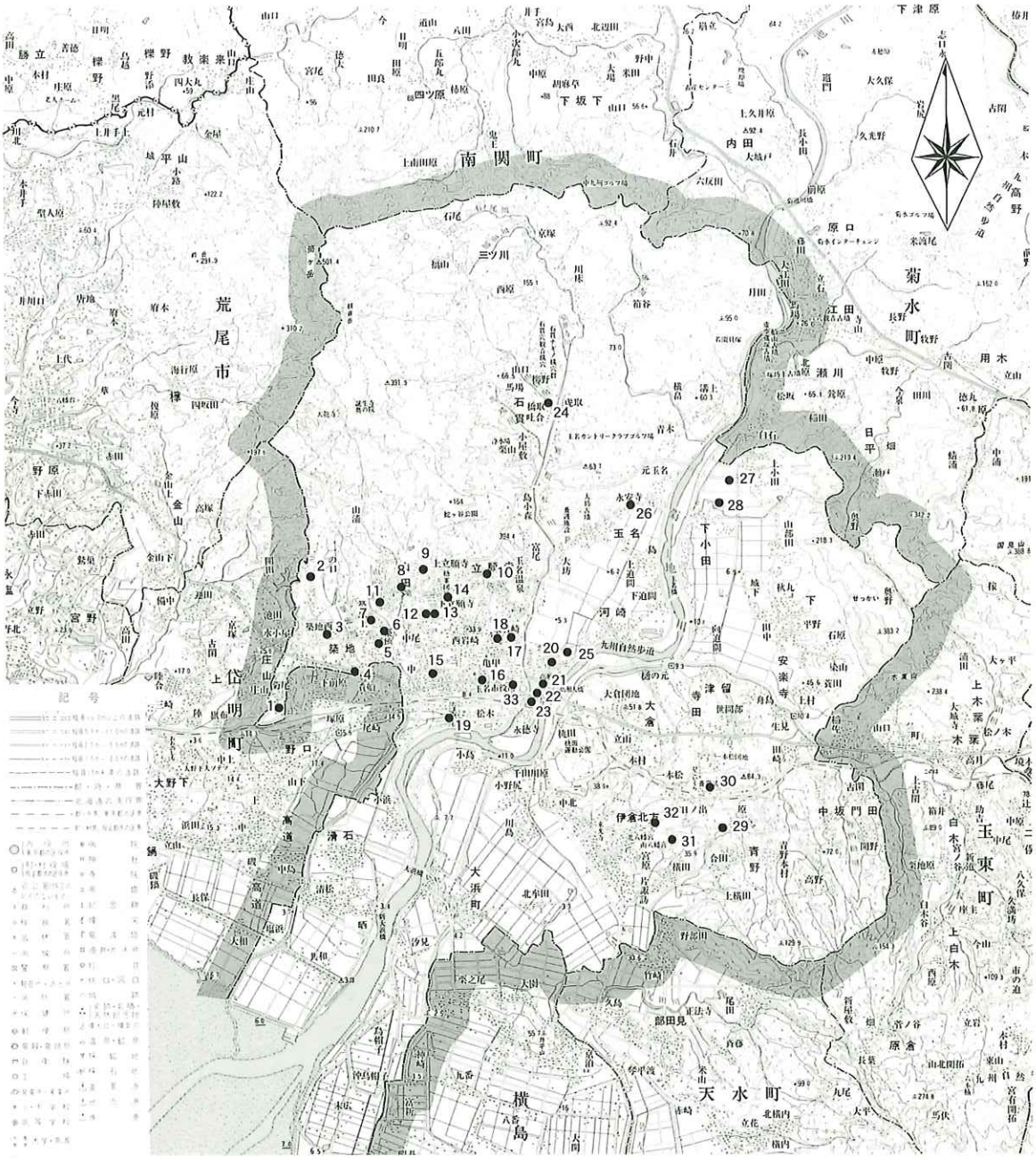
狐ん路遺跡でも、確認調査後に本調査を実施し、弥生時代後期の住居跡を検出した。

玉名市西側の境川右岸に所在する田嶋遺跡・中村館跡では、13年度と合わせ３件の調査を実施している。調査では、溝状の遺構が検出され、館に伴う堀跡と判断される。その他古代の遺物や竪穴住居跡が確認されている。田嶋遺跡に隣接する春出遺跡では平成12年度に玉名市西部地区土地区画整理事業に伴い確認調査が行われている。

築地東遺跡の調査では、住居跡とみられる遺構が検出され、古墳時代前期の甕などが出土している。

伊倉地区では、一本松遺跡、伊倉宮の後遺跡の調査を実施した。伊倉宮の後遺跡では、縄文時代、弥生時代の遺物が出土した。

また、玉名市教育委員会では平成10年度から玉名市内に所在する石橋の調査を３ヶ所行った。それぞれ乙宮橋、石造十六橋、石貫車橋であり、今回併せて報告している。



1　菊尾遺跡
2　西の山古墳群
3　狐ん路遺跡
4　築地市場遺跡
5　蓮華遺跡
6　古閑遺跡
7　築地東遺跡
8　石造十六橋
9　山田松尾平遺跡
10　大塚・惣萩遺跡
11　五郎丸遺跡
12　高岡原遺跡
13　高岡原Ｊ遺跡
14　糠峯遺跡
15　田嶋遺跡・中村館跡
16　亀甲遺跡
17　岩崎城跡
18　岩崎原遺跡
19　玉名平野条里跡
20　保田木貝塚・保田木城跡
　　光蓮寺跡
21　高瀬本町通遺跡
22　長福寺跡
23　高瀬御茶屋跡
24　石貫車橋
25　乙宮橋
26　永安寺跡・永安寺古塔碑群
27　上小田宮の前遺跡
28　上小田古屋敷遺跡
29　青野原遺跡
30　一本松遺跡
31　伊倉古宮原遺跡
32　伊倉宮の後遺跡
33　稲荷山古墳

第１図　玉名市内遺跡分布図　S＝1/100,000　※今回報告分のみ

平成13・14年度市内遺跡試掘確認調査一覧

年度	番号	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	種別	略号	調査原因	調査期日	担当者	措置	備考
13	1	岩崎城跡	岩崎字池田668-3	776.00	確認調査	ISJ	公民館建設	13年4月18日	田中康雄	発掘調査	
13	2	岩崎原遺跡（A地点）	立願寺字前畑13-3	851.11	確認調査	ISH	共同住宅	13年4月20日	末永　崇	慎重工事	
13	3	古閑遺跡	築地2022-1,2016-1,1884-4外11筆	6,912.00	試掘確認調査	KOG	店舗	13年5月14日～5月17日	末永　崇	慎重工事	
13	4	高瀬御茶屋跡	高瀬583外3筆	1,635.38	確認調査	TOA	倉庫	13年6月6日	田中康雄	慎重工事	
13	5	一本松遺跡	伊倉北方2231-1	1,200.00	確認調査	IPM	福祉施設	13年6月8日	田中康雄	慎重工事	
13	6	高岡原遺跡	山田字高岡原2046-1	692.00	確認調査	TOB	共同住宅	13年6月21日	田中康雄	慎重工事	
13	7	保田木貝塚・保田木城跡	高瀬１,3の一部	1,016.21	確認調査	HTK･HKJ	神社	13年6月26日～6月28日	田中康雄	工事立会	
13	8	稲荷山古墳	繁根木87-16	71.00	確認調査	IYK	駐車場建設	13年7月11日	田中康雄	慎重工事	
13	9	岩崎原遺跡（B地点）	岩崎字南岩原1136	883.69	確認調査	ISH	共同住宅	13年8月29日	田中康雄	慎重工事	
13	10	玉名平野条里跡	六田7-1	6,031.83	確認調査	THJ	事務所	13年8月24日	田中康雄	慎重工事	
13	11	永安寺跡・永安寺古塔碑群	玉名字永安寺3233	635.36	確認調査	EAJ･EKG	専用住宅	13年9月14日	田中康雄	工事立会	
13	12	糠峯遺跡	立願寺六地蔵858-1	1,211.00	確認調査	NKM	共同住宅	13年9月4日～9月5日	末永　崇	発掘調査	
13	13	山田松尾平遺跡	山田字松尾平1361-8	496.17	確認調査	YMH	専用住宅	13年9月7日	田中康雄	慎重工事	
13	14	長福寺跡	高瀬字八日町552	375.29	確認調査	CFJ	店舗兼住宅	13年9月10日	竹田宏司	慎重工事	
13	15	築地市場遺跡	築地字市場99,100-1,102-1	1,033.06	確認調査	TJI	店舗	13年11月6日	蜃父雅史	慎重工事	
13	16	菊尾遺跡	築地642-2	140.14	工事立会	KNO	専用住宅	13年11月9日～14年7月4日	蜃父･古閑	工事立会	
13	17	伊倉古宮原遺跡	宮原字宮川476-5	340.00	確認調査	IFM	専用住宅	13年12月11日	蜃父雅史	慎重工事	
13	18	田嶋遺跡（A地点）	中字寺畑1577	526.35	確認調査	TJM	専用住宅	14年1月8日～1月9日	蜃父雅史	工事立会	
13	19	大塚・惣萩遺跡（A地点）	立願寺字大塚1050-1	1655	確認調査	OTH	調査依頼	14年1月21日	蜃父雅史	－	
13	20	田嶋遺跡（B地点）	中字寺畑1592-5,1589-7	248.38	確認調査	TJM	専用住宅	14年2月8日	蜃父雅史	慎重工事	
13	21	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡	上小田字今寺712～字上の前787-1	4160	確認調査	KOM	道路	14年3月12日～3月14日	蜃父雅史	慎重工事	
13	22	大塚・惣萩遺跡（B地点）	立願寺字大塚1065-1,1065-3,1064	1682	確認調査	OTH	宅地造成	14年3月20日	蜃父雅史	慎重工事	
14	1	大塚・惣萩遺跡	立願寺字大塚1065-2	1,014.00	確認調査	OTH	調査依頼	14年4月25日	蜃父雅史	－	
14	2	青野原遺跡	大字青野字北原231-1	1,013.00	確認調査	ANH	送電線鉄塔	14年4月26日	蜃父雅史	慎重工事	
14	3	稲荷山古墳	繁根木74,188	1,125.00	確認調査	INY	擁壁	14年4月16日	蜃父雅史	慎重工事	
14	4	高岡原J遺跡	山田字高岡原2016-1,2018,2015-1	2,231.14	確認調査	TOJ	診療所	14年5月17日～5月28日	古閑敬士	発掘調査	
14	5	五郎丸遺跡（A地点）	山田字白石538-3	330.00	確認調査	GRM	専用住宅	14年6月6日～6月12日	古閑敬士	慎重工事	
14	6	狐ん路遺跡	築地字池下1199-5	386.90	確認調査	KNM	専用住宅	14年6月21日～6月25日	古閑敬士	発掘調査	
14	7	西の山古墳群	築地字西山954-40	1,650.00	確認調査	NYK	専用住宅	14年7月2日	古閑敬士	慎重工事	
14	8	長福寺跡	高瀬548	862.02	確認調査	CFJ	銀行	14年8月7日～8月9日	蜃父雅史	慎重工事	
14	9	高瀬本町通遺跡	高瀬字下町511-3	100.11	確認調査	THT	店舗兼用住宅	14年8月12日	蜃父雅史	慎重工事	
14	10	伊倉宮の後遺跡	伊倉北方字宮ノ後2668,2700	744.57	確認調査	IMA	専用住宅	14年9月10日	大倉千寿	慎重工事	
14	11	亀甲遺跡（A地点）	亀甲上ェ畑187-3	399.55	確認調査	KMK	事務所	14年10月4日	大倉千寿	慎重工事	
14	12	五郎丸遺跡（B地点）	山田字白石533-1	1,156.00	確認調査	GRM	専用住宅	14年12月25日	古閑敬士	慎重工事	
14	13	蓮華遺跡	築地字南大門2243-1	440.46	確認調査	RNG	共同住宅	15年1月9日	末永　崇	慎重工事	
14	14	亀甲遺跡（B地点）	亀甲字北園238-1	746.15	確認調査	KMK	診療所	15年2月19日	末永　崇	慎重工事	
14	15	一本松遺跡	伊倉北方2231	5.60	確認調査	IPM	給食センター	15年3月12日～3月13日	蜃父雅史	慎重工事	
14	16	保田木城跡・光蓮寺跡	高瀬83,83-6	639.00	確認調査	HKJ･KRJ	共同住宅	15年3月17日	蜃父雅史	慎重工事	
14	17	ふれあい広場建設予定地	立願寺地内	3,000.00	試掘調査	－	公園	15年3月19日～3月20日	蜃父雅史	慎重工事	
14	18	中村館跡	中1426-1,1386-1	600.00	確認調査	NMY	範囲確認	15年3月25日～3月27日	蜃父雅史	－	
14	19	築地東遺跡	築地1852,1854-1,1854-3	2,500.00	確認調査	TJH	範囲確認	15年3月28日	蜃父雅史	－	

Ⅱ　平成１３年度の調査

岩崎城跡
岩崎原遺跡(A地点)
古閑遺跡
高瀬御茶屋跡
一本松遺跡
高岡原遺跡
保田木貝塚
稲荷山古墳
岩崎原遺跡(B地点)
玉名平野条里跡
永安寺跡・永安寺古塔碑群
糠峯遺跡
山田松尾平遺跡
長福寺跡
菊尾遺跡
築地市場遺跡
伊倉古宮原遺跡
田嶋遺跡(A地点)
大塚・惣萩遺跡(A地点)
田嶋遺跡(B地点)
上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡
大塚・惣萩遺跡(B地点)

1　岩崎城跡

所在地：岩崎字池田668－3

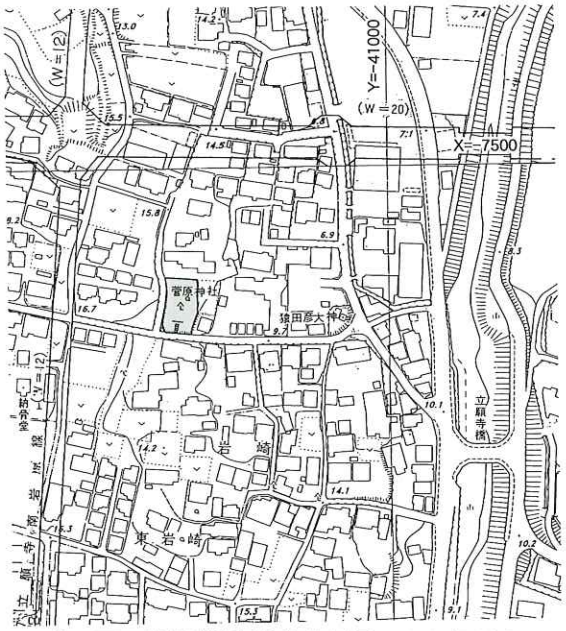
対象面積：776㎡

調査期間：13年4月18日

担当者：田中康雄

調査地は、繁根木川の右岸、玉名市域中心部の低丘陵上に位置し、標高約15mの地点である。岩崎城跡と推定されている菅原神社境内の北側部分であり、神社の南西側には、堀跡と思われるものが一部良好な状態で残存している。

今回は、公民館の建設に伴い確認調査を行った。その後、本調査を実施しており、平成14年度に報告書を作成している。



第２図　岩崎城跡調査地位置図　S=1/5,000

第３図　岩崎城跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

岩崎城跡調査地近景（西から）

岩崎城跡調査状況（西から）

岩崎城跡遺構検出状況

2　岩崎原遺跡（Ａ地点）

所在地：立願寺前畑13－3

対象面積：851.11㎡

調査期間：13年4月20日

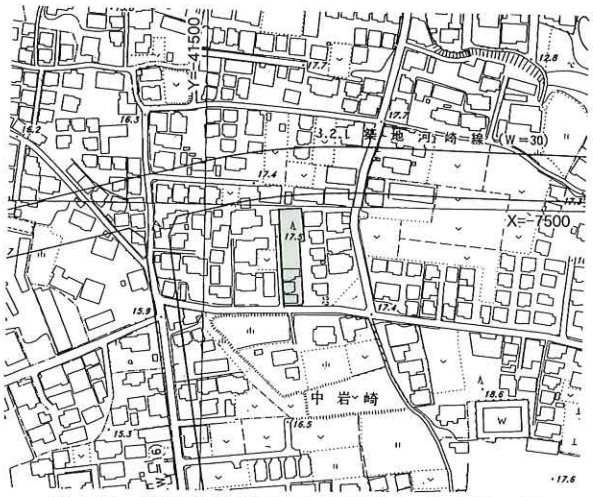
担当者：末永　崇

調査地は、国道208号線の北側、玉名市域中心部の低丘陵上に位置し、標高17.5m程の地点である。周辺は、以前は畑作地であったが、現在は宅地化されている。

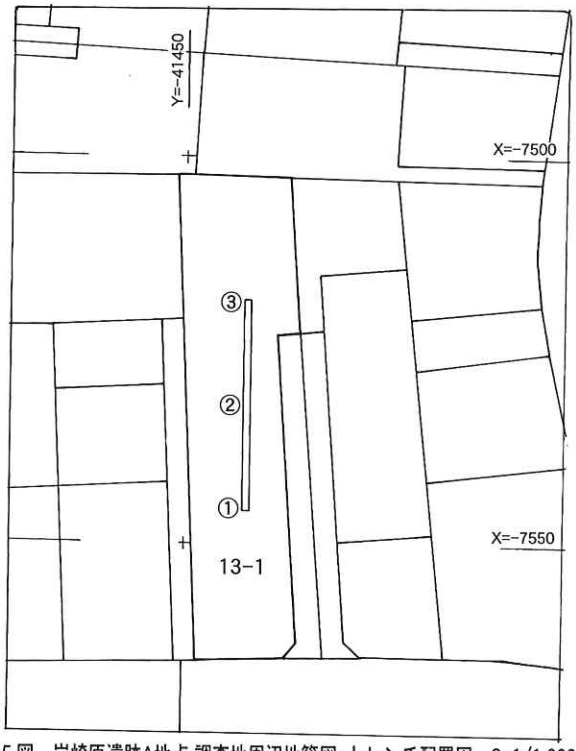
今回の調査では、対象地の中央に1本トレンチを設定し、重機により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。

調査の結果、Ⅰ～Ⅵ層までを確認したが、遺構、遺物は確認されなかった。Ⅰ、Ⅱ層は現在の表土及び耕作に伴う層である。Ⅲ、Ⅳ層は、暗褐色から黒褐色を呈する層で、周辺の発掘調査などで確認されている遺物包含層に近似しているが、今回調査した範囲において遺物は検出されなかった。Ⅴ層以下は暗褐色の層で、無遺物層と判断した。

調査後の措置は、慎重工事である。

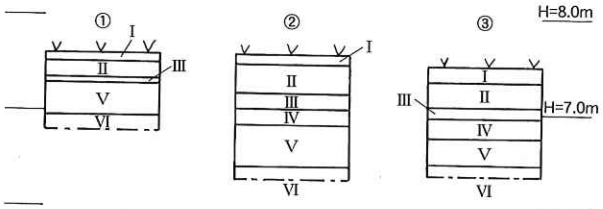


第４図　岩崎原遺跡A地点 位置図　S=1/5,000



第５図　岩崎原遺跡A地点 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

岩崎原遺跡Ａ地点 調査状況（南から）



第6図　岩崎原遺跡A地点 トレンチ土層図

Ⅰ層　表土(砂)
Ⅱ層　暗褐色土(7.5YR3/3) 畑耕作土
Ⅲ層　黒褐色土(7.5YR3/1)
　しまりがあり、あまり粘性有しない。焼土・炭化物わずかに含む。
Ⅳ層　暗褐色土(7.5YR3/4)
　しまりがあり、やや粘性有す。
　Ⅱ層とは明確には分離できず、部分的にⅡ層の黒褐色土を含む。
Ⅴ層　暗褐色土(7.5YR3/3)
　しまりがあり、やや粘性を有す。部分的に暗い部分もあり、全体的に濁りがある。
Ⅵ層　暗色土(7.5YR4/3)
　しまりがあり、あまり粘性有しない。砂、細かい礫片を少量混入する。
※遺構、遺物は未検出

3　古閑遺跡

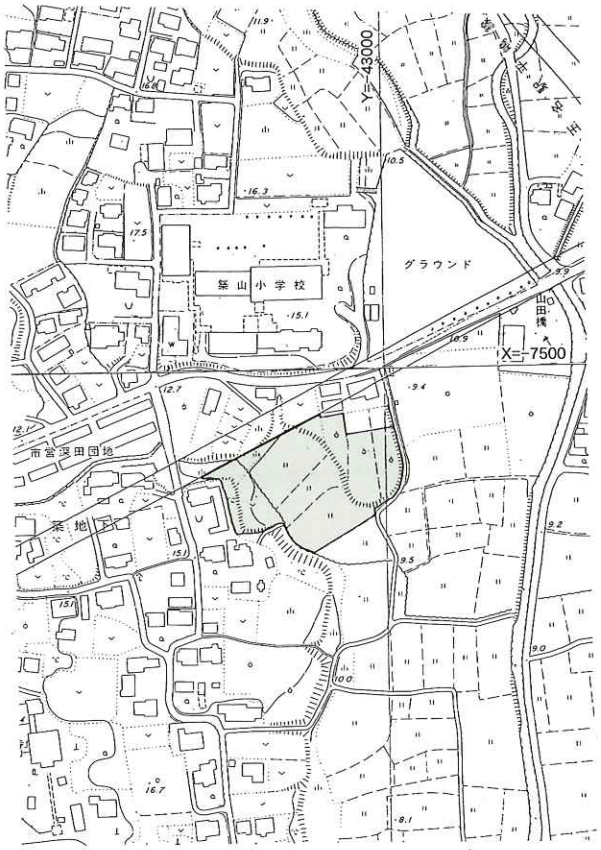
所在地：築地2022-1・2016-1外12筆

対象面積：6912㎡

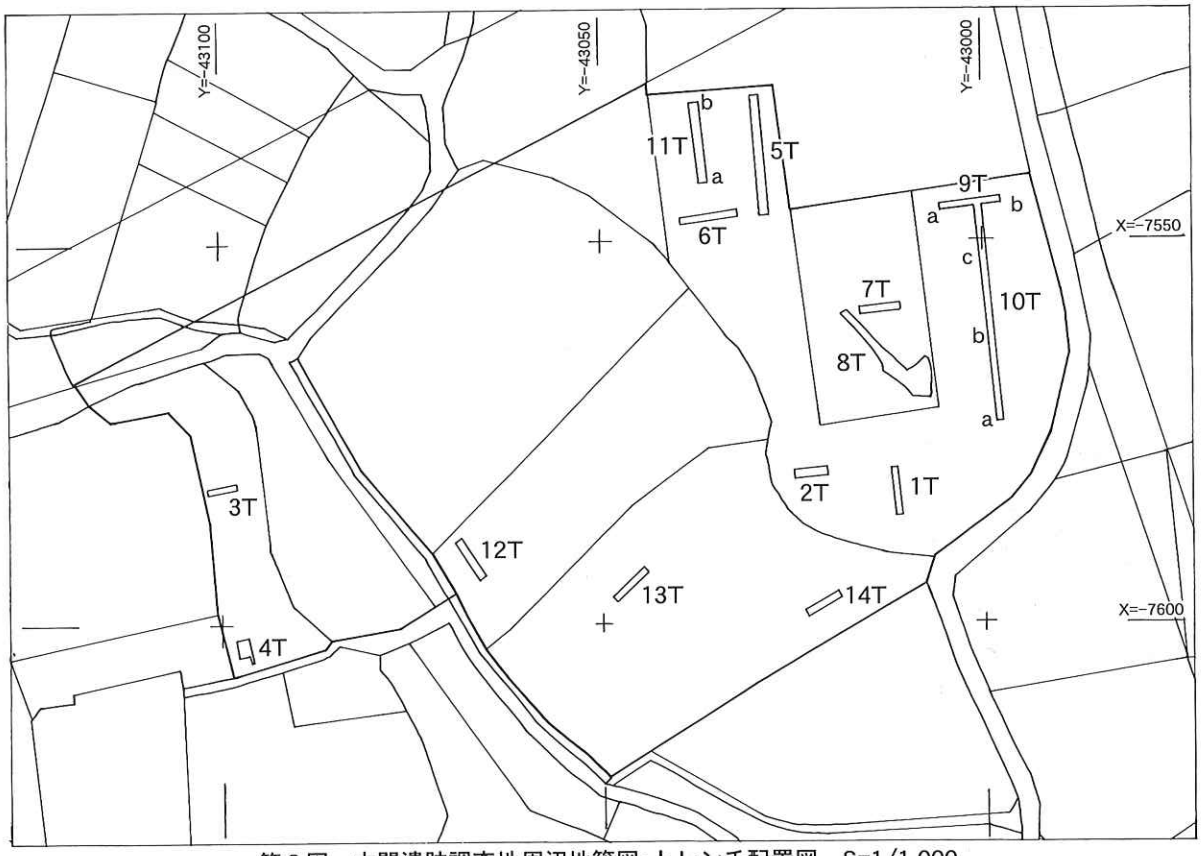
調査期間：13年5月14日～5月17日

担当者：末永　崇

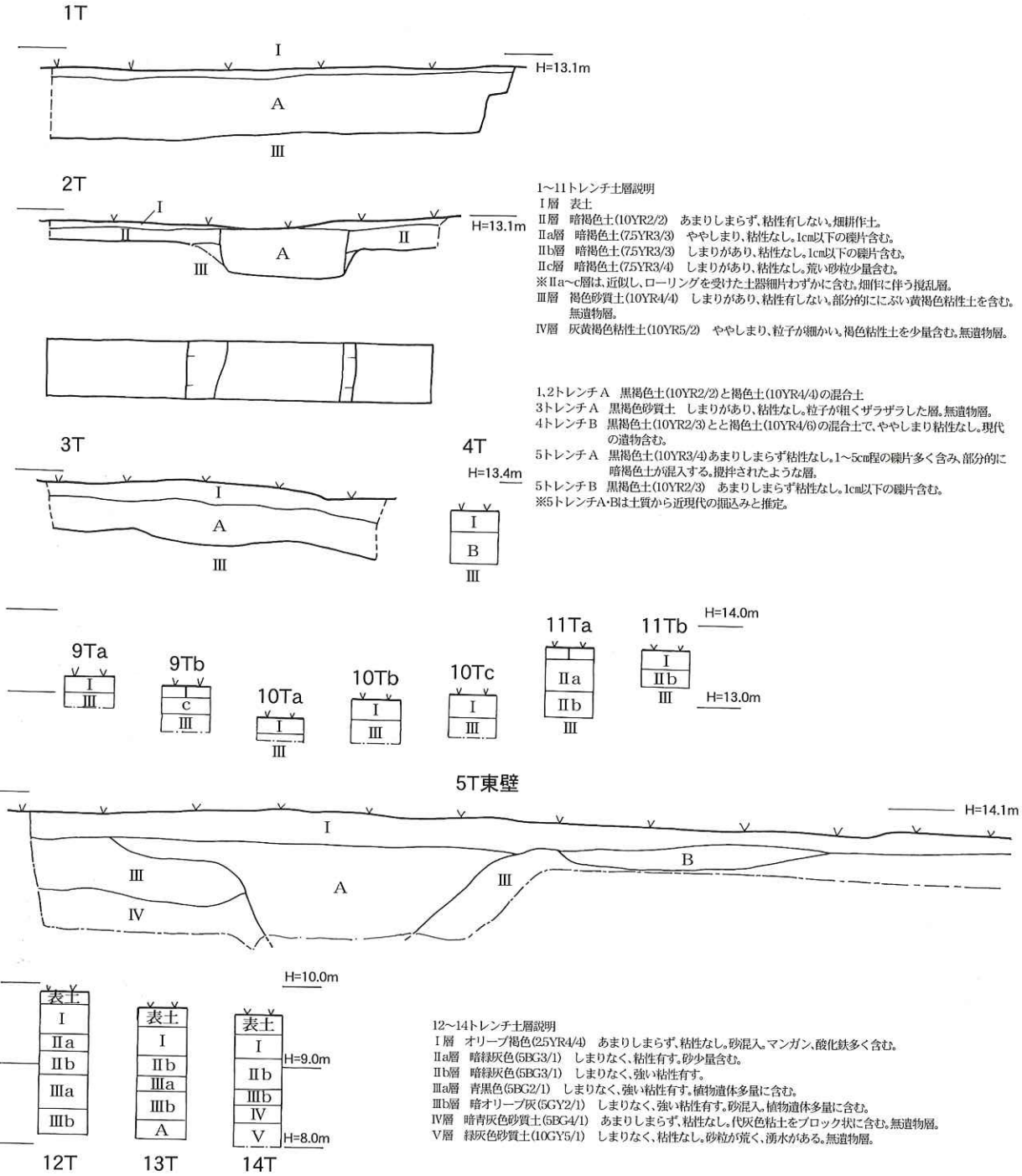
調査地は、小代山から南側に延びる丘陵端部の標高10m～13mの地点である。工事の対象区は、舌状に延びる丘陵の先端部分と、西側の丘陵に挟まれた谷部分にまたがっており、それぞれ丘陵部が畑、谷部分が水田に利用されている。調査区北側50m程の地点にある築山小学校敷地内では甕棺墓が確認されていることから丘陵先端部にかけてもその存在が予想された。北側に隣接する都市計画街路築地立願寺線の工事の際には、埋蔵文化財は確認されていない。



第７図　古閑遺跡調査地位置図　S=1/5,000



第８図　古閑遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

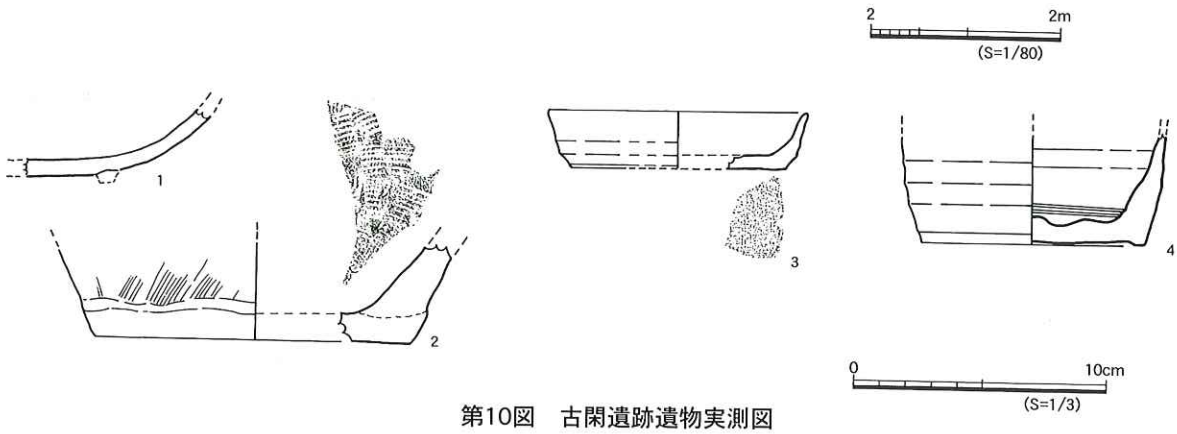


1～11トレンチ土層説明
Ⅰ層　表土
Ⅱ層　暗褐色土(10YR2/2)　あまりしまらず、粘性有しない。畑耕作土。
Ⅱa層　暗褐色土(7.5YR3/3)　ややしまり、粘性なし。1cm以下の礫片含む。
Ⅱb層　暗褐色土(7.5YR3/3)　しまりがあり、粘性なし。1cm以下の礫片含む。
Ⅱc層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまりがあり、粘性なし。荒い砂粒少量含む。
※Ⅱa～c層は、近似し、ローリングを受けた土器細片わずかに含む。畑作に伴う撹乱層。
Ⅲ層　褐色砂質土(10YR4/4)　しまりがあり、粘性有しない。部分的ににぶい黄褐色粘性土を含む。無遺物層。
Ⅳ層　灰黄褐色粘性土(10YR5/2)　ややしまり、粒子が細かい。褐色粘性土を少量含む。無遺物層。

1,2トレンチA　黒褐色土(10YR2/2)と褐色土(10YR4/4)の混合土
3トレンチA　黒褐色砂質土　しまりがあり、粘性なし。粒子が粗くザラザラした層。無遺物層。
4トレンチB　黒褐色土(10YR2/3)とと褐色土(10YR4/6)の混合土で、ややしまり粘性なし。現代の遺物含む。
5トレンチA　黒褐色土(10YR3/4)あまりしまらず粘性なし。1～5cm程の礫片多く含み、部分的に暗褐色土が混入する。撹拌されたような層。
5トレンチB　黒褐色土(10YR2/3)　あまりしまらず粘性なし。1cm以下の礫片含む。
※5トレンチA・Bは土質から近現代の掘込みと推定。

12～14トレンチ土層説明
Ⅰ層　オリーブ褐色(2.5YR4/4)　あまりしまらず、粘性なし。砂混入。マンガン、酸化鉄多く含む。
Ⅱa層　暗緑灰色(5BG3/1)　しまりなく、粘性有す。砂少量含む。
Ⅱb層　暗緑灰色(5BG3/1)　しまりなく、強い粘性有す。
Ⅲa層　青黒色(5BG2/1)　しまりなく、強い粘性有す。植物遺体多量に含む。
Ⅲb層　暗オリーブ灰(5GY2/1)　しまりなく、強い粘性有す。砂混入。植物遺体多量に含む。
Ⅳ層　暗青灰色砂質土(5BG4/1)　あまりしまらず、粘性なし。代灰色粘土をブロック状に含む。無遺物層。
Ⅴ層　緑灰色砂質土(10GY5/1)　しまりなく、粘性なし。砂粒が荒く、湧水がある。無遺物層。

第９図　古閑遺跡トレンチ実測図



第10図　古閑遺跡遺物実測図

調査では、丘陵部分と水田部分にそれぞれトレンチを計14本設定し、重機及び人力によって掘削し、埋蔵文化財の状況を確認した。

丘陵部分は、畑作が行われており、ほぼ平坦に造成されている。大部分は表土及び耕作に伴う層の直下から無遺物層と判断される層が確認され、部分的に造成の際の盛土と思われる層が堆積している。このうち５トレンチから深さ約２m、逆台形を呈する土坑を確認した。土師質の土器の細片をわずかに含んでいるが、堆積の状況や土質から近代～現代の掘り込みと判断している。その他、耕作土中からも遺物の散布はごく少量であり、遺構は確認されなかった。

水田部分では、３カ所のトレンチを掘り下げてⅠ～Ⅴ層までを確認した。Ⅱ、Ⅲ層から弥生～現代の遺物を検出した。周辺からの流れ込みの遺物と考えられる。Ⅳ層以下から植物遺体が検出されたが、遺構、遺物は確認されなかった。

遺物は中世～近世の遺物（第10図1～4）を図示している。

調査後の措置は、慎重工事である。

古閑遺跡調査前状況（丘陵部分南から）

古閑遺跡調査地近景（西から）

古閑遺跡調査地（水田部分北から）

古閑遺跡調査地近景（水田部分西から）

古閑遺跡 10T 全景（南から）

古閑遺跡 9T 全景（西から）

4　高瀬御茶屋跡

所在地：高瀬583外3筆

対象面積：1635.38㎡

調査期間：13年6月6日

担当者：田中康雄

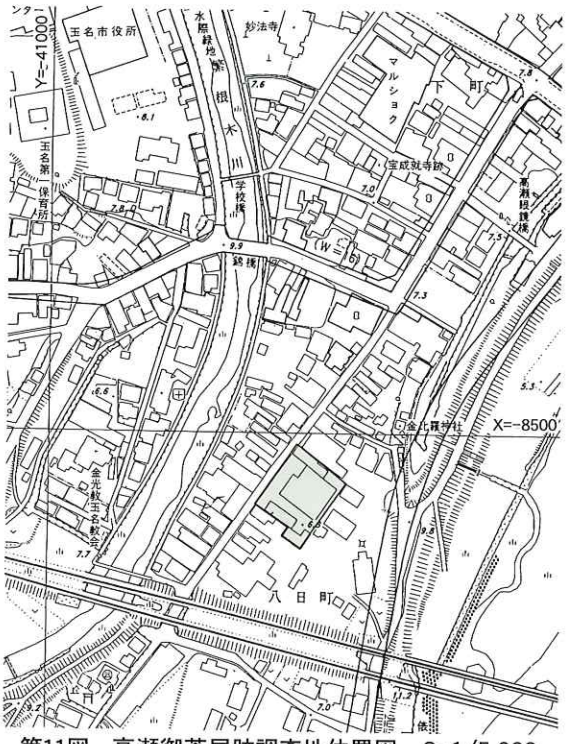
調査地は、JR鹿児島本線の北側、菊池川右岸の自然堤防上に位置し、標高6.8m前後の地点である。

今回の調査では、建設予定の倉庫基礎掘削部のうち、３ヶ所にトレンチを設定して基礎掘削深度内（設計ＧＬ－90cm）について確認を行った。調査結果は以下の通りである。

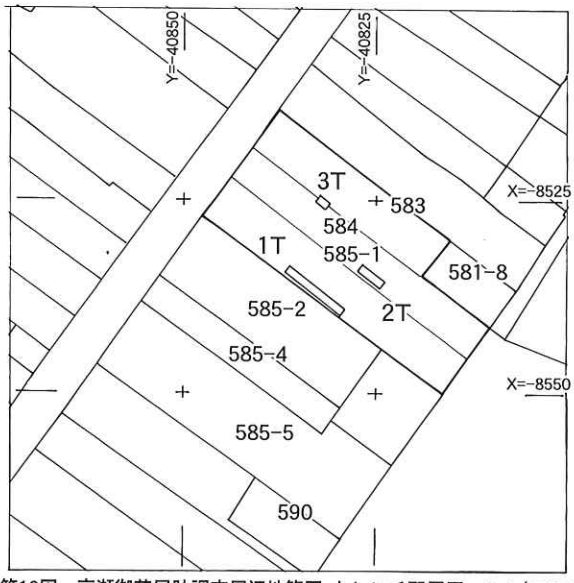
３ヶ所のトレンチの内、トレンチNo.1ではⅣ-a～c層・Ⅴ層・Ⅵ層で近代の遺物及び建物の基礎を確認した。トレンチNo.２では、トレンチNo.1のⅣ-b層・Ⅴ層相当層、トレンチNo.３ではトレンチNo.１のⅣ-b層相当層を確認した。しかし基礎掘削深度内では、近世以前の遺構・遺物は確認されなかった。

遺物は主にⅤ層から近代の擂鉢、陶磁器などを検出した。（第14図5～16）

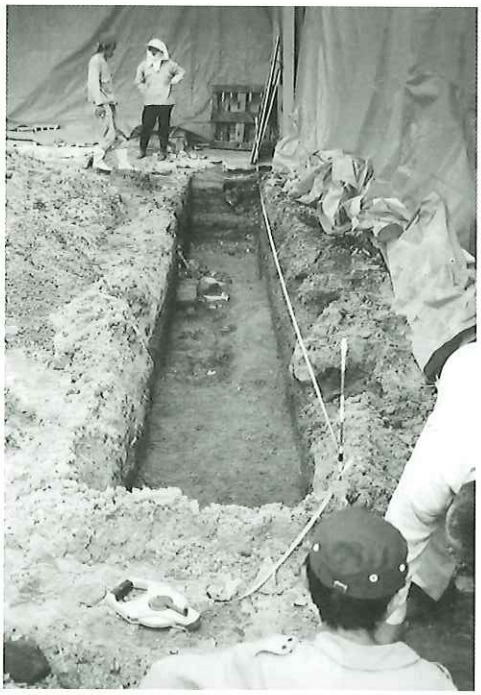
調査後の措置は、慎重工事である。



第11図　高瀬御茶屋跡調査地位置図　S=1/5,000

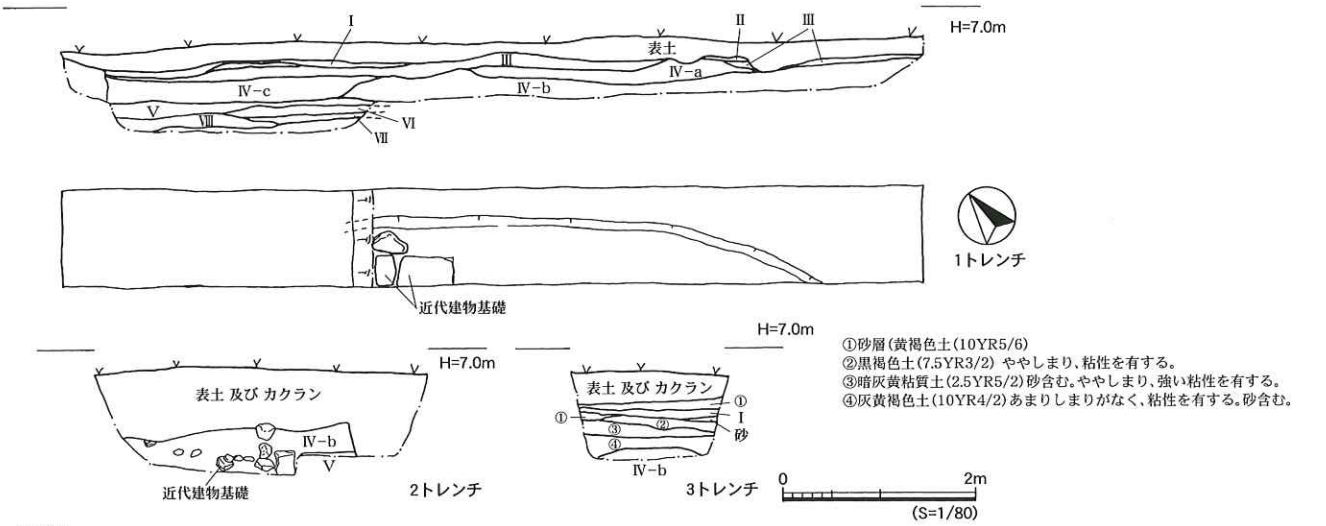


第12図　高瀬御茶屋跡調査周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000



高瀬御茶屋跡 1T 全景（西より）

高瀬御茶屋跡調査地近景（北東より）

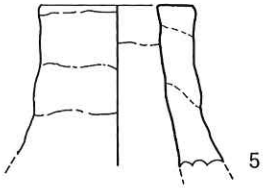


①砂層(黄褐色土(10YR5/6)
②黒褐色土(7.5YR3/2) ややしまり、粘性を有する。
③暗灰黄粘質土(2.5YR5/2)砂含む。ややしまり、強い粘性を有する。
④灰黄褐色土(10YR4/2)あまりしまりがなく、粘性を有する。砂含む。

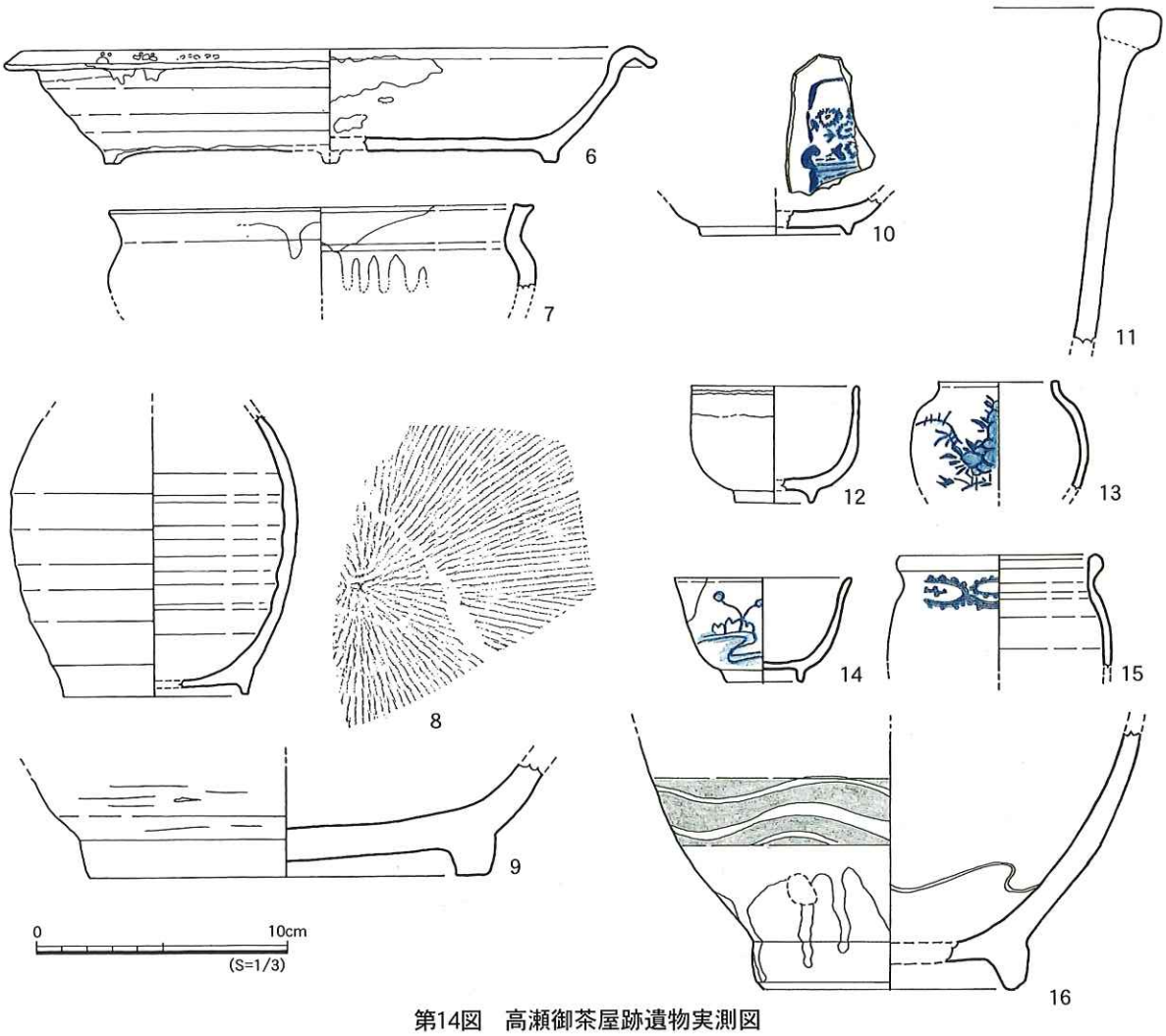
土層説明

Ⅰ層　にぶい赤褐色土(5YR4/4) あまりしまりがなく、粘性を有する。
Ⅱ層　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) あまりしまりがなく、粘性を有する。
Ⅲ層　褐色砂層(10YR4/6) 川砂
Ⅴa層　暗オリーブ褐色粘質土(2.5YR3/3) ややしまりがあり、強い粘性を有する。
Ⅴb層　暗オリーブ褐色粘質土(2.5YR3/3) aよりやや暗い。ややしまりがあり、強い粘性を有する。砂を混入する。
Ⅳc層　暗褐色粘質土(10YR3/3) ややしまりがあり、強い粘性を有する。
Ⅴ層　黒褐色粘質砂層(10YR3/2) しまりがなく、粘性を有する。
Ⅵ層　暗褐色粘質土(10YR3/4) ややしまりがあり、強い粘性を有する。
Ⅶ層　褐色粘質砂層(10YR4/4) あまりしまりがなく、粘性を有する。
Ⅷ層　黒褐色粘質砂層(10YR3/2) あまりしまりがなく、強い粘性を有する。
Ⅸ層　にぶい黄褐色粘質砂層(10YR4/3) あまりしまりがなく、粘性を有する。

Ⅰ～Ⅲ　近代遺物わずかに含む
Ⅳa～c　近代遺物わずかに含む
Ⅴ、Ⅵ　近代遺物多く含む



第13図　高瀬御茶屋跡トレンチ実測図



第14図　高瀬御茶屋跡遺物実測図

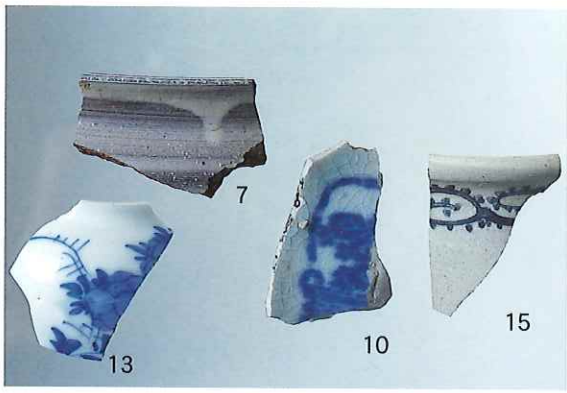
高瀬御茶屋跡IT遺物検出状況

高瀬御茶屋跡IT上層堆積状況

高瀬御茶屋跡2T土層堆積状況

高瀬御茶屋跡3T土層堆積状況

高瀬御茶屋跡出土遺物 6



高瀬御茶屋跡 7.10.13.15

高瀬御茶屋跡出土遺物 16

高瀬御茶屋跡

5　一本松遺跡

所在地：伊倉北方223-1

対象面積：1200㎡

調査期間：13年6月8日

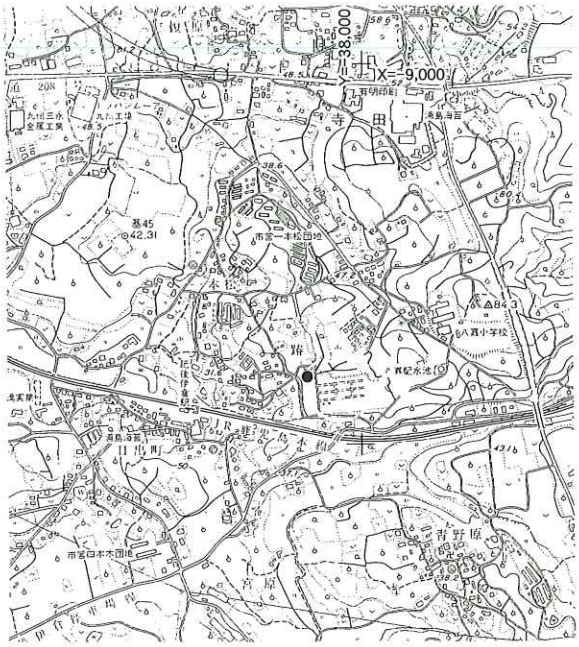
担当者：田中康雄

調査地は、伊倉丘陵性台地上に位置する標高55m程の地点である。敷地は、旧県養鶏試験場跡地で、平成12年度に確認調査を行った養護老人ホーム建設予定地の北側にあたる。今回の調査では、施設建設予定地内にトレンチを4ヶ所設定して確認を行った。

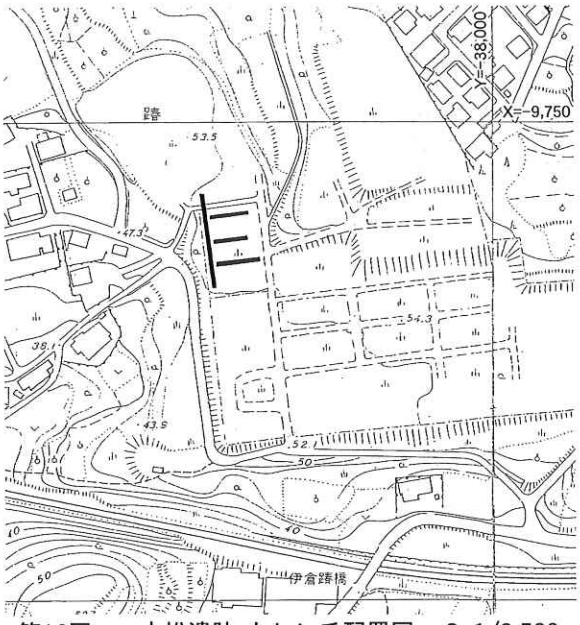
調査の結果、4ヶ所のトレンチすべてで、表土下に旧県養鶏試験場の建設及び解体時の攪乱層が確認され、その下に無遺物層と考えられる層を確認した。遺構、遺物等は確認されなかった。

周辺の状況及び平成12年度の確認調査結果から、当地についても周辺地と同様に、旧県養鶏試験場建設の際の造成で大規模な削平が行われており、遺構遺物等が所在していたとしても、既に削平のため消失しているものと考えられる。

調査後の措置は慎重工事である。

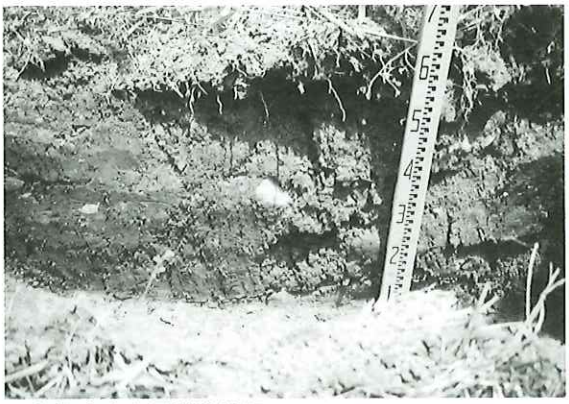


第15図　一本松遺跡調査地位置図　S=1/20,000



第16図　一本松遺跡・トレンチ配置図　S=1/2,500

一本松遺跡トレンチ掘削状況（西から）



一本松遺跡土層堆積状況

6　高岡原遺跡

所在地：山田字高岡原2046-1

対象面積：692㎡

調査期間：13年6月21日

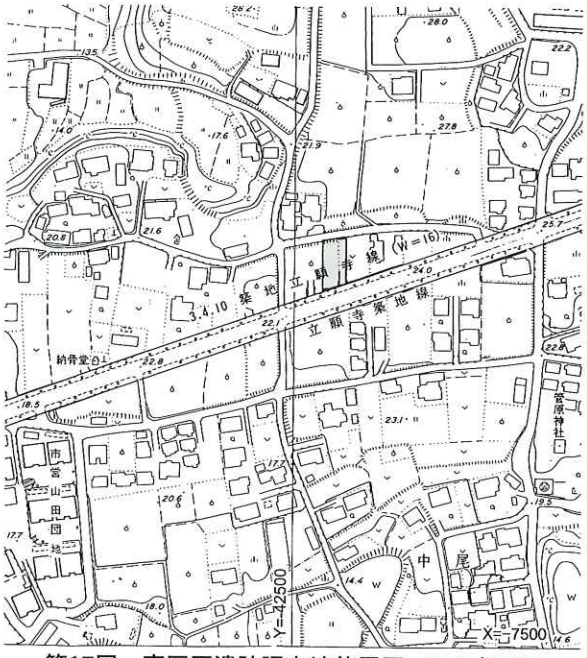
担当者：田中康雄

調査地は、小代山から南に延びる緩やかな丘陵上に位置し、標高25m程の地点である。

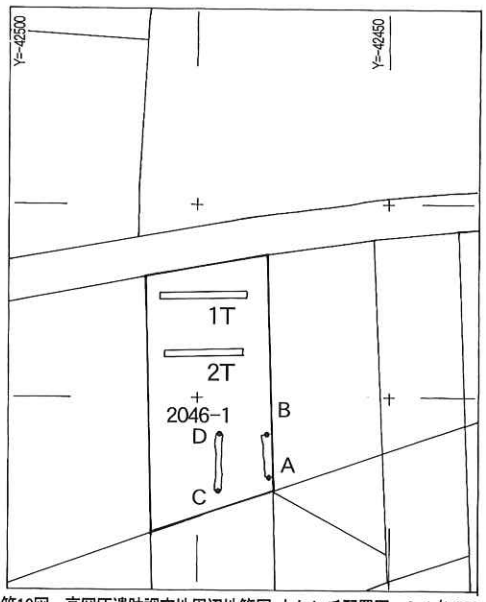
今回の調査では、敷地内の共同住宅建設部分にトレンチを２ヶ所設定して確認を行った。トレンチNo.１では、耕作等による攪乱が激しく、表土（耕作土）直下で弥生時代の遺物包含層及び一部弥生時代の遺構面が確認された。弥生時代の遺物包含層を除去して遺構の確認を行ったところ、ピット１基、土坑１基、住居跡らしきもの１基を確認した。トレンチNo.２では、表土（耕作土）直下で古代のものと考えられるピット、土坑を確認した。その他、中世の土師坏などが出土した。

新築建物部分については、基礎掘削が遺物包含層及び遺構面に影響を与えないよう、盛土を行うことになり、調査後の措置は慎重工事となった。また、南側の進入路の拡張部分については、掘削される部分について調査を行い、弥生時代後期の住居とみられる遺構を検出した。

遺物は主に弥生時代の住居内から出土した。（第20･21図17～27）19、20は弥生時代後期に特徴的な脚台を有する甕である。24は高坏で、坏部に段を有するがあまり外側には開かない。28は土師坏で底部は糸切りである。



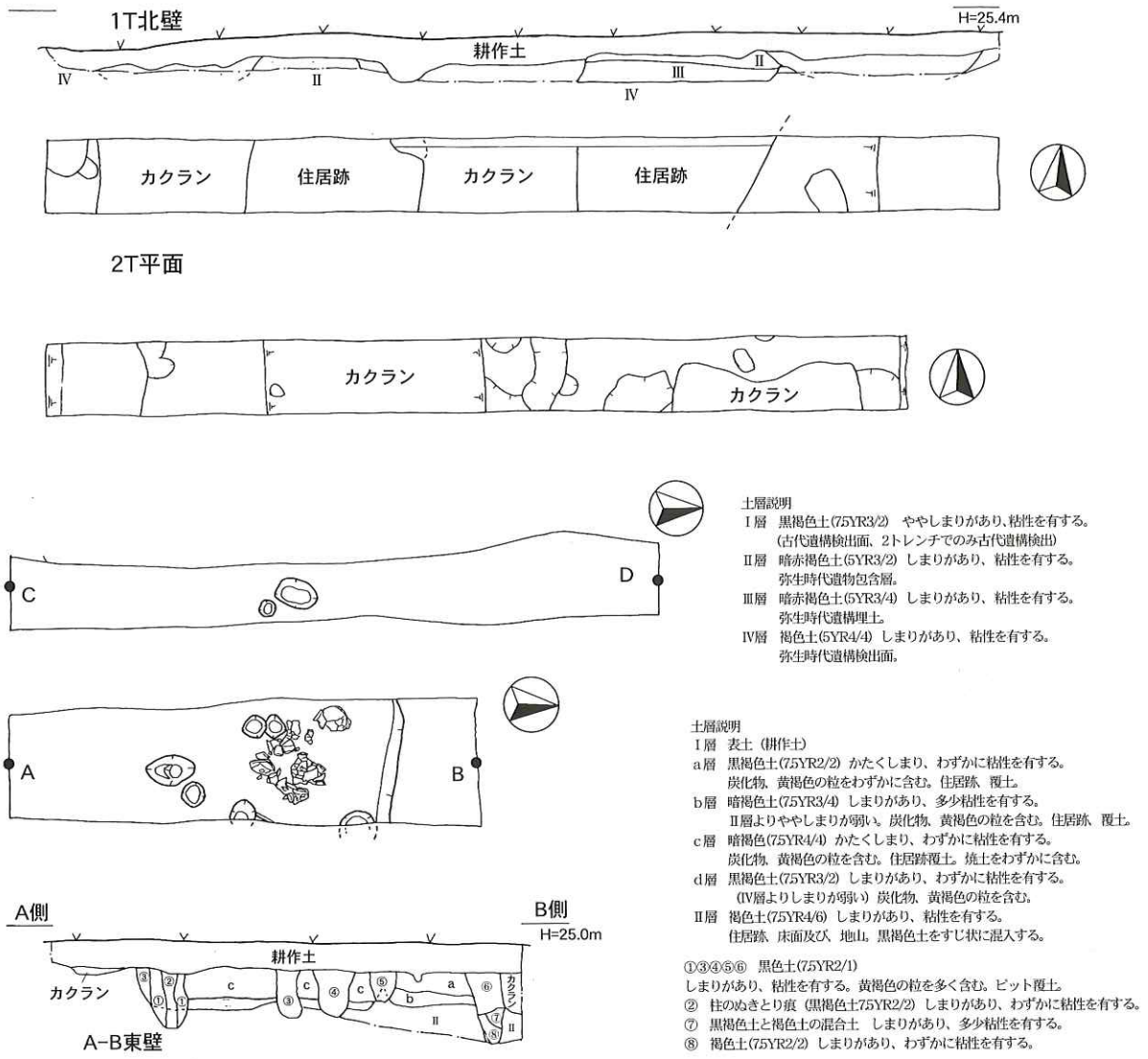
第17図　高岡原遺跡調査地位置図　S=1/5,000



第18図　高岡原遺跡調査地周辺地籍図･トレンチ配置図　S=1/1,000

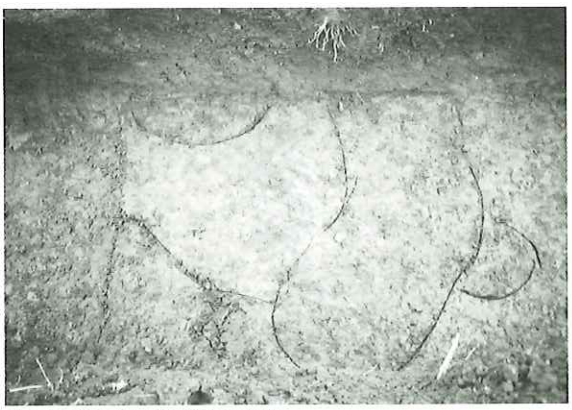
高岡原遺跡調査地近景（南から）

高岡原遺跡調査地近景（北から）

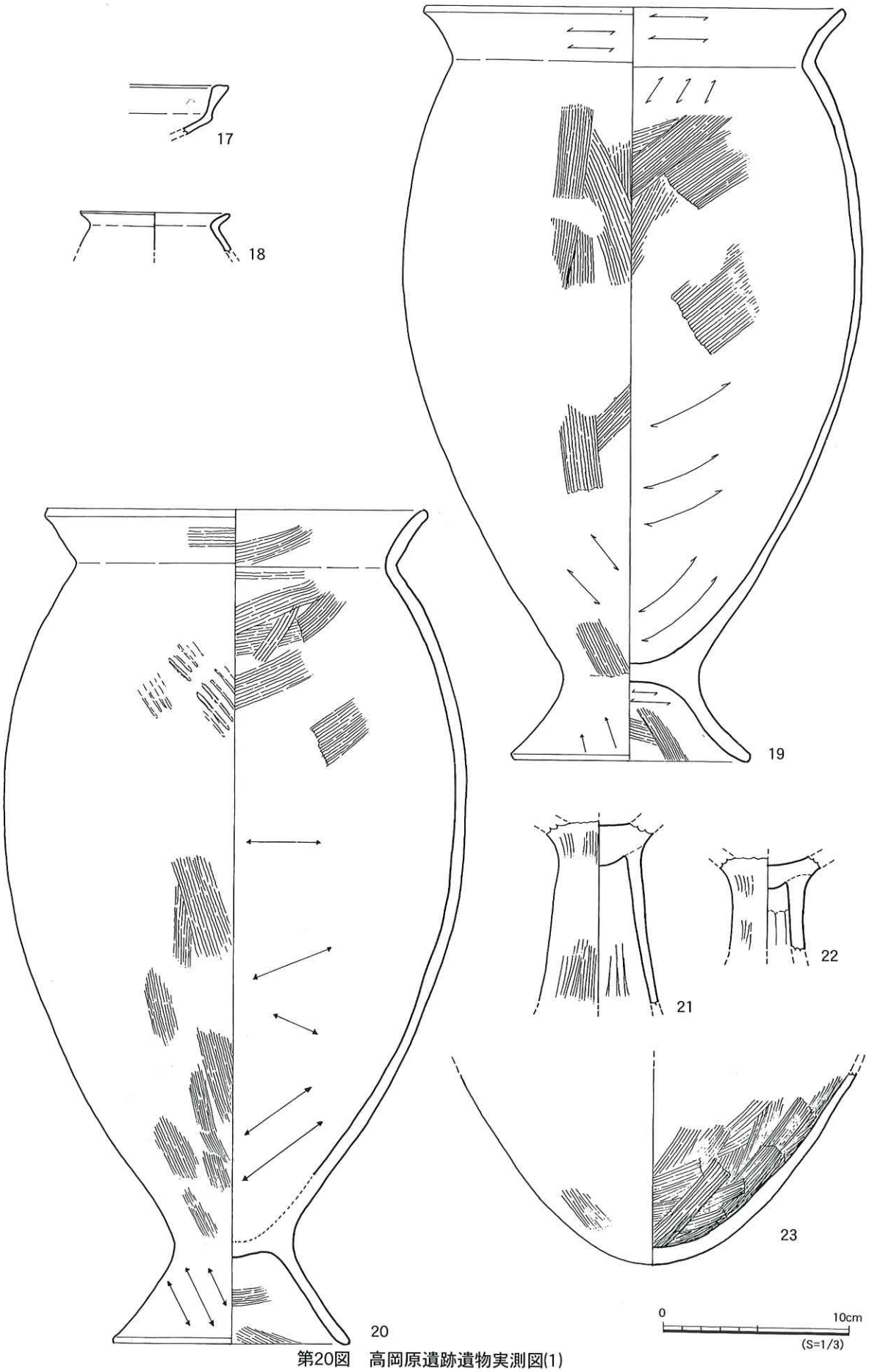


第19図　高岡原遺跡トレンチ実測図

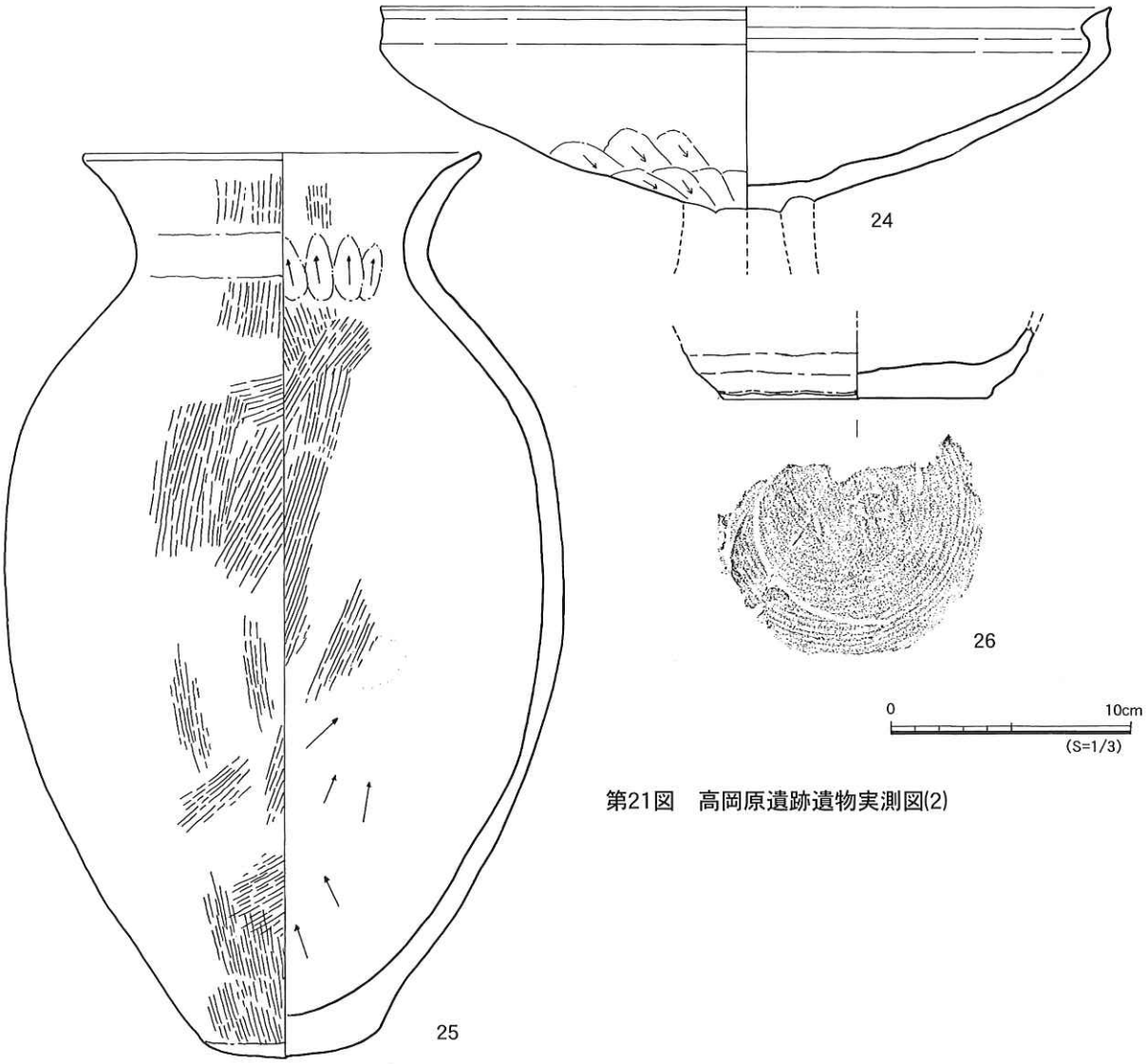
高岡原遺跡2T全景（東から）



高岡原遺跡2T遺構検出状況



第20図　高岡原遺跡遺物実測図(1)



第21図　高岡原遺跡遺物実測図(2)

7　保田木貝塚・保田木城跡

所在地：高瀬1,3の一部

対象面積：1016.21㎡

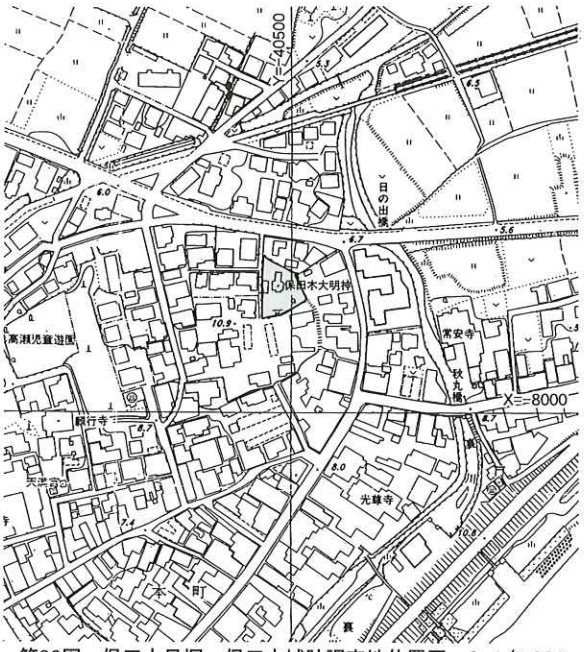
調査期間：13年6月26日～6月28日

担当者：田中康雄

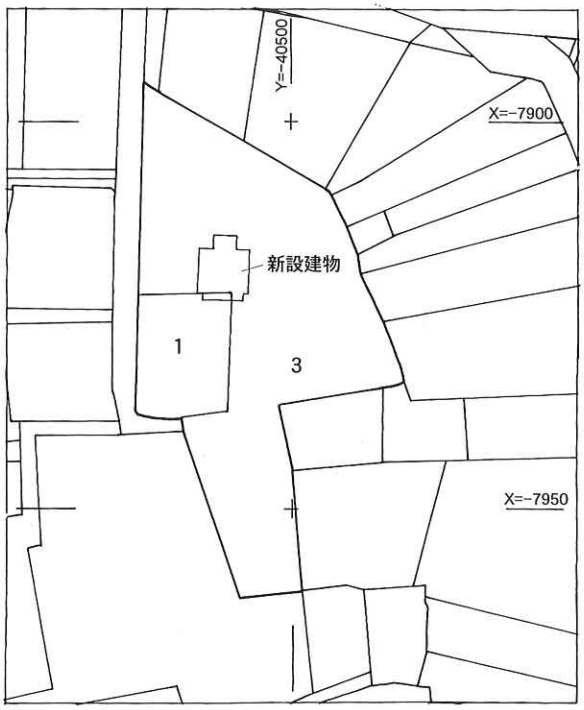
調査地は、玉名平野の南側、菊池川と繁根木川に挟まれた段丘北端部の標高12.5m前後の地点に位置しており、保田木神社の境内部分である。保田木貝塚及び保田木城跡・高瀬町奉行所跡の範囲内であり、また周辺部の発掘調査の結果、遺構面までの深度が浅いため、確認調査を行った。

調査の結果、旧拝殿下部は周辺部より10cm程高く、現況面から約10～20cmで近代の遺物包含層（厚さ約 10 cm）、約20～30cmで中世の遺物包含層（厚さ約 20 cm）が確認された。旧拝殿周辺部については、現況面から約10cmで近代の遺物包含層（厚さ約 20 cm）が確認された。また両者ともトレンチ最下部で、周辺部の調査で貝塚が確認されている層を確認した。

遺物は主に近世の陶磁器（第25図27～34）などを検出した。



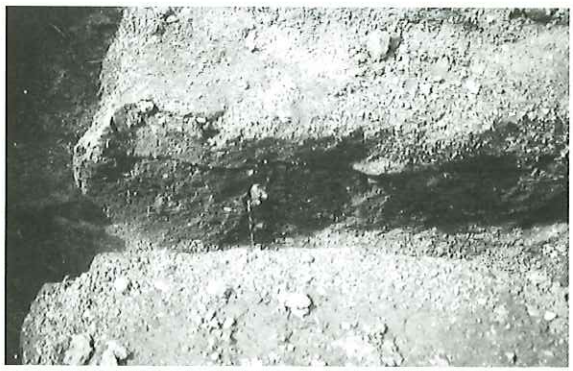
第22図　保田木貝塚・保田木城跡調査地位置図　S=1/5,000



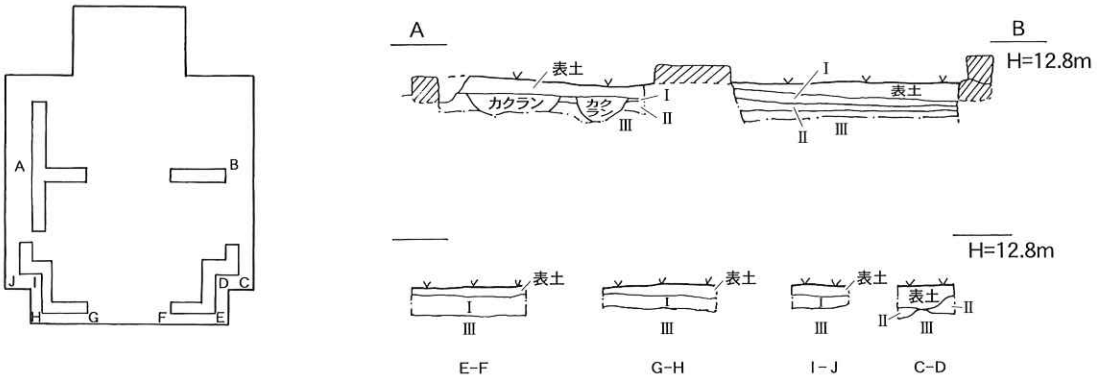
第23図　保田木貝塚・保田木城跡周辺地籍図　S=1/1,000

保田木貝塚・保田木城跡調査地近景（南から）

保田木貝塚・保田木城跡調査地（南から）



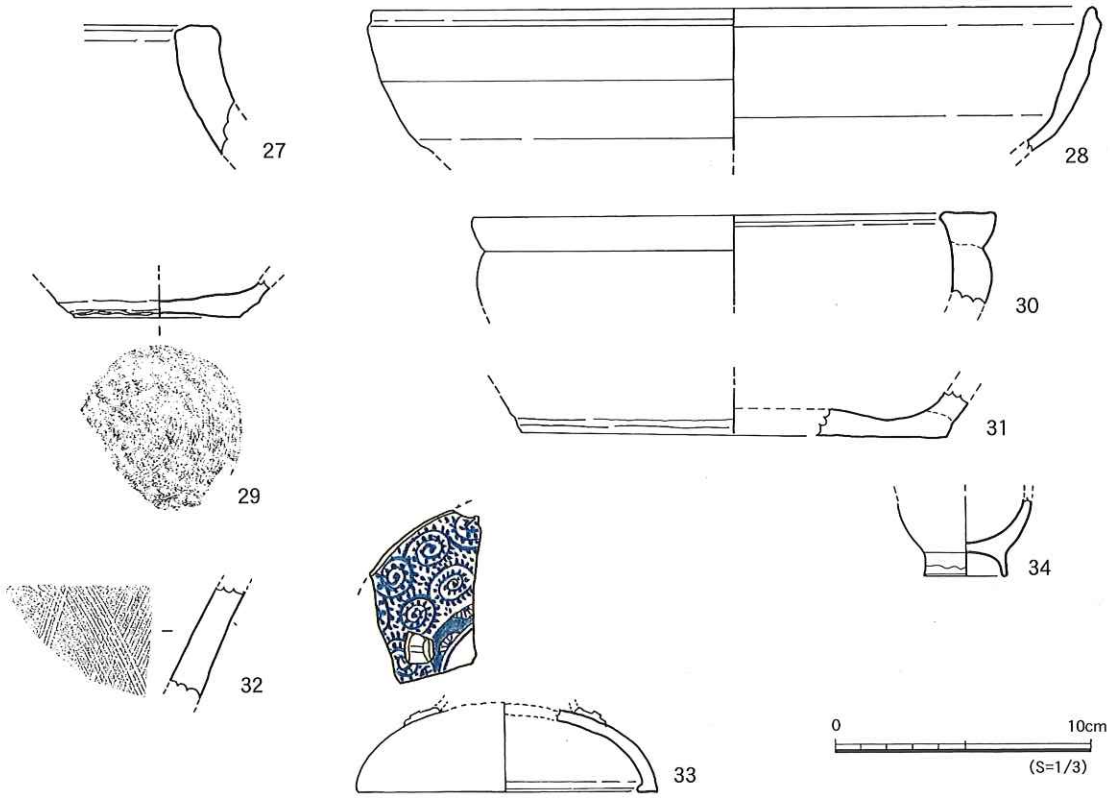
保田木貝塚・保田木城跡トレンチ土層堆積状況



層説明
Ⅰ層　黒褐色土(10YR2/3)　ややしまりがあり、多少粘性を有する。近代～近世。遺物包含層と思われる。貝殻混入。雲母片混入。約2～3cm大の小石混入。
Ⅱ層　黒褐色土(7.5YR2/2)　あまりしまりがなく、多少粘性を有する。中世遺物包含層と思われる。貝殻混入。雲母片混入。約1cmの小石を混入。
Ⅲ層　褐色土(7.5YR4/4)　しまりがあり、粘性を有する(おそらく縄文時代貝塚の、検出面になるものと思われる)　2～3cm大、こぶし大の石を混入。白色砂粒をわずかに含む。

第24図　保田木貝塚・保田木城跡トレンチ土層図

0　2m
(S=1/80)



第25図　保田木貝塚・保田木城跡遺物実測図

8　稲荷山古墳

所在地：繁根木87-16

対象面積：71㎡

調査期間：13年7月11日

担当者：田中康雄

調査地は、繁根木川左岸の低丘陵上に位置し、標高18m前後の地点である。稲荷山古墳範囲に含まれることから確認調査を行った。

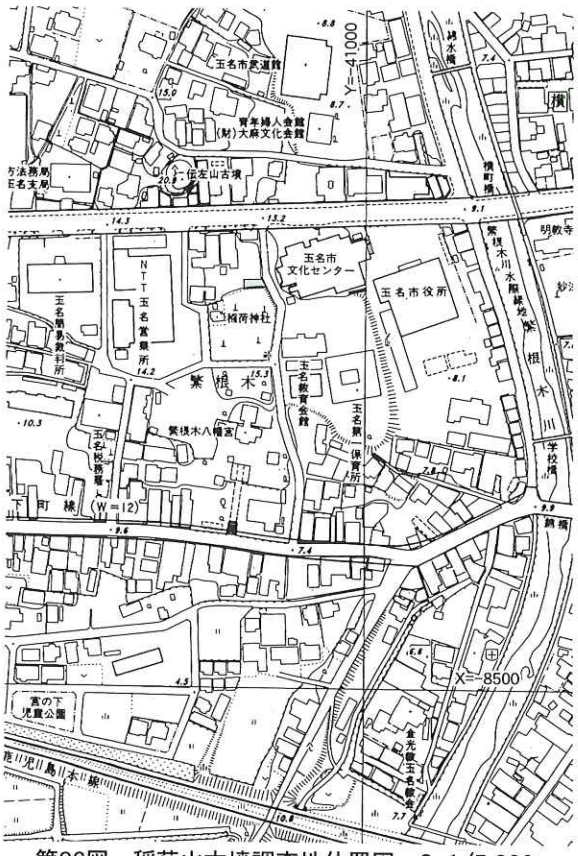
現地は東西に細長い敷地であり、古墳前方部と想定されている部分の北側縁辺部にあたることから、ほぼ敷地幅いっぱいに南北方向のトレンチを設定した。今回の工事は駐車場の建設で、現状地盤から最大50cm程切土される。このため切土範囲内での遺構・遺物の確認及確認を行った。

確認調査の結果、Ⅰ～Ⅴ層までを確認した。Ⅰ～Ⅳ層までは近世以降の遺物を含んでおり、Ⅴ層は２cm程の石を含む褐色粘性土で遺物は検出されなかった。今回掘削した範囲については、古墳に伴うと判断される層は確認できなかった。

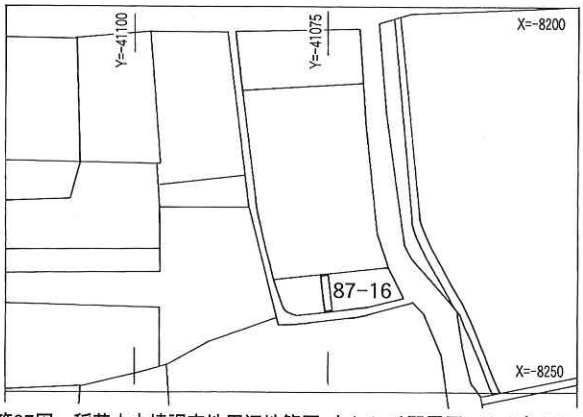
調査後の措置は、慎重工事である。

稲荷山古墳調査前状況（東から）

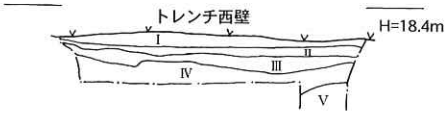
稲荷山古墳調査地土層堆積



第26図　稲荷山古墳調査地位置図　S=1/5,000



第27図　稲荷山古墳調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000



土層説明

Ⅰ層　表土　山砂と砕石の混合土（客土）

Ⅱ層　暗褐色土(10YR3/3)　しまりがあり、粘性を有する。炭化物、焼土を混入する（現代、旧表土）

Ⅲ層　暗褐色土(10YR3/4)　しまりがあり、粘性を有する。炭化物、焼土を多少混入する（現代～近代）

Ⅳ層　褐色土(7.5YR4/3)　ややしまりがあり、強い粘性を有する。土中に1cm大の小石を多く含む。近世遺物わずかに含む。

Ⅴ層　褐色土(7.5YR4/4)　しまりがなく、強い粘性を有する。2～3cm大の石を含む。

第28図　稲荷山古墳トレンチ土層図　S=1/80

9　岩崎原遺跡（Ｂ地点）

所在地：岩崎字南岩原1136

対象面積：883.69㎡

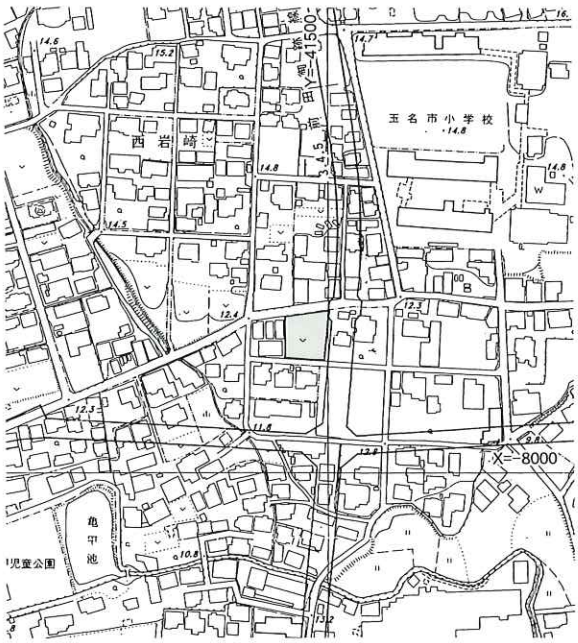
調査期間：13年8月29日

担当者：田中康雄

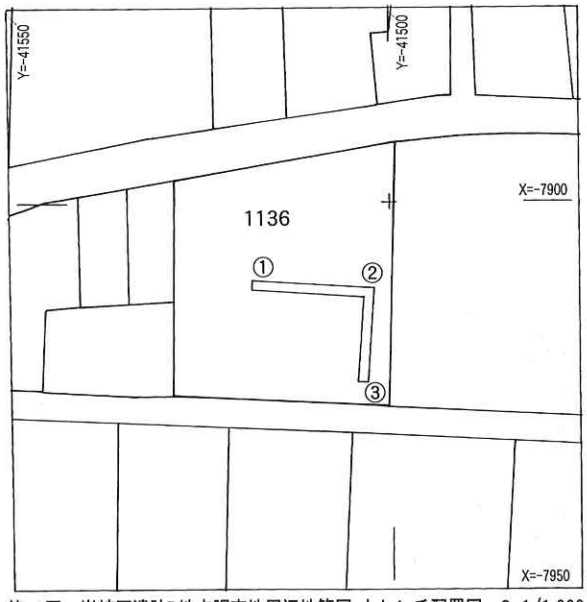
調査地は、菊池川の右岸、玉名台地第三段丘上に位置する。標高は13m前後で現況は畑地である。

今回の調査では、建物基礎部周辺にトレンチをＬ字形に設定して確認を行った。調査の結果、Ⅰ層が耕作土、Ⅱ層が畑の床土、Ⅲ層が遺物包含層に相当すると思われる暗褐色土、Ⅳ層が遺構検出面に相当すると思われる褐色土であった。しかしⅢ層中からは、土器小片がわずかに確認されたのみで、Ⅳ層でも小穴を３基検出したが、底面が不整形であることから樹木の根穴の可能性が高いと思われる。その他、明確な遺構及び遺物包含層は確認されなかった。

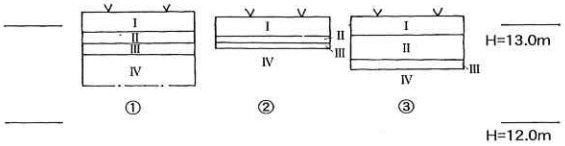
調査後の措置は、慎重工事である。



第29図　岩崎原遺跡B地点調査地位置図　S=1/5,000



第30図　岩崎原遺跡B地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000



土層説明
Ⅰ層　耕作土
Ⅱ層　暗褐色土(10YR3/3)　非常に固くしまり、粘性有しない。白色砂粒を多量に含む。
　　何らかの攪拌を受けていると思われる。粒子がやや粗い。畑の床土の可能性あり。
Ⅲ層　褐色土(75YR3/4)　しまりがあり、わずかに粘性有する。白色砂粒を混入する。
　　遺物包含層に相当すると思われる。土器小片をわずかに含む。
Ⅳ層　褐色土(75YR4/4)　しまりがあり、多少粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。

第31図　岩崎原遺跡B地点トレンチ土層図　S=1/80

岩崎原遺跡B地点トレンチ全景

１０　玉名平野条理跡

所在地：六田7-1

対象面積：6031.83㎡

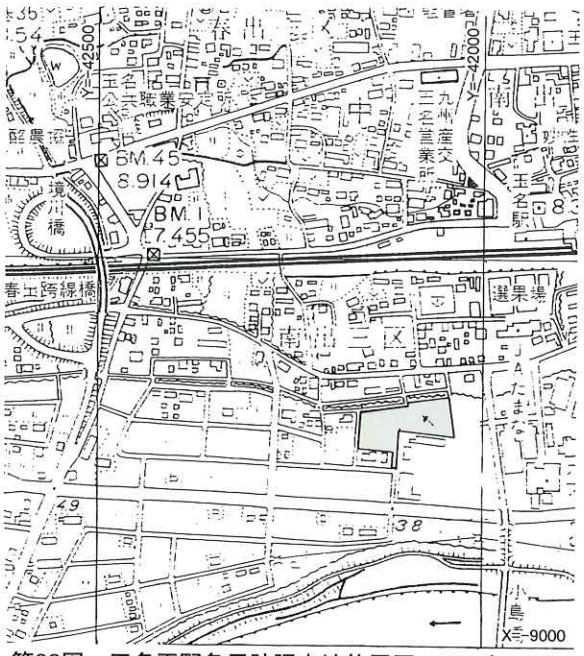
調査期間：13年8月24日

担当者：田中康雄

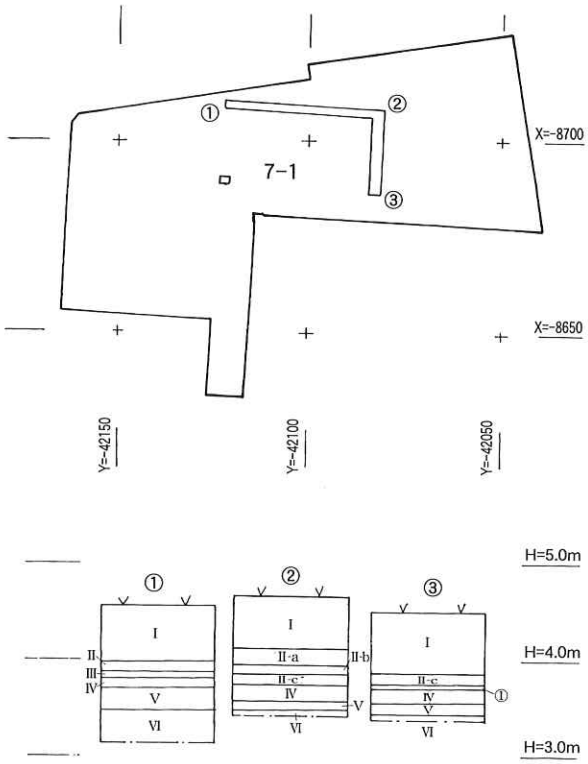
調査地は、ＪＲ玉名駅の南側、菊池川の右岸平野部に位置し、標高は4m前後である。

今回の調査では、条里跡の範囲内であることから畦畔等の存在を想定して、基礎の予定部分に、東西42m、南北22mのＬ字型のトレンチと、長さ２mのトレンチを設定し確認を行った。調査の結果、Ⅰ、Ⅱ層は客土及び旧表土で、Ⅲ層からⅤ層にかけては、酸化した鉄分やマンガンが含まれることから水田耕作が行われていたのではないかと考えられるが、畦畔等は確認されなかった。遺物に関しては、Ⅲ層で中世の遺物、Ⅴ層で古代の遺物をわずかに検出した。

調査後の措置は、慎重工事である。



第32図　玉名平野条里跡調査地位置図　S=1/5,000



玉名平野条里跡現況（南から）

土層説明

Ⅰ層　客土及び撹乱層

Ⅱ層　オリーブ黒土(5Y3/2) ややしまり、粘性有しない。旧表土（近現代遺物含む）

Ⅲ層　褐色土(7.5YR4/4)
しまりがあり、粘性を有しない。白色砂粒、雲母片を含む。マンガンを粒状に多少含む（中世代遺物わずかに含む）

Ⅳ層　黒褐色土(2/5Y3/2) ややしまりがあり、粘性を有する。酸化した鉄分を斑点状に含む。マンガンを粒状に多少含む

Ⅴ層　黄灰色粘質土(2.5Y4/1)
しまりがなく、強い粘性を有する。酸化した鉄分を斑点状に含む。マンガンの粒を多少含む（古代遺物わずかに含む）

Ⅵ層　オリーブ粘質砂層(5Y5/4) しまりがなく、粘性を有する。粘質土と砂の混合土。全体的に表面がデコボコしている。
畦畔が所在するならば、おそらくこの面で検出されると思われる。

①　Ⅴ層の2次推積

第33図　玉名平野条里跡トレンチ配置図・土層図　S=1/80

１１　永安寺跡・永安寺古塔碑群

所在地：永安寺3233

対象面積：635.36㎡

調査期間：13年9月14日

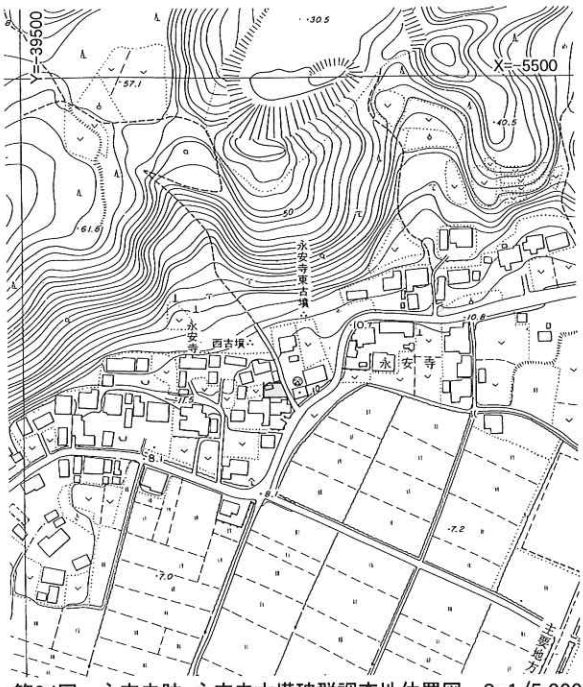
担当者：田中康雄

調査地は、玉名平野北側に広がる丘陵裾部の標高12m前後の地点で、永安寺西古墳の南側隣接地にあたる。

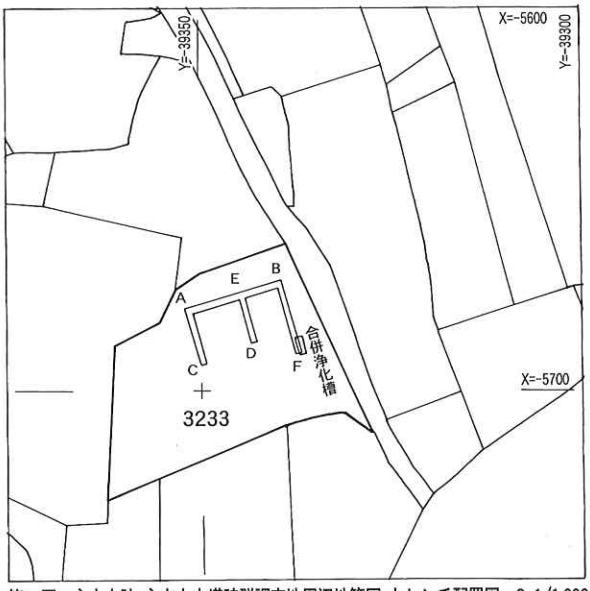
今回の調査では、建物基礎部の外周に沿ってトレンチを設定し確認を行った。

調査の結果北側のトレンチで現況面から約10cm程度で地山を確認したが、そこから南に急激に落ち込んでおり、その地形に沿って中世の土器小片を多量に含む層を確認した。また、建物南東側の合併浄化槽部分のトレンチを２m程掘り下げたところ、同様の遺物包含層が現況面から約1.2～1.3m前後で確認された。

遺物は瓦器の底部（43･44）、須恵器（45～48）、土師器（35～42）などが出土した。土師器は皿、坏とも底部は糸切りである。



第34図　永安寺跡･永安寺古塔碑群調査地位置図　S=1/5,000

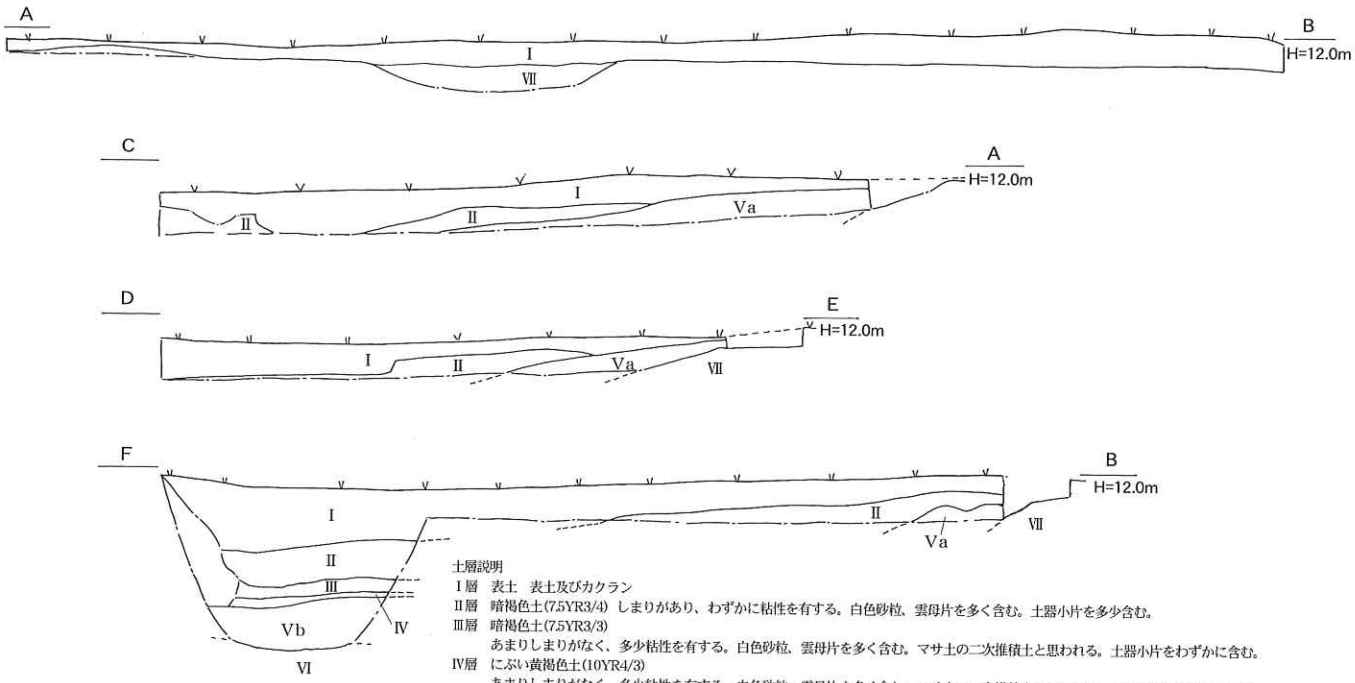


第35図　永安寺跡･永安寺古塔碑群調査地周辺地籍図･トレンチ配置図　S=1/1,000

永安寺跡･永安寺古塔碑群遠景(南から)

永安寺跡･永安寺古塔碑群調査状況(北から)

永安寺跡･永安寺古塔碑群トレンチ全景(北東から)



土層説明
Ⅰ層　表土　表土及びカクラン
Ⅱ層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまりがあり、わずかに粘性を有する。白色砂粒、雲母片を多く含む。土器小片を多少含む。
Ⅲ層　暗褐色土(7.5YR3/3)
　あまりしまりがなく、多少粘性を有する。白色砂粒、雲母片を多く含む。マサ土の二次推積土と思われる。土器小片をわずかに含む。
Ⅳ層　にぶい黄褐色土(10YR4/3)
　あまりしまりがなく、多少粘性を有する。白色砂粒、雲母片を多く含む。マサ土の二次推積土と思われる。土器小片をわずかに含む。
Va層　黒褐色土(10YR2/2)　しまりがあり、多少粘性を有する。白色砂粒、雲母片を含む。土器片を多量に含む（主に中世、古代わずかに含む）
Vb層　黒褐色(10YR2/2)
　あまりしまりがなく、強い粘性を有する。雲母片を多く含む。炭化物を含む。土器片を多量に含む（主に中世、古代わずかに含む）
Ⅵ層　黒褐色(10YR3/2)　あまりしまりがなく、強い粘性を有する。雲母片を多く含む。土器片を含む。
Ⅶ層　黄褐色土(10YR5/6)　しまりがあり、粘性を有する。白色砂粒、雲母片を多く含む。マサ土の二次推積土

第36図　永安寺跡・永安寺古塔碑群トレンチ土層図

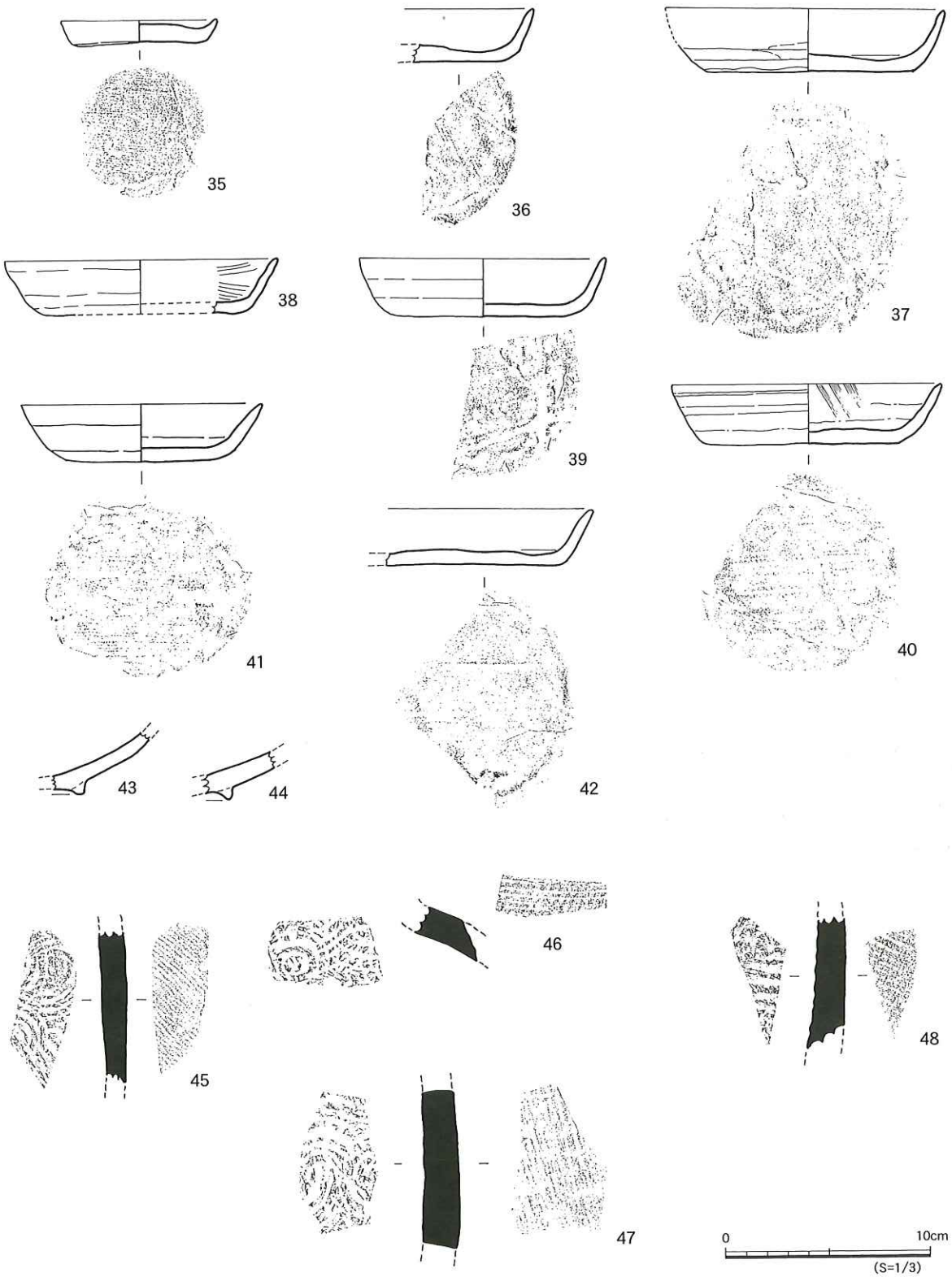
0　2m
(S=1/80)

永安寺跡・永安寺古塔碑群B-F(南から)

永安寺跡・永安寺古塔碑群浄化槽部分遺物出土状況

永安寺跡・永安寺古塔碑群F部分土層堆積状況

永安寺跡・永安寺古塔碑群A-B(東から)



第37図　永安寺跡・永安寺古塔碑群遺物実測図

１２　糠峯遺跡

(1)調査に至る経緯

玉名市立願寺字六地蔵858－1において、共同住宅建設工事が計画された。しかし、当地を含む一帯は糠峯遺跡の範囲内に含まれていることから、平成13年8月8日付けで文化財保護法第57条の2による届出がなされた。その後、9月4日から9月5日にかけて確認調査を実施し、その結果、敷地内に甕棺などの埋蔵文化財の存在が確認された。このため取り扱いについての協議を行い、建物部分については基礎掘削が埋蔵文化財に対して影響を及ぼさないよう、一部工事設計を変更することで現状保存できることとなった。しかし、進入路部分や擁壁部分などで掘削される部分については、発掘調査を実施することとなった。

(2)　調査の体制

発掘調査（平成13年度）

調査主体　玉名市教育委員会

調査責任　教育長　三次昭也

調査総括　教育次長　久多見澄夫

社会教育課長　牧野和明

社会教育課審議員兼文化係長

西田道杢

調査事務　参事　徳永太一郎

主事　東田優子

調査担当　技師　末永崇（確認調査）

調査員　蜷父雅史（本調査）

発掘作業員　品川タカ子　吉本スエ子

坂本弘子　北睦美　藤好貴彦　古賀武子

大西ミツ子　西川弘子　荒谷邦雄　橋口功

小崎美子

整理作業（平成15年度）

調査主体　玉名市教育委員会

調査責任　教育長　三次昭也（至12月19日）

教育長　森　義臣（自12月22日）

調査総括　教育次長　久多見澄夫

社会教育課長　牧野和明

社会教育課審議員兼課長補佐

西田道杢

調査事務　文化係長　岩永次郎

主事　清田静香

報告書担当　技師　末永崇

調査員　蜷父雅史

整理作業員　坂崎郷子　五野冨美子

早川イツエ　平野輝代　古賀武子

(3)　遺跡の位置及び歴史的環境

糠峯遺跡は、小代山から南に延びる低丘陵上に位置し、標高20～30m程である。遺跡の所在する丘陵は、西は境川、東は繁根木川に挟まれており、緩やかに南に傾斜している。遺跡は昭和50年前後に建設された糠峯団地などで大部分は宅地化されており、近年は共同住宅の建設なども多い。

遺跡は、熊本県遺跡地図では糠峯団地を含む一体で中世の遺跡として周知されている。付近住民の話によると、団地の造成時には大量の土師皿が出土したということである。

玉名市の旧石器時代の遺跡については、小代山麓などに3ヶ所ほど周知されており、石器の採集も伝えられている。しかし本格的な発掘調査は今のところ行われていない。

縄文時代については、玉名市内の丘陵上に貝塚が点在する。また、同じく丘陵上に縄文時代の遺跡が周知されている。近年は、柳町遺跡や、上小田宮の前遺跡などの低湿地に所在する遺跡の調査で、縄文時代の遺物が確認されている。

弥生時代については、縄文時代と同じように丘陵上を中心として集落が営まれているようで、発掘調査で住居跡、甕棺墓などが調査されている。

1. 狐ん路遺跡
2. 今見堂遺跡
3. 築地館跡
4. 平町遺跡
5. 浄光寺蓮華院跡
   蓮華遺跡
6. 山田山口遺跡
7. 山田神社門前遺跡
8. 山田中島遺跡
9. 高岡城跡
10. 平嶋遺跡
11. ホカンヤカタ
12. 馬場遺跡
13. 春出遺跡
14. 中村館跡
15. 糠峯遺跡
16. 玉名郡家跡
17. 立願寺廃寺
18. 玉名郡倉跡推定地
19. 山田村道
20. 岩崎城跡
21. 南出遺跡
22. 亀甲遺跡
23. 寿福寺跡
24. 稲荷山薬師堂跡
25. 保田木城跡
    高瀬山清源寺跡
26. 高瀬本町通遺跡
27. 宝成就寺跡
28. 長福寺跡
29. 大倉山永徳寺跡
30. 玉名平野条里跡

第38図 糠峯遺跡周辺中世～古代主要遺跡分布図 S=1/20,000
(「熊本県遺跡地図」及び「菊池川下流域詳細遺跡分布図」より転載)

玉名市築地に所在する東南大門遺跡では、平成6年に調査が行われ、甕棺墓が42基ほど確認されている。甕棺の内容は、北部九州系の須玖式と在地系の黒髪式が混在している状況であり、時期は弥生時代中期前葉から中期中葉と考えられている。糠峯遺跡周辺でも甕棺の出土が伝えられている。

古代については、玉名郡の郡司は日置氏であったとみられ、現在の疋野神社周辺が「疋石野（ひきいしの）」と呼ばれる一帯で、日置氏の拠点的な地域として伝えられている。同時に立願寺廃寺や玉名郡倉跡推定地、玉名郡家跡などの遺跡が所在する地域でもある。糠峯遺跡は、それらの遺跡とほぼ同じ丘陵上に所在し、調査地も立願寺廃寺の西側400mほどの地点である。さらに現在の玉名駅周辺にあったとされる大湊から、玉名郡家跡まで直線的に延びる道が想定されているが、調査地点はほぼその道沿いに位置する。調査地周辺は、玉名郡衙関連の遺跡群の辺縁部として位置付けられる。糠峯遺跡としては、部分的な確認調査は数回行われているが具体的な遺跡の内容は明らかではない。

平安時代については、律令体制の変質と荘園の発達の中で、日置氏は次第に勢力を失っていったようである。立願寺廃寺の存続期間は、出土遺物などから白鳳時代～奈良時代末と推定されており、玉名郡倉は文献上、9世紀後半までは存在が確認できる。

近年の工藤敬一氏の研究では、玉名郡内において10世紀末から11世紀前半の段階で、郡内の税の収納体制の変化に伴い、のちに野原荘となる現荒尾市・長洲町の地域、中心部の玉名東郷・西郷、菊池川以南の山北郷と伊倉郷という3ないし4つへの地域分化が進んだのではないかとされている。さらに律令体制下の玉名郡司であった日置氏はこの時点で伊倉郷を中心とする地域の一員郡司となったのではないかとされている。そして玉名西郷の郡司となったのは紀姓大野氏であり、13世紀の史料ではあるが、「郡司紀」や、「政所紀」とみられることから、古代から中世にかけて玉名西郷の郡司として大野別符などの成立に関わったとみられている。

前述した日置氏は11世紀に伊倉の私領を手放してしまい、中世には立願寺も大野別符に含まれる。紀氏は郡司として玉名西郷を中心に活動し、大野別符の経営に携わる一方、鎌倉幕府が成立すると御家人化して、菊池氏とも連携し、菊池川下流域を中心に勢力を拡大していったようである。

鎌倉時代後期の元寇の際に玉名地方から防衛に参加した大野別符関係者は、大野小次郎国隆や大野岩崎太郎などである。「紀宗善大野家由緒書上」には、大野家の由緒が記されており、16世紀の史料でそのまま当時の実態を示すかどうかわからないが、中世の段階で大野別符内各所に一族が居していた状況であると思われる。岱明町を含んだ境川両岸の丘陵上には、高岡屋敷跡、中村館跡、築地館跡などの大野一族の各氏の居館に比定されている遺跡が多く所在し、大野別符の拠点的な地域と考えられる。

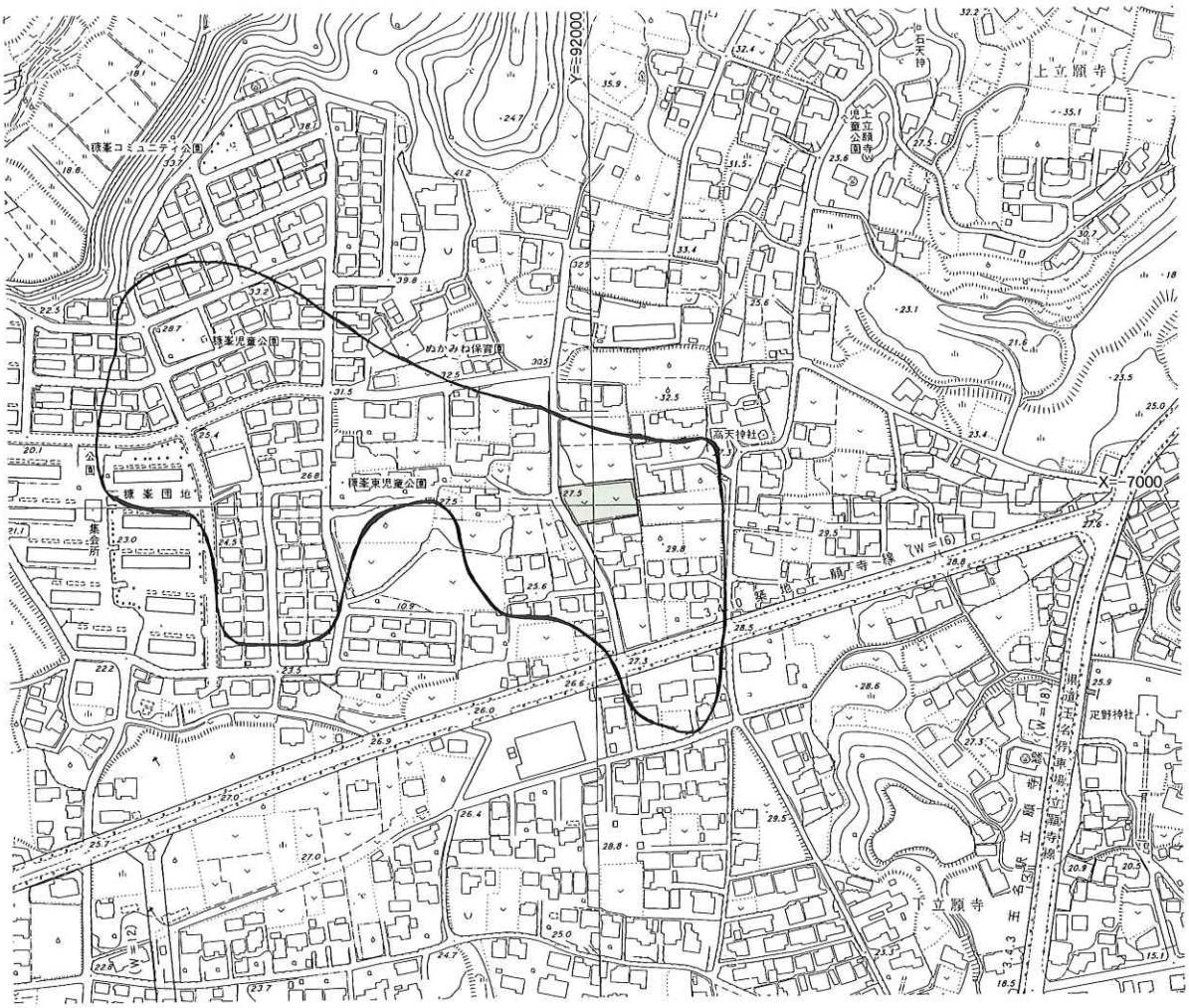
このようにして、平安時代後半頃には、玉名郡内では社会体制・支配体制が変化し、糠峯遺跡の所在する丘陵一帯では、これまでの拠点的な地域が、玉名郡司の日置氏の勢力下であった玉名郡衙を含む立願寺一帯から、岱明町を含む境川流域（築地、山田、中地区など）に移っていった様子が窺える。

〈参考文献〉工藤敬一1998「肥後玉名群の荘園公領と在地領主」『文学部論叢』第61号熊本大学文学会

(4)　確認調査（第40･41図）

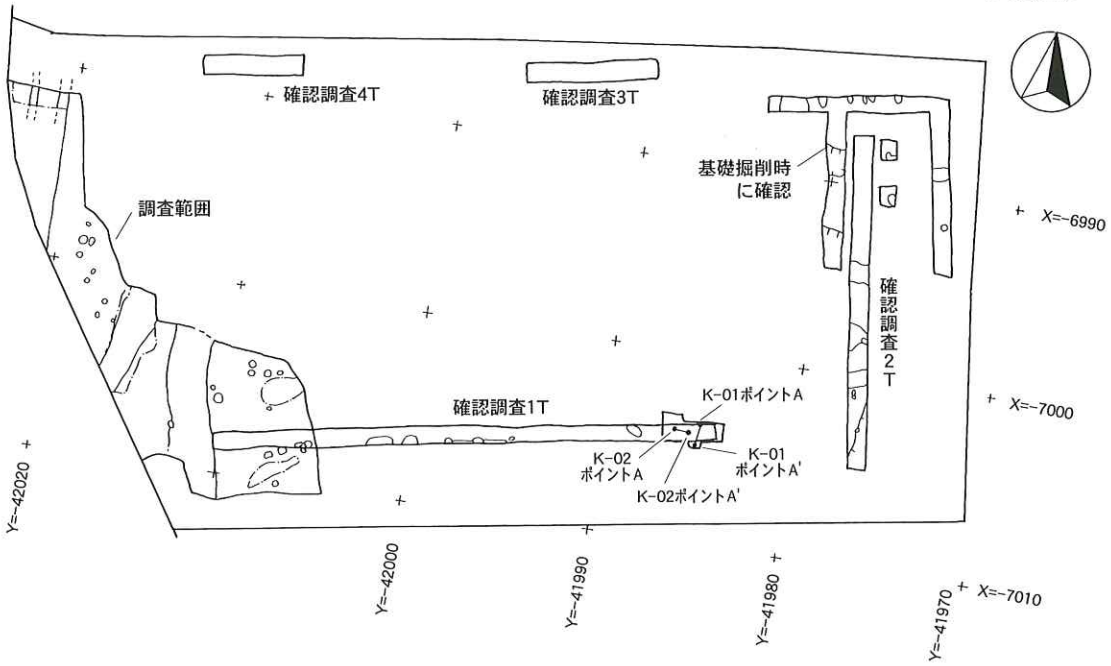
確認調査では、敷地内の4ヶ所にトレンチを設定し、重機及び人力で掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。調査では、Ⅰ～Ⅴ層までを確認した。各層の内容は以下のとおりである。

Ⅰ層　耕作土



第39図　糠峯遺跡調査地位置図

0　200m
(S=1/5,000)



第40図　糠峯遺跡調査範囲・確認調査トレンチ配置図

0　10m
(S=1/400)

Ⅱ層　暗褐色土(7.5YR3/3)

しまりなく、あまり粘性有しない。粒が細かい砂がわずかに混入する。

Ⅲ層　暗褐色土(7.5YR3/4)

ややしまり、あまり粘性有しない。砂、レキ片わずかに混入する。

Ⅳa層　黒褐色土(7.5YR3/1)

しまりがあり、やや粘性有す。暗褐色土を粒状に含む。弥生中期～古代の遺物含む。

Ⅳb層　黒褐色土(7.5YR2/2)

非常にしまり、やや粘性有す。暗褐色土を粒状にわずかに含む。弥生中期～古代の遺物含む。

Ⅴ層　褐色土(7.5YR4/4)

しまりがあり、やや粘性有す。無遺物層と判断。

遺物は主にⅣ層から出土しており、確認調査時に確認した遺物7点を図示している。（第45図54～60）

敷地内においての層位の状況は、西側がⅠ～Ⅴ層まで存在し、東側にかけてはⅠ層の直下にⅤ層を確認した。このうち、Ⅴ層上面で甕棺墓などの遺構を検出した。調査区周辺は、本来は西に向けての傾斜地であり、周辺の状況などからⅡ・Ⅲ層については畑を平坦にするための造成に伴う層と判断した。東側を切土し、西側にかけて盛土したとみられる。敷地内の東側で検出した甕棺も上部が削平されており、畑の造成時に削られたと思われる。

(5)　調査の経緯及び方法

工事関係者との協議により、発掘調査範囲は、道路と接する敷地の西側約96㎡となった。また、西側にかけては工事の設計変更により現状保存できるようになったが、確認調査で検出した甕棺については、今後の資料などにするため調査を行った。

調査はまずⅠ～Ⅲ層までを重機により掘削した。Ⅳ層以下を人力で掘削し、Ⅴ層上面で遺構を検出した。遺構はそれぞれ番号を付けて掘り下げた。各遺構の実測は、甕棺墓は1/10スケール、その他の遺構は1/40スケールで行った。調査時の写真撮影は、35mmのカラーリバーサル及びモノクロフィルムで行った。

(6)　遺構と遺物

1号溝（SD-01）

調査区南側で検出した溝状の遺構で、幅約2.0m、深さ約80cmで箱形に掘削されている。底部はほぼ平坦で緩やかに南に傾斜する。方向はほぼ南北に延び、約8.5mを検出した。覆土は5層に区分される。遺物は縄文～弥生時代の遺物が出土した。

2号溝（SD-02）

調査区中央付近で検出した溝状の遺構で、幅約1.3～2.0m、深さ約20cmを図る。方向はほぼ南北に延びる。底面で硬化面を検出したため、道路遺構の可能性も考えられる。

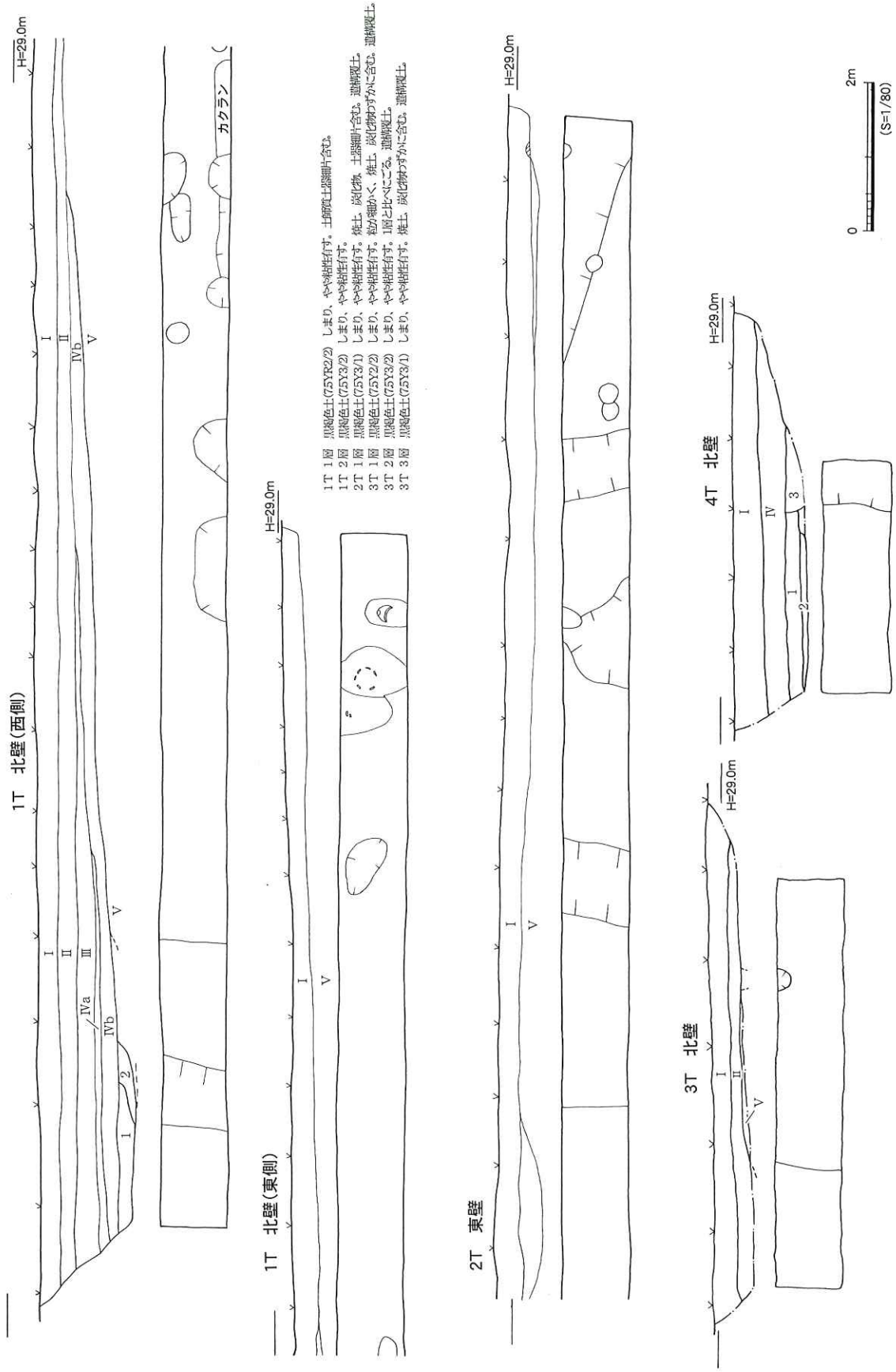
SD-03

調査区北西側で検出した。現在の道路に沿って延びている遺構で、調査区北端のトレンチ部分のみ掘削した。幅約3.0m以上、深さは現在の道路面から最深部で約1.6mを測り、テラス状に段掘りされている。覆土は4層に区分される。

1号甕棺墓（k-01）

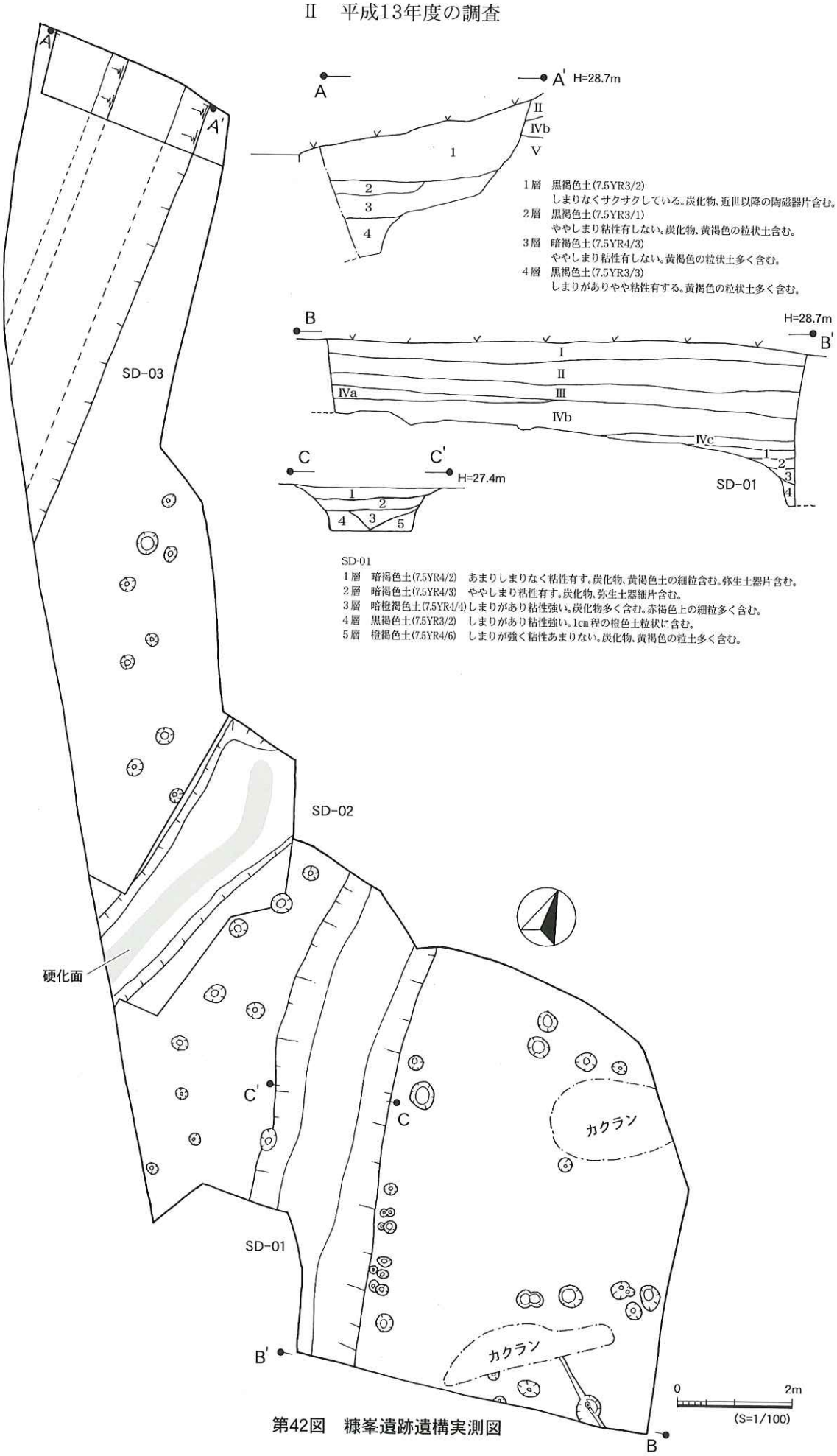
確認調査1トレンチ東側で検出した。上部は大きく後世の削平により破壊されている。残存している墓壙の平面形状は、ほぼ楕円形を呈し、長軸約162cm、短軸102cm、検出面からの深さ最大で約56cmを測る。鉢形土器の上棺と、甕形土器の下棺の合口棺である。

49は鉢形土器で口縁部を欠損する。底部は平底



1T 1層　黒褐色土(75YR2/2)　しまり、やや粘性有す。土器微土器細片含む。
1T 2層　黒褐色土(75Y3/2)　しまり、やや粘性有す。
2T 1層　黒褐色土(75Y3/1)　しまり、やや粘性有す。焼土、炭化物、土器細片含む。遺構覆土。
3T 1層　黒褐色土(75Y2/2)　しまり、やや粘性有す。粒が細かく、焼土、炭化物わずかに含む。遺構覆土。
3T 2層　黒褐色土(75Y3/2)　しまり、やや粘性有す。1層と比べにごる。遺構覆土。
3T 3層　黒褐色土(75Y3/1)　しまり、やや粘性有す。焼土、炭化物わずかに含む。遺構覆土。

第41図　糠峯遺跡確認調査トレンチ実測図



第42図　糠峯遺跡遺構実測図

で、胴部は緩やかに内湾しながら開く。外面の調整は、縦方向と横方向のナデ調整される。50は甕形土器で底部はやや上底で厚みがあり裾がわずかに開く。胴部の最大径は中位よりやや上部で、口縁部は丸みを帯びた台形状を呈し内側に張り出す。

2号甕棺墓（k-02）

確認調査1トレンチで検出した。上部は大きく後世の削平により破壊されている。残存している墓壙の平面形状は円形を呈し、長軸約136㎝、短軸約128㎝、検出面からの深さ最大で約53cmを測る。下棺が壺形土器(53)の合口棺であったとみられるが、上棺は削平により破壊されていた。51、52のどちらか又は両方の組み合わせの甕棺墓であったと思われる。遺物取上げの時点では、53ともう一個体分として想定し調査しており、整理の段階で51と52の2個体分と判明したため、それぞれの出土状況は明確ではない。

51は口縁部と底部が欠損するが、高坏の坏部分の形状を呈する土器である。52は壺形土器で胴部下位を欠損する。口演部はラッパ状に開き、頸部に突帯を1条巡らす。53は下棺に使用された壺で、口縁部を欠損する。算盤玉の形の胴部で底部はやや上げ底ぎみになる。頸部に突帯を1条巡らす。外面は横方向に丁寧に調整される。

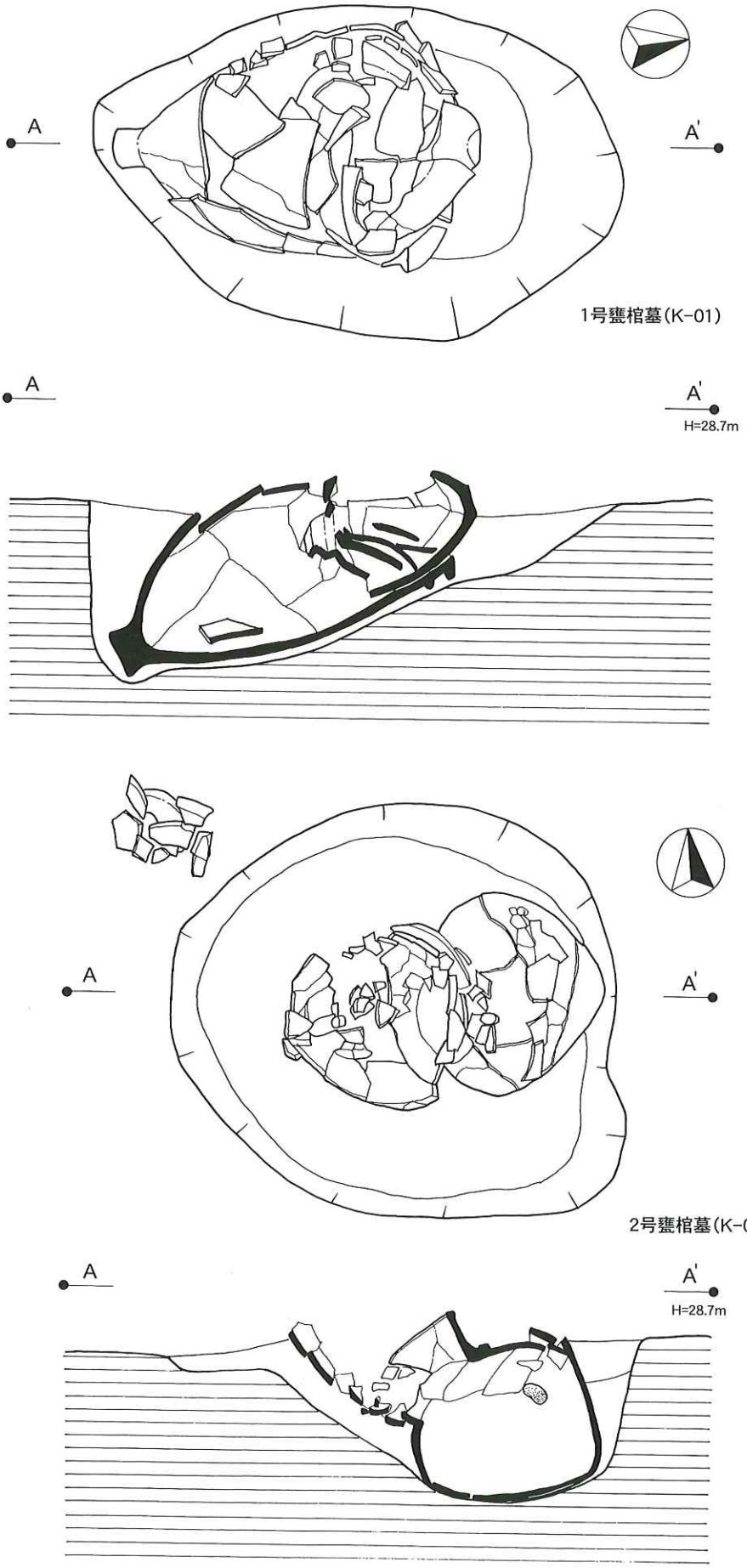
(7)　まとめ

今回の調査で検出した遺構は、甕棺墓2基と溝状の遺構3基、ピット群などである。甕棺墓に使用されている甕棺は、1号甕棺墓の下棺は在地系の黒髪式の甕である。甕棺墓は2基とも上部は削平されており、畑の造成の際に破壊されたようである。したがって周辺にはさらに甕棺墓群が広がっていたとみられるが、すでに消滅したものもあるとみられる。

1号溝については、時期は出土した遺物から弥生時代と判断される。また、縄文時代の遺物も多く出土しており、遺構が埋没していった段階で縄文時代の遺構はすでに破壊されてたことも考えられる。その他の遺構は遺物の出土もなく時期の特定は困難である。

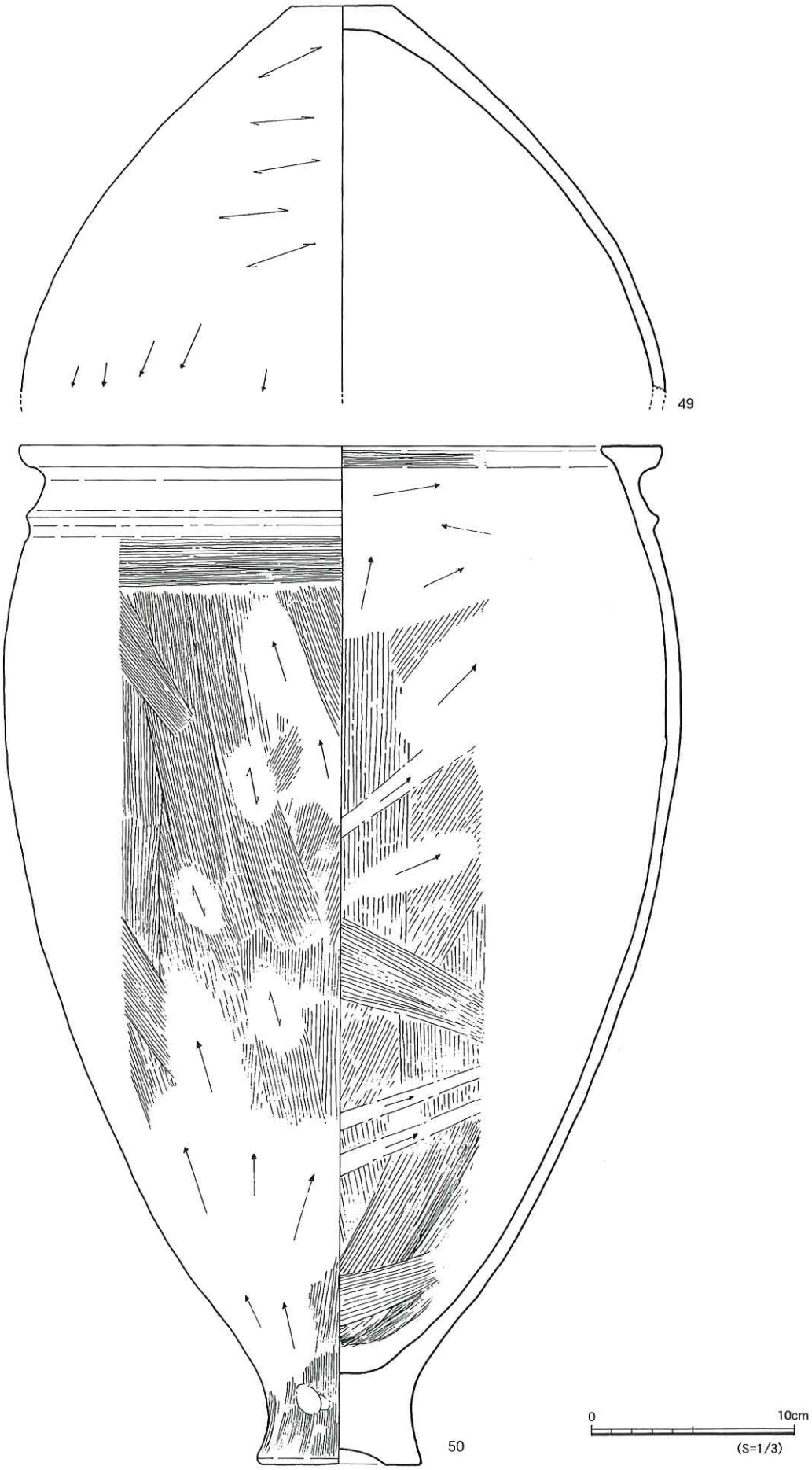
また、今回の調査で旧石器時代とみられる石器が1点出土している。1号溝からの出土で、層に伴うものではなかったが、調査地周辺は旧石器時代の遺跡の存在についても注意が必要である。

糠峯遺跡調査前状況（西から）

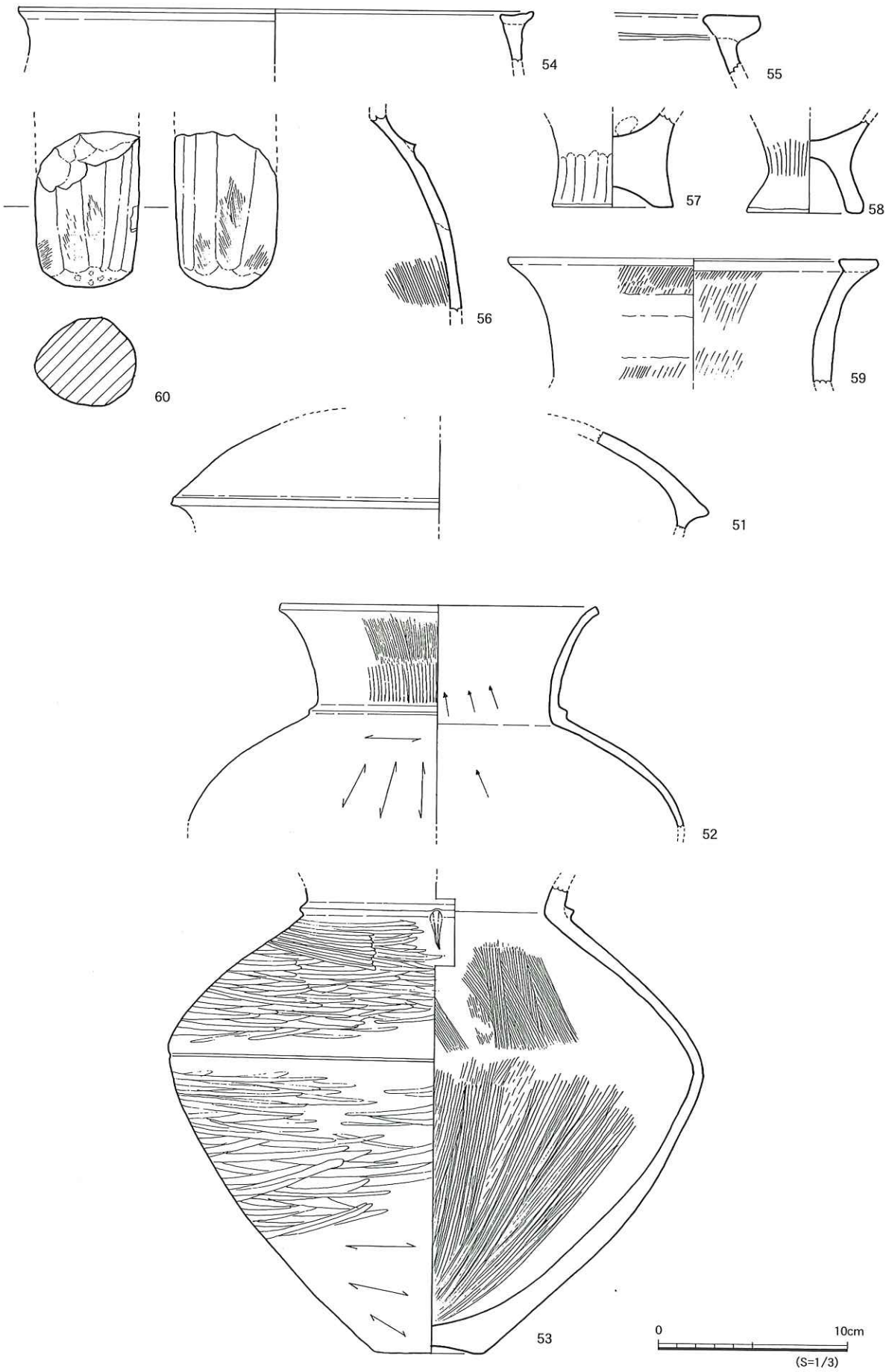


第43図　糠峯遺跡甕棺墓実測図

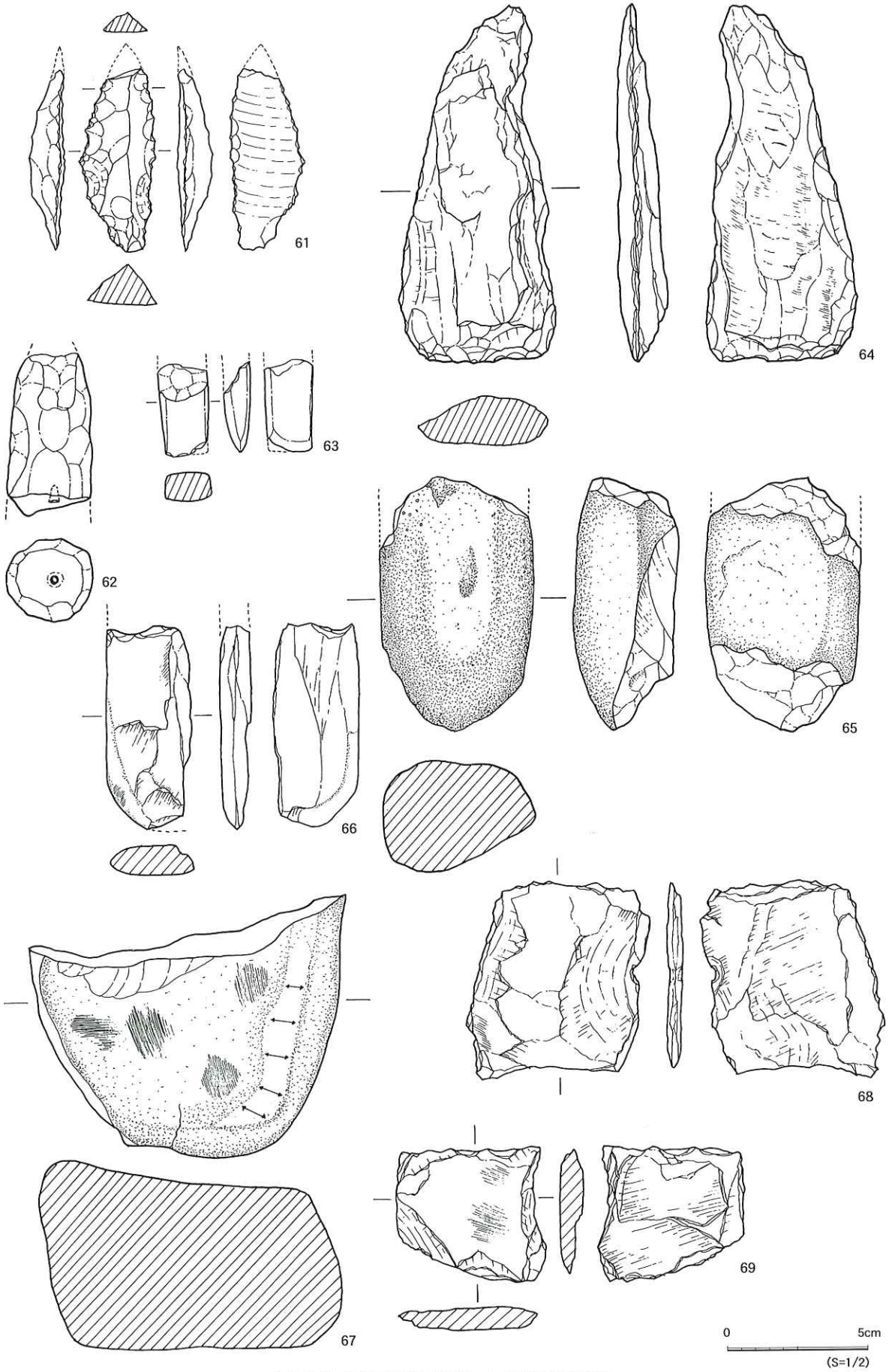
0　50cm
(S=1/20)



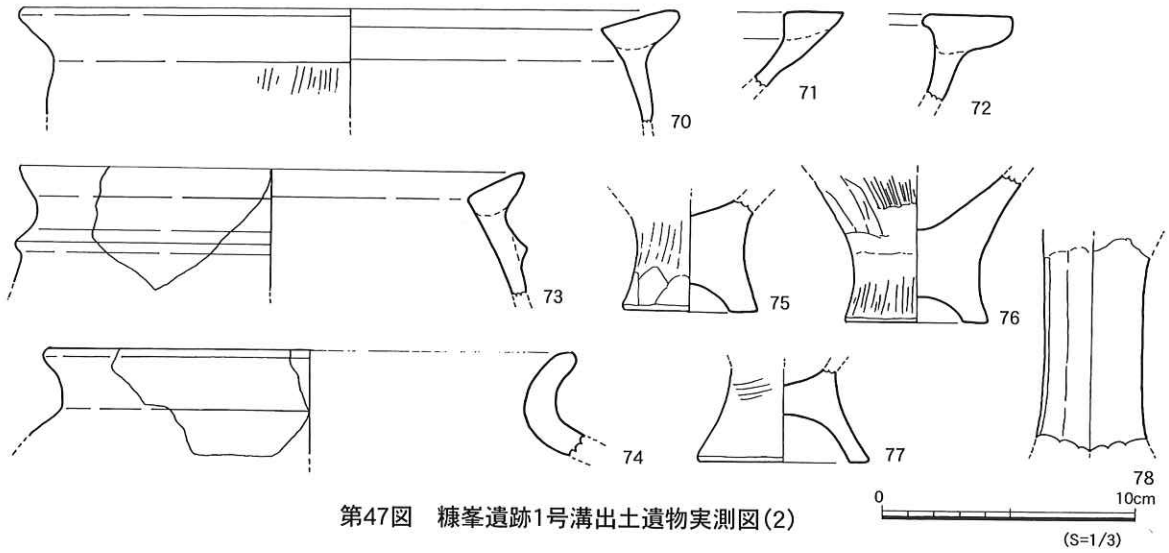
第44図　糠峯遺跡甕棺実測図



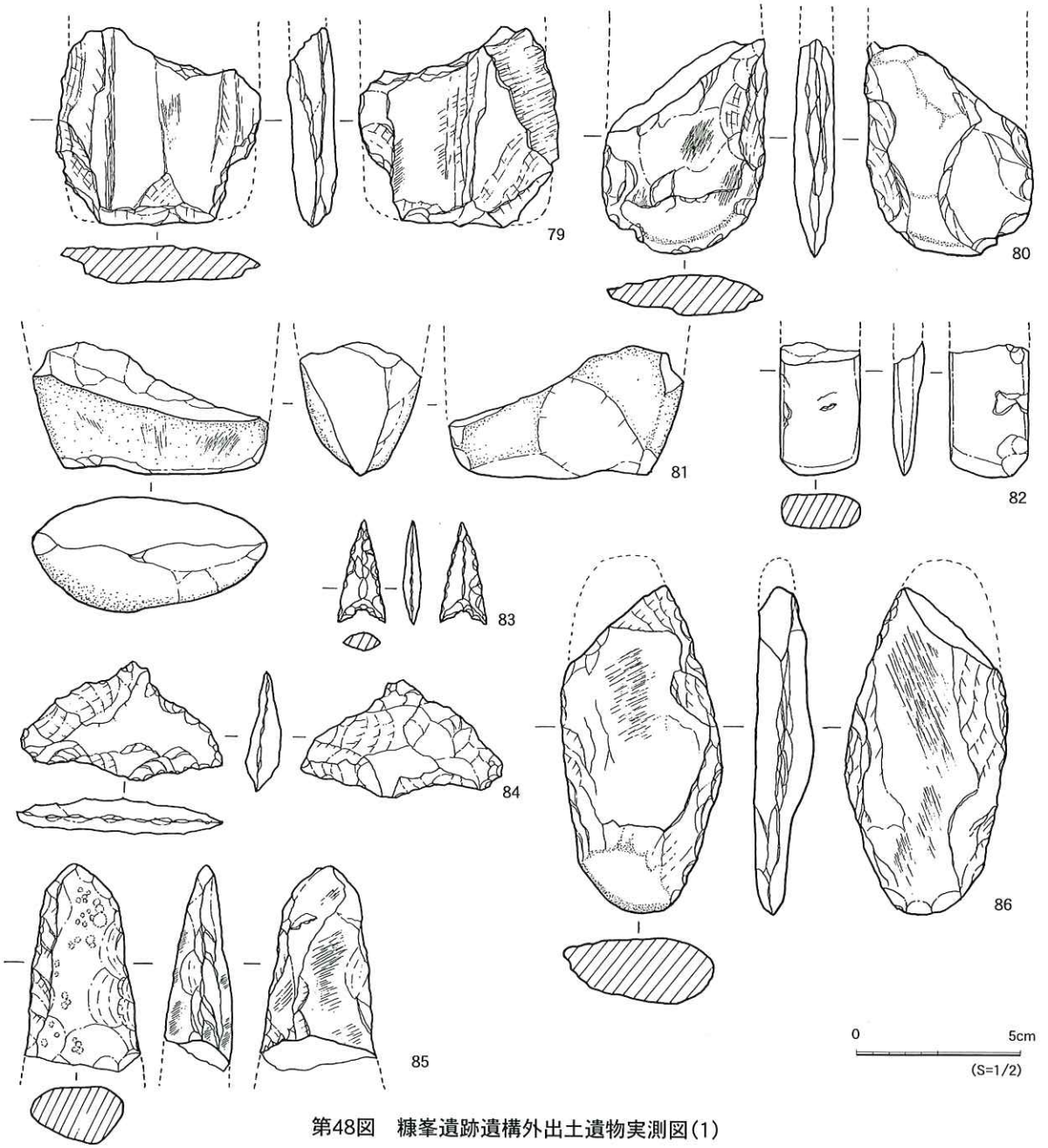
第45図　糠峯遺跡遺物実測図



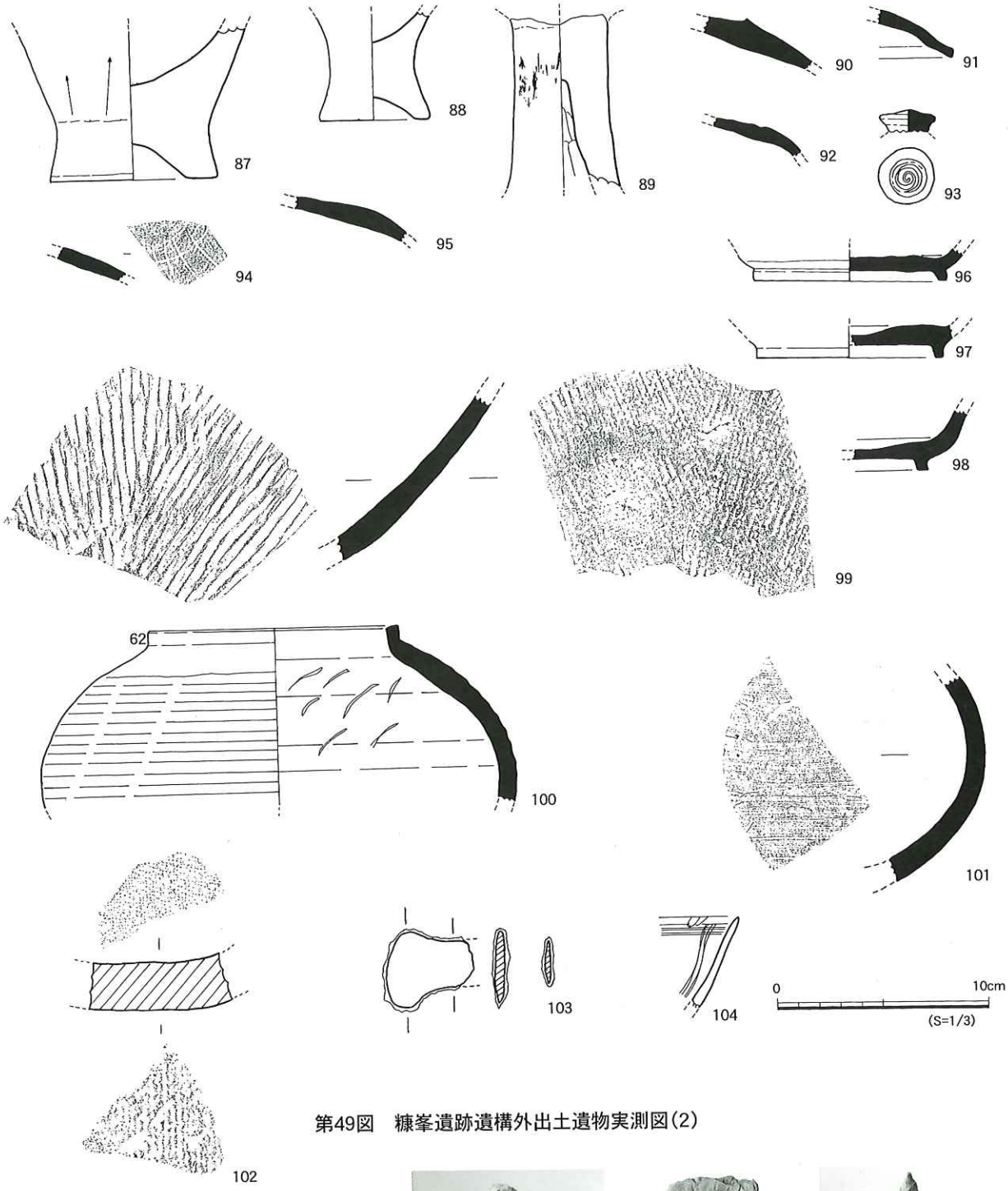
第46図　糠峯遺跡1号溝出土遺物実測図(1)



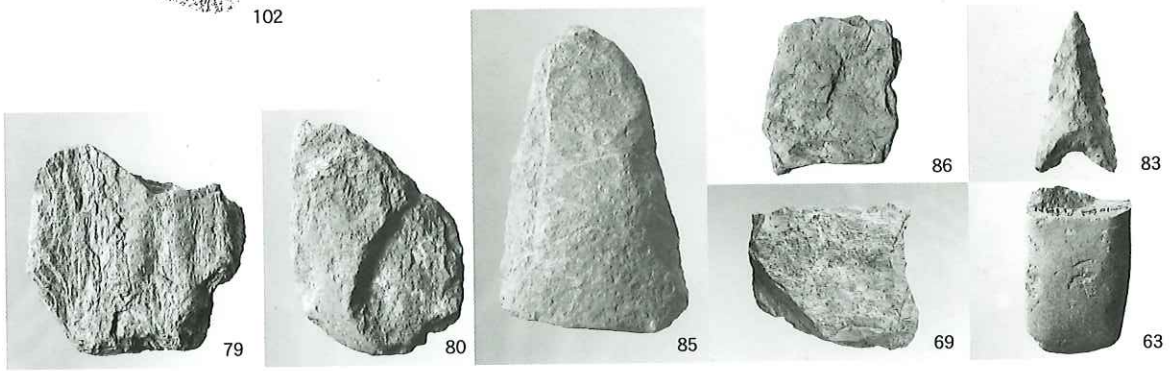
第47図　糠峯遺跡1号溝出土遺物実測図(2)



第48図　糠峯遺跡遺構外出土遺物実測図(1)



第49図　糠峯遺跡遺構外出土遺物実測図(2)

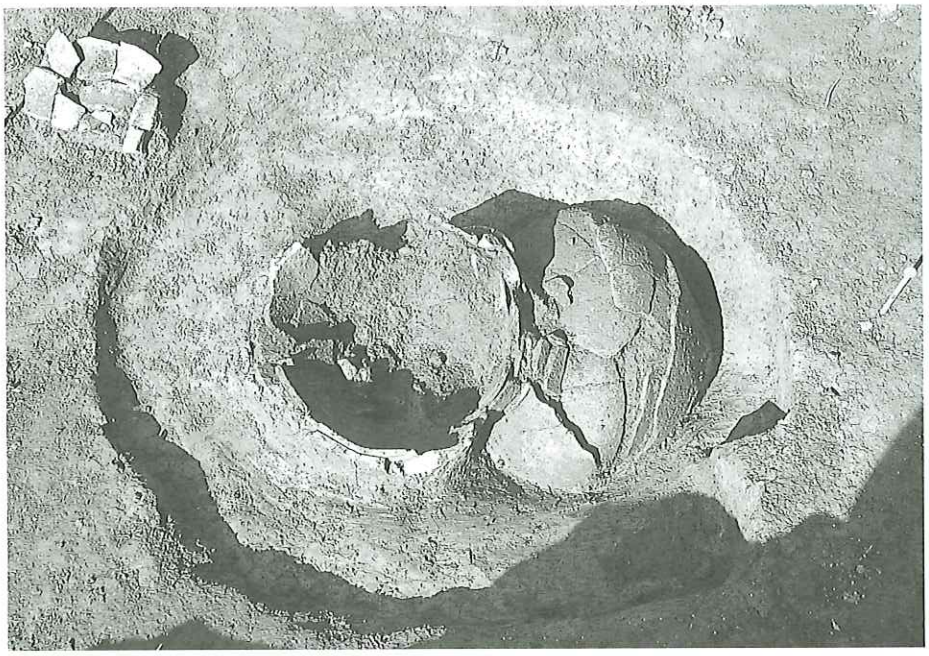


糠峯遺跡出土遺物(2)

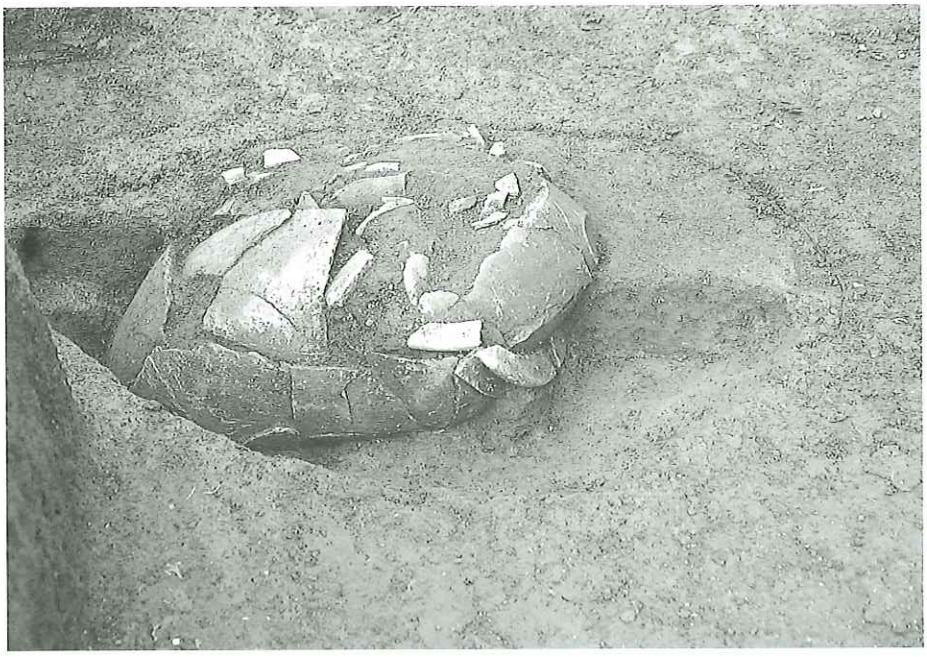
糠峯遺跡調査区
調査前状況（北から）

糠峯遺跡
確認調査状況（西から）

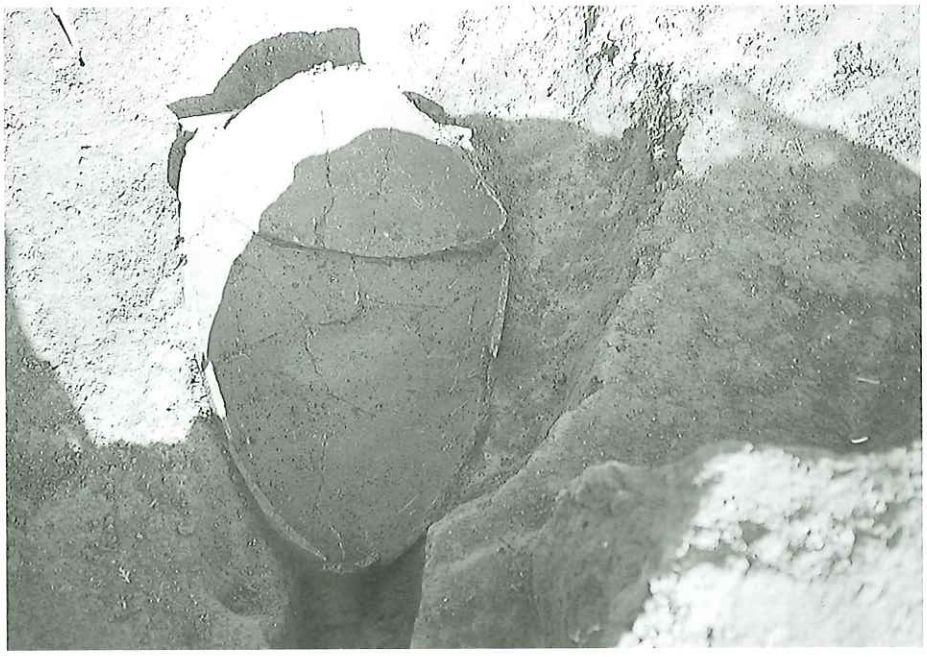
糠峯遺跡
甕棺墓検出状況（西から）



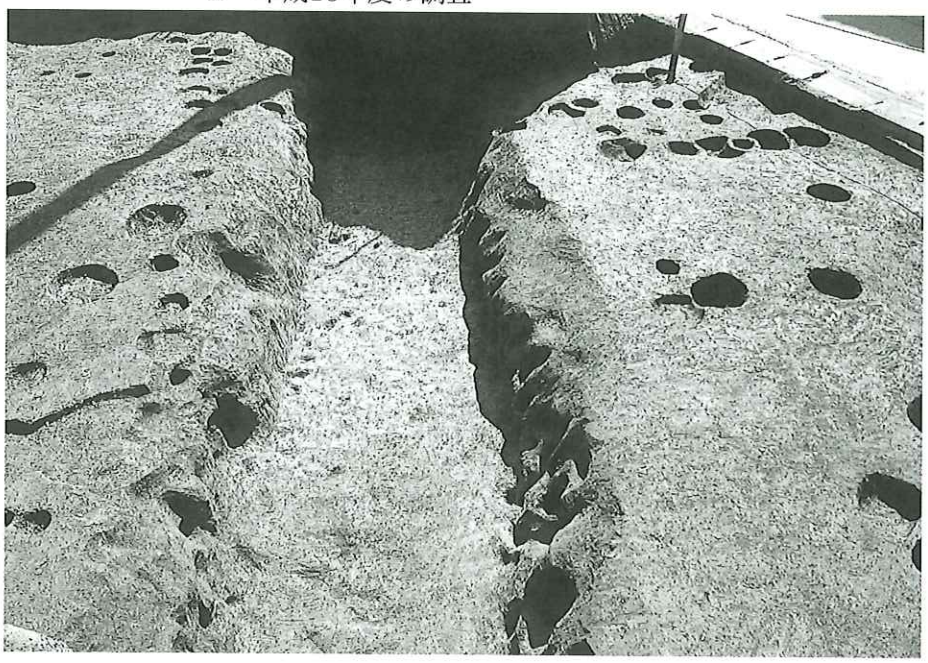
糠峯遺跡2号甕棺墓



糠峯遺跡1号甕棺墓



糠峯遺跡1号甕棺墓



糠峯遺跡
1号溝完掘状況(北から)

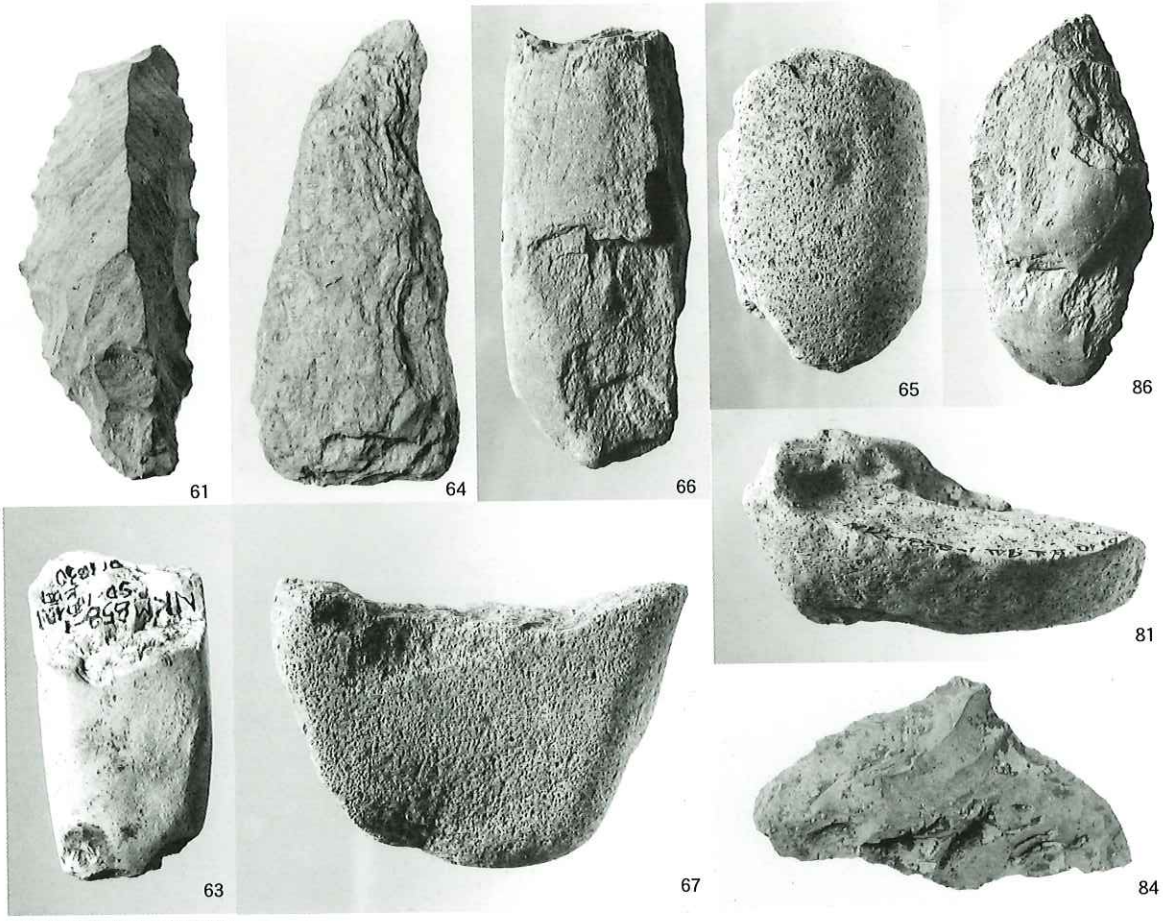
糠峯遺跡
調査区完掘状況(北から)

糠峯遺跡
調査区完掘状況(東から)

糠峯遺跡1号甕棺墓下棺50

糠峯遺跡1号甕棺墓上棺49

糠峯遺跡2号甕棺53



糠峯遺跡出土遺物(1)

１３　山田松尾平遺跡

所在地：山田字松尾平1361-8

対象面積：496.17㎡

調査期間：13年9月7日

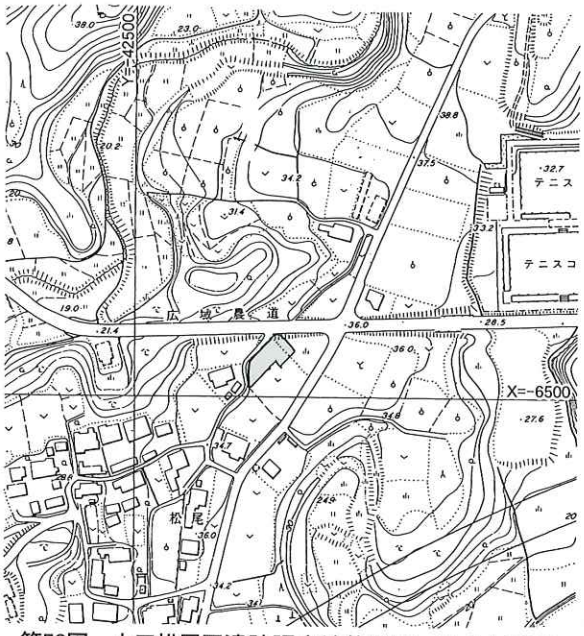
担当者：田中康雄

調査地は、蛇ヶ谷公園の南西側、小代山南麓の標高約30m～40mの地点に位置し、西側で開析谷に面した丘陵の縁辺部にあたる。工事予定地は、畑地であった所を宅地化しており、北側で広域農道、東側で市道と接している。

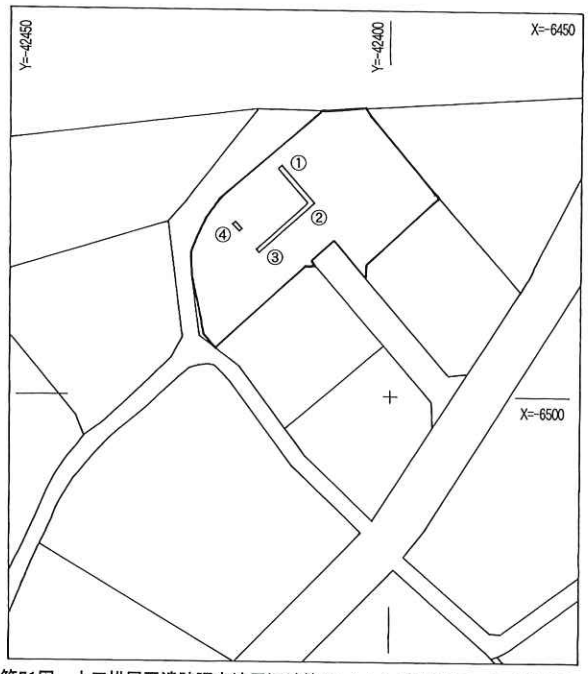
今回の工事は専用住宅の新築であるが、基礎掘削が約1.2mと深いため、確認調査を実施した。調査結果は以下のとおりである。

建物基礎部分にトレンチを２カ所設定して確認を行ったところ、約10～20cmの表土下に約30～50cmの旧耕作土がみられ、その下に無遺物層であると考えられる褐色土を確認したが、遺構、遺物とも確認されなかった。土層の状況から、畑地化及び宅地化の際に、それぞれ造成が行われていると考えられ、畑地化の際の削平で遺跡が消失した可能性も考えられるが、耕作土中に遺物がまったく混入しないことから、もともと遺跡が存在していない可能性も考えられる。

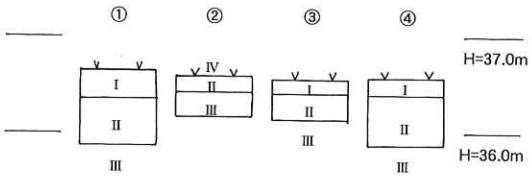
調査後の措置は、慎重工事である。



第50図　山田松尾平遺跡調査地位置図　S=1/5,000



第51図　山田松尾平遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000



土層説明
Ⅰ層　表土　宅地造成時のならした土と思われる。
Ⅱ層　暗褐色土(7.5YR8/3)　旧耕作土　ややしまりがあり、多少粘性を有する。雲母片、白色砂粒を含む。
Ⅲ層　褐色土(7.5YR4/G)　しまりがあり、多少粘性を有する。遺構検出面に相当すると思われる。

第52図　山田松尾平遺跡トレンチ土層図　S=1/80

山田松尾平遺跡調査地周辺(北西から)

１４　長福寺跡

所在地：高瀬八日町552

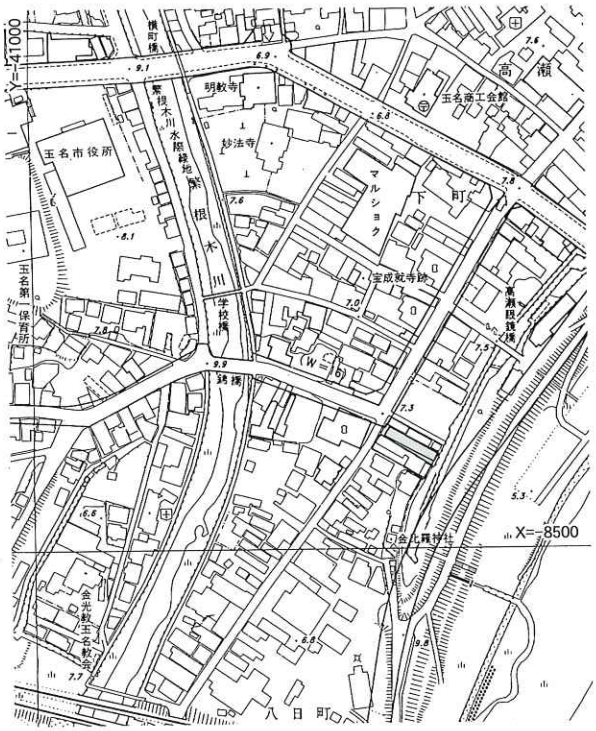
対象面積：375.29㎡

調査期間：13年9月10日

担当者：竹田宏司

調査地は、旧高瀬町の中心部からやや南、高瀬下町と八日町の境に位置し、東側は裏川に面する、標高7.5m前後の地点である。現況は宅地であり、鉄骨造の店舗兼用住宅が建っていたが、調査の時点では、解体・整地されていた。『肥後国誌』や『八日町筋左右軒並系図書』により、調査地周辺が長福寺跡と推定されている。

調査では、敷地内の2ヶ所トレンチを設定して重機により掘り下げた。両トレンチとも、基本的な層序は、ほぼ一致している。Ⅰ層は明治以降現代に至る建築材を多量に含む層である。Ⅱ層は、多量の焼土・炭化物、２次焼成を受けた瓦などから成っており、近代の磁器類を含まないことから、西南戦争により被災した痕跡の可能性が強く、Ⅲ層上面が1877年時の生活面とみられる。Ⅲ層は、多量の瓦等の他、19世紀代の磁器を含んでいる。Ⅳ層はⅢ層に比べ極端に遺物が少なくなるが、やはり19世紀代の磁器を含んでおり、数十年単位の間に形成されたものとみられる。Ⅳb層はしまりが極端に弱く、還元しており、灰色に近い色調を呈する。Ⅳa～Ⅳc層全般に砂粒を多く含んでおり、洪水による堆積の可能性がある。２TではⅣc層に覆われた状態で、南北方向の石列を検出している。石列の東側では、しまりの強い粘質土により整地された痕跡がみられる。Ⅴ層は、Ⅳ層同様軟弱な層である。瓦などの混入物は少ないが、18世紀中頃以降とみられる磁器片を出土している。１TではⅤ層上面において東西方向の石列が検出されている。

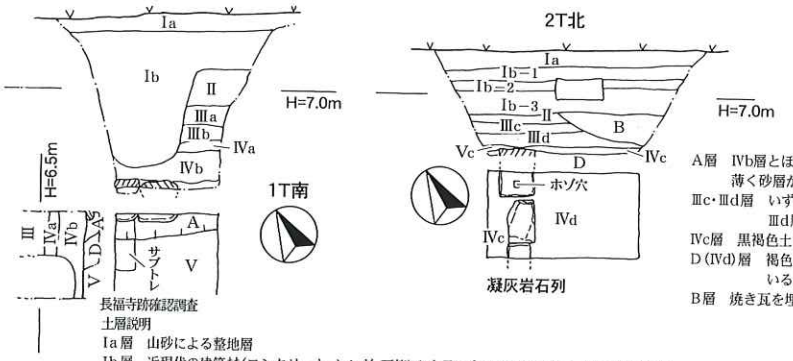


第53図　長福寺跡調査地位置図　S=1/5,000

第54図　長福寺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

以上のように、１Tでは２m近く掘り下げているにもかかわらず、中世の層には達しておらず、18世紀以降に形成された層である。

調査後の措置は、慎重工事である。



長福寺跡確認調査

土層説明

Ia層　山砂による整地層

Ib層　近現代の建築材(コンクリート、レンガ、瓦等)を多量に含む層。2Tでは1～3に整地面あり。

※Ib－1～3は、それぞれ上面が整地されている為分層。

Ⅱ層　焼土、炭化物、2次焼成を受け、赤化した瓦等を多量に含む層。1Tでは互層状(西南戦争に伴う可能性大)

Ⅲa層　暗褐色土(10YR3/3)しまりやや弱。粘性弱。多量の砂粒を含む。炭化物、粘土塊、瓦、礫等やや多く含むが、Ib層、Ⅱ層に比べ少なくなる(上面が明治10年時の生活面か)

Ⅲb層　色調等、Ⅲa層と変わらないが、1Tでは多量の黄褐色、にぶい黄橙色の粘土塊を含む。

Ⅳa層　黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性とも弱い。粗砂粒を多く含む。Ⅲ層までと比べ、瓦等の混入が極端に減少する。炭化物、粘土小ブロック混。

Ⅳb層　灰黄褐色土(10YR4/2)内容はⅢa層に近似するが、砂の混入やや少なめ、鉄分貫入。

Ⅴ層　褐灰色土(10YR4/1)しまり粘性とも弱い。炭化物混入。遺物をほとんど含まない為、時期の特定困難。鉄分の貫入著しい。砂粒含む。

A層　Ⅳb層とほとんど同じ。礎石の掘方で、Ⅳb層とA層の間に薄く砂層がはいっており、礎石列をパックしている。

Ⅲc・Ⅲd層　いずれもⅢ層のバリエーション。1Tに比べ炭化物の混入が非常に多く、Ⅲd層下位では2cm程度の厚さで層を成す。それぞれ上面が整理されている。

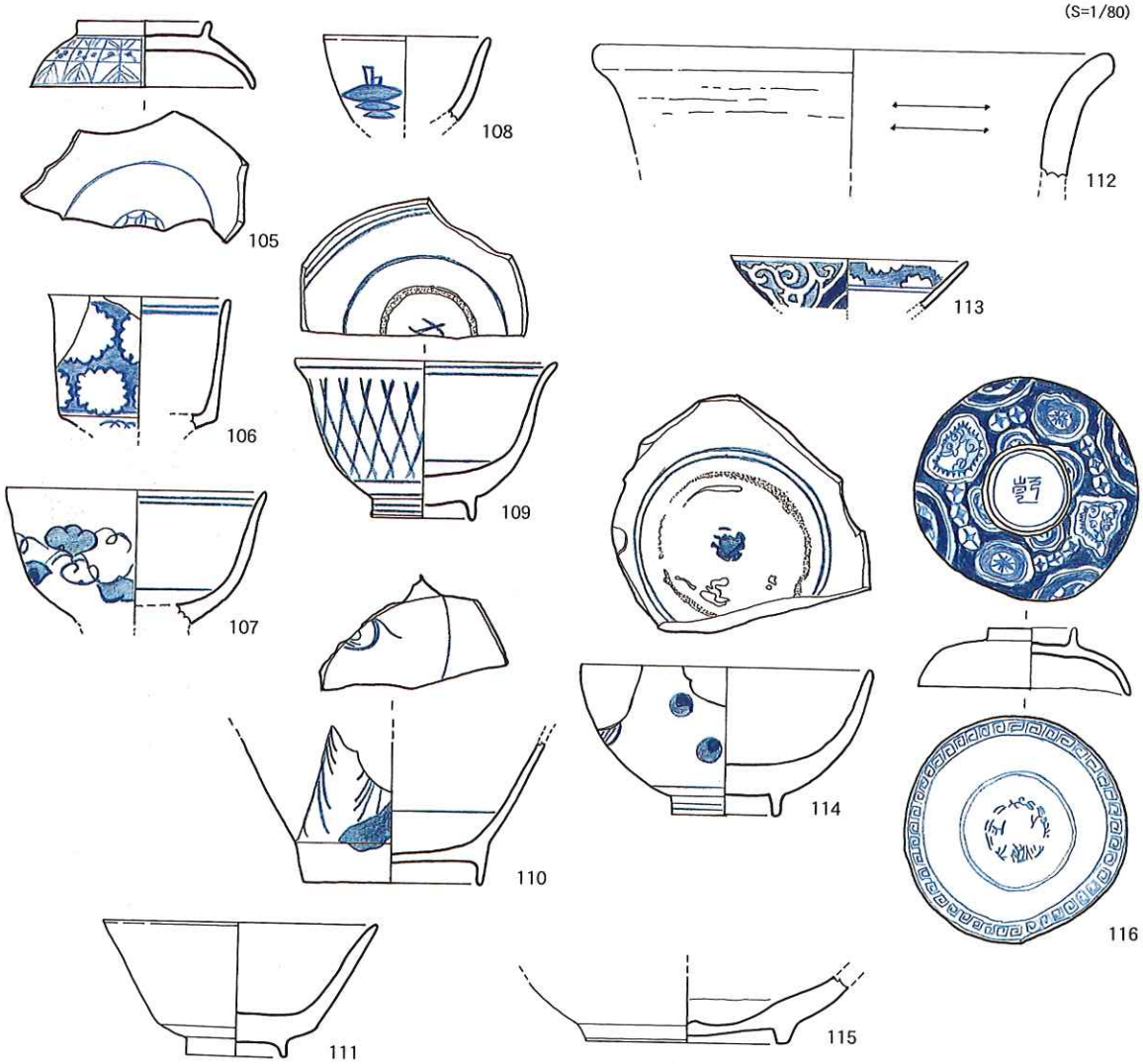
Ⅳc層　黒褐色土(10YR3/2)粗い砂層。礎石列をパックしている。洪水の痕跡か。

D(Ⅳd)層　褐色土(10YR4/4)礎石列の東側のみに認められる。粘質土の層。Ⅳd層としているが、Ⅳa層の上位にあたる可能性がある。整地面。

B層　焼き瓦を埋め込んだものか。Ⅱ層より上位。

第55図　長福寺跡トレンチ実測図

0　2m
(S=1/80)



0　10cm
(S=1/3)

第56図　長福寺跡遺物実測図

長福寺跡調査状況（西から）

長福寺跡1T

長福寺跡2T

長福寺跡2T石検出状況

長福寺跡出土遺物

１５　築地市場遺跡

所在地：築地 642-2

対象面積：140.14 ㎡

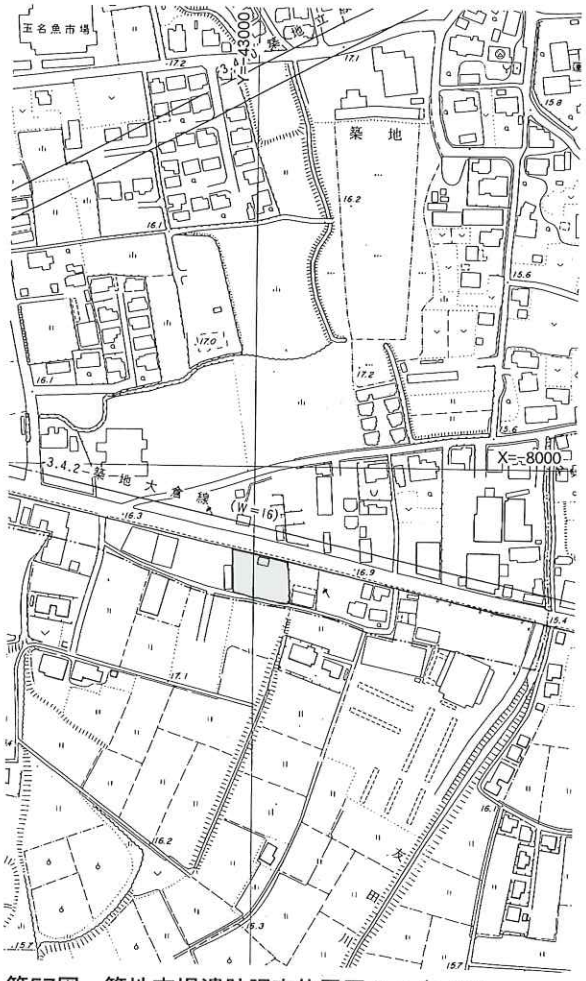
調査期間：13 年 11 月 9 日

担当者：蘱父雅史

調査地は、玉名市西側の低丘陵上に位置し、標高 16.5 m程の地点である。国道 208 号線の南側隣接地で、周辺は水田や畑などであったが、近年は店舗や住宅が建設されている部分も多い。

敷地内の４ヶ所にトレンチを設定し、重機により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、Ⅰ～Ⅳ層までを確認した。Ⅰ、Ⅱ層は現代の整地層である。Ⅲ層は黒褐色を呈する層で、弥生土器の細片がわずかに出土した。Ⅳ層は橙褐色を呈する層で、無遺物層と判断した。４トレンチのⅣ層上面で遺構を検出した。

調査後の措置は、慎重工事である。



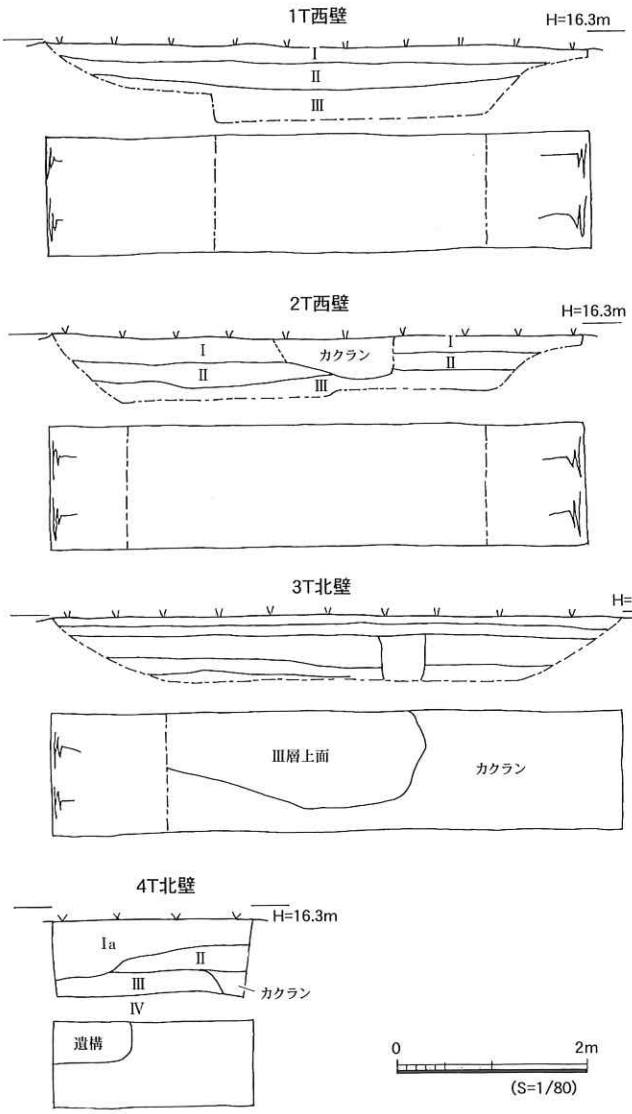
第57図　築地市場遺跡調査位置図 S=1/5,000

築地市場遺跡調査状況（南から）

第58図　築地市場遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

築地市場遺跡調査状況（北から）

築地市場遺跡調査状況（南から）



築地市場遺跡
Ⅰ・Ⅰa・Ⅰb層　砂利、山砂等
Ⅱ層　明橙褐色土(7.5YR5/4) 非常にしまり、ガチガチで土器小片・小石・砂粒多量に含む。盛土。
Ⅲ層　黒褐色土(7.5YR3/1) ややしまり、粘性有しない。サクサクしている。
弥生土器片、土師器小片わずかに含む。
Ⅳ層　橙褐色土(7.5YR5/6) ややしまり、粘性有す。上面が遺構確認面。無遺物層。

築地市場遺跡1T全景(南から)

築地市場遺跡2T全景(南から)

第59図　菊地市場遺跡トレンチ実測図

築地市場遺跡3T全景(西から)

築地市場遺跡4T全景(東から)

１６　菊尾遺跡

所在地：築地642-2

対象面積：140.14㎡

調査期間：13年11月9日

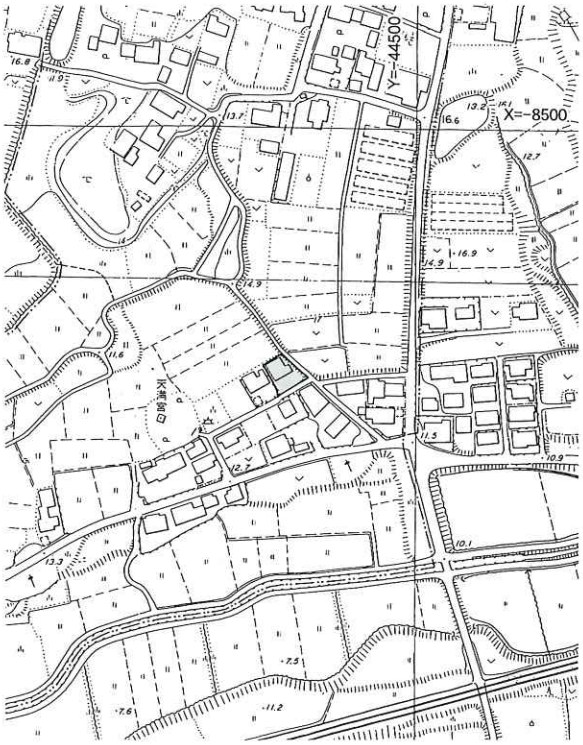
担当者：蜷父雅史

調査地は、玉名市西側の低丘陵上に位置する、標高16m程の地点である。南側は旧河道が東西に延び、それに沿ってＪＲの路線が敷設されている。

専用住宅の建設に伴い確認を行ったが、建物部分については掘削も浅く、埋蔵文化財は現状保存されるが、擁壁工事と合併浄化槽部分で一部掘削される。それらの部分については掘削部分が狭小であったため、工事立会とし、遺構が検出された場合には可能な限り記録保存に努めた。

調査では、南側の擁壁部分で住居跡とみられる遺構を1基検出した。確認した部分は、平面で5mほどの範囲のみであり、深さは検出面から約40cmを測る。覆土は2層に区分される。遺構の一部分しか確認できなかったため、全体の内容は不明である。

遺構内から、主に古墳時代前期の遺物が出土した。117はミニチュア土器で、指での整形痕が残る。118～121は鉢形の土器で、118のみ口縁部が外側にわずかに張り出す。127･128は丸形の胴部の甕で、いずれも外面はハケ目、内面はヘラケズリされる。

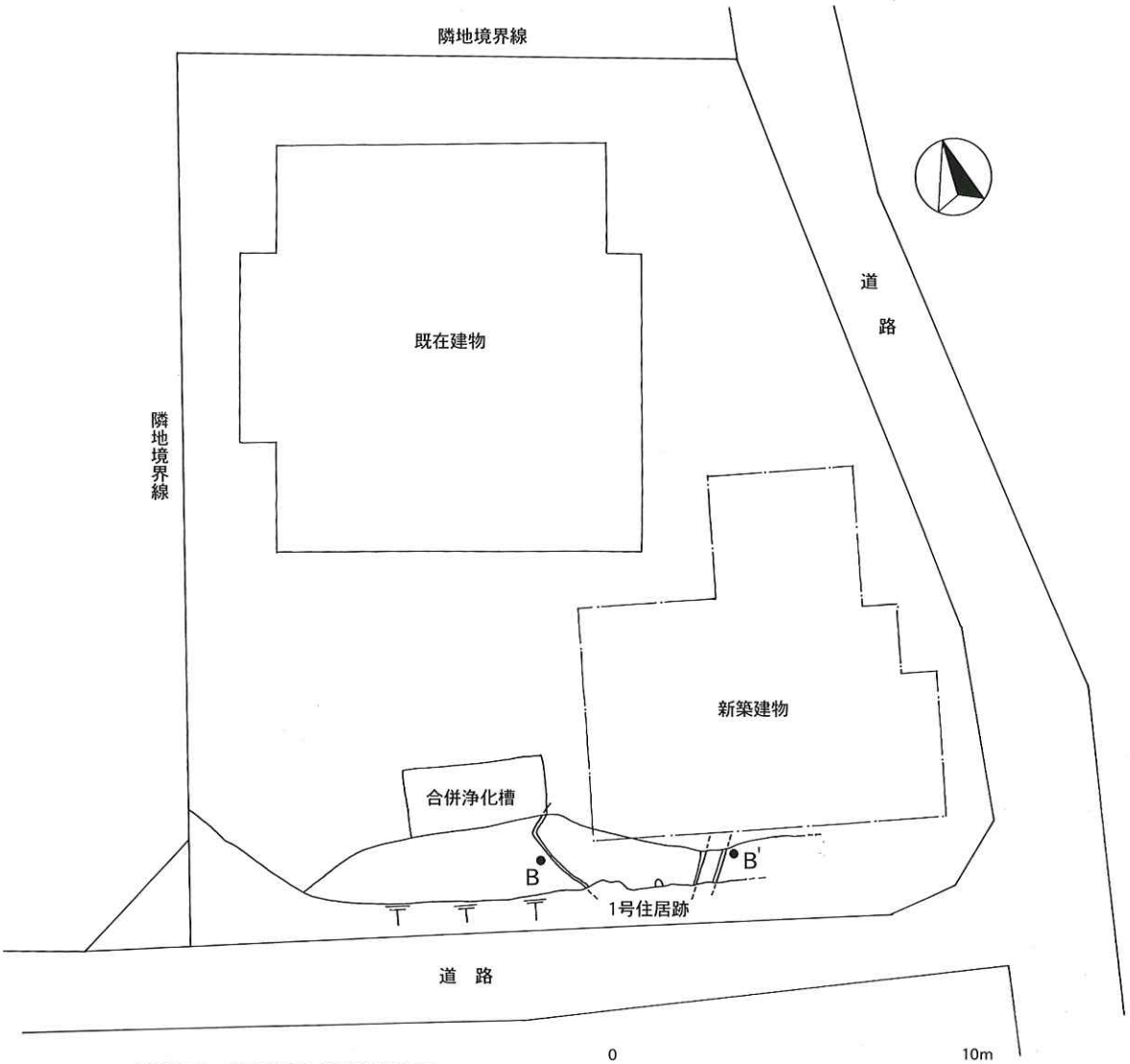


第60図　菊尾遺跡調査地位置図 S=1/5,000

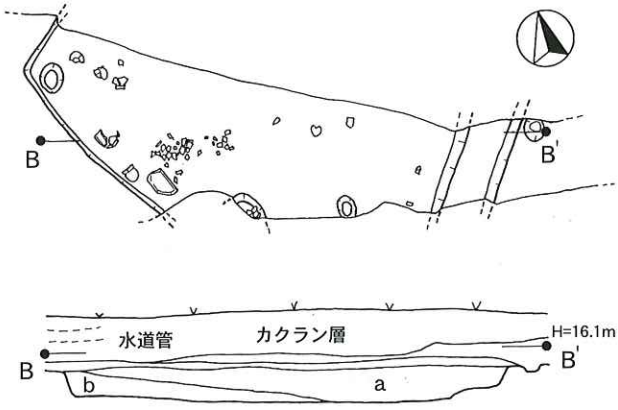
菊尾遺跡調査地南側工事状況（東から）

菊尾遺跡調査前状況（北から）

菊尾遺跡調査地南側完掘状況（東から）



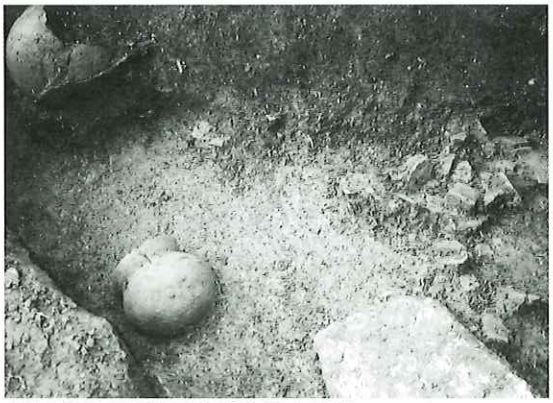
第61図　菊尾遺跡遺構配置図



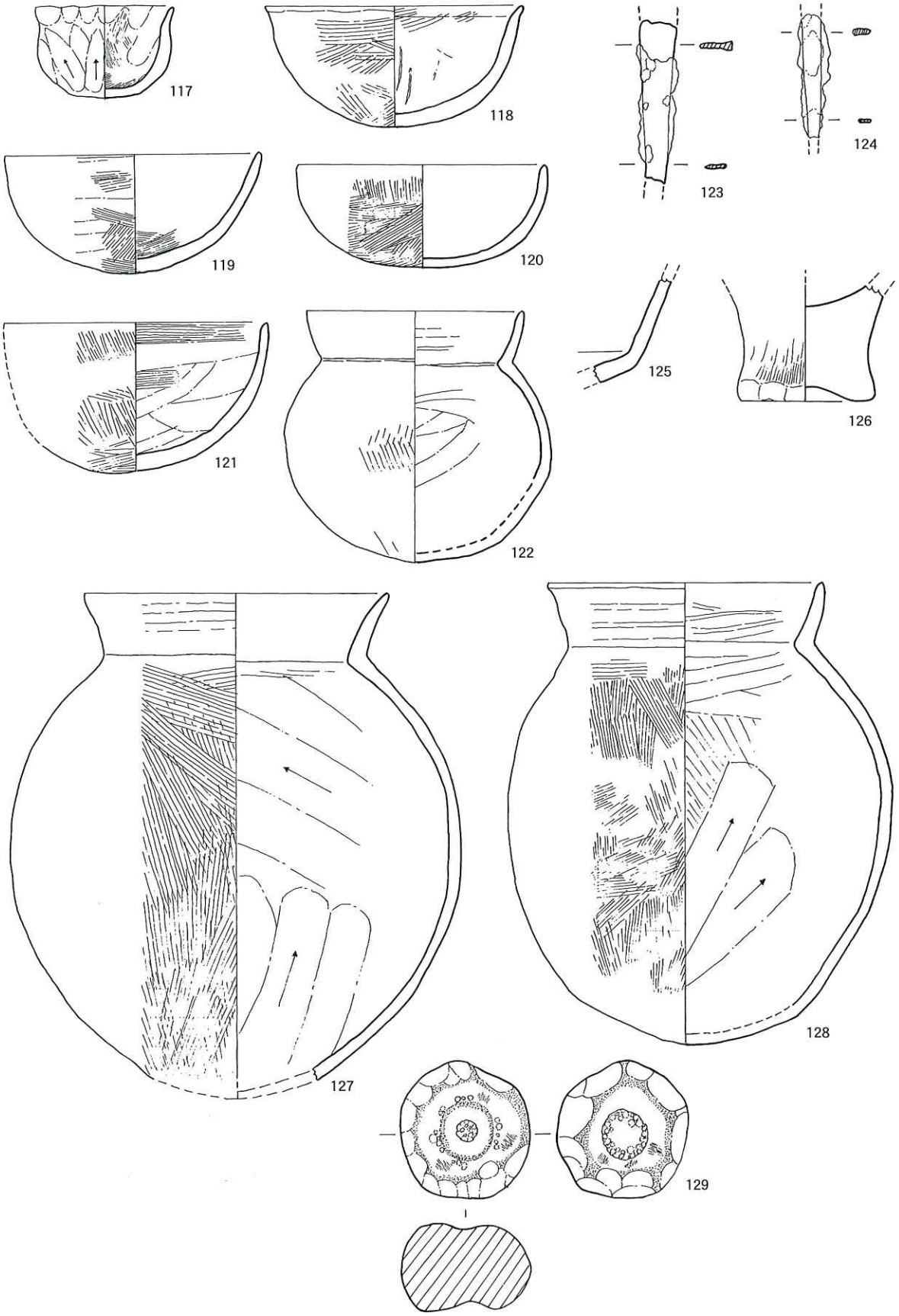
遺構内覆土
a層　黒色土(7.5YR2/1)
　全体的にしまりが強く、粘性も強い。炭化物が少量含む。
　部分的に黄褐色土の塊(3cm角)が含まれる。赤褐色土を粒状に多く含む。
b層　灰褐色土(7.5YR4/2)
　a層よりもしまりが強く、やや粘性がある。微砂粒多く含む。赤褐色土を粒状に少量含む。

0　2m
(S=1/80)

第62図　菊尾遺跡1号住居跡実測図

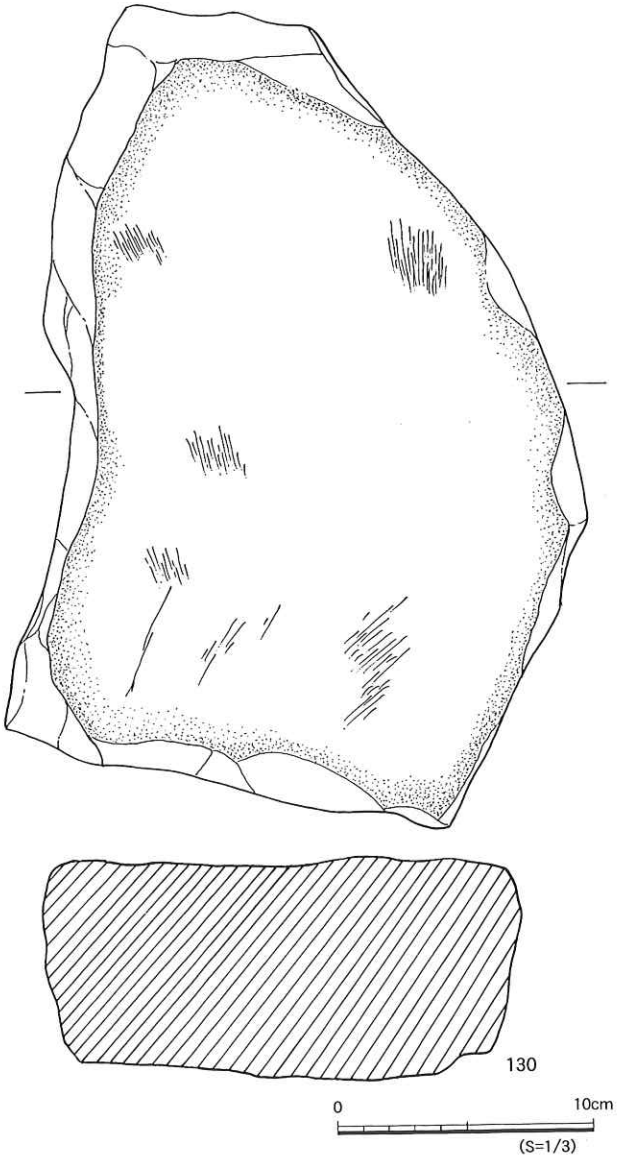


菊尾遺跡1号住居跡遺物出土状況



第63図　菊尾遺跡遺物実測図(1)

0　10cm
(S=1/3)



第64図　菊尾遺跡遺物実測図(2)

菊尾遺跡出土遺物122

菊尾遺跡出土遺物128

菊尾遺跡出土遺物118

菊尾遺跡出土遺物120

菊尾遺跡出土遺物127

１７　伊倉古宮原遺跡

所在地：宮原字宮川476-5

対象面積：340.00㎡

調査期間：13年12月11日

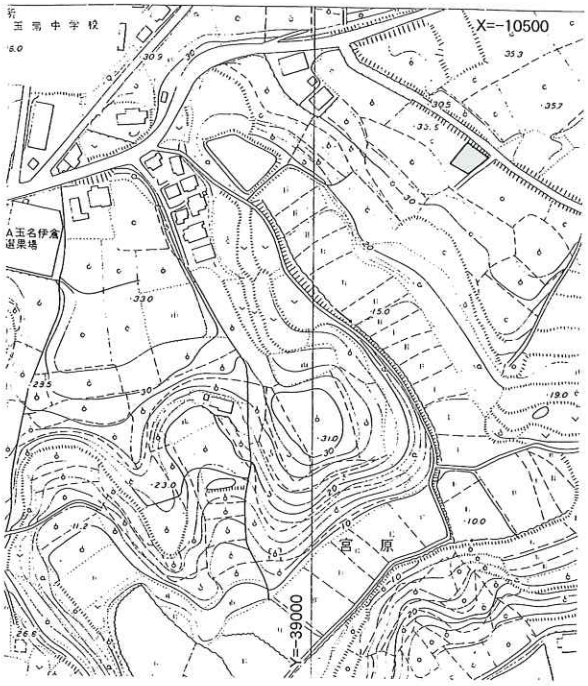
担当者：蠚父雅史

調査地は、菊池川左岸、伊倉丘陵性台地上の標高33mの付近に位置し、伊倉八幡宮の西300mの所にある。周辺は現在、ミカン畑になっており、地形は西側の谷に向かって傾斜している。現地確認の時点では、届出地を含めてすでに造成されており、地表を削って傾斜地を均し整地してあった。そのため、掘削を受けた部分があると予想された。

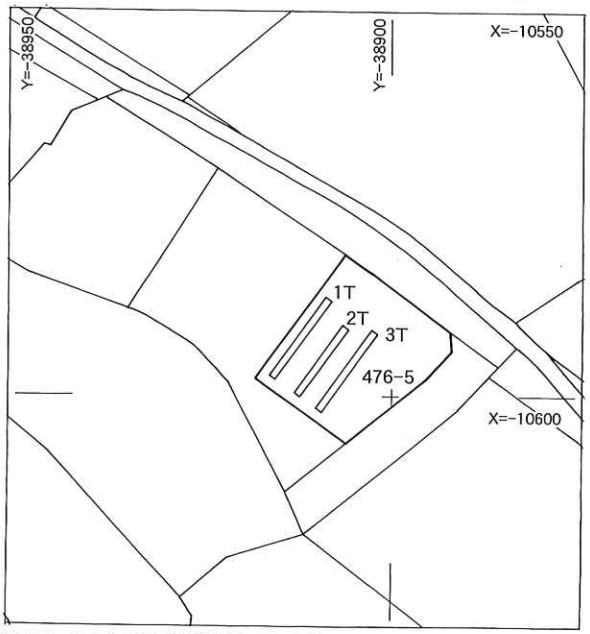
トレンチは、建物建設地に東西3本設定したが、いずれも表土を5cm前後剥いだ所で、遺構を確認することができた。1トレンチの西側では、ピットの上面で弥生後期の土器片が集中して出土した。この遺構確認面は、全体的に明黄褐色で非常に締まり、粘性の強い土壌であるが、土器が出土したピット周辺は、黒色を帯びており、明確なプランではないが住居跡になる可能性がある。その他のトレンチでは遺物はほとんど出土しなかったが、遺構は、ピット10数基、土坑4基、そして、3トレンチでも、住居跡と思われる遺構が1基検出された。

遺物は弥生時代中期～後期の土器片など（第68図131～138）を検出した。

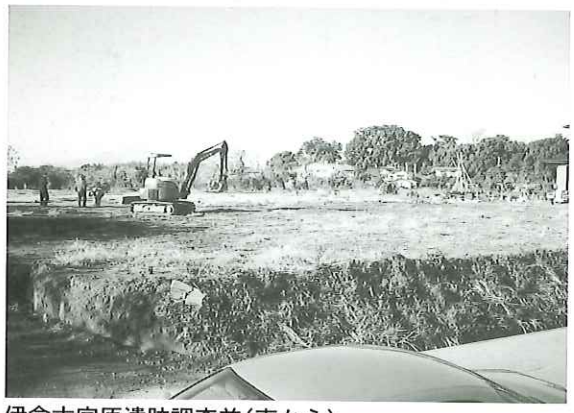
調査後に協議した結果、保護盛土を行い、埋蔵文化財へ影響を与えないよう処置がなされた。



第65図　伊倉古宮原遺跡調査地位置図　S=1/5,000

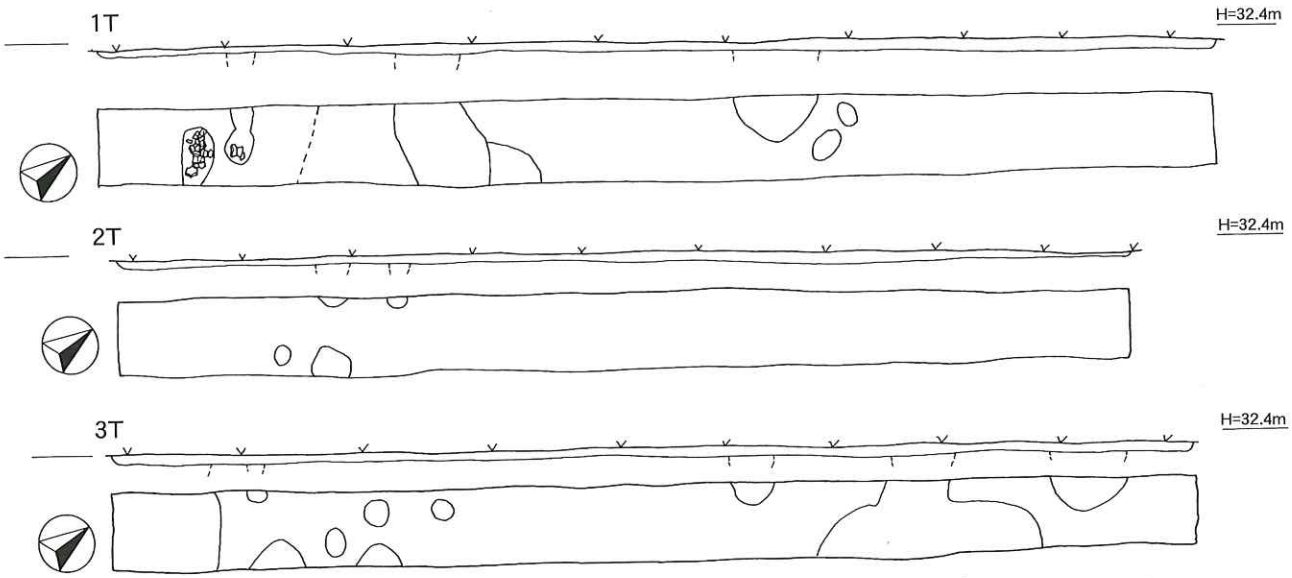


第66図　伊倉古宮原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000



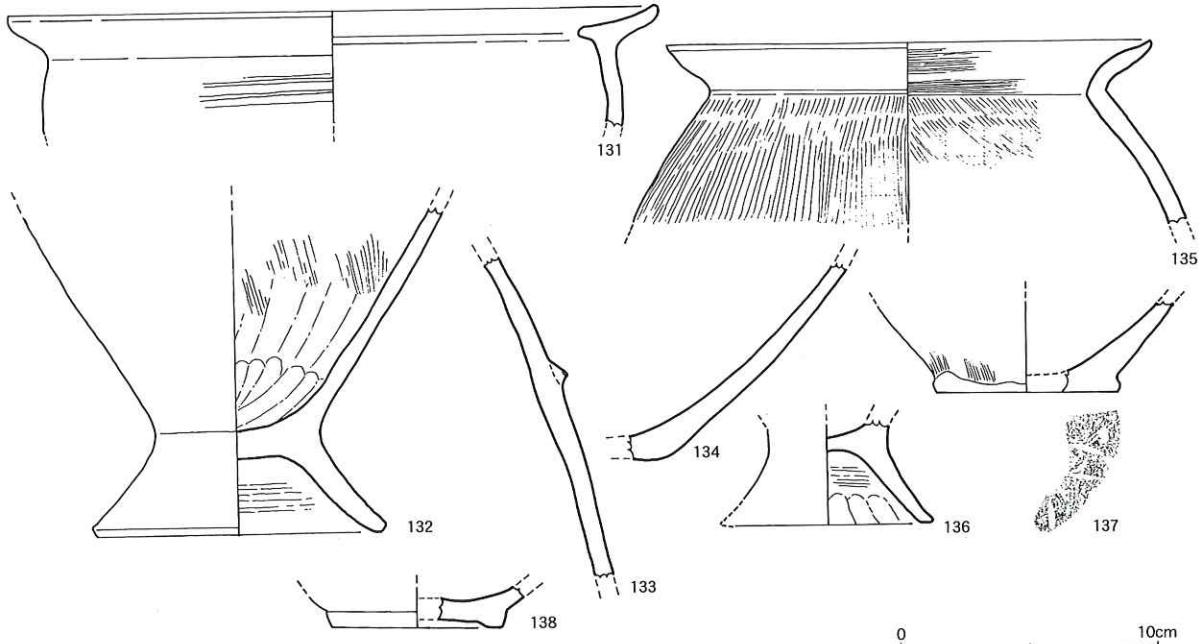
伊倉古宮原遺跡調査前（東から）

伊倉古宮原遺跡調査前状況（東から）



第67図　伊倉古宮原遺跡トレンチ実測図

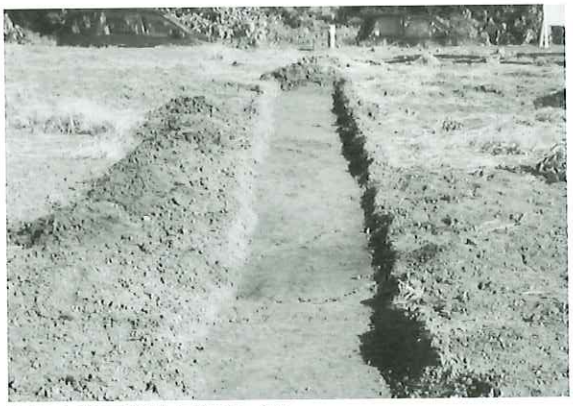
0　2m
(S=1/80)



0　10cm
(S=1/3)

第68図　伊倉古宮原遺跡 遺物実測図

伊倉古宮原遺跡調査状況



遺跡古宮原遺跡IT(西から)

１８　田嶋遺跡(A地点)

所在地:中字寺畑1577

対象面積:526.35㎡

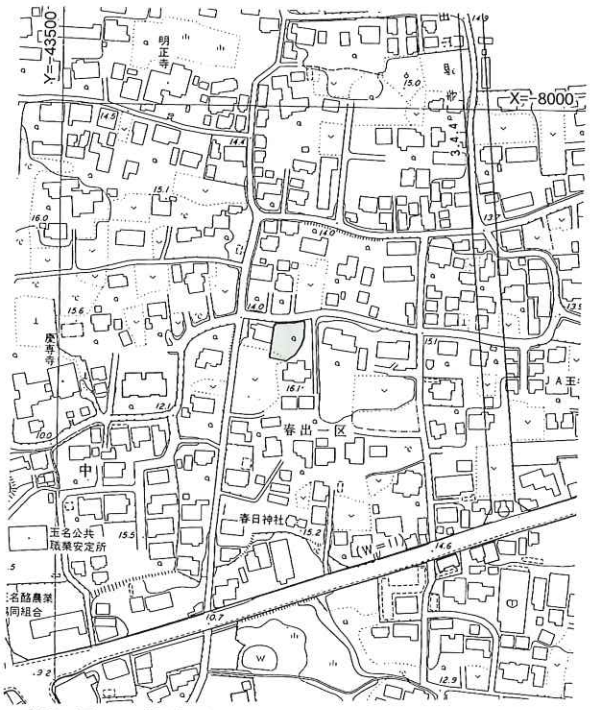
調査期間:14年1月8日～1月9日

担当者:蜷父雅史

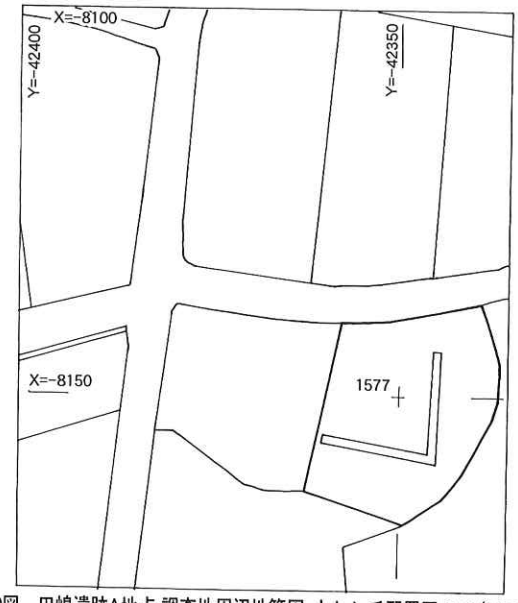
調査地は、玉名市西側の低丘陵上に位置する、標高約16mの地点である。繁根木八幡宮の旧社地と推定されている春日神社の北側部分である。現在国道208号線が遺跡の南側を通り、市街地となって周辺は宅地が広がっている。

敷地内は業者によると40cmほど削平されており、すでに整地してあった。また、東側断面に土層が露出していたので確認したところ、岱明層の上にローム層が80cmほど堆積し、その上面には遺構らしき掘込みがみられた。

調査ではトレンチをL字状に設定し、表土を剥いだところ、約15cmの深さでローム層と遺構が確認された。南北トレンチでは、北側に住居跡(南北幅4m)を1基検出した。その他、ピット2基, 土坑2基を検出した。東西トレンチでは、西側に住居跡とみられる遺構を1基検出した。また、建物部分の表土掘削時に遺構検出を行い、住居跡とみられる遺構を検出した。遺構は掘り下げず、建物の下に現状保存されている。遺物は、古墳時代の土器片や、攪乱部分より古代の瓦片が出土した。(第74･75図)



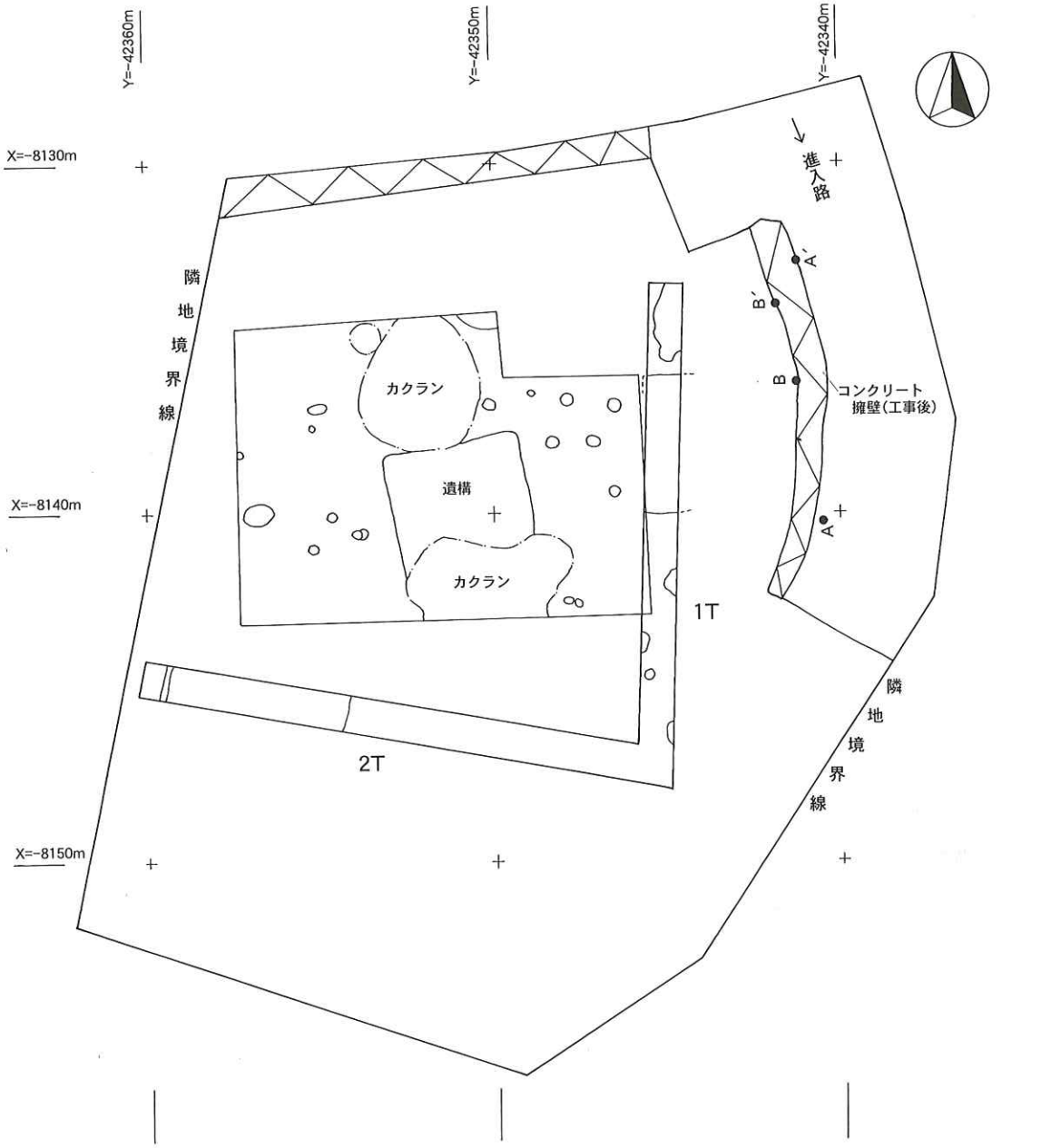
第69図　田嶋遺跡A地点 調査地位置図S=1/5,000



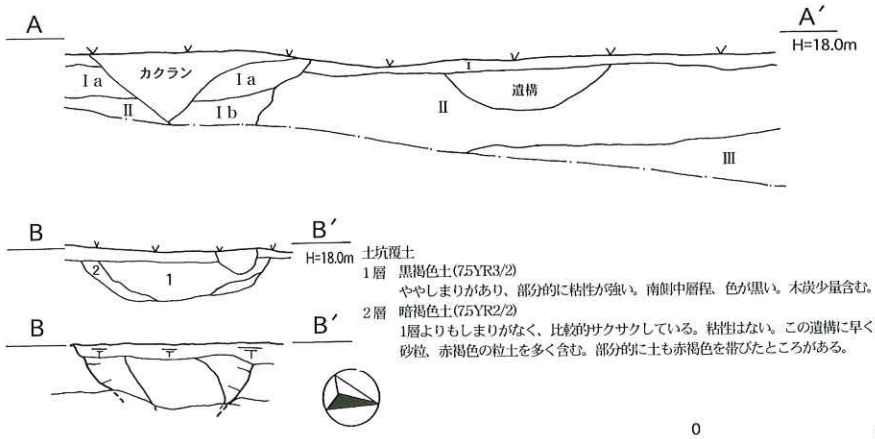
第70図　田嶋遺跡A地点 調査地周辺地籍図･トレンチ配置図 S=1/1,000

田嶋遺跡A地点西側道路部分(北から)

田嶋遺跡A地点調査状況(北から)



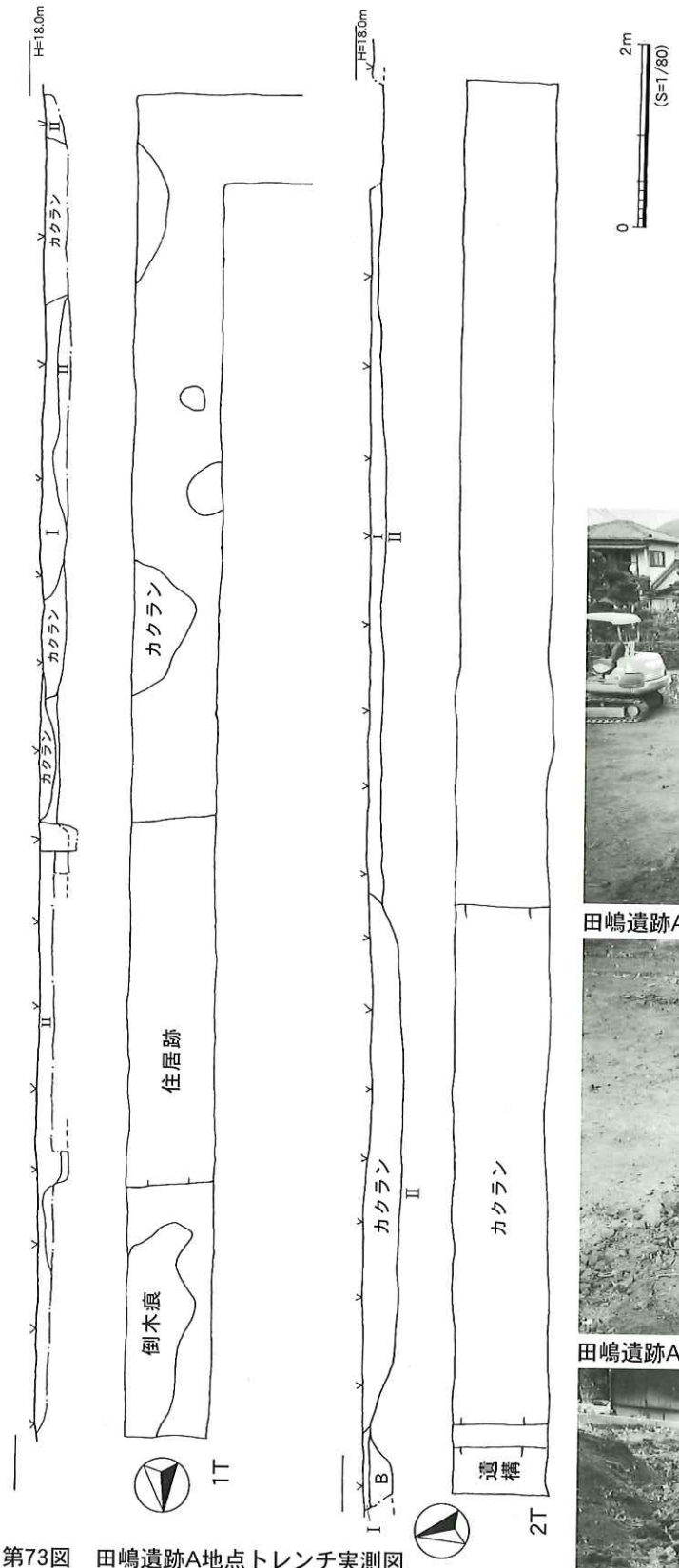
第71図　田嶋遺跡A地点トレンチ・遺構配置図



土坑覆土
1層　黒褐色土(7.5YR3/2)
ややしまりがあり、部分的に粘性が強い。南側中層程、色が黒い。木炭少量含む。砂粒、白粒土少量含む。中世の瓦質土器片含まれる。
2層　暗褐色土(7.5YR2/2)
1層よりもしまりがなく、比較的サクサクしている。粘性はない。この遺構に早く流れ込んだ客土。
砂粒、赤褐色の粒土を多く含む。部分的に土も赤褐色を帯びたところがある。

0　2m
(S=1/80)

第72図　田嶋遺跡A地点遺構・土層実測図



第73図　田嶋遺跡A地点トレンチ実測図

土層説明

Ⅰ層　表土（耕作土）灰褐色土
しまりや粘性はなく、サクサクしている。小石や新しい物が混じる。

Ⅰa層　茶褐色土(7.5YR4/4)
しまりはあるが、粘性はない。部分的にローム土が入り込み、ローム層を掘り返して埋められていると思われる。黄土塊（5cm角）や細粒を少量含む。遺物は検出されず。

Ⅰb層　暗褐色土(7.5YR3/2)
しまりがあり、やや粘性がある。Ⅱ層と同じくローム層が掘り込まれているが、褐土にローム土は含まれない。小石、細粒、黄褐色の粒土を少量含む。遺物は検出されず。

Ⅱ層　明黄褐色土(7.5YR5/6)
非常にしまりがある。やや粘性あり。ローム層であり、無遺物層である。

Ⅲ層　自然礫層（岩明層）礫石が多く含まれる。

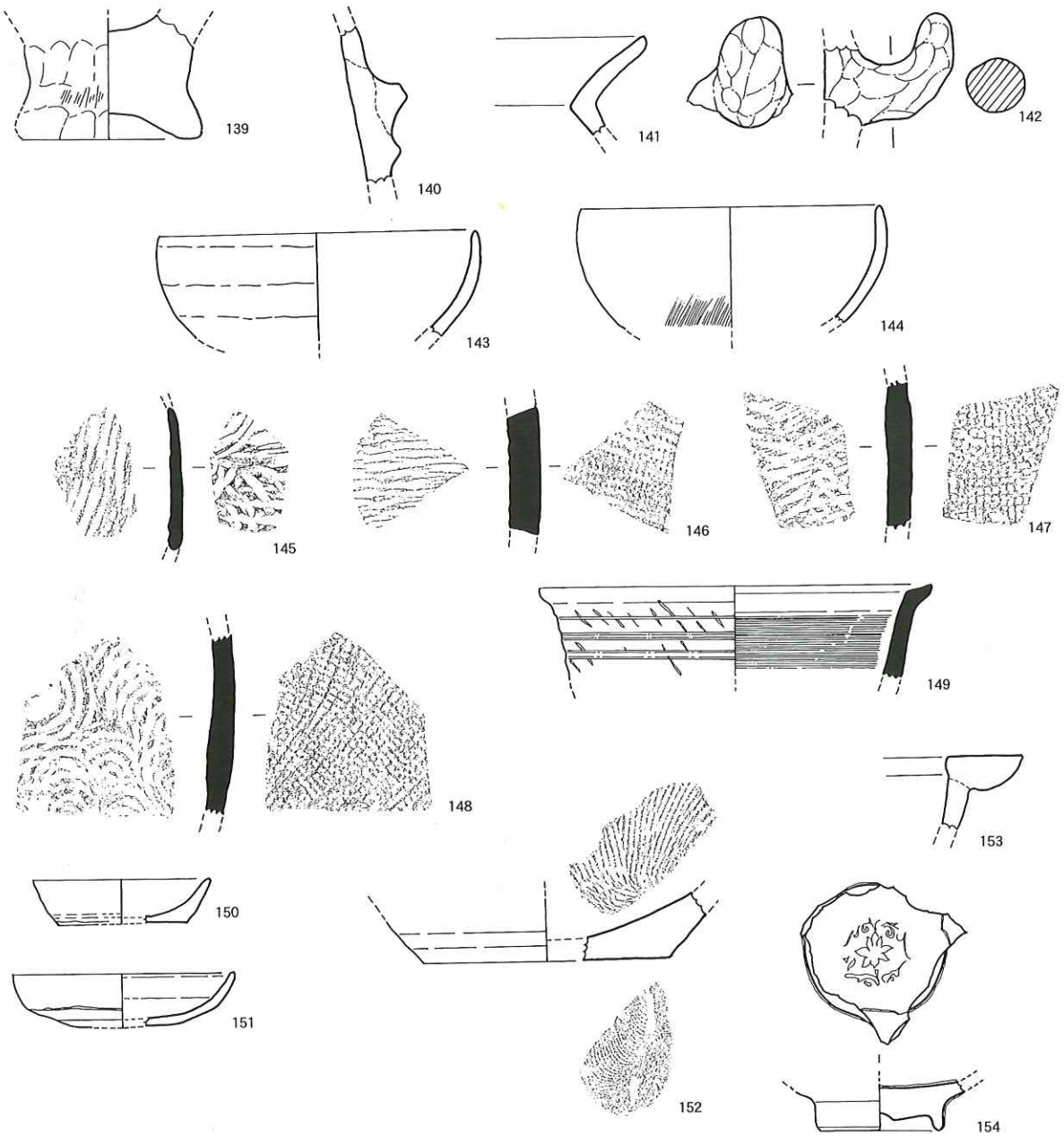
A　暗褐色土(7.5YR3/2)
しまりが強く、やや粘性あり。黄褐色の土粒（3mm角）を少量含む。中から表面で出土したと同じ質の土器が2点出土。住居跡の埋土と思われる。

B　黒灰褐色土(7.5YR4/2)
しまりがあり、粘性はない。住居跡になる可能性もあり。弥生～土師器の土器小片が含まれる。木炭や赤褐色の粒土が混じる。

田嶋遺跡A地点IT全景（南から）

田嶋遺跡A地点IT遺構検出状況（南から）

田嶋遺跡A地点2T（東から）

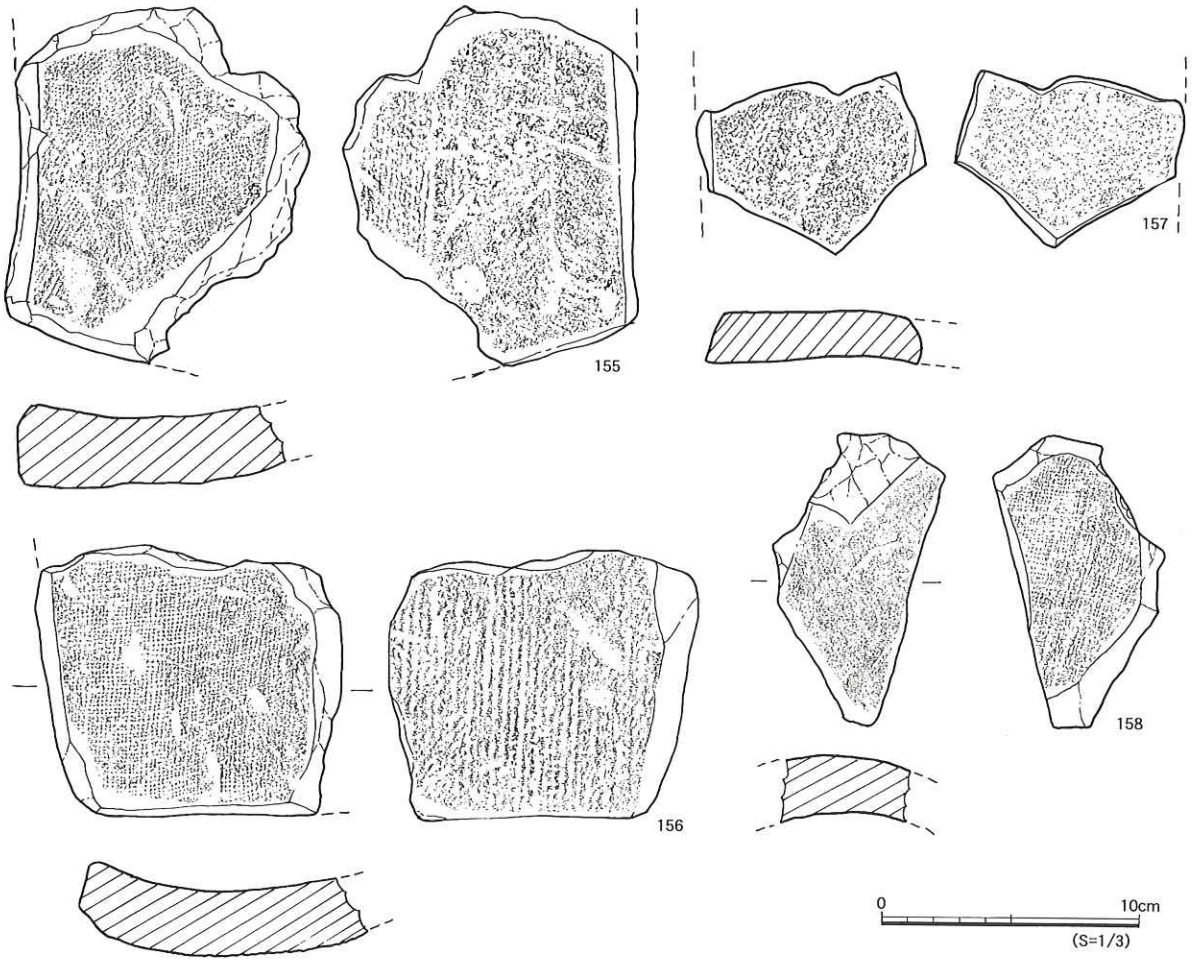


第74図　田嶋遺跡A地点遺物実測図(1)

0　10cm
(S=1/3)

田嶋遺跡A地点遺構検出状況(南から)

田嶋遺跡A地点遺構検出状況(東から)



第75図　田嶋遺跡A地点遺物実測図 (2)

田嶋遺跡A地点進入跡西側

田嶋遺跡A地点北側擁壁工事状況

１９　大塚・惣萩遺跡（Ａ地点）

所在地：立願寺1050-1

対象面積：1655㎡

調査期間：14年1月21日

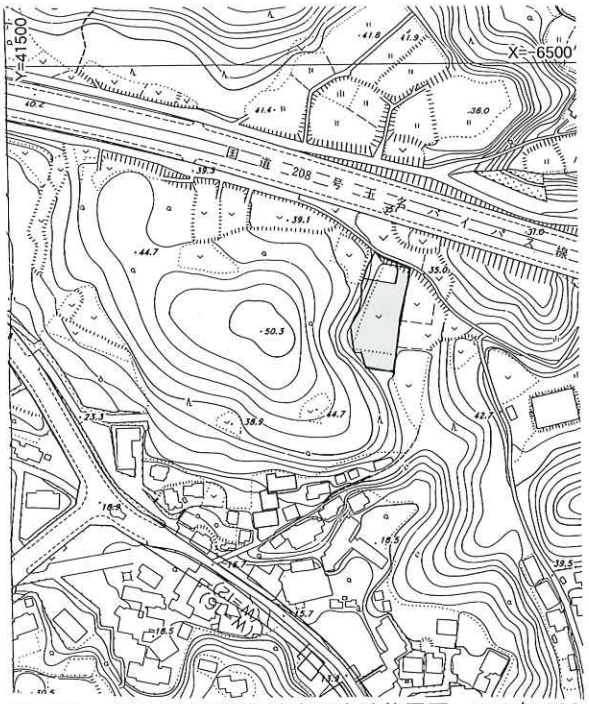
担当者：蜷父雅史

調査地は、小代山から南へ延びる丘陵上に位置し、標高35m前後の地点である。南側に開く小支谷の谷頭に近い部分で、業者聞取りでは５年ほど前に谷を埋めたてて造成し、かなり転圧したとのことである。

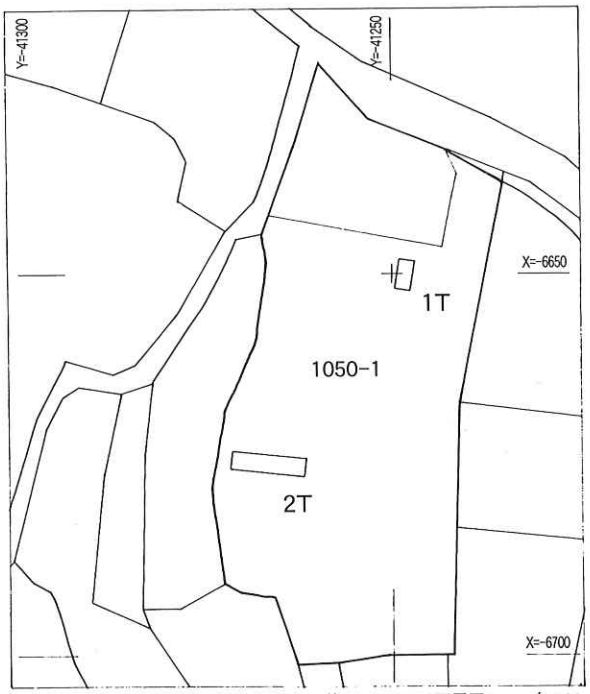
現況は、届出地の南側は５ｍほどの段差が認められ、盛土してあるとみられる。西側も、現在の畑地より１ｍほどの段差が認められる。

調査では、２ケ所にトレンチを設定して掘り下げたが、やはり客土を転圧したとみられる締まりの強い土で、掘削が困難であったため、現地表面から50cm下までしか掘削を行っていない。

以上のような状況であり、50cmの深さまでは埋蔵文化財は確認されていない。また、全体に盛土が行われているとみられるが、旧地形は谷の部分であり、埋蔵文化財が存在している可能性は低いものとみられる。



第76図　大塚・惣萩遺跡A地点調査地位置図　S=1/5,000



第77図　大塚・惣萩遺跡A地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

大塚・惣萩遺跡A地点調査後状況（東から）

大塚・惣萩遺跡A地点（北から）

大塚・惣萩遺跡A地点調査状況

２０　田嶋遺跡（B地点）

所在地：中字寺畑1592-5,1589-7

対象面積：248.38㎡

調査期間：14年2月8日

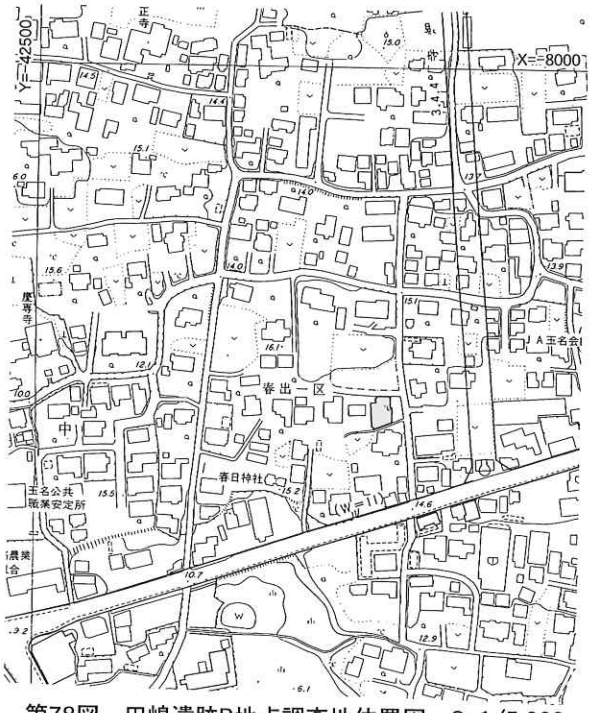
担当者：蜷父雅史

調査地は、玉名市西側の低丘陵上に位置し、標高約15mの地点である。平成14年1月8日に調査した場所より約100m南東であり、遺跡範囲の東端に位置している。

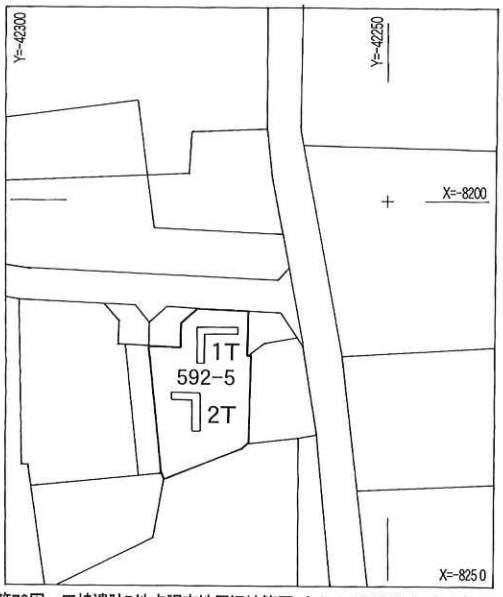
現在は周辺には宅地が広がっており、届出地も以前は民家があったが解体され更地となっていた。東側の隣接地には小さな塚があり石祠が祀られている。

敷地内の北側と南側にそれぞれＬ字状のトレンチを2ヵ所設定し、人力による掘削をおこなった。その結果、5～15cm表土を剥いだところで無遺物層と判断されるローム層を確認した。ローム層上面で遺構の検出を行ったが、検出されなかった。遺構を含め、上位の土層に関しては、すでに削平されたものと判断される。遺物は、表土中より弥生土器の小片が出土している。

調査後の措置は、慎重工事である



第78図　田嶋遺跡B地点調査地位置図　S=1/5,000



第79図　田嶋遺跡B地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

田嶋遺跡B地点調査地（北西から）

田嶋遺跡B地点調査状況

２１　上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡

所在地：上小田字今寺712～字上の前787-1

対象面積：4160㎡

調査期間：14年3月12日～3月14日

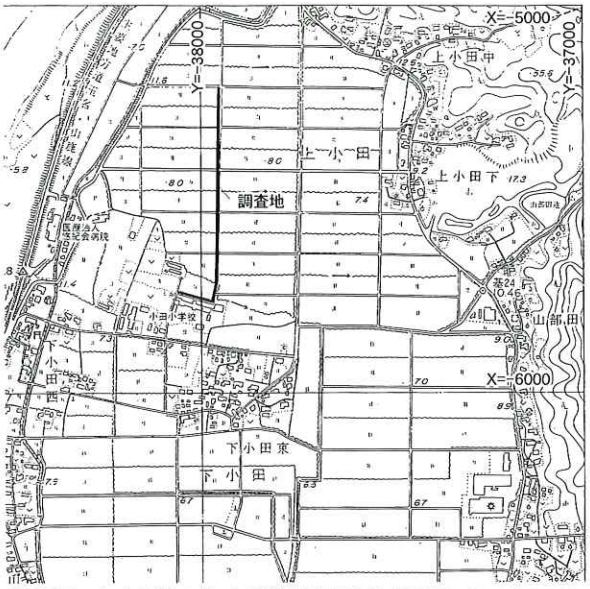
担当者：蜷父雅史

当地は、菊池川左岸の平野部北側に位置し、標高約７～８ｍの地点である。昭和38年に農業構造改善事業により、一帯は区画整理が行われ、旧地形は改変されている。造成される以前は、桑畑が広がり、かなり高低差があったことが、古地図などからうかがえる。

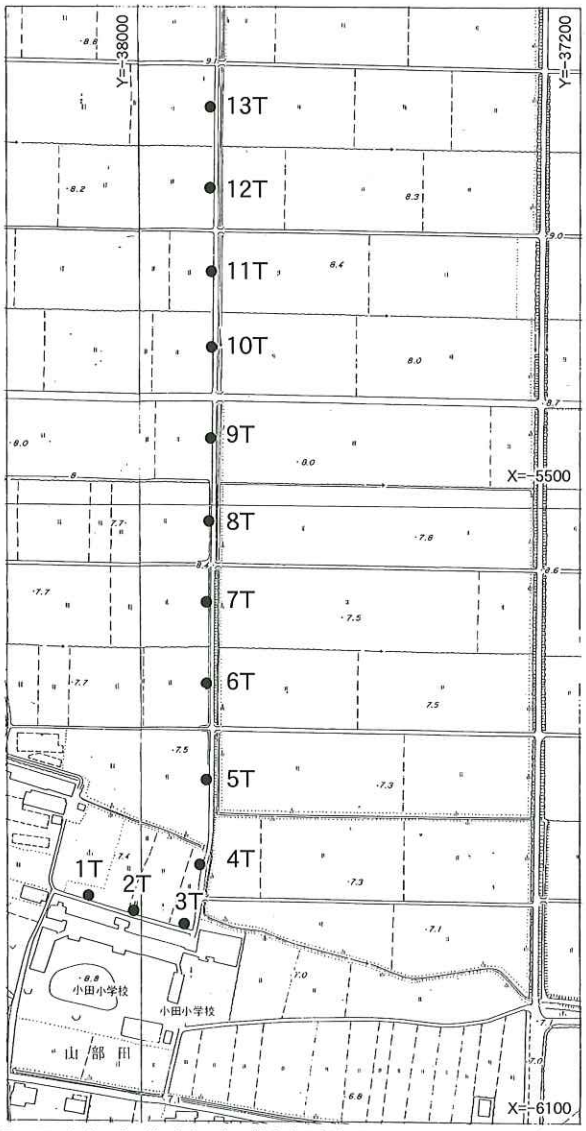
今回の工事は、小田小学校から北へ延びる道路西側の拡幅である。既存道路部分を除く工事対象地に13ヶ所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、土層は全体的に粘性土層からなり、１～５トレンチまでは、ほぼ同じだが、６～13トレンチにかけて砂質層が混じり、特にマンガンを多量に含む層が９トレンチからある。また、５、９、11トレンチの３ヵ所を除いて、遺物を確認した。遺物はいずれも、縄文～中世の土器と須恵器の小片のみで、１～８層の間で出土した。検出した土器片はローリングを受けているので、整地に伴い押し流されたものと判断される。２～４トレンチのみに現水田面より-160cmでピット数基をそれぞれ確認した。しかし、ピットも根穴の可能性があり柱穴かどうかは明確ではない。その他、遺構は確認できなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。

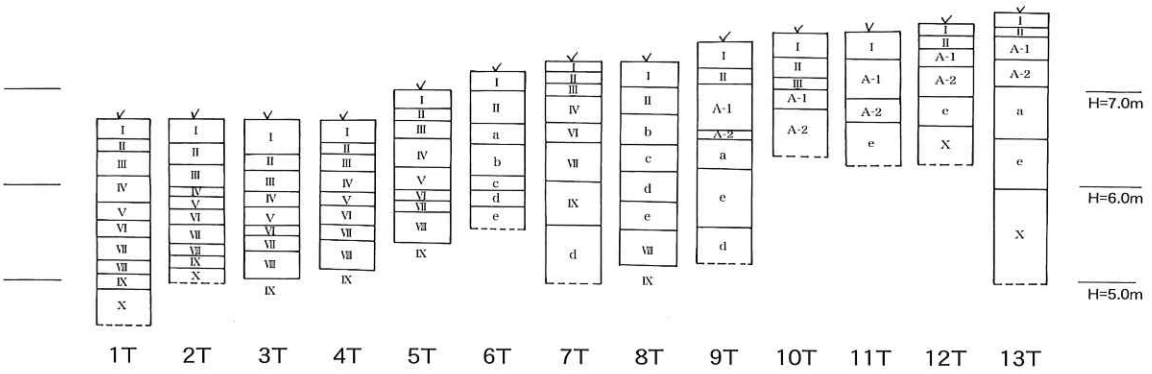
上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡現状況（北から）



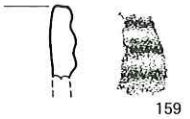
第80図　上小田宮の前・古屋敷遺跡調査地位置図　S=1/20,000



第81図　上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査地周辺トレンチ配置図　S=1/5,000



土層説明
1層　耕作土　現代の水田耕土
2層　灰褐色砂質土層(7.5YR4/2)　粘性はなく、しまりは非常に強い。全体的に砂質層で、鉄分のサビ、マンガン含む。
3層　褐色粘質土層(7.5YR4/3)　あまり粘性ないが、しまりは非常に強い。黒褐色の粒子をわずかに含む。中世の土器片含む。
4層　褐色粘質土層(7.5YR4/4)　やや粘性があり、しまりは非常に強い。茶褐色の粒子をわずかに含む。
5層　にぶい黄褐色粘質土層(10YR5/3)　粘性が強く、しまりも強い。赤褐色の粒子をわずかに含む。小石粒が含まれる。部分的に灰褐色のシミあり。
6層　にぶい黄色砂質粘性土層(10YR6/2)　粘性強く、しまりも強い。水分はあまり含まない。
7層　黄褐色粘質土層(2.5YR5/3)　粘性が強く、しまりが非常に強い。黒褐色の粒子多量。赤褐色の粒子多く含む。
8層　暗灰黄色砂質粘性土層(2.5YR4/2)　やや粘性がある。しまりは強い。あまり水分含まない。赤褐色の粒土多量に含む。
9層　黄褐色粘質土層(2.5YR5/4)　粘性は強い。ややしまりがある。赤褐色の粒土と黒褐色の粒土を多く含む。
10層　明黄褐色粘質土層(2.5YR6/6)　粘性強く、水分をやや含み、軟らかい。黒褐色の粘土多く含む。部分的に灰色のシミあり。しまりはない。
6～13　トレンチ a~e　土層説明
a層　黄褐色粘性土(2.5YR5/3)　粘性強く、しまりはない。
b層　暗灰黄色砂質土(2.5YR5/2)　粘性もなく、しまりもない。微砂粒多量に含む。
c層　にぶい黄色砂質土(2.5YR4/4)　粘性もなく、しまりもない。黒褐色の粒土多く含む。
d層　オリーブ褐色砂質土(2.5YR4/4)　粘性もなく、しまりもない。黒褐色、茶褐色の粒土多く含む。
e層　暗灰黄色粘性土(2.5YR4/2)　粘性は強いが、しまりはない。
A-1層　黄褐色土(7.5YR5/4)に二酸化マンガン多量に含む。粘性強くしまりはない。
A-2層　にぶい褐(7.5YR6/3)に二酸化マンガン含む。



第82図　上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡トレンチ土層図・遺物実測図

上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査地(北から)

上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査地(南から)

上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査状況(2T)

上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査状況(13T)

２２　大塚･惣萩遺跡（Ｂ地点）

所在地：立願寺字大塚1065-1、1068-3、1064

対象面積：1682㎡

調査期間：14年3月20日

担当者：蜷父雅史

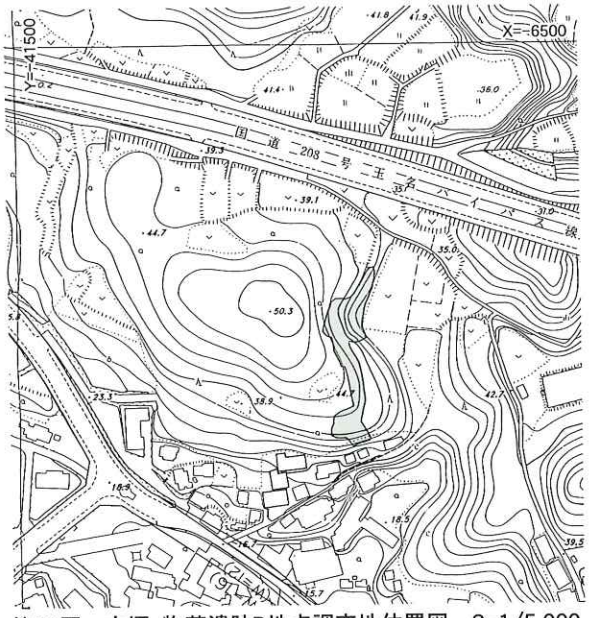
調査地は、小代山から南に広がる丘陵上に位置し、標高34m前後の地点である。西側高所には小塚古墳が位置している。周辺は以前より斜面を開墾した痕跡がみられ、現状では杉林となっていた。

確認調査では、届出のあった３筆の範囲内の３ヶ所にトレンチを設定し、重機及び人力で掘削した。その結果、いずれのトレンチでも表土の下には無遺物層と判断される暗褐色ローム層を確認した。古墳に伴うとみられる墳丘や周溝は確認されず、その他の遺構・遺物などは検出されなかった。周辺の状況から、付近は大きく削平されているとみられる。

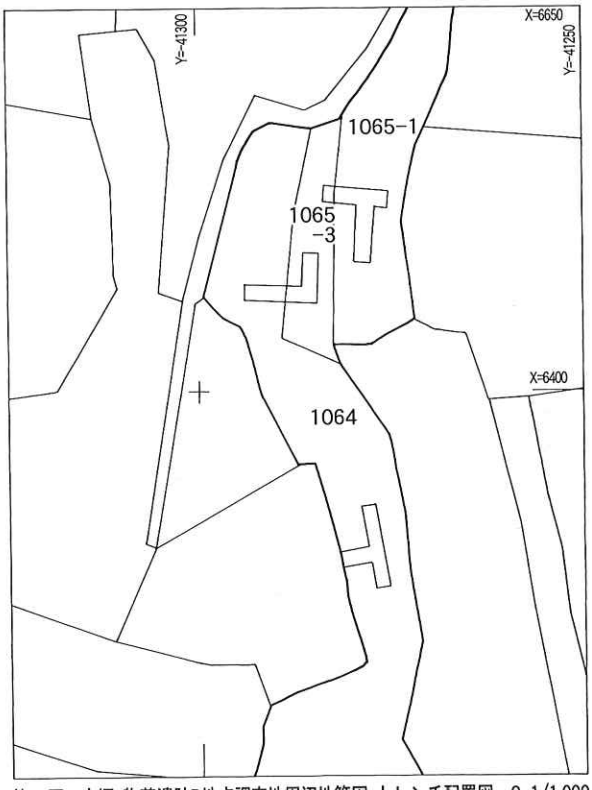
調査後の措置は慎重工事である。

大塚・惣萩遺跡B地点調査状況（南から）

大塚・惣萩遺跡B地点土層堆積状況



第83図　大塚・惣萩遺跡B地点調査地位置図　S=1/5,000



第84図　大塚・惣萩遺跡B地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

遺物観察表（13年度の調査）

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径	底径	器高	調整（外）	調整（内）	色調（外）	色調（内）	胎土	焼成	実測番号	備考
1	古閑遺跡	12T	瓦器	碗	底部	-	-	(2.8)	回転ナデ	ナデ	黒(7.5YR2/1)	褐(10YR5/1)	白色微砂粒わずかに含む	良好	6	
2	古閑遺跡	8T	瓦質土器	擂鉢	底～胴部	(10.2)	(8.4)	(3.7)	ケズリ・ヨコナデ	カキ目	暗灰(N3/)	灰白(5Y7/1)	5mm大の砂粒、白色の微砂粒含む	普通	4	
3	古閑遺跡	8T	土師器	皿	口～底部	-	(12.4)	2.2	ヨコナデ	ナデ	黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y4/1)	微砂粒、カクセン石、雲母含む	普通	5	底部は糸切り
4	古閑遺跡	4T	陶器	瓶	底部	-	8.7	(4.2)	回転ナデ	回転ナデ	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	白色の微砂粒わずかに含む	良好	3	
5	高瀬御茶屋	1T	不明	-	-	(6.1)	-	(6.2)	ナデ	ナデ	にぶい橙(5YR7/3)	にぶい橙(5YR7/4)	カクセン石含む	普通	14	
6	高瀬御茶屋	1T	陶器	鉢	口～底部	(26.1)	(18.3)	4.5	-	-	(釉)灰オリーブ(7.5Y6/2)	(胎土)　赤褐(10R5/4)	白色の微砂粒含む	良好	16	底面無釉、脚付
7	高瀬御茶屋	1T	陶器	不明	口～肩部	(17.0)	-	(3.2)	-	-	(釉)赤灰(2.5YR6/1)	(胎土)赤褐(10YR4/4)	白色の微砂粒含む	良好	13	
8	高瀬御茶屋	1T	磁器	瓶	胴～底部	-	(7.5)	(11.0)	-	-	(釉)　灰白(10Y7/1)	(胎土)　灰白(5Y7/1)	きめが細かい。泉山陶石か。黒色の粒多量含む	良好	8	内面無釉、肥前産
9	高瀬御茶屋	1T	陶器	擂鉢	底部	-	(15.8)	(4.2)	ケズリ・ナデ	カキ目	暗赤褐(5YR3/4)	赤褐(2.5YR4/8)	白色微砂粒を含む	良好	19	内面無釉、唐津系か
10	高瀬御茶屋	1T	染付	皿	底部	-	(6.0)	(1.5)	-	-	(染付)青色	(胎土)　白色	黒色の微細粒含む	良好	12	花籠門、貫入あり
11	高瀬御茶屋	1T	陶器	鉢	口～胴部	-	-	(13.0)	-	ヨコナデ	(釉)青色系・内面は黄茶色系	(胎土)淡黄(2.5YR8/4)	黄白色、きめが粗い、微砂粒多量含む	良好	7	19c
12	高瀬御茶屋	1T	陶器	碗	口～底部	(6.6)	(3.1)	4.6	-	-	(釉)青白系＋黄	(胎土)灰(7.5YR4/1)	白色の微砂粒わずかに含む	良好	20	量付無釉
13	高瀬御茶屋	1T	染付	小型壷	口～胴部	(4.8)	-	(4.3)	-	回転ナデ	(釉)灰白(2.5GY8/1)	(胎土)　灰白(N8/)	-	良好	11	草花文、肥前産
14	高瀬御茶屋	1T	染付	碗	ほぼ完形	(7.1)	3.2	4.2	-	-	(釉薬)白色	呉須(染付)青色	白色、黒茶色粒多量含む	良好	9	19c　端反
15	高瀬御茶屋	3T	染付	不明	口～胴部	(8.1)	-	(4.5)	-	-	(釉)灰白(10Y8/1)	(胎土)灰(7.5YR5/1)	赤茶色微粒子、わずかに含む	良好	21	タコ唐草文
16	高瀬御茶屋	1T	陶器	甕	底部	-	(10.1)	(10.4)	ケズリ	ヘラカキ痕あり	(釉)灰赤(10R5/2))	(胎土)　暗赤(10YR3/4)	白色微砂粒わずかに含む	良好	15	ハケ目
17	高岡原遺跡	住居跡	弥生土器	不明	口縁	-	-	(2.6)	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	明褐(7.5YR5/6)	砂粒(1～2mm大)多量。雲母少量含む	良好	26	
18	高岡原遺跡	住居跡	弥生土器	不明	口縁	(10.0)	-	(2.0)	不明	不明	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR6/6)	白色砂粒(1～2mm大)多量。雲母含む	良好	27	
19	高岡原遺跡	住居跡	弥生土器	甕	ほぼ完形	22.3	12.5	39.5	ハケ目	ハケ目・ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	明黄褐(10YR6/6)	白色砂粒(1～3mm大)やや多い、カクセン石片わずかに含む。金雲母極少量含む	普通	124	
20	高岡原遺跡	住居跡	弥生土器	甕	ほぼ完形	20.0	12.5	44.0	タタキ後ナデ	ハケ目・ナデ	明黄褐色(10YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	白色砂粒(0.5～2mm大)多量。小石粒(2～4mm大)少量	普通	122	
21	高岡原遺跡	住居跡	弥生土器	高坏	柱部	-	-	(9.4)	ハケ目	ケズリ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	1mm以下の砂粒、ウンモ含む	普通	24	
22	高岡原遺跡	住居跡	弥生土器	高坏	柱部	-	-	(5.0)	ハケ目	ケズリ	にぶい橙(7.5YR7/4)	黒褐(7.5YR3/1)	砂粒(1～3mm大)多量。赤茶色粒土わずかに含む	良好	25	
23	高岡原遺跡	1T	弥生土器	甕	底部	-	-	(10.0)	ハケ目	ハケ目	橙(7.5YR6/8)	橙(7.5YR6/6)	白色砂粒多量(1～5mm大)カクセン石わずかに含む	普通	22	
24	高岡原遺跡	住居跡	弥生土器	高坏	坏部	29.8	-	(8.4)	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	暗褐(7.5YR3/3)	白色微砂粒(0.5～1mm大)多量	不良	121	
25	高岡原遺跡	住居跡	弥生土器	壺	口～底部	(16.2)	-	36.6	ハケ目・ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい褐(7.5YR5/4)	白色砂粒(0.5～4mm大)多量,赤茶色粒土(1mm大)少量含む,雲母少量	普通	123	
26	高岡原遺跡	2T	土師器	坏	底部	-	10.8	(2.8)	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい橙(7.5YR6/4)	白色の微砂粒多量、赤褐色粒子を多く含む	普通	23	
27	保田木貝塚・保田木城跡	II層	土師器	不明	口縁	-	-	(5.0)	ナデ	ナデ	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/8)	白色微砂粒(1mm大)黒色粒土多量に含む	良好	32	
28	保田木貝塚・保田木城跡	II層	土師器	鉢	口～胴部	(28.4)	-	(5.6)	ナデ	ヨコナデ	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	白色微砂粒(1mm大)わずかに含む。黒色粒土多量に含む	良好	31	
29	保田木貝塚・保田木城跡	II層	土師器	皿	底部	-	6.5	(1.3)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	砂粒多く、赤茶色粒土わずかに含む	普通	30	糸切り
30	保田木貝塚・保田木城跡	II層	瓦質土器	不明	口縁	(20.5)	-	(3.5)	ヨコナデ	ナデ	灰オリーブ(5Y6/2)	灰オリーブ(5Y6/2)	砂粒(細かい)わずかに含む金雲母をわずかに含む	良好	29	
31	保田木貝塚・保田木城跡	II層	瓦質土器	不明	底部	-	(16.7)	(1.7)	ナデ	ナデ	褐灰(7.5YR6/1)	明褐灰(7.5YR7/1)	白色砂粒、雲母少量含む	普通	33	
32	保田木貝塚・保田木城跡	II層	瓦質土器	擂鉢	胴部	-	-	(4.2)	ナデ	カキ目	褐灰(7.5YR5/1)	褐灰(7.5YR4/1)	白色砂粒(0.5～2mm大)少量,カクセン石(0.5mm大)極少量	良好	280-イ	
33	保田木貝塚・保田木城跡	I層	染付	蓋		(10.8)	-	(3.1)	-	-	(釉薬)灰白(N7/)	(胎土)灰白(N7/)	灰白色	良好	28	タコ唐草文　18c後
34	保田木貝塚・保田木城跡	II層	陶磁	猪口	底部	-	(3.3)	(2.9)	-	-	(釉薬)灰白(5Y7/1)	(胎土)灰白(5Y8/1)	－	良好	34	全体に貫入、肥前系
35	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	土師器	皿	口～底部	7.6	6.6	1.2	ナデ	ナデ	明赤褐(5YR5/8)	明赤褐(5YR5/8)	白色微砂粒含む	良好	111	板目痕
36	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	土師器	坏	口～底部	-	-	2.5	ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR7/6)	赤茶色粒土わずかに含む	普通	110	板目痕
37	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	土師器	坏	口～底部	(13.4)	10.0	3.0	ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	赤茶色粒土多量に含む	普通	108	
38	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	土師器	坏	口～底部	(13.3)	(9.9)	2.6	ナデ	ナデ	にぶい赤褐(5YR5/4)	にぶい赤褐(5YR5/4)	赤茶色粒土多く含む	普通	112	
39	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	土師器	坏	口～底部	(11.9)	(8.9)	2.8	ナデ	ナデ	橙(2.5YR6/8)	橙(2.5YR6/8)	赤茶色粒土多量に含む	普通	109	
40	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	土師器	坏	口～底部	13.0	9.5	3.0	ナデ	ナデ	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/8)	カクセン石わずかに含む	普通	105	
41	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	土師器	坏	口～底部	(11.6)	(7.3)	2.8	ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	カクセン石わずかに含む	良好	106	
42	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	土師器	坏	口～底部	-	-	2.7	ナデ	ナデ	橙(5YR6/8)	橙(5YR6/8)	白色微砂粒赤茶粒土含む	良好	107	
43	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	瓦器	碗	底部～胴部	-	-	(2.9)	ケズリ・ナデ	ミガキ	褐灰(10YR6/1)	褐灰(10YR4/1)	金雲母を含む	良好	114	
44	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	瓦器	碗	底部	-	-	(2.6)	ケズリ後ナデ	ミガキ	褐灰(10YR5/1)	褐灰(10YR4/1)	白色微砂粒少量含む	良好	115	
45	永安寺跡・永安寺古塔碑群		須恵器	不明	不明	-	-	-	平行タタキ	同心円タタキ	褐灰(7/)	褐灰(7/)	黒茶色粒土含む	良好	283-へ	
46	永安寺跡・永安寺古塔碑群	Va層	須恵器	不明	不明	-	-	-	ナデ	同心円タタキ	にぶい橙(7.5YR6/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	白地微砂粒	普通	282-ホ	カキ目
47	永安寺跡・永安寺古塔碑群	浄化槽部分	須恵器	不明	不明	-	-	-	平行タタキ	同心円タタキ	褐灰(10YR4/1)	暗褐(10YR3/3)	微砂粒、カクセン石含む	良好	113	
48	永安寺跡・永安寺古塔碑群		須恵器	不明	不明	-	-	-	格子状タタキ	同心円タタキ	褐灰(10YR6/1)	灰黄褐(10YR6/2)	白色微砂粒(0.5～1mm大)	良好	284-ト	
49	糠峯遺跡	1号甕棺墓	弥生土器	鉢	胴～底部	-	5.0	(19.2)	ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/8)	明褐(7.5YR5/6)	2mm以下の砂粒含む	普通	275	黒斑あり
50	糠峯遺跡	1号甕棺墓	弥生土器	甕	ほぼ完形	31.8	8.3	49.9	ハケ目	ハケ目	明褐(7.5YR5/6)	明褐(7.5YR5/6)	白色微砂粒多量、カクセン石、赤茶褐色粒土含む	普通	274	
51	糠峯遺跡	2号甕棺墓	弥生土器	不明		-	-	4.3	ナデ	ナデ	黒褐(7.5YR3/2)	褐(7.5YR4/6)	白色砂粒(0.5～2mm大)多量に含む,カクセン石片(0.5～1mm大)極少量,金雲母片少量	普通	278	
52	糠峯遺跡	2号甕棺墓	弥生土器	壺	口～胴部	16.8	-	(11.4)	ナデ目	ナデ	明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	2mm以下の砂粒含む	普通	270	
53	糠峯遺跡	2号甕棺墓	弥生土器	壺	ほぼ完形	-	6.0	(24.7)	ナデ	ナデ	黒褐(7.5YR3/2)	褐(7.5YR4/6)	2mm以下の砂粒含む	普通	276	

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径	底径	器高	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	実測番号	備考
54	糠峯遺跡	2T	弥生土器	甕	口縁	(27.4)	-	(2.6)	不明	ナデ	明黄褐(10YR6/6)	灰黄褐(10YR4/2)	砂粒(3～5mm大)白色微砂粒(1～2mm大)多量に含む	不良	42	
55	糠峯遺跡	表土	弥生土器	甕	口縁	-	-	(3.1)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	白色砂粒、カクセン石、雲母多く含む	良好	38	
56	糠峯遺跡	表土	弥生土器	不明	胴部	-	-	(10.0)	ハケ目	ハケ目	明黄褐(10YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、雲母わずかに含む。	良好	40	
57	糠峯遺跡	表土	弥生土器	甕	底部	-	6.4	(4.9)	ナデ	ナデ	明赤褐(5YR5/6)	にぶい黄褐(10YR5/3)	白色砂粒(1～3mm大)多量、カクセン石、雲母含む	普通	39	
58	糠峯遺跡	2T	弥生土器	甕	底部	-	6.2	(4.7)	ハケ目	ナデ	橙(2.5Y6/8)	淡赤橙(2.5Y7/4)	砂粒(3～5mm大)白色微砂粒(1～2mm大)多量	不良	41	
59	糠峯遺跡	2号甕棺横	弥生土器	壷	口縁	19.5	-	(6.5)	ハケ目	ハケ目	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	砂粒(0.5～2mm大)多量。雲母片少量	普通	273	
60	糠峯遺跡	表土	石製品	砥石	-	(8.1)	5.4	-	-	-	-	-	-	-	279	使用痕あり・天草石
61	糠峯遺跡	SD-1Ⅰ層	石製品	尖頭器	-	(6.3)	2.8	1.5	-	-	-	-	-	-	257	サヌカイト
62	糠峯遺跡	SD1-Ⅰ層	不明	不明	-	-	-	(8.5)	-	-	-	-	-	-	253	空孔あり
63	糠峯遺跡	SD-1上面	石製品	石ノミ	-	(4.8)	(2.5)	(1.4)	-	-	-	-	-	-	267	流紋岩
64	糠峯遺跡	SD-1(Ⅱ)	石製品	打製石斧	-	18.5	8.3	2.6	-	-	-	-	-	-	259	緑色片岩
65	糠峯遺跡	SD-1東側	石製品	不明	-	(13.3)	(8.2)	5.9	-	-	-	-	-	-	269	安山岩
66	糠峯遺跡	Ⅳb下層	石製品	石斧	-	(10.4)	(4.4)	1.4	-	-	-	-	-	-	272	
67	糠峯遺跡	SD-1(Ⅱ層)	石製品	石皿？	-	(9.2)	(10.5)	(6.5)	-	-	-	-	-	-	261	安山岩
68	糠峯遺跡	SD-1(Ⅲ層)	石製品	石包丁型石器	-	(6.0)	(6.1)	(0.6)	-	-	-	-	-	-	258	片岩
69	糠峯遺跡	SD-1	石製品	不明	-	(5.0)	(4.7)	(0.8)	-	-	-	-	-	-	251	緑色片岩
70	糠峯遺跡	SD-1(最下層)	弥生土器	甕	口縁	(25.9)	-	(4.3)	ナデ	ナデ	黄橙(10YR8/6)	黄橙(10YR8/6)	砂粒(0.5～3mm大)少量、赤茶色粒土(1～2mm大)少量、雲母片少量	不良	262	
71	糠峯遺跡	SD-1(Ⅱ層)	弥生土器	不明	口縁	-	-	(3.0)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	白色砂粒(0.5～1mm大)少量	不良	256	
72	糠峯遺跡	SD-1(最下層)	弥生土器	甕	口縁	-	-	(3.4)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	砂粒(0.5～3mm大)少量、雲母片少量	普通	264	
73	糠峯遺跡	SD-1(最下層)	弥生土器	甕	口縁	(19.3)	-	(4.7)	ナデ	ナデ	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR6/6)	白色砂粒(0.5～1mm大)少量、雲母片少量	良好	263	
74	糠峯遺跡	SD-1(Ⅰ)	弥生土器	不明	口縁	(20.6)	-	(4.0)	ナデ	ナデ	明赤褐(5YR5/6)	橙(5YR6/6)	白色砂粒(0.5～3mm大)多量、カクセン石少量含む。	普通	266	
75	糠峯遺跡	SD-1(最下層)	弥生土器	甕	底部	-	5.2	(4.3)	ナデ	ナデ	黄橙(10YR8/6)	黄橙(10YR8/6)	白色砂粒(1～5mm大)多量、雲母片少量含む。	普通	265	
76	糠峯遺跡	SD-1(Ⅳ層)	弥生土器	甕	底部	-	5.5	(5.8)	ハケ目	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	砂粒少量(0.5～3mm大)少量雲母片少量	良好	268	
77	糠峯遺跡	SD-1	弥生土器	甕	底部	-	6.7	(3.7)	ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/8)	明褐(7.5YR5/9)	白色砂粒(0.5～1mm大)少量、雲母片少量含む	良好	254	
78	糠峯遺跡	SD-1(Ⅱ層)	弥生土器	高坏	柱部	-	-	(8.2)	ナデ	-	赤褐(7.5YR4/8)	-	白色砂粒(0.5～3mm大)多量、カクセン石、雲母片少量含む	良好	255	
79	糠峯遺跡	Ⅳb上層	石製品	打製石斧	-	(8.9)	(9.3)	1.6	-	-	-	-	-	-	288	
80	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	石製品	石斧	-	(6.4)	(4.7)	(1.4)	-	--	-	-	-	-	250	緑色片岩
81	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	石製品	石斧	-	(3.7)	(7.1)	(3.6)	-	-	-	-	-	-	242	安山岩
82	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	石製品	石ノミ？	-	(4.2)	(2.4)	(1.1)	-	-	-	-	-	-	248	
83	糠峯遺跡	Ⅳ-b	石製品	石鏃	-	3.0	1.5	0.5	-	-	-	-	-	-	232	安山岩
84	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	石製品	石匙	-	3.5	6.2	1.1	-	-	-	-	-	-	252	サヌカイト
85	糠峯遺跡	Ⅳ-b(上層)	石製品	石斧	-	(6.1)	(3.5)	(1.7)	-	-	-	-	-	-	241	安山岩
86	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	石製品	石斧	-	(9.8)	(4.9)	(1.9)	-	ナデ	-	-	-	-	247	片岩
87	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	弥生土器	甕	底部	-	8.0	(7.0)	ナデ	-	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	白色砂粒(0.5～3mm大)多量、雲母片少量含む	不良	236	
88	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	弥生土器	甕	底部	-	5.1	(5.0)	ナデ	ケズリ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	白色砂粒(0.5～2mm大)多量	普通	246	
89	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	弥生土器	高坏	柱部	-	-	(8.3)	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	白色砂粒(0.5～3mm大)カクセン石少量、雲母片少量含む	普通	235	赤色顔料
90	糠峯遺跡	Ⅳ-b(上層)	須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.6)	ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄褐(10YR5/4)	黒色粒子少量	良好	237	突帯あり
91	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.2)	回転ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	極細砂粒子含む	良好	233	
92	糠峯遺跡	Ⅳ-b(上層)	須恵器	坏蓋	-	-	-	(1.8)	ナデ	-	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄褐(10YR5/4)	黒色粒子少量	良好	238	沈線紋あり
93	糠峯遺跡	Ⅳb下層	須恵器	坏蓋	つまみ部	-	-	(1.0)	ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	-	精選されている	良好	271	
94	糠峯遺跡	Ⅳb下層	須恵器	坏蓋	-	-	-	2.2	回転ナデ	ナデ	灰(5Y5/1)	灰(5Y6/1)	精選されている	良好	287	線刻あり
95	糠峯遺跡	Ⅳb下層	須恵器	坏蓋	-	-	-	(1.6)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/5)	精選されている	良好	277	
96	糠峯遺跡	Ⅳ-b(上層)	須恵器	坏身	底部	-	(9.1)	(1.5)	回転ヘラケズリ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄橙(10YR6/3)	極細砂粒子含む	良好	239	
97	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	須恵器	坏身	底部	-	(8.9)	(1.5)	回転ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰黄褐(10YR6/2)	極細砂粒子少量含む	良好	243	
98	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	須恵器	坏身	底部	-	-	(2.6)	ナデ	平行タタキ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	極細砂粒子少量含む	良好	244	
99	糠峯遺跡	Ⅳb下層	須恵器	不明	-	-	-	(7.7)	格子状タタキ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	極細砂粒少量	普通	285	
100	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	須恵器	壷	口～胴部	(11.8)	-	(8.5)	回転ナデ	回転ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄褐(10YR5/3)	極細砂粒子わずかに含む	良好	249	
101	糠峯遺跡	Ⅳb下層	須恵器	壷	-	-	-	(9.7)	ナデ	平行タタキ	灰黄褐(10YR4/6)	にぶい黄褐(10YR5/3)	極細砂粒少量	良好	286	
102	糠峯遺跡	Ⅳ-b(上層)	瓦	不明	-	-	-	-	布目	-	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	白色砂粒(0.5～2mm大)雲母片少量含む	不良	234	
103	糠峯遺跡	Ⅳ-b(下層)	鉄製品	不明	-	(4.4)	(4.0)	(0.6)	-	-	-	-	-	-	245	
104	糠峯遺跡	Ⅳ-b(上層)	青磁	碗	口縁	-	-	(4.2)	-	-	(釉)オリーブ(5Y5/4)	(胎土)灰白(5Y7/2)	黒色粒子少量	良好	240	
105	長福寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	蓋	-	9.0	5.4	2.7	-	-	(釉)明緑灰＋青(7.5GY8/1)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	47	幾何学文、肥前
106	長福寺跡	2T(Ⅲ層)	染付	猪口	胴部	7.3	-	(5.3)	-		(釉)明緑灰(7.5GY8/1)	(胎土)灰白(2.5GY8/1)	-	良好	56	筒型碗、雪輪文

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径	底径	器高	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	実測番号	備考
107	長福寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	碗	口～胴部	10.5	-	(5.3)	-	-	(釉)明青灰(5B7/1)	(胎土)明緑灰(7.5GY8/1)	-	良好	46	花唐草文、端反
108	長福寺跡	2T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	猪口	口～胴部	6.8	-	(3.4)	-	-	(釉)明オリーブ灰+青系(2.5GY7/1)	(胎土)オリーブ灰(2.5GY7/1)	黒色粒子をやや含む。	良好	55	
109	長福寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	碗	底部	10.7	4.2	6.3	-	-	(釉)明オリーブ灰(2.5GY7/1)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	45	網目文、波佐見産
110	長福寺跡	1T(Ⅳ層)	染付	碗	底部	-	7.3	(6.1)	-	-	(釉)明緑灰(7.5GY8/1)	(胎土)灰白(2.5GY8/1)・(呉須)青系	-	良好	51	広東型碗、肥前
111	長福寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	碗	底部	11.1	4.1	5.3	-	-	(釉)明オリーブ灰(2.5GY7/1)	(胎土)明緑灰(7.5GY8/1)	-	良好	44	無文、18c後
112	長福寺跡	1T(Ⅳb層)	瓦器	片口	口縁	20.6	-	(5.0)	ケズリ後ナデ	ヨコナデ	灰(7.5Y5/1)	灰(7.5Y5/1)	小石粒(5mm大)わずかに含む。砂粒少量、雲母少量含む。	普通	54	
113	長福寺跡	1T(Ⅳ層)	染付	鉢	口縁	-	-	(4.5)	-	-	(釉)明青灰(5B7/1)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	50	染抜タコ唐草文
114	長福寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	碗	底部	11.7	4.3	6.0	-	-	(釉)明青灰(5PB7/1)	(胎土)明青灰(5B7/)	-	良好	43	コンニャク印判
115	長福寺跡	1T(Ⅳ層)	陶器	壷？	底部	-	8.2	(2.7)	-	ケズリ	(釉)灰オリーブ(5Y6/2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	-	良好	52	
116	長福寺跡	1T(Ⅳ層)	染付	蓋	完形	8.5	3.6	2.4	-	-	(釉)灰白(5GY8/1)	(呉須)青系	-	良好	48	銘款あり、雷文帯
117	菊尾遺跡	住居跡	土師器	ミニチュア土器	口～底部	(7.0)	-	4.7	ナデ	ナデ	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	白色砂粒少量。雲母少量含む	普通	62	
118	菊尾遺跡	住居跡	土師器	鉢	ほぼ完形	13.3	-	6.3	ハケ目	ナデ	赤褐(5YR4/6)	黒褐(5YR2/1)	白色砂粒多量。雲母、カクセン石少量含む	良好	61	
119	菊尾遺跡	住居跡	土師器	鉢	ほぼ完形	13.3	-	6.1	ハケ目	ハケ目	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	白色砂粒、カクセン石含む。	普通	59	
120	菊尾遺跡	住居跡	土師器	鉢	ほぼ完形	12.8	-	5.3	ハケ目	ハケ目	黒褐(5YR2/1)	橙(5YR6/6)	白色微砂粒多量。雲母、カクセン石わずかに含む	良好	63	
121	菊尾遺跡	住居跡	土師器	鉢	口～底部	(13.6)	-	7.8	ハケ目	ハケ目	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	白色砂粒多量	普通	60	
122	菊尾遺跡	住居跡	土師器	小型壷	ほぼ完形	11.2	-	13.0	ハケ目	ハケ目	橙(7.5YR6/6)	明褐(7.5YR5/6)	白色砂粒多量。カクセン石わずかに含む。	良好	57	
123	菊尾遺跡	住居跡	鉄器	-	-	(8.6)	(2.0)	(0.6)	-	-	-	-	-	-	65	
124	菊尾遺跡	住居跡	鉄器	-	-	(6.4)	(1.0)	(0.4)	-	-	-	-	-	-	66	
125	菊尾遺跡	住居跡	土師器	高坏	坏部	-	-	(5.3)	ケズリ後ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	橙(7.5YR6/6)	白色砂粒、、少量含む	良好	68	
126	菊尾遺跡	住居跡	弥生土器	甕	底部	-	6.8	(6.0)	ケズリ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	白色砂粒多量。金雲母、カクセン石少量含む	普通	67	
127	菊尾遺跡	住居跡	土師器	甕	口～底部	15.8	-	(25.1)	ハケ目・ナデ	ヘラケズリ	橙(7.5YR6/8)	橙(7.5YR6/6)	白色砂粒多量。カクセン石わずかに含む。	普通	58	
128	菊尾遺跡	住居跡	土師器	甕	口～底部	14.2	-	23.9	ハケ目・ナデ	ヘラケズリ	橙(5YR6/8)	橙(5YR6/8)	白色砂粒、カクセン石、雲母少量含む	普通	64	
129	菊尾遺跡	Ⅲ層	石製品	くぼみ石	-	7.2	6.7	4.5	-	-	-	-	-	-	151	
130	菊尾遺跡	住居跡	石製品	石皿？	-	32.0	22.5	8.5	-	-	-	-	-	-	69	
131	伊倉古宮原遺跡	1T(P1)	弥生土器	甕	口縁	(25.5)	-	(4.6)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	小石粒(3～5mm大)少量、白色微砂粒、赤茶色粒土多量含む	良好	76	安山岩
132	伊倉古宮原遺跡	1T(P1)	弥生土器	甕	脚台	-	11.1	(12.5)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10Y7/3)	にぶい黄橙(10Y7/2)	カクセン石多量(特に脚台底部に)赤茶色粒土、共に多量に含む	良好	74	
133	伊倉古宮原遺跡	1T(P1)	弥生土器	甕	胴部	-	-	(12.2)	ハケ目	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	褐灰(10YR4/1)	小石粒(3～5mm大)少量、白色微砂粒多量。	不良	72	
134	伊倉古宮原遺跡	1T(P1)	弥生土器	壷	胴部～底部	-	-	(7.7)	ナデ	ハケ目	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	白色砂粒、カクセン石、赤茶色粒土を含む	良好	71	
135	伊倉古宮原遺跡	1T(P1)	弥生土器	甕	口縁～胴部	(19.0)	-	(7.2)	ハケ目・ナデ	ハケ目	にぶい黄褐(10Y6/3)	にぶい黄褐(10Y7/2)	白色微砂粒、カクセン石含む	普通	73	
136	伊倉古宮原遺跡	1T(P1)	弥生土器	脚付甕	脚台	-	(8.4)	(3.8)	ナデ	ハケ目	明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	白色微砂粒多量。雲母、カクセン石わずかに含む	良好	70	
137	伊倉古宮原遺跡	1T(P1)	弥生土器	甕	底部	-	(7.1)	(3.5)	ハケ目	ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	灰黄褐(10YR6/2)	白色微砂粒少量、カクセン石多く含む	普通	75	
138	伊倉古宮原遺跡	表採	白磁	碗	底部	-	(6.7)	(1.5)	-	-	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	やや白色微砂粒を含む	普通	77	
139	田嶋遺跡	表採	弥生土器	甕	底部	-	(7.8)	(5.2)	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	灰黄褐(10YR6/2)	白色砂粒多量、雲母少量	普通	80	
140	田嶋遺跡	S-7上面	弥生土器	甕	胴部	-	-	(6.7)	ナデ	不明	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、カクセン石含む	普通	95	
141	田嶋遺跡	S-7上面	弥生土器	甕	口縁	-	-	(4.2)	ナデ	不明	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	砂粒多量に含む	不良	97	
142	田嶋遺跡	1T	土師器	甑	把手	-	-	(4.7)	ケズリ	-	にぶい黄橙(10YR7/4)	-	白色砂粒多量	良好	87	
143	田嶋遺跡	西側境界	土師器	鉢	口～胴部	(13.8)	-	(4.6)	ナデ	不明	橙(5YR7/8)	橙(5YR6/8)	白色微砂粒少量	不良	94	
144	田嶋遺跡	2T	土師器	鉢	口～胴部	(13.1)	-	(5.1)	ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/8)	白色微砂粒、カクセン石含む	不良	89	
145	田嶋遺跡	表土	須恵器	破片		-	-	(4.2)	平行タタキ	同心円タタキ	灰オリーブ(5Y5/2)	黄褐(2.5Y5/3)	白色微砂粒、カクセン石わずかに含む	良好	91	
146	田嶋遺跡	進入路部分	須恵器	甕	胴部	-	-	(5.5)	格子状タタキ	平行タタキ	灰オリーブ(5Y5/3)	灰オリーブ(5Y5/2)	白色微砂粒わずかに含む	良好	102	
147	田嶋遺跡	表採	須恵器	破片		-	-	(6.5)	格子状タタキ	同心円・タタキ	褐灰(10YR5/1)	褐灰(10YR4/1)	0.5mm以下の砂粒微量含む	良好	85	
148	田嶋遺跡	表採	須恵器	甕		-	-	(7.7)	格子状タタキ	同心円タタキ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい褐(7.5YR5/3)	極細砂粒少量	普通	281-口	
149	田嶋遺跡	進入路部分	須恵器	碗	口～胴部	(17.1)	-	(4.0)	ケズリ後ナデ	ロクロ回転ナデ	灰(7.5Y6/1)	灰(10Y5/1)	カクセン石わずかに含む	良好	101	
150	田嶋遺跡	表採	土師器	皿	口～底部	(7.8)	(5.7)	1.9	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	白色微砂粒、カクセン石含む	普通	98	
151	田嶋遺跡	進入路部分	瓦器	皿	口～底部	(90.7)	-	2.3	ナデ	ナデ	灰(5Y8/1).灰(N7/)	灰(5Y8/1).灰(N7/)	白色微砂粒多く含む	不良	100	
152	田嶋遺跡	表採	陶器	擂鉢	底部	-	10.7	(2.3)	回転ナデ	カキ目	明赤褐(2.5YR5/6)	明赤褐(2.5YR5/6)	白色微砂粒わずかに含む	良好	86	糸切り
153	田嶋遺跡	表採	土師器	不明	口縁	-	-	(3.1)	ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/3)	白色微砂粒、赤茶色粒土少量含む	良好	99	
154	田嶋遺跡	表採	青磁	碗	底部	-	5.2	(2.1)	-	-	(釉)明緑灰(7.5GY7/1)	灰白(10YR7/1)	0.3mm以下の褐色砂粒微量含む	良好	81	糸切り
155	田嶋遺跡	1T	瓦	軒平		-	-	-	縄目・タタキ	布目	黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	小石粒(3～5mm大)多量、砂礫1粒含む、カクセン石、雲母含む	不良	88	
156	田嶋遺跡	カクラン内	瓦	不明		-	-	-	布目	縄目・タタキ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、カクセン石少量含む	普通	93	
157	田嶋遺跡	表採	瓦	布目瓦	軒平	-	-	-	布目	縄目	褐灰(10YR6/7)	褐灰(10YR6/7)	砂粒、カクセン石含む	不良	84	
158	田嶋遺跡	表採	瓦	丸瓦		-	-	-	ナデ	布目	灰(N6/)	灰(N6/)	カクセン石をわずかに含む	良好	78	
159	上小田宮の前遺跡	6T	縄文土器		口縁部	-	-	(3.0)	沈線文	ナデ	明赤褐(5YR5/6)	にぶい赤褐(5YR4/3)	白色砂粒、カクセン石多量に含む。	良好	103	

Ⅲ　平成１４年度の調査

Ⅲ　平成14年度の調査

大塚・惣萩遺跡

青野原遺跡

稲荷山古墳

高岡原Ｊ遺跡

五郎丸遺跡（Ａ地点）

狐ん路遺跡

西の山古墳群

長福寺跡

高瀬本町通遺跡

伊倉宮の後遺跡

亀甲遺跡（Ａ地点）

五郎丸遺跡（Ｂ地点）

蓮華遺跡

亀甲遺跡（Ｂ地点）

一本松遺跡

保田木城跡・光蓮寺跡

ふれあい広場建設予定地

中村館跡

築地東遺跡

1　大塚・惣萩遺跡

所在地：立願寺字大塚1065-2

対象面積：1,014.00㎡

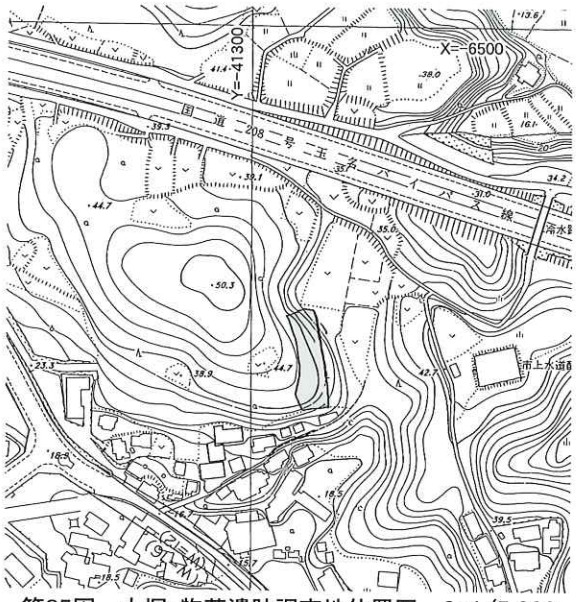
調査期間：14年4月25日

担当者：蜷父雅史

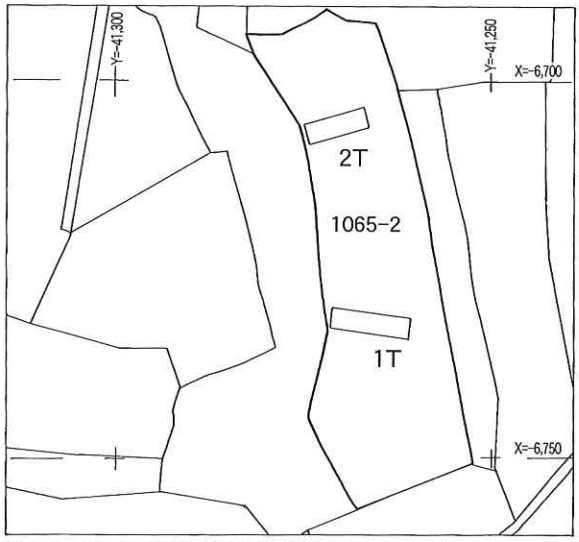
調査地は、小代山より南へ延びる丘陵上に位置し、標高44m程の地点である。西側の台地上に小塚古墳が存在する。周辺は以前より斜面を開墾した痕跡がみられ、現状では杉林となっていたが、調査地の杉は既に伐採さていた。

調査では、2ヵ所のトレンチを斜面に沿って東西方向に設定し、重機及び人力による掘削を行った。その結果、1トレンチでは無遺物層とみられるローム層まで切土が行われており、その後斜面に、黒褐色土が堆積していた。その層に遺物は含まれていなかった。2トレンチでは、約50㎝下にローム層がみられ、従来の切り土がその高さであったと思われる。その他、古墳の周溝などの遺構は検出されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。

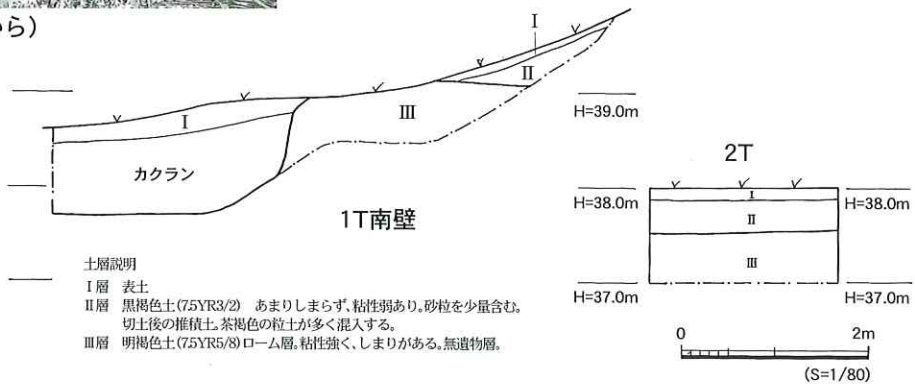


第85図　大塚・惣萩遺跡調査地位置図　S=1/5,000



第86図　大塚・惣萩遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

大塚・惣萩遺跡調査地（北から）



土層説明
Ⅰ層　表土
Ⅱ層　黒褐色土(7.5YR3/2)　あまりしまらず、粘性弱あり。砂粒を少量含む。切土後の推積土。茶褐色の粒土が多く混入する。
Ⅲ層　明褐色土(7.5YR5/8)ローム層。粘性強く、しまりがある。無遺物層。

第87図　大塚・惣萩遺跡トレンチ土層図

2　青野原遺跡

所在地：大字青野字北原231-1

対象面積：1,013.00㎡

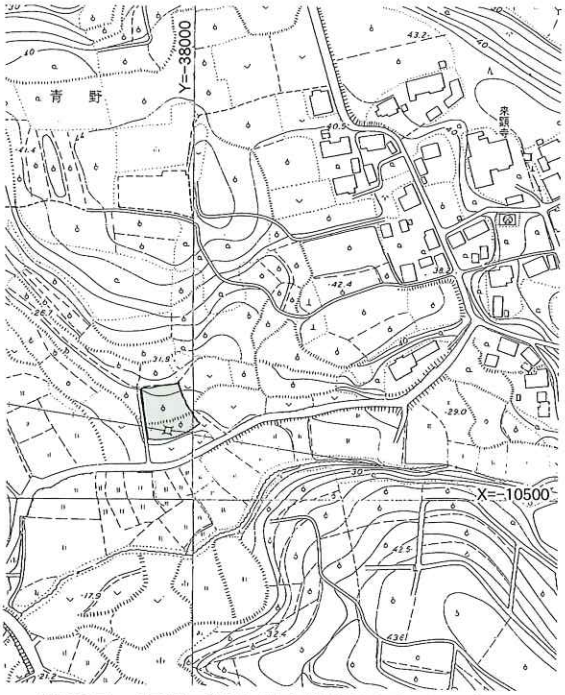
調査期間：14年4月26日

担当者：蜷父雅史

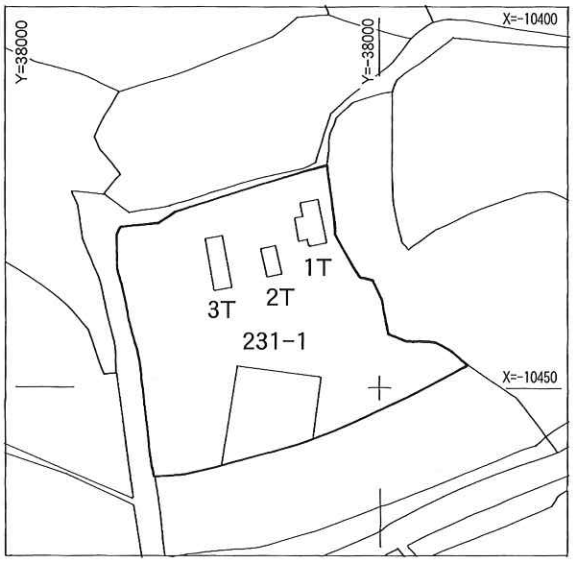
調査地は、伊倉丘陵性台地の標高約30mの斜面に位置し、現在、ミカン畑となっている。

調査では、高圧送電線鉄塔の移設予定地を中心に、３ヵ所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、東端の1トレンチで、地表下約80cmに溝状の遺構を確認した。幅は1.5m以上あり、深さは約60cmで、底面近くから近世以降と思われる皿が1点出土し、完掘してないがその他の遺物はほとんど出土しなかった。溝は斜面に沿って、南北方向に延び、上段の畑の畦道と方向が一致するため、かつての里道の跡と判断される。その他のトレンチでは遺構、遺物は検出されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。



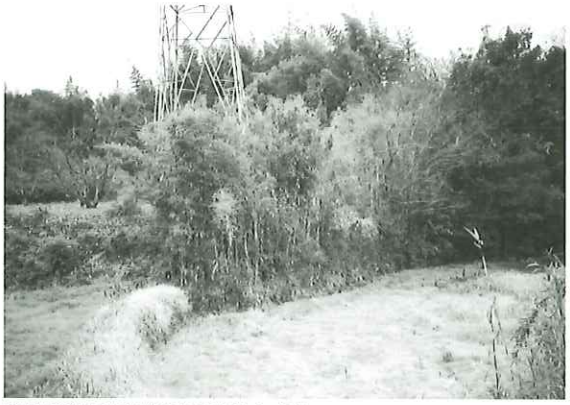
第88図　青野原遺跡調査地位置図　S=1/5,000



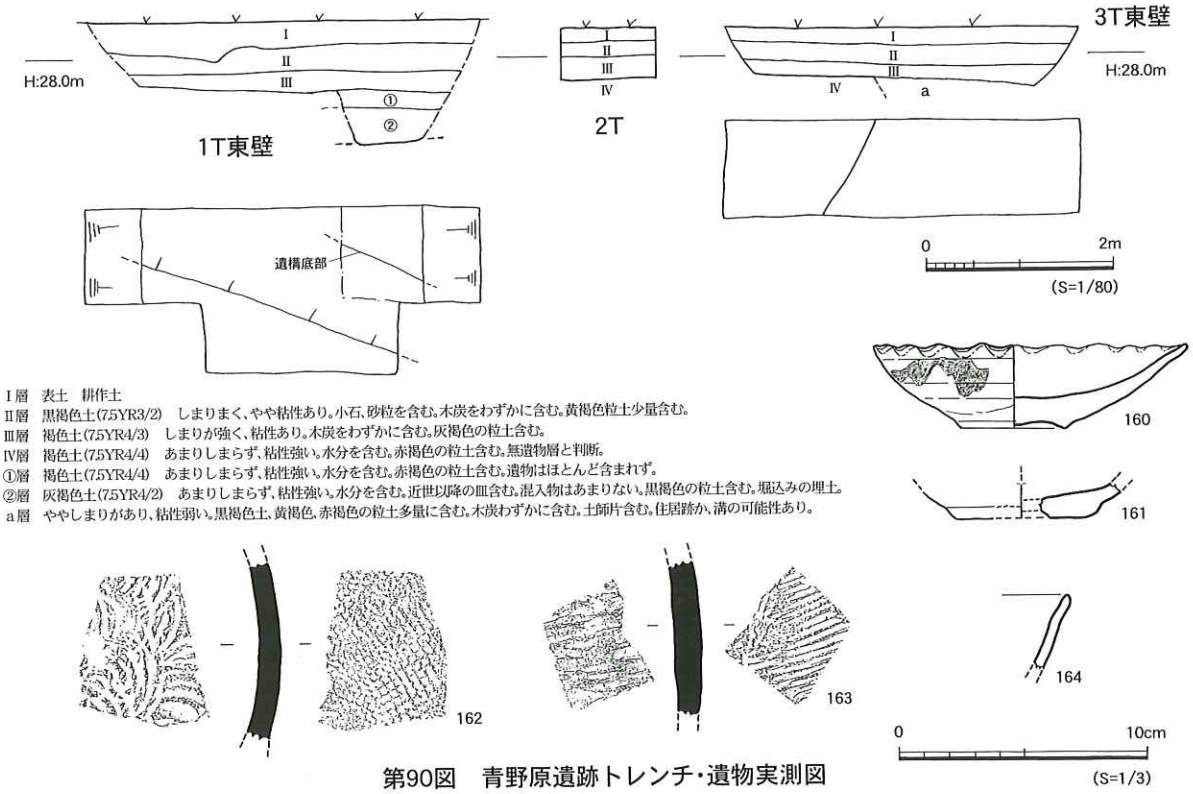
第89図　青野原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

青野原遺跡調査遠景（東から）

青野原遺跡調査遠景（西から）



青野原遺跡調査遠景（北から）



Ⅰ層　表土　耕作土
Ⅱ層　黒褐色土(7.5YR3/2)　しまりまく、やや粘性あり。小石、砂粒を含む。木炭をわずかに含む。黄褐色粒土少量含む。
Ⅲ層　褐色土(7.5YR4/3)　しまりが強く、粘性あり。木炭をわずかに含む。灰褐色の粒土含む。
Ⅳ層　褐色土(7.5YR4/4)　あまりしまらず、粘性強い。水分を含む。赤褐色の粒土含む。無遺物層と判断。
①層　褐色土(7.5YR4/4)　あまりしまらず、粘性強い。水分を含む。赤褐色の粒土含む。遺物はほとんど含まれず。
②層　灰褐色土(7.5YR4/2)　あまりしまらず、粘性強い。水分を含む。近世以降の皿含む。混入物はあまりない。黒褐色の粒土含む。堀込みの埋土。
a層　ややしまりがあり、粘性弱い。黒褐色土、黄褐色、赤褐色の粒土多量に含む。木炭わずかに含む。土師片含む。住居跡か、溝の可能性あり。

第90図　青野原遺跡トレンチ・遺物実測図

青野原遺跡１T土層堆積状況

青野原遺跡１T

青野原遺跡２T

青野原遺跡３T

3　稲荷山古墳

所在地：繁根木74,188

対象面積：1,125.00㎡

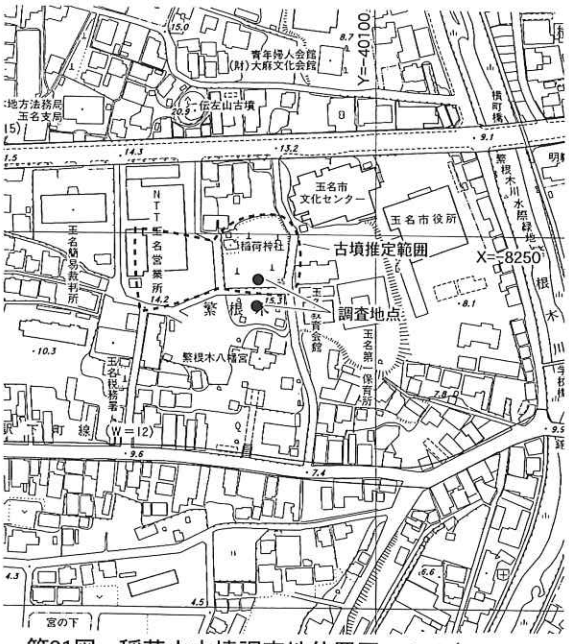
調査期間：14年4月16日

担当者：蜷父雅史

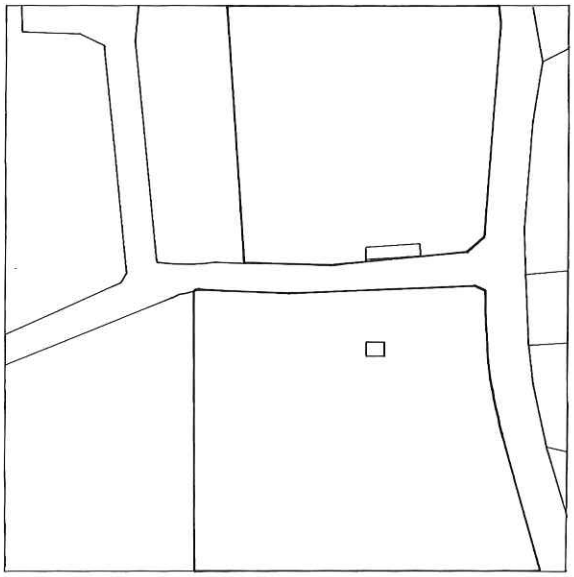
調査地は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置し、標高15～16m程の地点である。

稲荷山古墳の墳丘部分と考えられる墓地と、南側に隣接する道路とは約2mの高低差がある。道路から墓地への進入用階段を設置するための工事で、墓地の壁面が一部掘削されるため、その部分で土層を観察した。その結果、近世の陶磁器細片を含む層の直下に無遺物層とみられるローム層を確認したが、古墳に伴う層は確認されなかった。

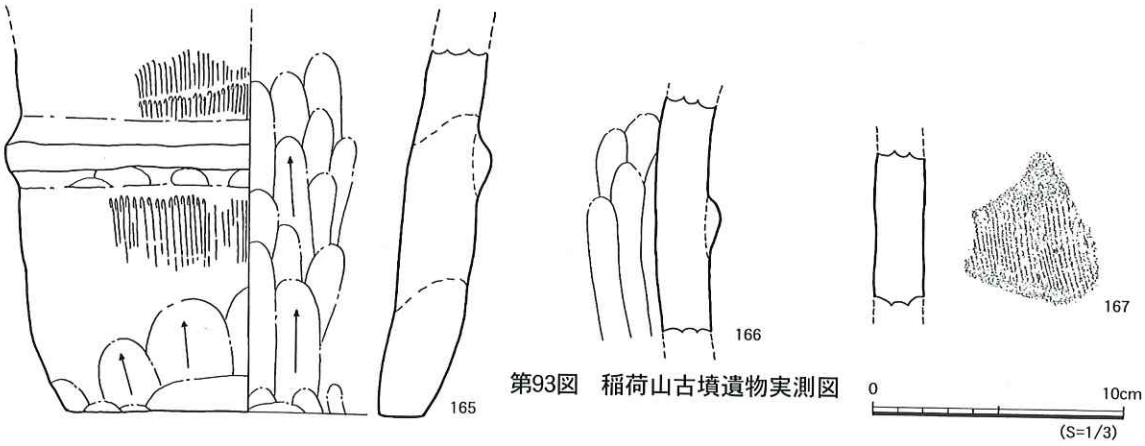
また、道路南側に隣接する繁根木八幡宮の敷地内で、ゴミ捨て用の穴が掘削されており、その部分を観察した。敷地内は以前より重機などにより掘り返されており、近世また近代の陶磁器細片に混じって円筒埴輪の破片が出土した。古墳に伴う周溝などの遺構は確認できず、今回調査した範囲は後世に掘削された部分と判断される。



第91図　稲荷山古墳調査地位置図　S=1/5,000



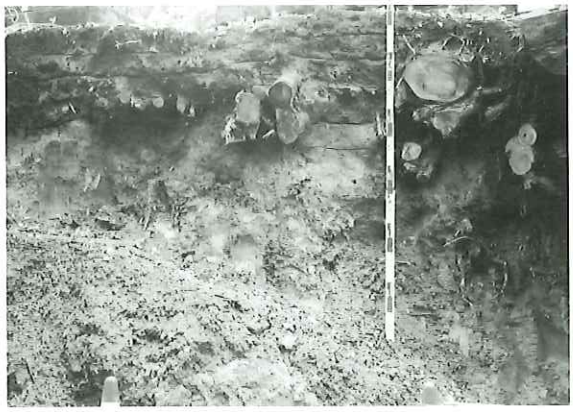
第92図　稲荷山古墳調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000



第93図　稲荷山古墳遺物実測図

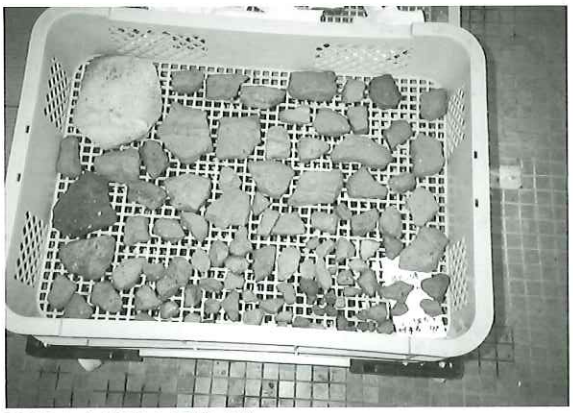
稲荷山古墳現況（西から）

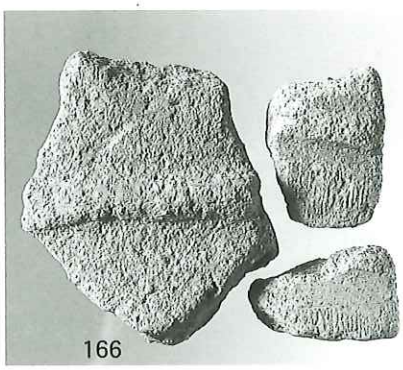
稲荷山古墳調査地工事前（東から）

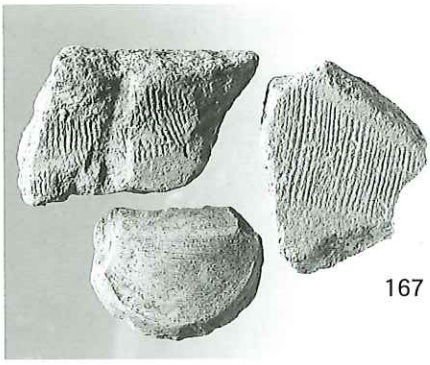

稲荷山古墳調査地土層堆積状況

稲荷山古墳調査地工事後（東から）

稲荷山古墳南側トレンチ掘削状況


稲荷山古墳出土遺物（1）





稲荷山古墳出土遺物（2）

4　高岡原Ｊ遺跡

(1)　調査に至る経緯

玉名市山田字高岡原2016-1,2018,2015-1において、診療所の増築工事が計画された。しかし当地を含む周辺は、高岡原Ｊ遺跡に含まれることから、平成14年４月30日付けで文化財保護法第57条の２による届出が提出された。これを受け、玉名市教育委員会で５月17日に確認調査を行い、土坑状の遺構や土器片を検出した。このため、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、基礎掘削が埋蔵文化財に及ぶ部分について発掘調査を実施することになった。

(2)　調査の体制

発掘調査(平成14年度)

調査主体　玉名市教育委員会

調査責任　教育長　三次昭也

調査総括　教育次長　久多見澄夫
　　社会教育課長　牧野和明
　　社会教育課審議員兼課長補佐
　　西田道吾

調査事務　文化係長　岩永次郎
　　主事　髙田智華

調査担当　調査員　古閑敬士
　　(確認調査、本調査)
　　調査員　蜷父雅史(確認調査)
　　技師　末永　崇(本調査)
　　参事　竹田宏司(本調査)
　　技師　田中康雄(本調査)
　　調査員　大倉千寿(本調査)

発掘作業員　平嶋千代子　西川美智子
　　北睦美　藤好貴彦　古賀武子
平野輝代　本山千代子　西嶋美玲　竹内伴英

整理作業(平成15年度)

調査主体　玉名市教育委員会

調査責任　教育長　三次昭也(至12月19日)
　　教育長　森　義臣(自12月22日)

調査総括　教育次長　久多見澄夫
　　社会教育課長　牧野和明
　　社会教育課審議員兼課長補佐
　　西田道吾

調査事務　文化係長　岩永次郎
　　主事　髙田智華

報告書担当　技師　末永崇
　　調査員　蜷父雅史

整理作業員　坂崎郷子　五野冨美子
早川イツエ　平野輝代　古賀武子

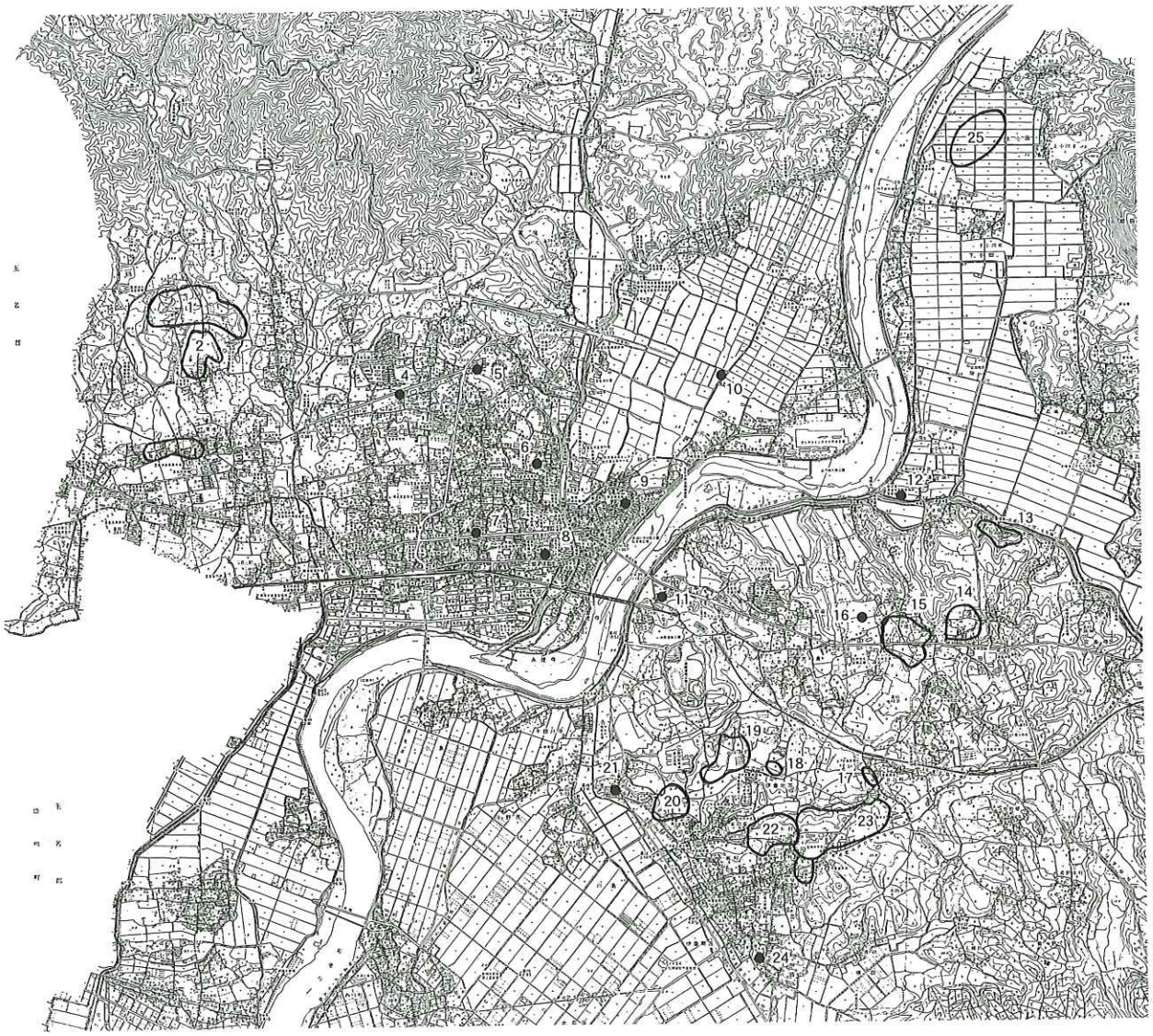
(3) 遺跡の概要

高岡原Ｊ遺跡は、小代山から南に延びる丘陵上に位置する、標高25mほどの地点である。当遺跡周辺は、縄文時代の土器片散布地として周知されており、西側に存在する弥生時代の住居跡などが確認された高岡原遺跡と区別するため、平成11年度に高岡原Ｊ遺跡とした。

玉名市内の縄文時代の遺跡については、市内の丘陵上に貝塚が点在する。また、同じく丘陵上に縄文時代の土器片が散布する遺跡が周知されている。近年は、柳町遺跡や上小田宮の前遺跡などの低湿地に所在する遺跡の調査で縄文時代の遺物が確認されている。(第94図) 現在周知されている縄文時代の遺跡は、本格的な調査の機会がないことや、既に宅地化されているなどで、貝塚以外は遺跡の具体的な内容が判明するところは少ない。住居跡としての調査例も今のところないようである。

調査地の西側150mほどの地点では、高岡いっちょう畑箱式石棺が所在し、石材数点が現在も確認される。

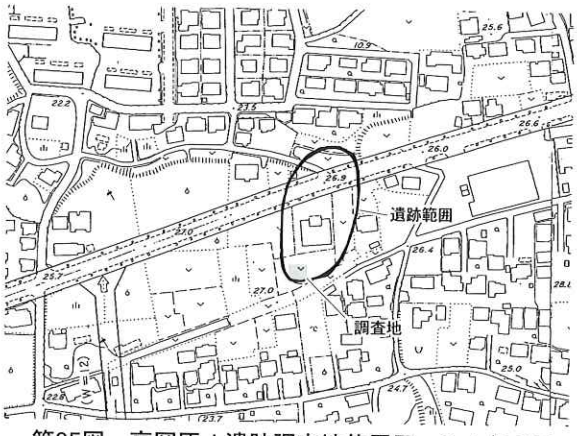
調査地の南側は、東西に延びる中世の道路跡と接している。明治時代前期の玉名郡村図の立願寺村絵図には「山田村道」と記載され、一部は現在も市道として使用されている。道路は中尾の集落北側から立願寺方面に延びて



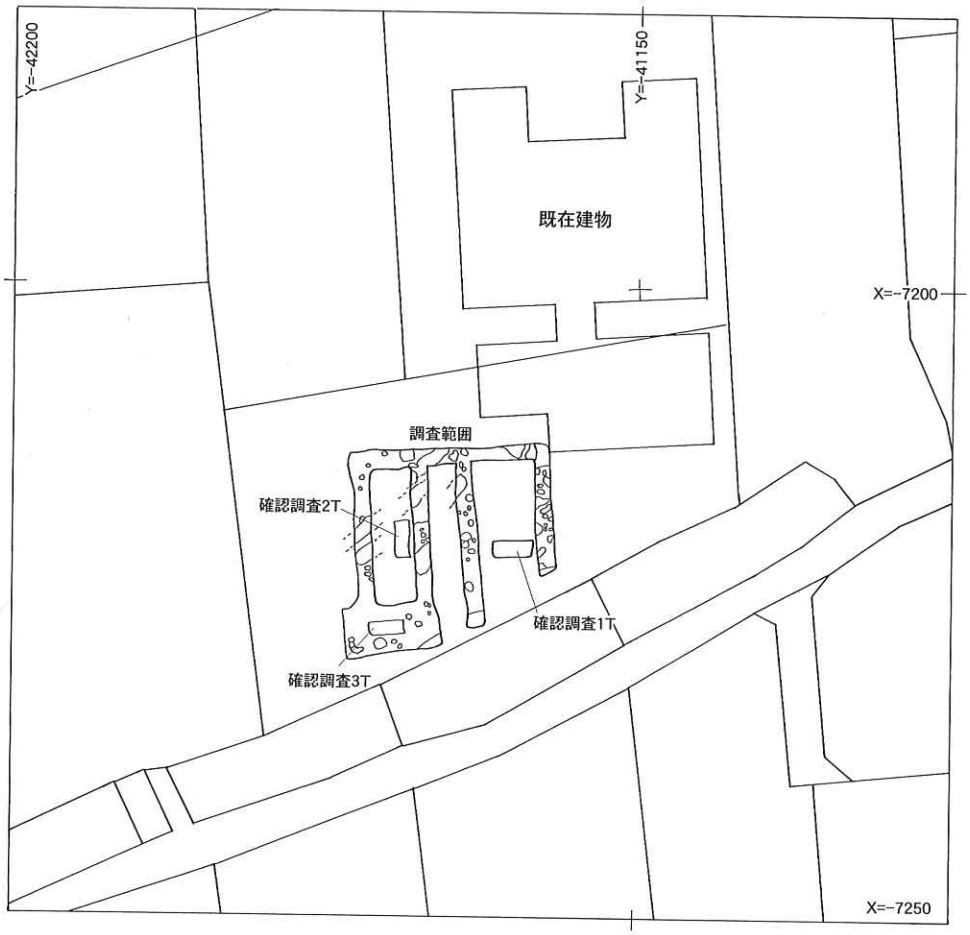
1．西田遺跡
2．四十九遺跡
3．狐ん路遺跡
4．高岡原J遺跡
5．下立願寺遺跡
6．岩崎B遺跡
7．亀甲遺跡
8．繁根木貝塚
9．保田木貝塚
10．柳町遺跡
11．桃田貝塚
12．津留中林遺跡
13．上津留遺跡
14．寺田久保遺跡
15．吉丸西遺跡
16．吉丸前遺跡
17．年の神遺跡
18．岩井口遺跡
19．銅遺跡
20．中北遺跡
21．城が崎貝塚
22．本村遺跡
23．伊倉宮の後遺跡
24．方諏訪遺跡
25．上小田宮の前遺跡

第94図　高岡原J遺跡周辺縄文時代主要遺跡分布図 S=1/20,000
（「熊本県遺跡地図」及び「菊池川下流域詳細分布図」より転載）

高岡原Ｊ遺跡現況（西から）

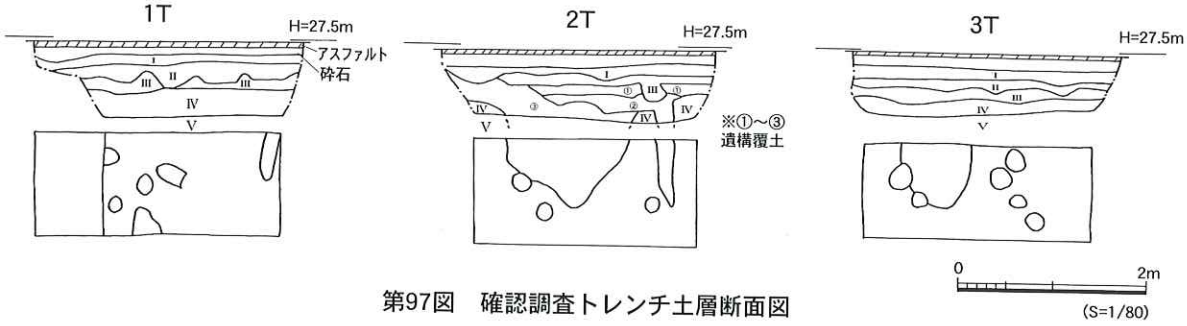


第95図　高岡原Ｊ遺跡調査地位置図　S=1/5,000



第96図　調査範囲位置図及び周辺地籍図

0　20m
(S=1/600)



0　2m
(S=1/80)

第97図　確認調査トレンチ土層断面図

おり、玉名郡倉跡推定地付近を経てさらに北東に延びているようである。また、調査地から西側に100mほどの地点で、南側に分かれて高瀬方面に延びる道路がもう一本存在する。さらにそれらの道路は玉名郡衙へ続くと想定されている道路とも交差している。山田村道は、近世においては道沿いの畑から立願寺温泉への道としても利用されていたようであり、その起源は明らかではないが、古代又は中世に遡る場合も十分考えられる。

(4) 確認調査

調査対象部分は、診療所の駐車場として利用されている敷地であり、確認調査では、工事予定範囲に3ヶ所トレンチを設定し、重機より掘削し埋蔵文化財の状況を確認した。確認した層位は下記のとおりである。

Ⅰ層　黒褐色土(2.5Y3/1)
　　粘性なくよく締まる。造成の際の盛土。

Ⅱ層　褐色土(7.5YR4/4)
　　粘性なくよく締まる。旧耕作土。

Ⅲ層　黒褐色土(10YR3/2)
　　やや粘性を有しやや締まる。遺物包含層であり、1～5mの砂粒含む。

Ⅳ層　褐色土(7.5YR4/6)
　　粘性有し、やや締まる。遺物包含層であり、黒い土と赤い土が混ざりきっていない。

(5) 調査の方法及び経緯

確認調査後、発掘調査が必要な範囲は建物増築部分となったが、その部分の掘削は基礎と地中梁の部分のみであり、建物全体ではないことから、発掘調査の方法はトレンチ調査を行うことになった。調査では、トレンチごとにⅠ～Ⅵ区とし、Ⅰ、Ⅱ層を重機により掘削した。Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ層上面で遺構検出を行い、Ⅲ層以下の掘削は人力で行った。検出した遺構はそれぞれ番号を付して掘り下げた。各遺構の実測は、トレンチごとに1/20スケールで行った。写真撮影は35mmのモノクロ及びリバーサルフィルムで行った。

(6) 遺構と遺物

1号溝（S-07）・2号溝（S-09）

Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ区で検出した溝状の遺構で、S-07が幅約1.3m、検出面からの深さ最大約50cm、長さ7.5m以上を測る。S-09が幅約1.1m、検出面からの深さ最大約50cm、長さ３m以上を測る。１号溝と２号溝はそれぞれ別に検出したが、方向や規模、覆土の状況などから一連の溝状の遺構で、調査区外にかけてさらに延びていると判断される。

３号溝（S-08）

Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ区で検出した溝状の遺構で、幅約1.8m、検出面からの深さ最大約55cm、長さ11.3m以上を測る。Ⅳ区の東壁面A-A'で３号溝と１号溝が別の遺構（層位①～⑤）を切っているのを確認したが、平面では確認できなかった。覆土上位で、箱式石棺であったとみられる板状の石材を検出した。石材の一部に赤色顔料が確認された。遺構が埋まる段階で廃棄されたものとみられる。

１号土坑（S-10）

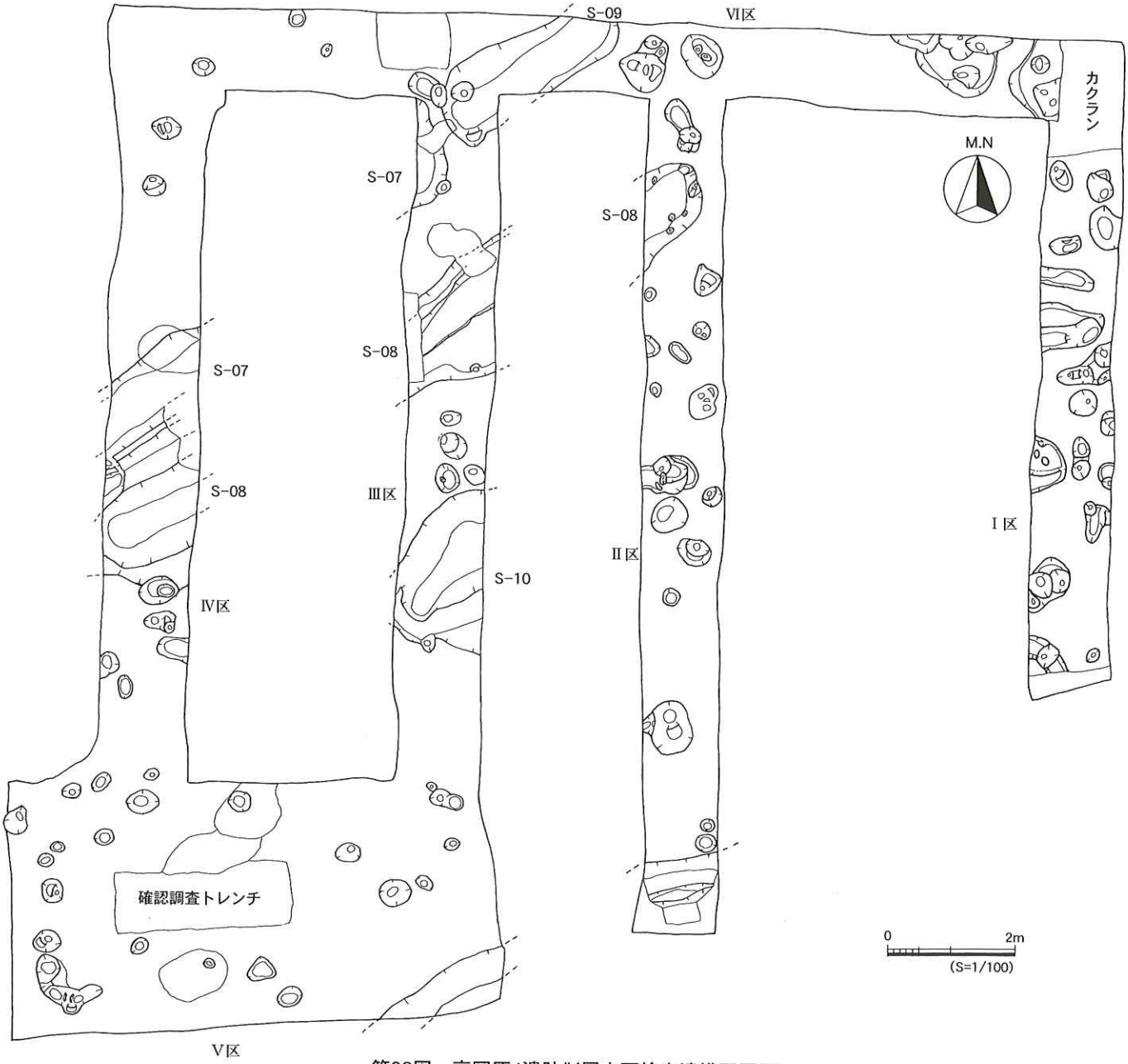
Ⅲ区Ⅳ層上面で検出した。長軸2.5m以上、短軸1.2m以上、検出面からの深さ約30cmを測る。土坑状の遺構とみられる。

２号土坑（P-98）

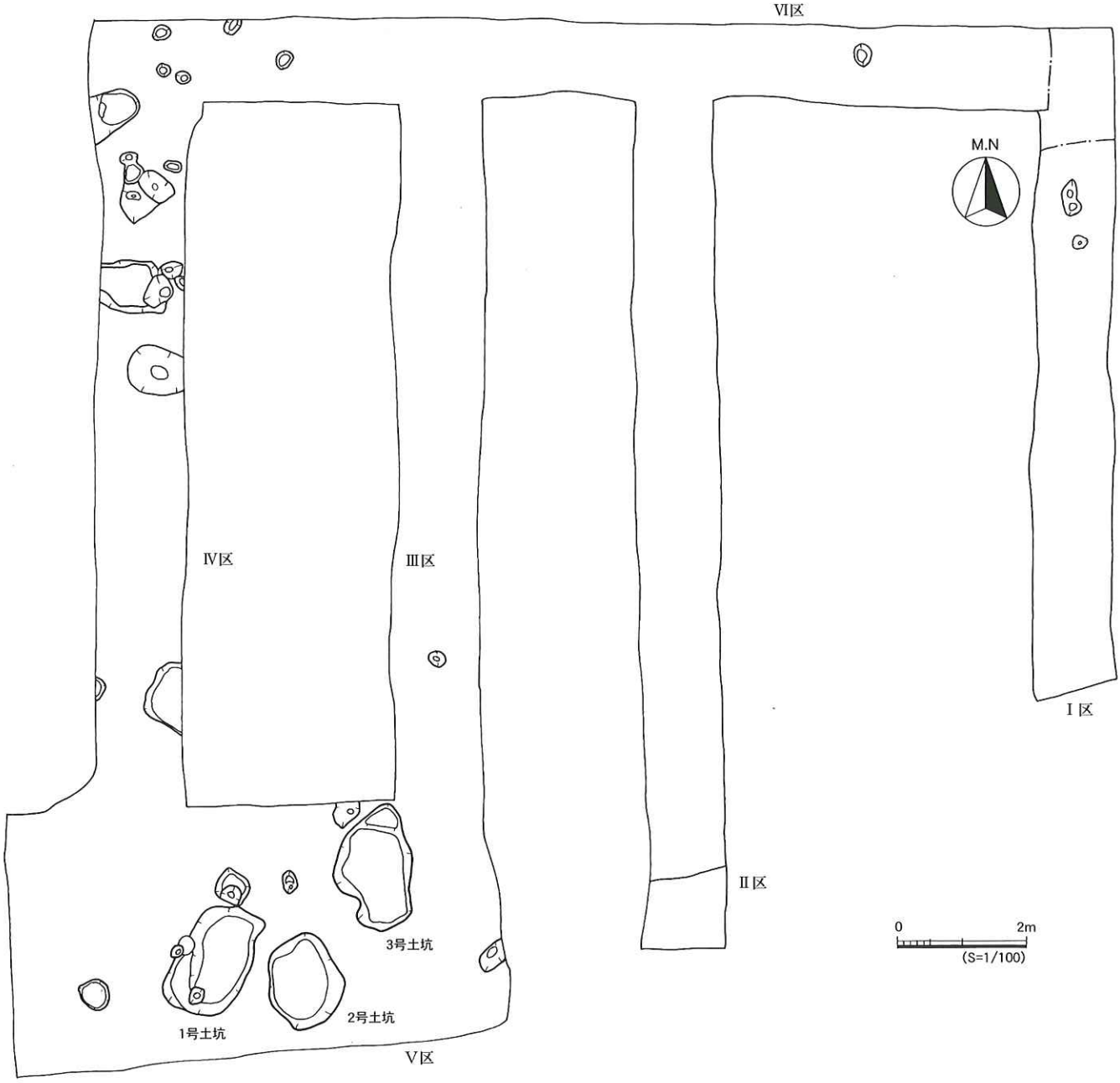
Ⅵ区Ⅴ層上面で検出した。長軸約1.9m、短軸1.15m、検出面からの深さ最大約40cmを測る。西側の一部はテラス状に段掘りされる。炭化物の集中部分を検出した。

３号土坑（P-104）

Ⅵ区Ⅴ層上面で検出した。長軸約1.5m、短軸約1.2m、検出面からの深さ最大約20cmを測る。



第98図　高岡原J遺跡Ⅳ層上面検出遺構配置図



第99図　高岡原J遺跡Ⅴ層上面検出遺構配置図

4号土坑（P103）

Ⅵ区Ⅴ層上面で検出した。長軸約1.9m、短軸約1.3m、検出面からの深さ約30cmを測る。北側の一部がテラス状に段掘りされている。

その他の遺構

調査区全体で、Ⅳ層上面で多数のピットを検出した。大部分は形状などから根穴などの可能性が高いと判断している。

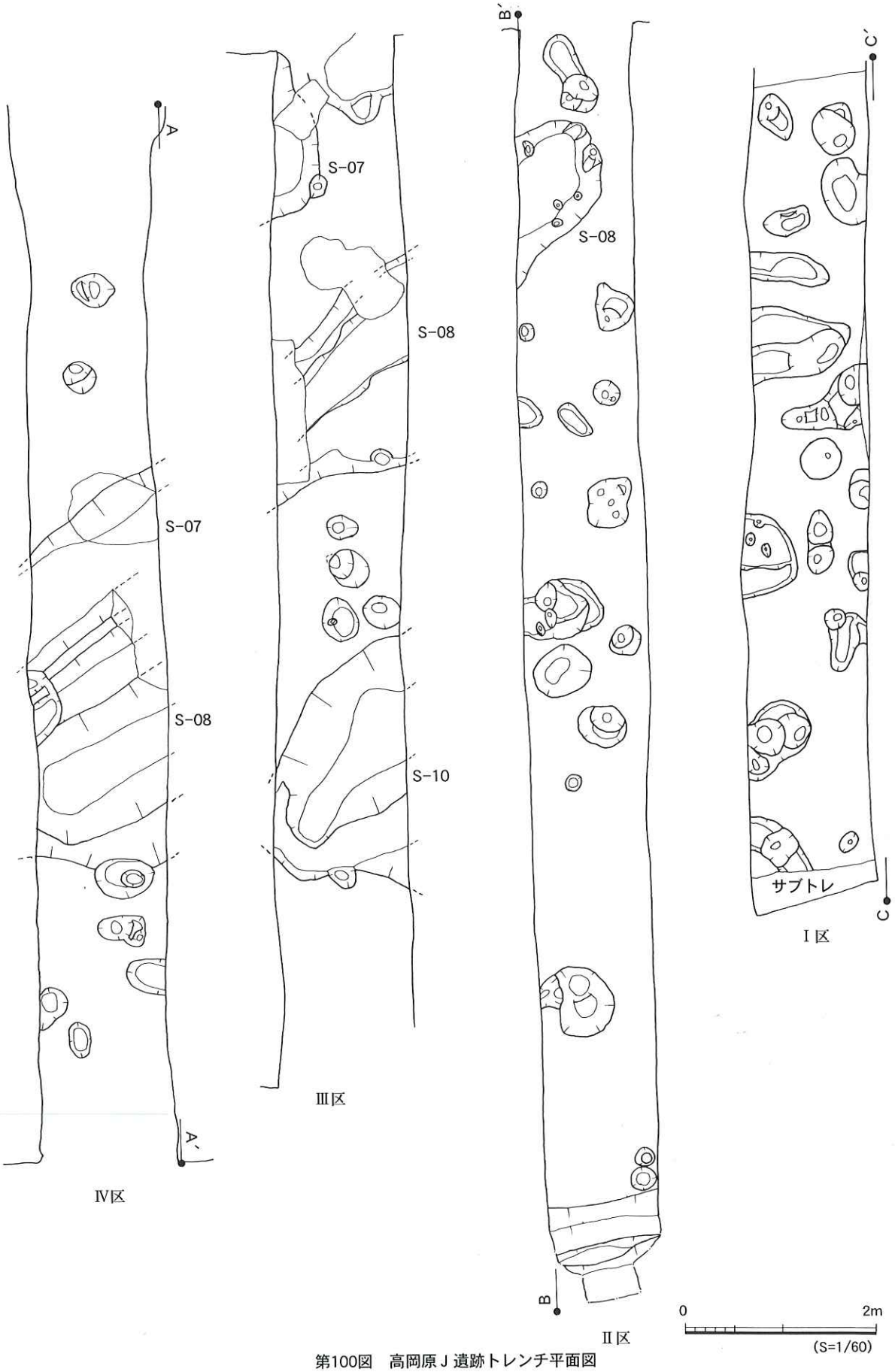
(7) まとめ

今回の調査で確認された遺構は、主に溝状の遺構2本と、土坑数基である。出土した遺物の総量はコンテナ１箱と板状の石材数点である。溝状遺構は、調査地南側の道路と平行して延びていることも考えられる。遺構内からは時期を判断できるような遺物は検出できなかったが、Ⅲ層から出土した遺物が古代の須恵器を含むことから、溝の時期は古代又はそれ以前と推察される。遺構の性格等についての検討は、調査区南側の道路とも併せて行う必要があろう。

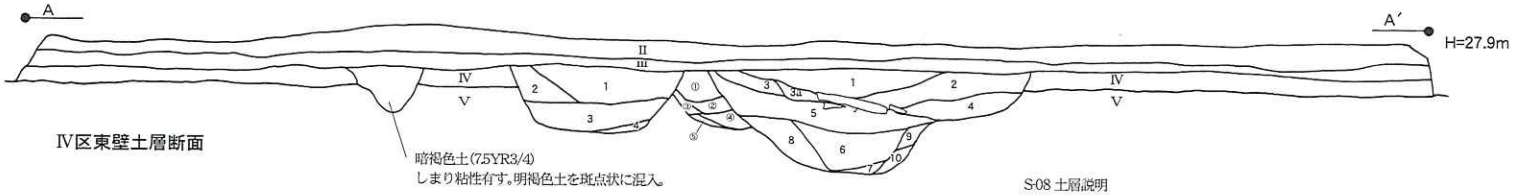
Ⅳ層の遺物の出土状況は、土器片がわずかに検出された。明確に時期特定できる遺物はなかったが、層位の状況などから、Ⅳ層は縄文時代の堆積層であり、Ⅴ層上面で検出した土坑などは縄文時代の遺構であると想定される。

遺跡の範囲については、周辺の踏査と今回の調査結果のみでは判断に限界があるが、範囲が広がる可能性は十分に考えられる。また、15年度に行った東側隣接地の確認調査では、縄文時代の埋設土器が１基確認された。上部は削平されており、その後須恵器片などを含む黒褐色を呈する層が堆積しており、今回の調査のⅢ層に相当すると判断される。このことから、調査地周辺は古代以前の段階で縄文時代の層まで削平されるような造成が行われていることも考えられ、今後の調査での検討課題としたい。

高岡原Ｊ遺跡調査風景



第100図　高岡原Ｊ遺跡トレンチ平面図



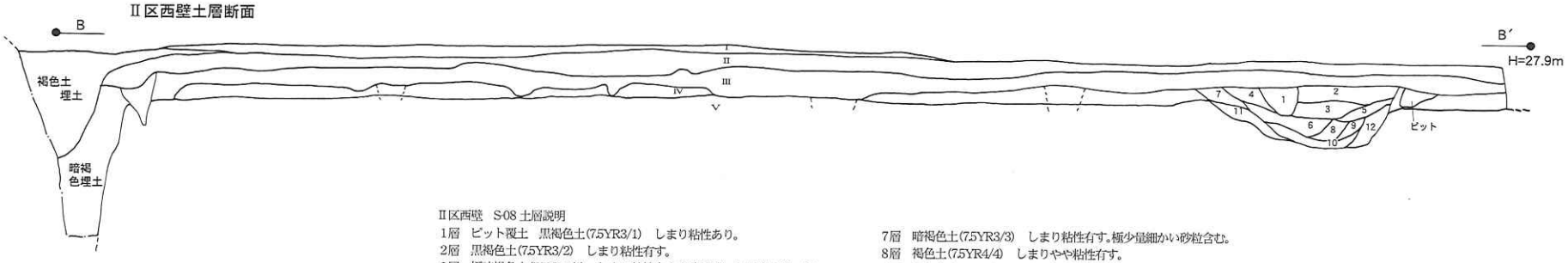
Ⅳ区東壁土層断面
S-09 土層説明

1層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまり粘性有す。砂粒、明褐色土をブロック状に少量含む。
2層　暗褐色土(7.5YR3/3)　しまり粘性有す。砂粒少量含む。
3層　暗褐色(7.5YR3/3)　しまり粘性有す。砂粒、明褐色土をブロック状に含む。
4層　褐色土(7.5YR4/4)　しまり粘性有す。粒子が細かい。

①層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまり粘性有す。部分的に明褐色土粒混入。
②層　暗褐色土(7.5YR2/3)　しまり粘性有す。部分的に明褐色土を斑点状に含む。
③層　褐色土(7.5YR4/6)　しまり粘性有す。細かい砂粒極少量含む。
④層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまり粘性有す。明褐色土を斑点状に混入。
⑤層　黒褐色土(7.5YR7/2)　しまりやや粘性有す。細かい砂粒少量含む。

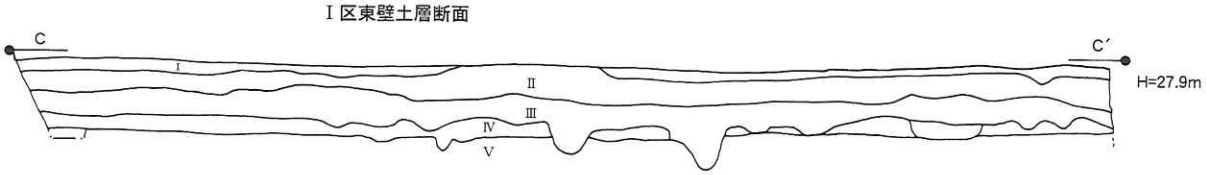
S-08 土層説明

1層　極暗褐色土(7.5YR2/3)　しまりやや粘性有す。明褐色土の粒、砂粒多く含む。
2層　褐色土(7.5YR4/4)　しまりやや粘性有す。細かい砂粒多く含む。
3層　暗褐色土(7.5YR3/3)　しまり粘性有す。3a―3層に砂粒が多く混ざる。
4層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまりやや粘性有す。細かい砂粒少量含む。
5層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまりやや粘性有す。細かい砂粒少量含む。炭化物を粒状に少量含む。
6層　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ややしまりやや粘性有す。砂粒多く含む。
7層　褐色土(7.5YR4/4)　ややしまりあまり粘性有しない。細かい砂多く含む。
8層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまり粘性有す。明褐色土粒を含む。
9層　褐色土(7.5YR4/3)　しまり粘性有す。細かい砂粒わずかに含む。
10層　褐色土(7.5YR4/4)　しまりやや粘性有す。細かい砂粒わずかに含む。明褐色土をブロック状にわずかに含む。

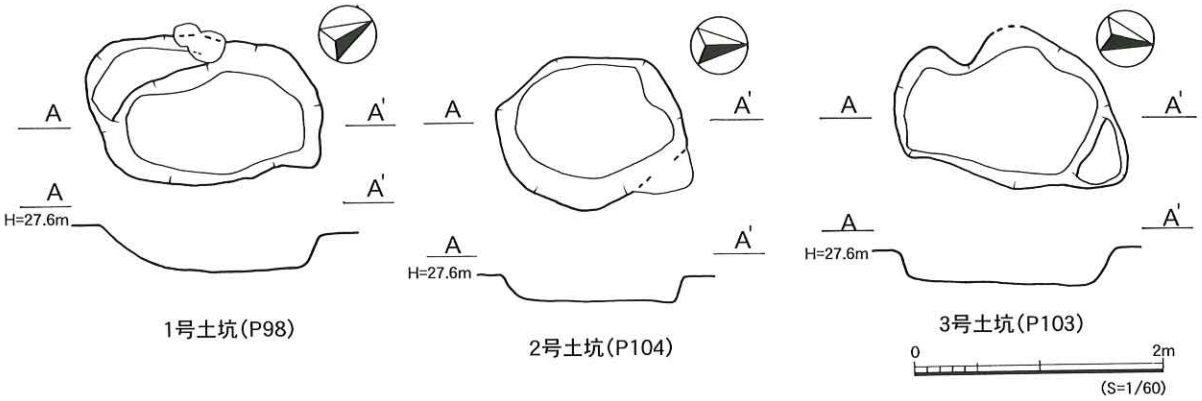


Ⅱ区西壁　S-08 土層説明

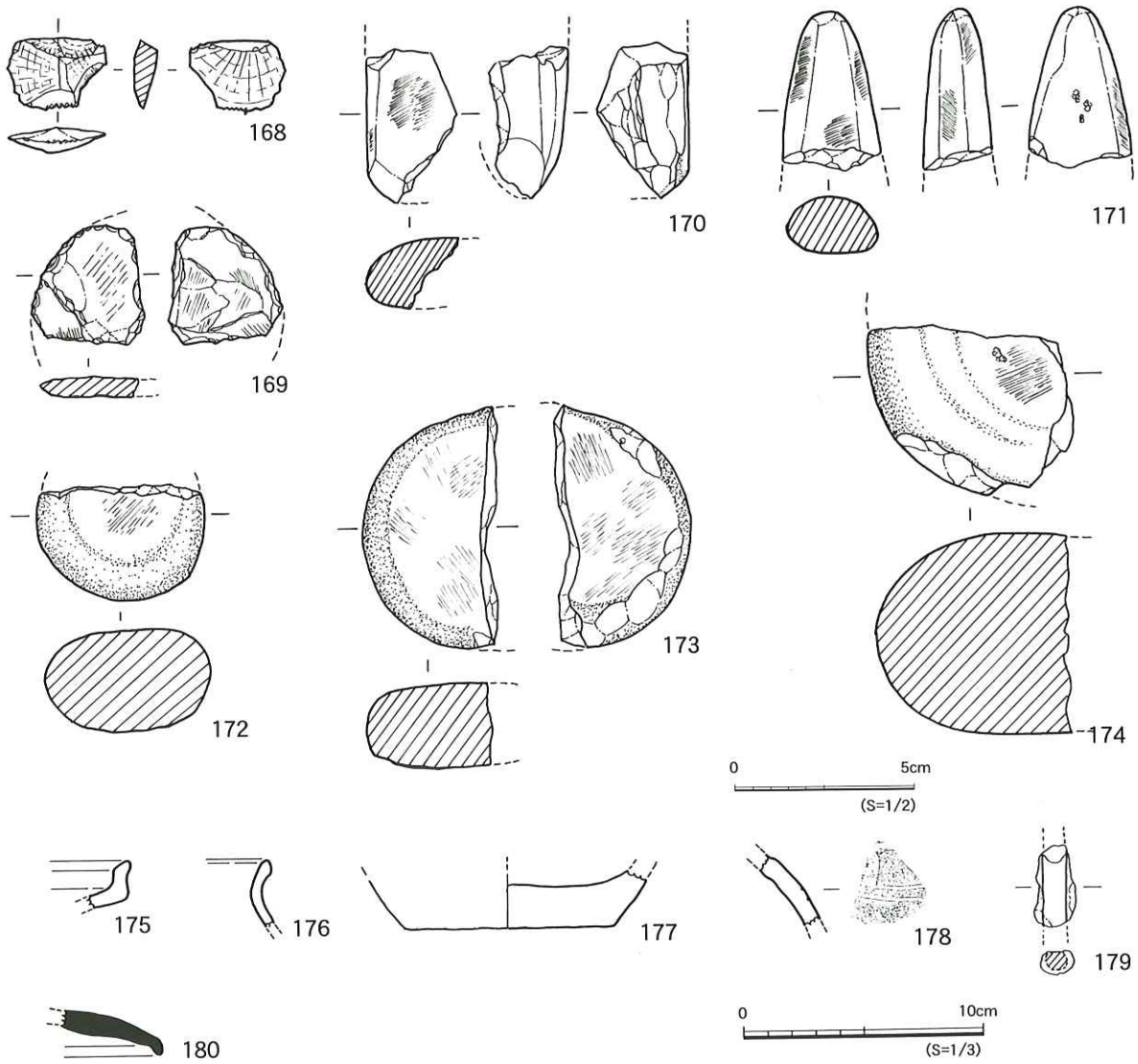
1層　ピット覆土　黒褐色土(7.5YR3/1)　しまり粘性あり。
2層　黒褐色土(7.5YR3/2)　しまり粘性有す。
3層　極暗褐色土(7.5YR2/3)　しまり粘性有す。明褐色粒、少量斑点状に含む。
4層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまり粘性有す。砂粒、明褐色粒、少量含む。
5層　黒褐色土(7.5YR4/4)　しまり粘性有す。
6層　暗黒褐色土(7.5YR3/2)　しまり粘性有す。部分的に、明褐色粒少量含む。
7層　暗褐色土(7.5YR3/3)　しまり粘性有す。極少量細かい砂粒含む。
8層　褐色土(7.5YR4/4)　しまりやや粘性有す。
9層　褐色土(7.5YR4/6)　しまりやや粘性有す。細かい砂粒含む。
10層　暗褐色土(7.5YR3/3)　しまりやや粘性有す。
11層　暗褐色土(7.5YR3/4)　しまり粘性有す。
12層　明褐色土(7.5YR5/6)　しまり粘性有す。褐色土、斑点状に含む。



第101図　高岡原Ｊ遺跡トレンチ土層断面図



第102図　高岡原Ｊ遺跡遺構実測図



第103図　高岡原Ｊ遺跡遺物実測図

高岡原Ｊ遺跡
調査前（南から）

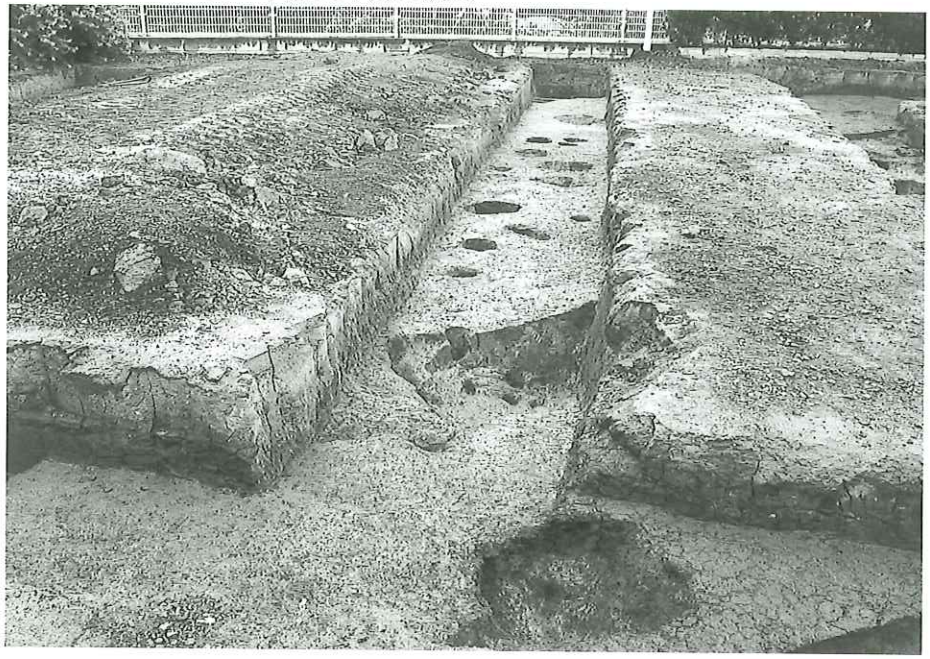
高岡原Ｊ遺跡
調査前（西から）

高岡原Ｊ遺跡
調査前（東から）

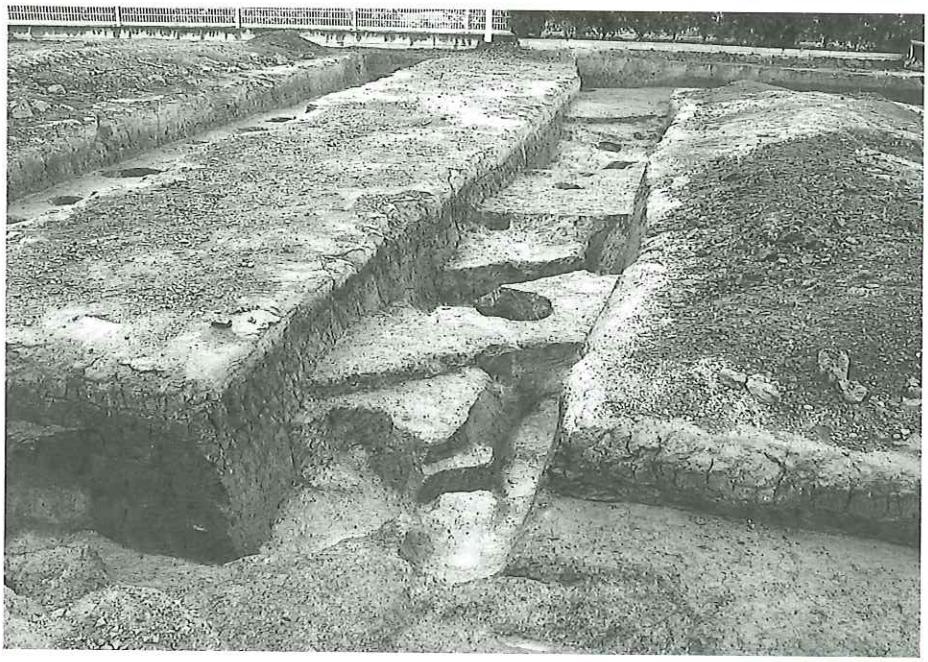
高岡原Ｊ遺跡調査
状況（北東から）

高岡原Ｊ遺跡Ⅴ区Ⅳ層
上面完掘状況（西から）

高岡原Ｊ遺跡Ⅰ区
完掘状況（北から）

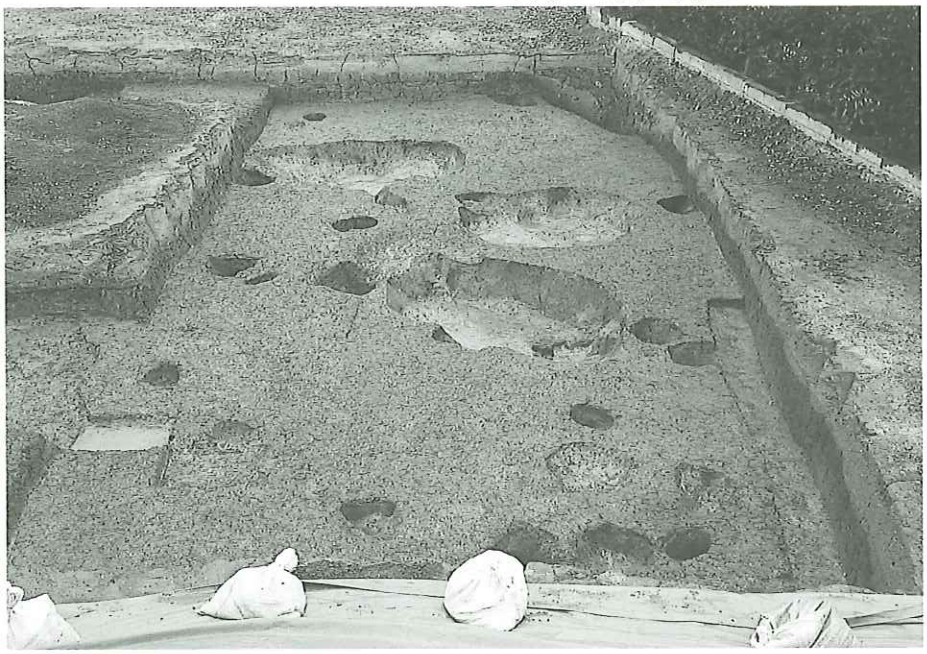


高岡原Ｊ遺跡Ⅱ区
完掘状況（北から）



高岡原Ｊ遺跡Ⅲ区
完掘状況（北から）

高岡原Ｊ遺跡Ⅳ区
完掘状況（北から）



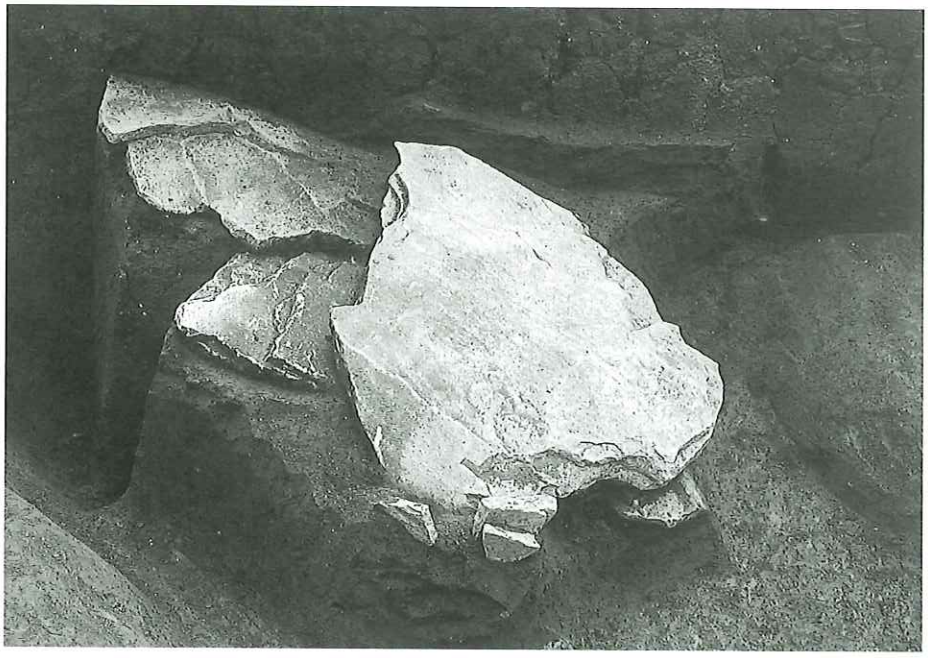
高岡原Ｊ遺跡Ⅴ区
完掘状況（西から）

高岡原Ｊ遺跡Ⅵ区
完掘状況（西から）

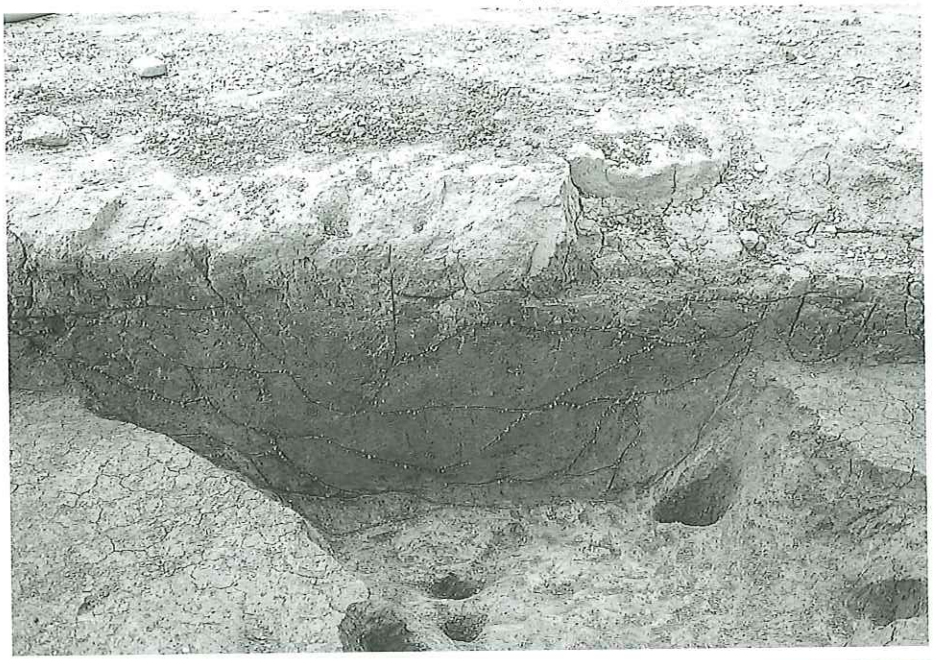
高岡原Ｊ遺跡Ⅳ区Ⅳ層上面
遺構検出状況（南から）

高岡原Ｊ遺跡Ⅳ区S-07
掘り下げ状況（南西から）

高岡原Ｊ遺跡Ⅳ区S-07
・08完掘状況（南西から）



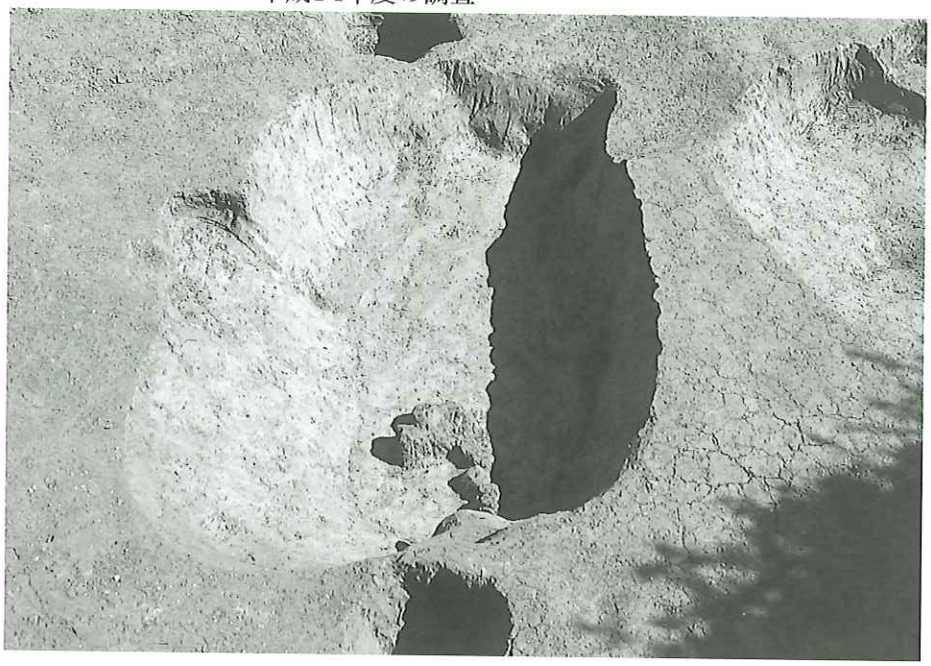
高岡原Ｊ遺跡Ⅳ区
S-08石材出状況



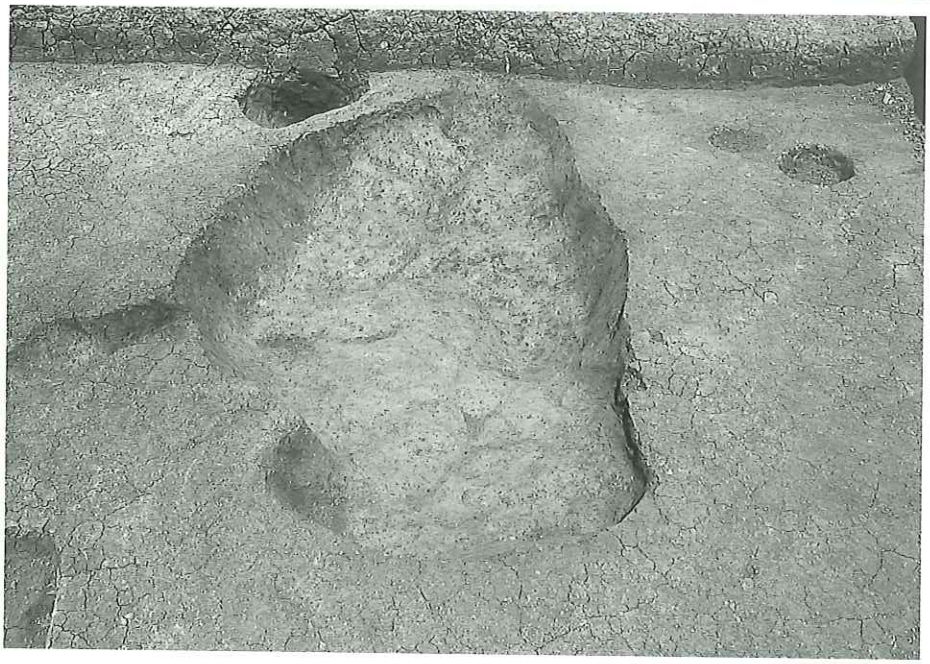
高岡原Ｊ遺跡Ⅲ区東壁
S-08土層堆積状況

高岡原Ｊ遺跡Ⅱ区
S-08完掘状況

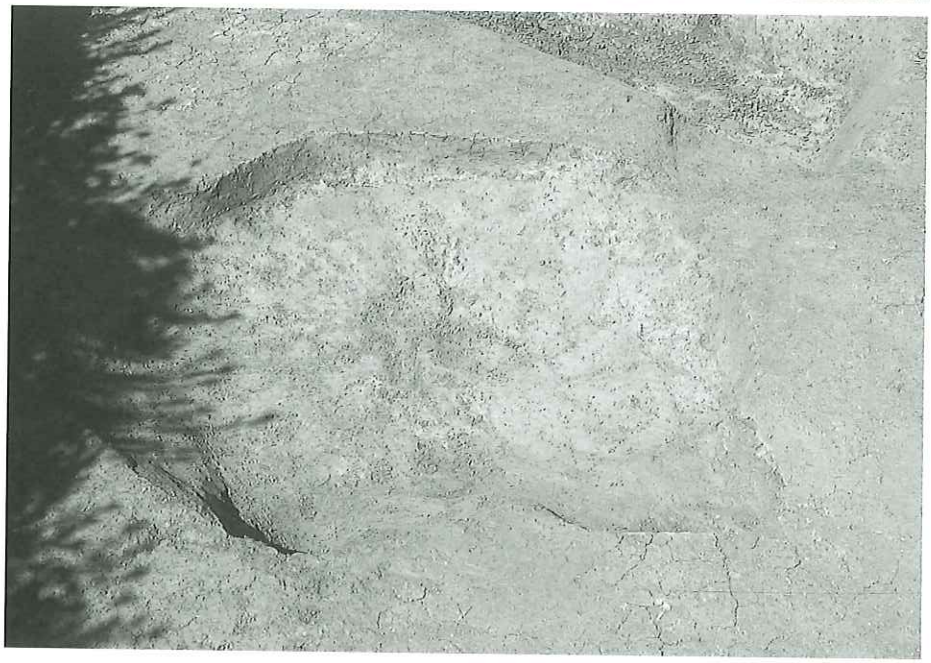
高岡原Ｊ遺跡Ⅵ区S-09
完掘状況（北から）



高岡原Ｊ遺跡Ⅴ区１号
土坑完掘状況（南から）



高岡原Ｊ遺跡Ⅴ区２号
土坑完掘状況（南から）



高岡原Ｊ遺跡Ⅴ区３号
土坑完掘状況（東から）

5　五郎丸遺跡（A地点）

所在地：山田字白石538-3

対象面積：330.00㎡

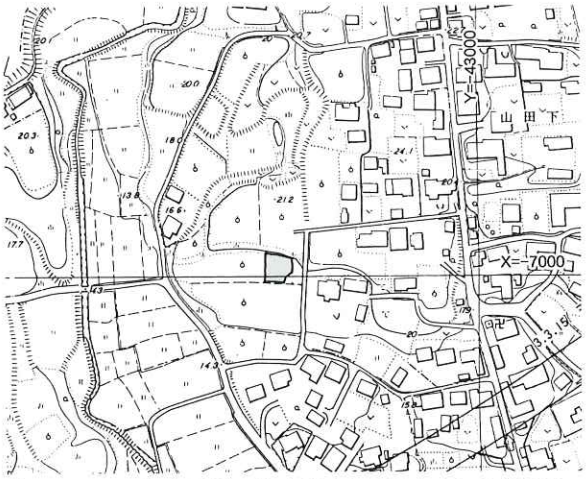
調査期間：14年6月6日～6月12日

担当者：古閑敬士

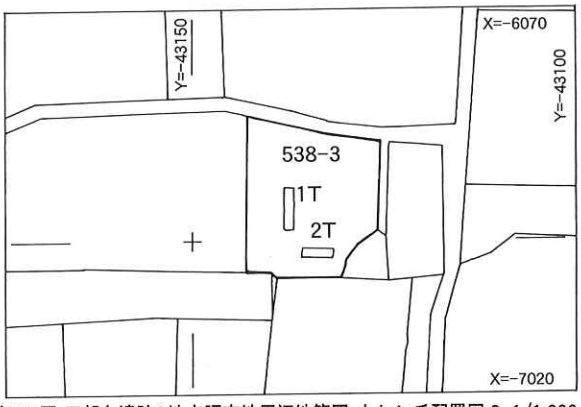
調査地は山田神社一帯の丘陵南西部分で、標高19m前後の地点に位置する。南隣の2地点はそれぞれ平成12年6月と10月に調査を行っている。この調査では弥生時代中期・後期の住居跡や土器、古代の遺物などが確認されている。

調査では、敷地内で2ヶ所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、1トレンチでは約40㎝下、2トレンチでは約60㎝下で中世の遺物包含層（Ⅲa層）を確認し、その下位に包含層と見られるⅢb層を確認した。遺構は確認できなかった。遺物は、弥生時代や古代・中世の土器が出土している。

調査後の措置は、慎重工事である。



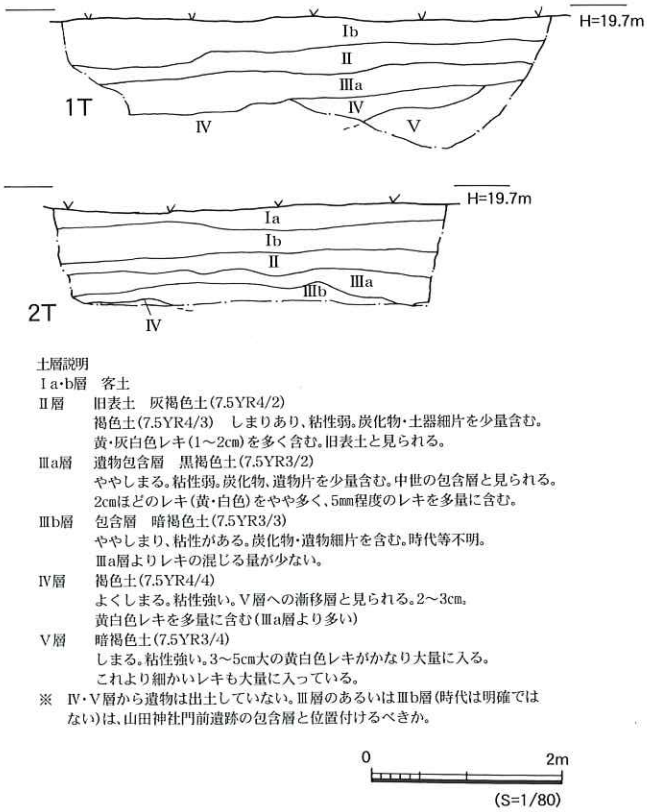
第104図　五郎丸遺跡A地点調査地位置図 S=1/5,000



第105図 五郎丸遺跡A地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

五郎丸遺跡A地点調査前状況（南から）

五郎丸遺跡A地点１T土層堆積状況



土層説明

Ⅰa･b層　客土

Ⅱ層　旧表土　灰褐色土(7.5YR4/2)
褐色土(7.5YR4/3)　しまりあり、粘性弱。炭化物・土器細片を少量含む。
黄・灰白色レキ(1～2㎝)を多く含む。旧表土と見られる。

Ⅲa層　遺物包含層　黒褐色土(7.5YR3/2)
ややしまる。粘性弱。炭化物、遺物片を少量含む。中世の包含層と見られる。
2㎝ほどのレキ(黄・白色)をやや多く、5㎜程度のレキを多量に含む。

Ⅲb層　包含層　暗褐色土(7.5YR3/3)
ややしまり、粘性がある。炭化物・遺物細片を含む。時代等不明。
Ⅲa層よりレキの混じる量が少ない。

Ⅳ層　褐色土(7.5YR4/4)
よくしまる。粘性強い。Ⅴ層への漸移層と見られる。2～3㎝。
黄白色レキを多量に含む(Ⅲa層より多い)

Ⅴ層　暗褐色土(7.5YR3/4)
しまる。粘性強い。3～5㎝大の黄白色レキがかなり大量に入る。
これより細かいレキも大量に入っている。

※　Ⅳ・Ⅴ層から遺物は出土していない。Ⅲ層のあるいはⅢb層(時代は明確ではない)は、山田神社門前遺跡の包含層と位置付けるべきか。

第106図 五郎丸遺跡A地点トレンチ土層図

6　狐ん路遺跡

(1)　調査に至る経緯

玉名市築地字池下1199-5において、専用住宅建設工事が計画された。しかし、工事予定地を含む周辺は、狐ん路遺跡の範囲に含まれることから、平成14年6月4日付けで文化財保護法第57条の2による届出がなされた。これを受け、玉名市教育委員会で6月21日から25日にかけて確認調査を実施したところ、弥生時代の住居跡などが検出された。このため取り扱いについての協議を行い、建物部分については基礎掘削が埋蔵文化財に対して影響を及ぼさないよう、一部工事設計を変更することで現状保存できることとなった。しかし、車庫部分などで掘削される部分については、発掘調査を実施することとなった。

(2)　調査の体制

発掘調査（平成14年度）

調査主体　玉名市教育委員会
調査責任　教育長　三次昭也
調査総括　教育次長　久多見澄夫
　　社会教育課長　牧野和明
　　社会教育課審議員兼課長補佐
　　西田道臣
調査事務　文化係長　岩永次郎
　　主事　髙田智華
調査担当　技師　田中康雄（本調査）
調査員　古閑敬士（確認調査）
発掘作業員　北睦美　藤好貴彦　古賀武子
大西ミツ子　西川弘子　小崎美子

整理作業（平成15年度）

調査主体　玉名市教育委員会
調査責任　教育長　三次昭也（至12月19日）
　　教育長　森　義臣（自12月22日）
調査総括　教育次長　久多見澄夫
　　社会教育課長　牧野和明
　　社会教育課審議員兼課長補佐
　　西田道臣
調査事務　文化係長　岩永次郎
　　主事　清田静香
報告書担当　技師　末永　崇
　　調査員　蜷父雅史
整理作業員　坂崎郷子　五野冨美子
早川イツエ　平野輝代　古賀武子

(3)　遺跡の位置及び歴史的環境

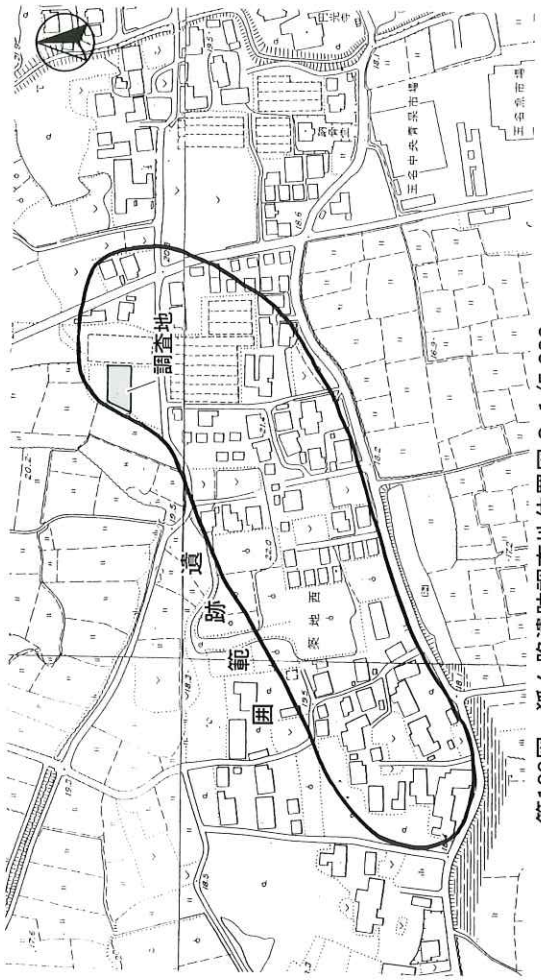
調査地は、小代山から南に延びる低丘陵上に位置する、標高22m程の地点である。遺跡周辺は全体的に緩やかな南への傾斜地であったとみられる。今回の調査地を含んだ、現在の集落を形成している部分が遺跡範囲であり、周辺の水田部分より地形的に高く、島状を呈す。遺跡の南側は特に低いようで、湿地帯が広がっている。

遺跡は、縄文時代から中世にかけての遺物散布地として周知されている。小代山南麓の低丘陵上には、弥生時代後期の集落が広範囲に存在していたようで、発掘調査での住居跡の検出例も多い。また、遺跡から南へ300mほどの地点に所在する今見堂遺跡では、都市計画街路の建設に伴う発掘調査で、弥生時代の遺構、遺物が検出されたため、現在の水田部分についても遺跡の広がりが予想される。

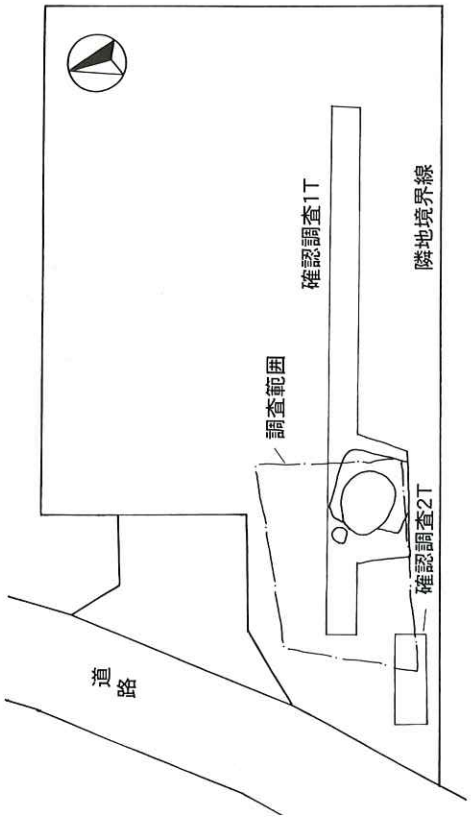
遺跡内は現在ほとんど宅地と畑に利用されているが、一部に土塁状の部分が確認される。遺跡の東側には中世居館跡の築地館跡が所在し、館に伴うとみられる土塁や堀も確認されている。築地館跡と狐ん路遺跡は同じ低丘陵上で隣接し、一連の景観を成しており、中世の段階では築地館との関連も考慮が必要であろう。

1. 西田遺跡
2. 狐ん路遺跡
3. 菊尾遺跡
4. 五郎丸遺跡
5. 古閑遺跡
6. 築地東遺跡
7. 浄光寺蓮華院境内遺跡
8. 東南大門遺跡
9. 築地市場遺跡
10. 松尾遺跡
11. 高岡原遺跡
12. 花水遺跡
13. 春出遺跡
14. 下立願寺遺跡
15. 玉名高校々庭遺跡
16. 岩崎原遺跡
17. 繁根木遺跡群

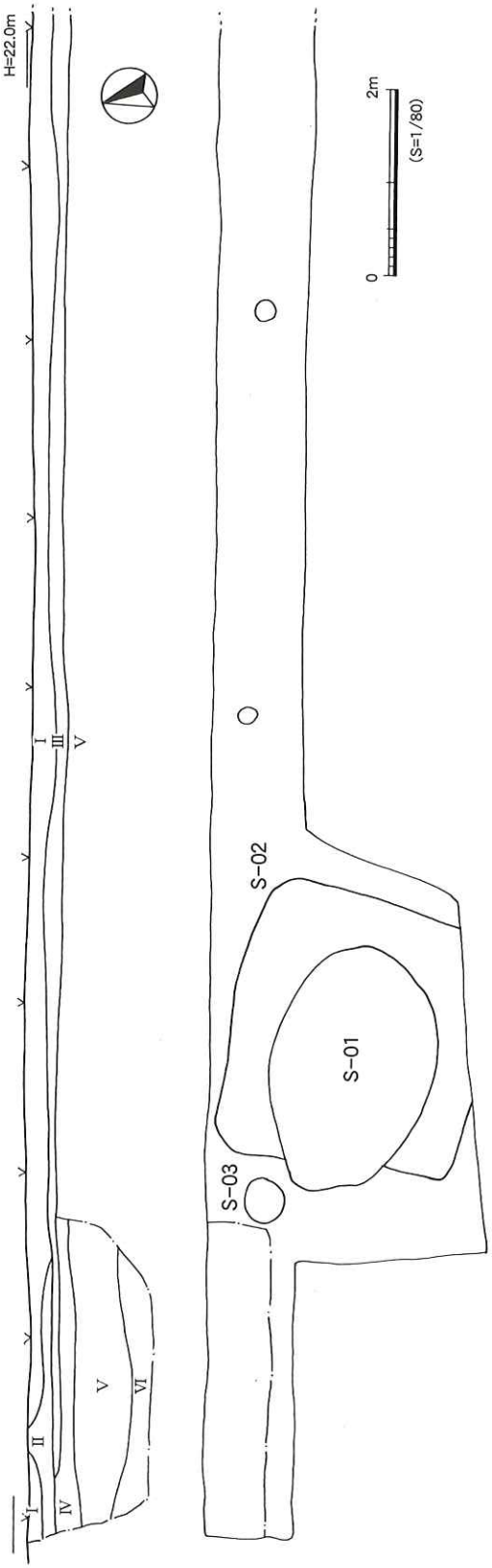
第107図　狐ん路遺跡周辺弥生時代主要遺跡分布図 S=1/20,000
（「熊本県遺跡地図」及び「菊池川下流域遺跡詳細分布図」より転載）



第109図　狐ん路遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第108図　狐ん路遺跡調査範囲確認調査位置図 S=1/300



第110図　狐ん路遺跡確認調査トレンチ実測図

(6)　遺構と遺物

1号土坑（S-01）

調査区北側にてⅣ層上面で検出した。平面は楕円形を呈し、1号住居跡を切る。長軸約2.5m、短軸約2.0m、検出面からの深さ約20cmを測る。覆土は黒褐色を呈し強く締まる。遺物は弥生時代の土器片が検出されたが、覆土の状況などから新しい掘り込みの可能性もある。

1号住居跡（S-02）

調査区北側にてⅣ層上面で検出した。一辺が約2.9mの正方形を呈する住居跡で、検出面からの深さ約25cmを測る。覆土の上位は1号土坑に切られる。西南の一辺に深さ30cmほどの掘り込みと、中央に炉とみられる浅い掘り込みを検出した。覆土中から弥生時代後期の土器が出土した。（第112図）

2号土坑（S-03）

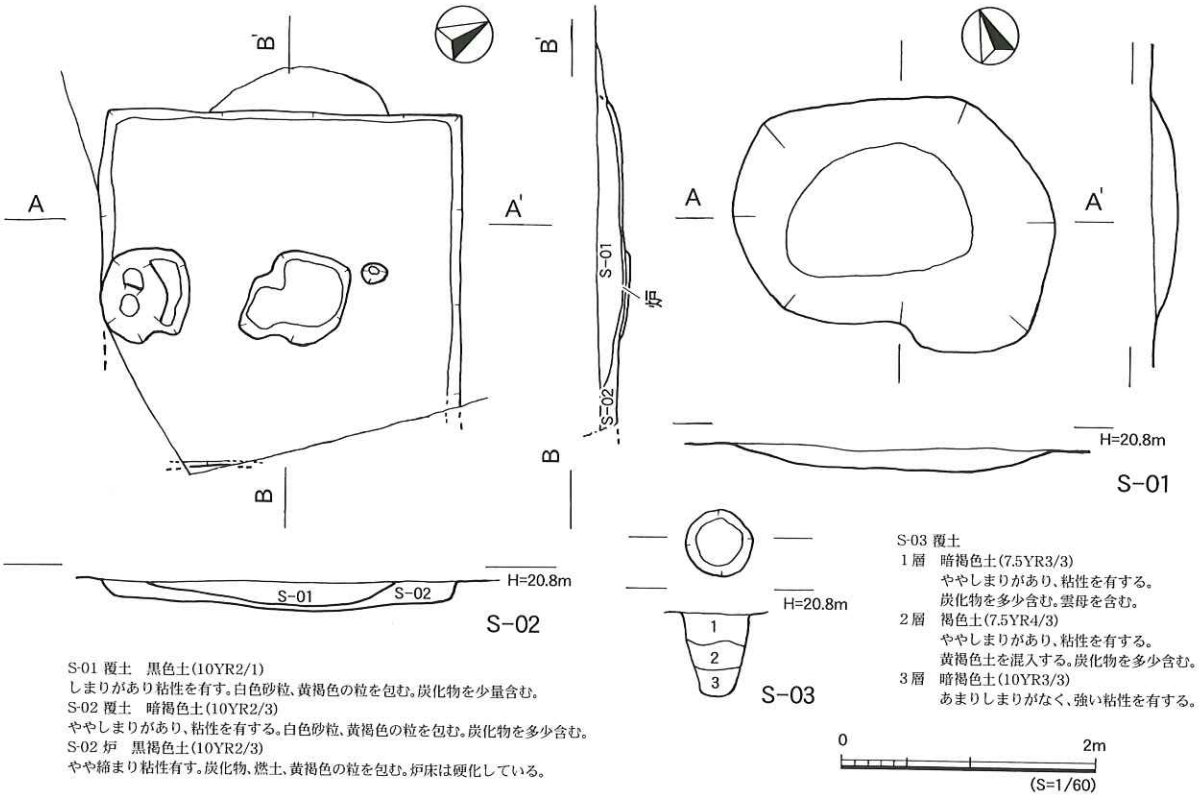
調査区中央付近にてⅣ層上面で検出した。直径約60cmのほぼ円形を呈し、検出面からの深さ70cmほどである。覆土は3層に区分される。柱穴とみられる。

(7)　まとめ

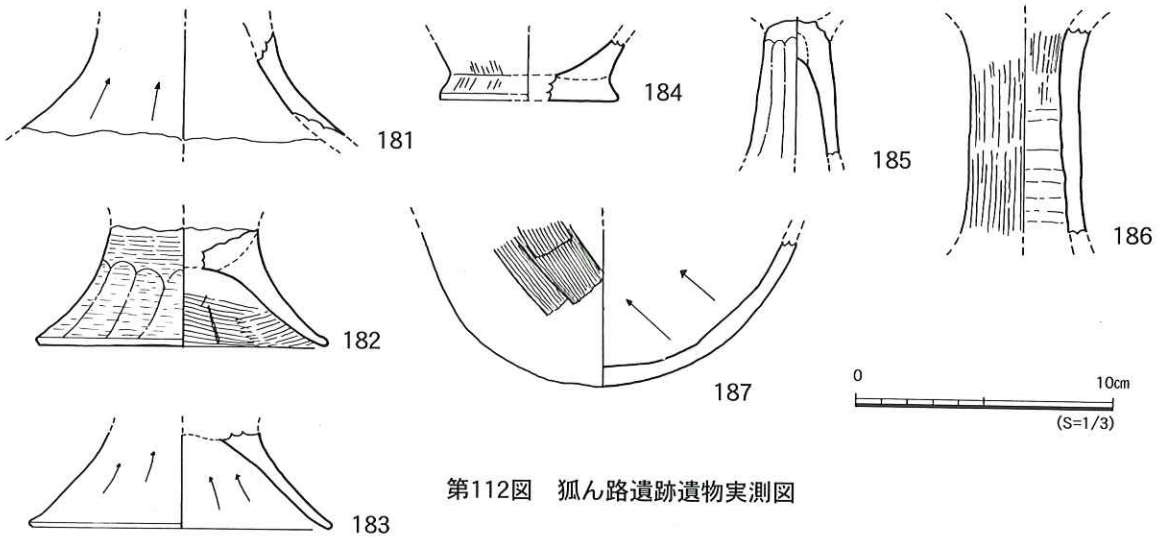
今回の調査では、弥生時代後期とみられる住居跡などを検出した。住居自体については、中央に炉を置き、一辺には土坑を配置する、弥生時代後期の住居の特徴を示す要素があるが、規模などを考慮すると、対面する二辺にはベッド状遺構があった可能性も指摘できる。周辺や層位の状況などから、住居のベッド状遺構の部分まで既に削平されているとも考えられる。

遺跡の内容については、以前より縄文時代から中世にかけての遺跡として把握されてきており、今回の調査により、住居跡が確認されたことで弥生時代後期には集落が存在することが指摘できるようになった。また、遺跡内の低丘陵部分にはさらに集落が広がっていることが予想される。

狐ん路遺跡遠景（西から）



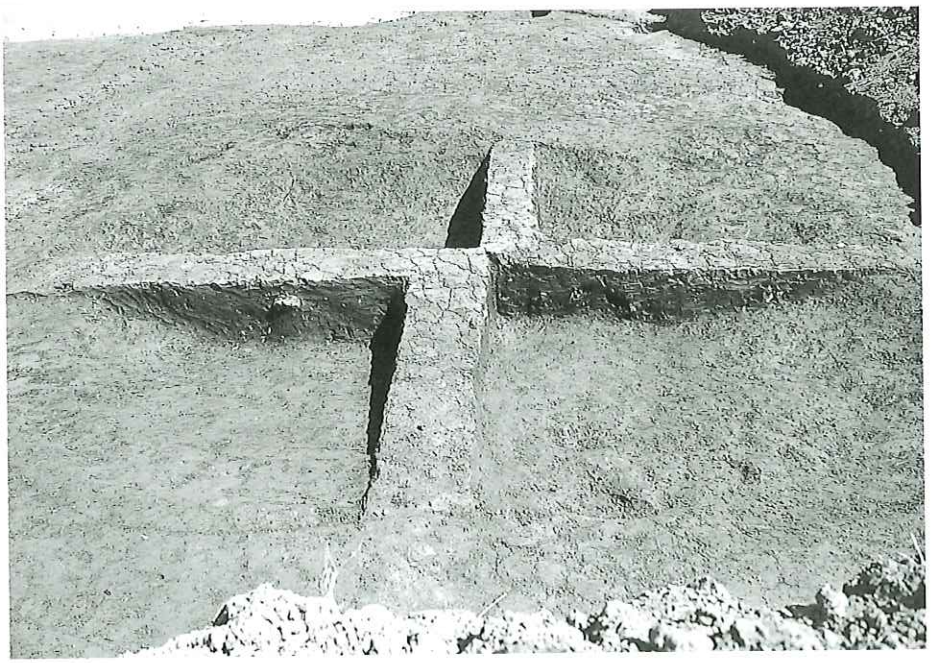
第111図　狐ん路遺跡遺構実測図



第112図　狐ん路遺跡遺物実測図

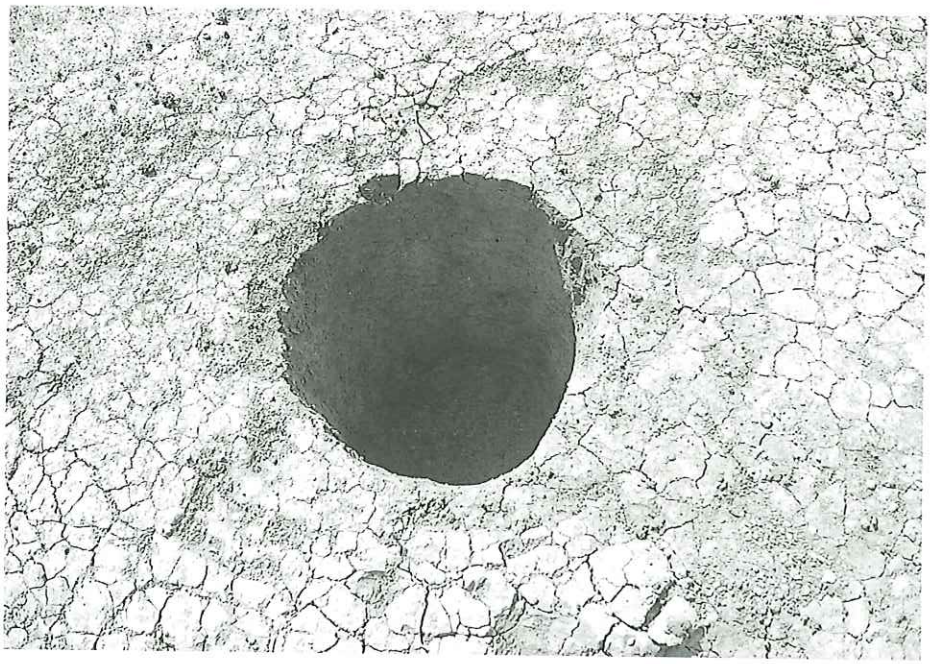
狐ん路遺跡調査地
周辺（工事後西から）

狐ん路遺跡調査
前状況（西から）



狐ん路遺跡S-01掘り
下げ状況（南から）

狐ん路遺跡S-02
完掘状況（東から）



狐ん路遺跡S-03
完掘状況（東から）

狐ん路遺跡調査区
完掘状況（東から）

7　西の山古墳群

所在地：築地字西山954-40

対象面積：1,650.00㎡

調査期間：14年7月2日

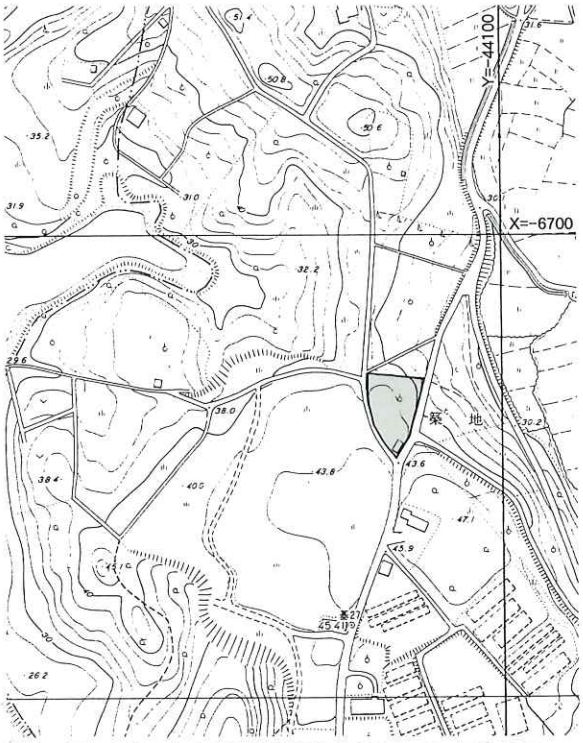
担当者：古閑敬士

調査地は、小代山から南に延びる丘陵上に位置する、標高44m程の地点である。

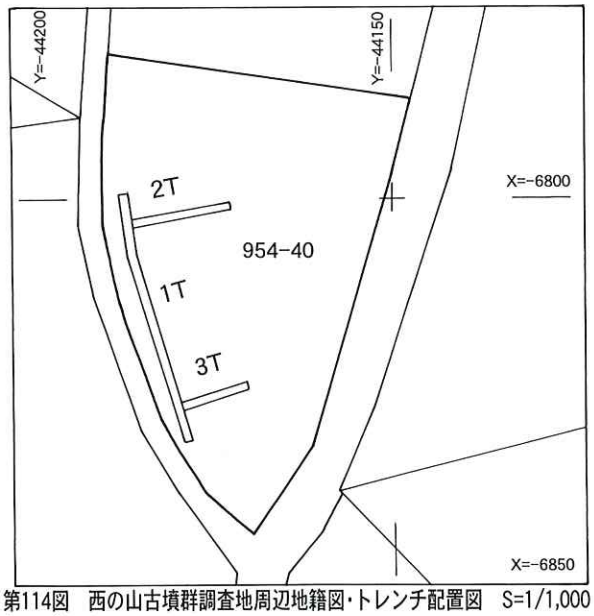
調査では、敷地内に南北33mのトレンチを１本と東西方向に13mと9mのトレンチ2本を設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、掘削した範囲においては遺構・遺物などは確認されなかった。

旧地形は東へのややきつい斜面で、敷地南西側の高さに合わせて盛土されていた。

調査後の措置は、慎重工事である。



第113図　西の山古墳群調査地位置図　S=1/5,000

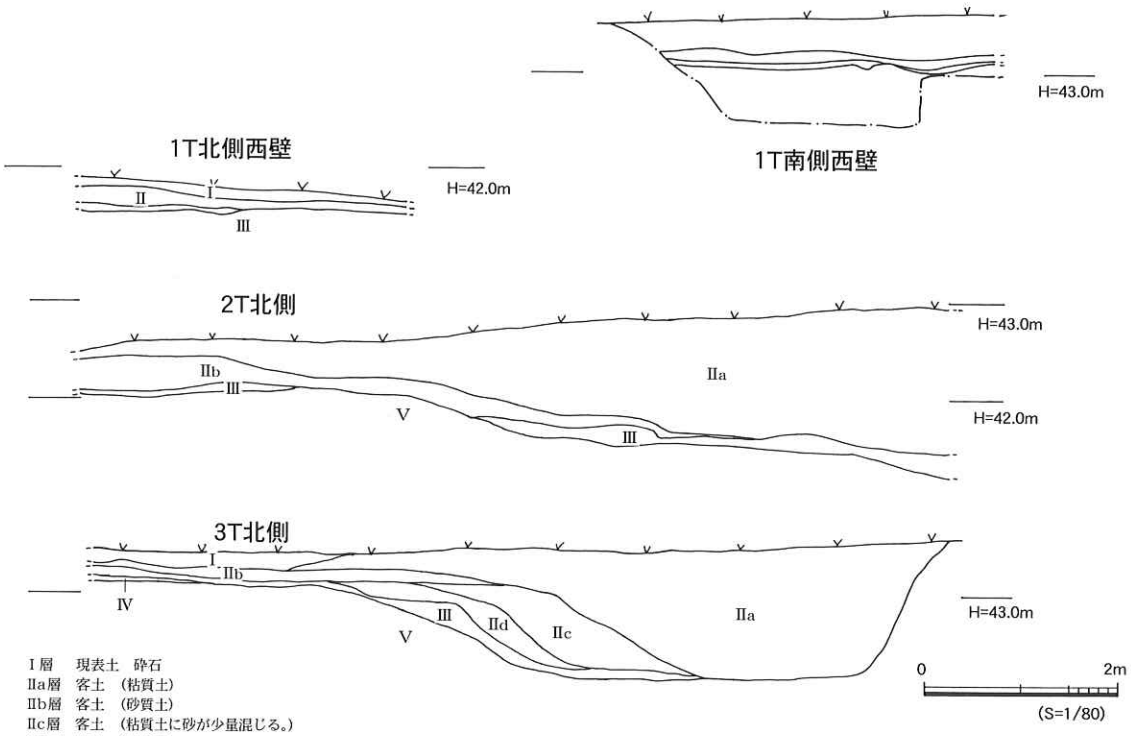


第114図　西の山古墳群調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

西の山古墳群調査地（北東から）

西の山古墳群調査地（西から）

西の山古墳群調査地（南から）



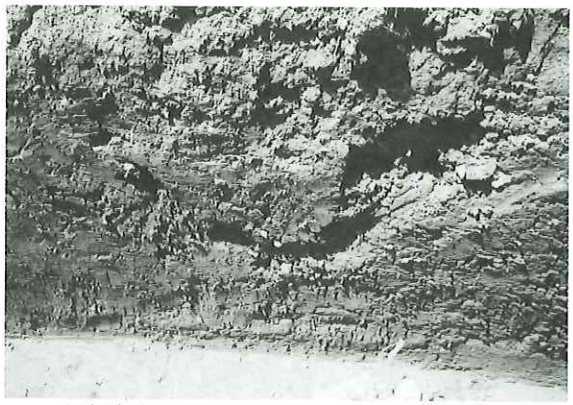
Ⅰ層　現表土　砕石
Ⅱa層　客土　(粘質土)
Ⅱb層　客土　(砂質土)
Ⅱc層　客土　(粘質土に砂が少量混じる。)
Ⅱd層　客土　(砂質土)
Ⅲ層　旧表土　真砂や黒色土が混じる。ビニール類を含む。
Ⅳ層　明赤褐色土(5YR5/6)　やや締まり粘性を有す。3～5cmの花崗岩・黄褐色粘質土・さらに細かいレキなど含む。
Ⅴ層　真砂

第115図　西の山古墳群トレンチ土層図

西の山古墳群１T(北から)

西の山古墳群２T(東から)

西の山古墳群３T(西から)


西の山古墳群３T土層堆積状況

8　長福寺跡

所在地：高瀬548

対象面積：862.02㎡

調査期間：14年8月7日～8月9日

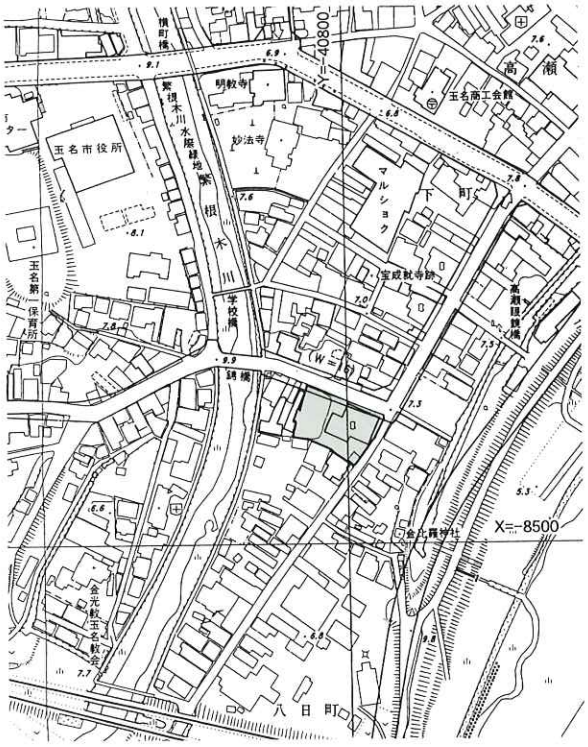
担当者：蜑父雅史

調査地は、菊池川と繁根木川に挟まれた旧高瀬町のやや南、標高約8mの地点に位置している。現況は、肥後銀行の駐車場であり、アスファルト舗装されていた。

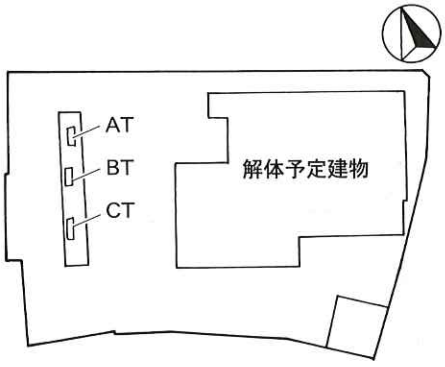
調査では、駐車場のほぼ中央に南北方向1本のトレンチを設定し、調査を行ったが、地表面より約80㎝下までは、山砂の盛土や以前の建造物のコンクリート基礎が入り、掘削が困難であった。そのため、さらに掘削が可能な場所3ヵ所を深掘りして確認した。

その結果、約1m下に焼土層があり、その上層が平均して、建築材などの瓦礫層であった。明治10年の西南戦争に伴う家屋などが倒壊した層の可能性が強い。一ヵ所は、3m下まで掘削したが、焼土層の下は、川砂と粘質土層がほぼ交互に堆積しており、川の氾濫、洪水が繰り替えし堆積したものと考えられる。その堆積層には、摩耗した瓦器片や近世陶磁器が含まれる。今回、確認できた最深部の遺物は、2.5m下からの近世陶磁器片であり、少なくとも近世以前の当地は、かなり低かったと思われる。

調査後の措置は、慎重工事である。



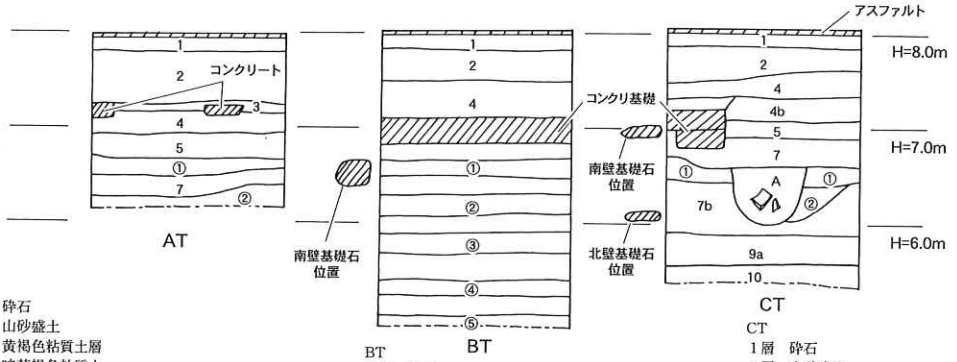
第116図　長福寺跡調査地位置図　S=1/5,000



第117図　長福寺跡調査地・トレンチ配置図　S=1/1,000

長福寺跡調査前状況(北から)

長福寺跡調査前状況(南から)



AT
1層　砕石
2層　山砂盛土
3層　黄褐色粘質土層
4層　暗茶褐色粘質土
5層　焼土(火災住居跡)
7層　暗褐色粘質土(瓦片など混入)
※3層は他のトレンチでは確認できない。
以前の建造物の基礎工事に伴うものと思われる。

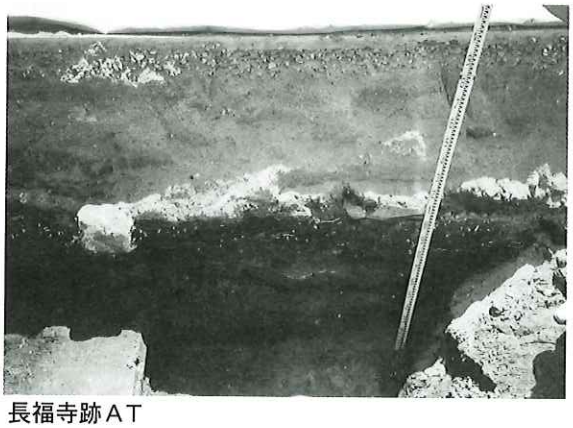
BT
1層　砕石
2層　山砂盛土
4層　暗茶褐色粘質土(瓦礫含む)
5層　焼土層
7層　暗茶褐色粘質土層
8層　ローム系橙色粘質土(礫含む)
9-a層　灰褐色粘質土(陶磁器片2点)
9-b層　灰褐色粘土層

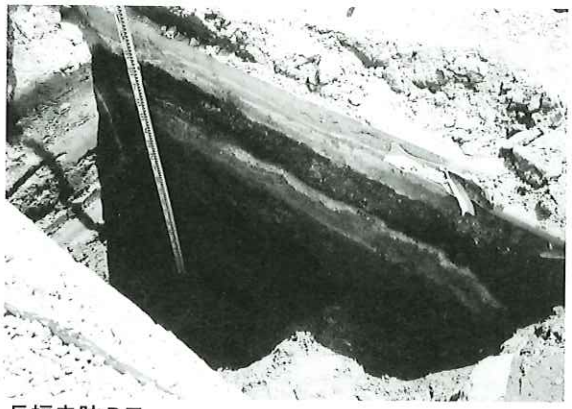
CT
1層　砕石
2層　山砂盛土
4層　暗茶褐色粘質土層
4-b層　暗茶褐色粘質土(瓦入)
5層　焼土層
7層　暗茶褐色粘質土
7-b層　暗褐色粘質土層(陶磁器、貝殻混入)
9-a層　灰褐色粘質土層
10層　灰茶褐色粘質土

※1-CTの5層の焼土は、他の焼土層と異なる。黄褐色をしており、火災の受け方が違ったとみられる。木炭の層も入らない。
※ATの4･5層は土色･土質は異なるが、火災住居に伴うもので、焼失し倒壊した跡に屋根瓦、漆喰壁が上層に落ちているものと判断される。
※BTの4層は、以前の建造物(コンクリート基礎上)に伴うもので、火災住居(5層)のものとは時期が違う。瓦礫を含むが、昭和の新しい物である。
※①～⑤層はすべて砂層で、ほぼ同じ特徴をもっている。川の氾濫に伴う堆積と思われ、中に建物も混入している。何度か洪水が繰り返されているらしい。
※9-a層に含まれる陶磁器片が、今回確認できた最古のものとなる。
※BTで中世の瓦質土器片を採集したが、かなり磨耗しており、洪水で流されたものと思われる。
※7-b層は、大幅な埋め立てによるものと思われ、全体的に撹拌されている。陶磁器片、貝殻など生活のごみが、廃棄されている部分もある。
※①層から掘り込まれたは、漆喰原材が大量に入り、瓦片が混じる。
※部分的に凝灰岩製の基礎石が、埋込まれたところがある。
※10層は他トレンチでは見られない、かなりしまりが強く、遺物も混入しないので、旧地表面、もしくは旧川床と考えられる。

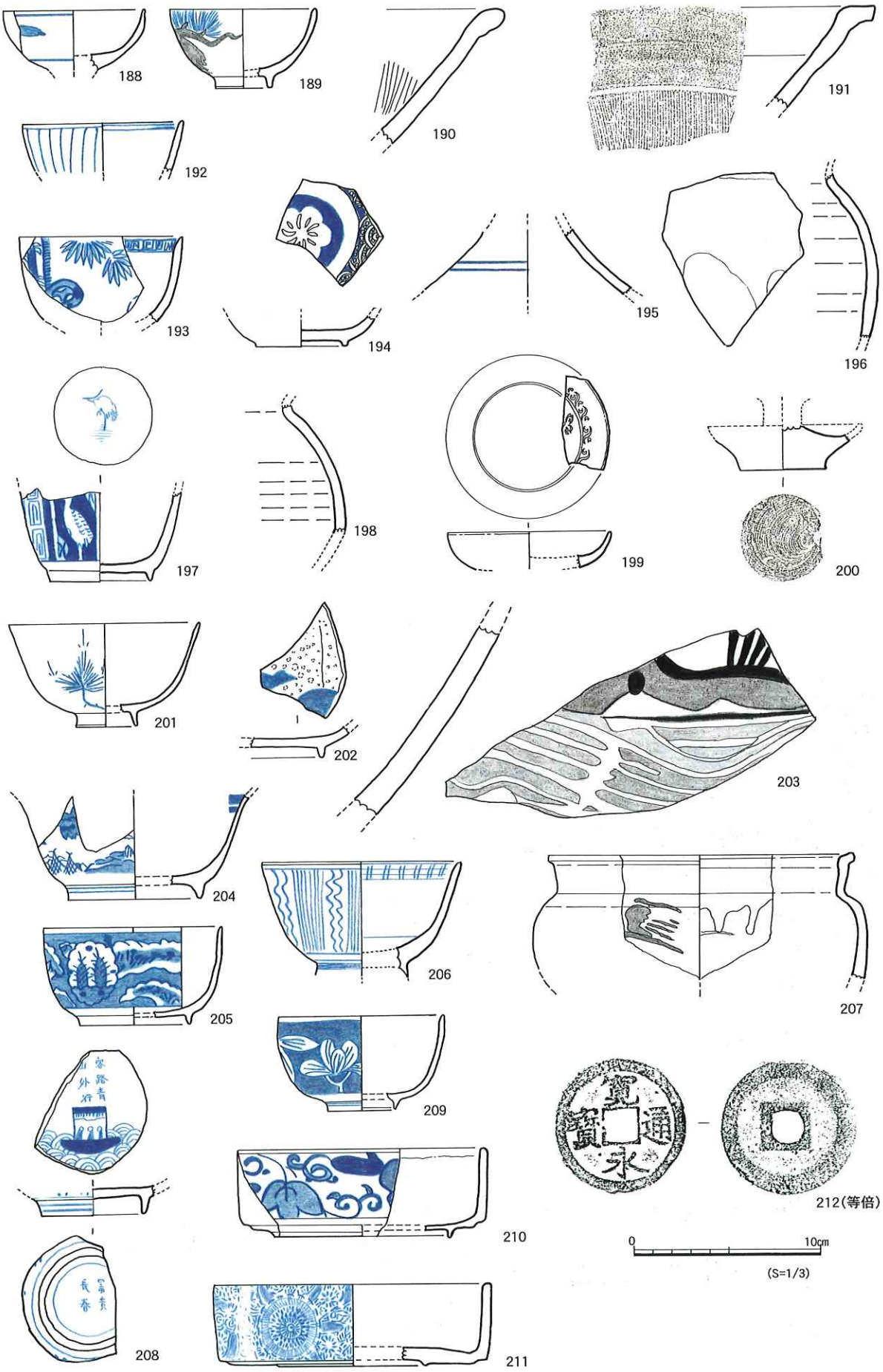
第118図　長福寺跡トレンチ土層図

長福寺跡調査状況(北から)


長福寺跡ＡＴ


長福寺跡ＢＴ

長福寺跡ＣＴ



第119図　長福寺跡遺物実測図

203

209

205

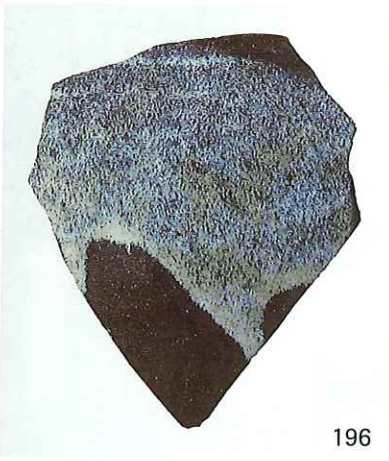
211

208

189

206

208


196

207

長福寺跡出土遺物

9　高瀬本町通遺跡

所在地：高瀬字下町511-3

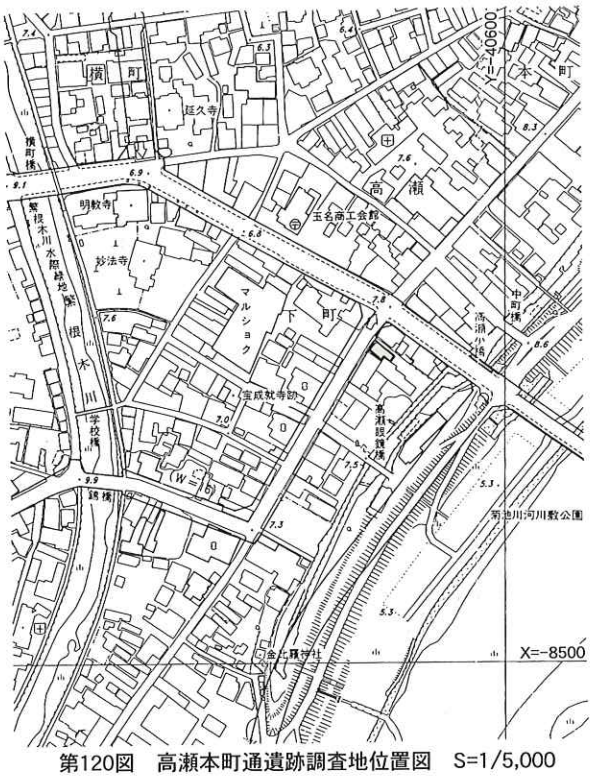
対象面積：100.11㎡

調査期間：14年８月12日

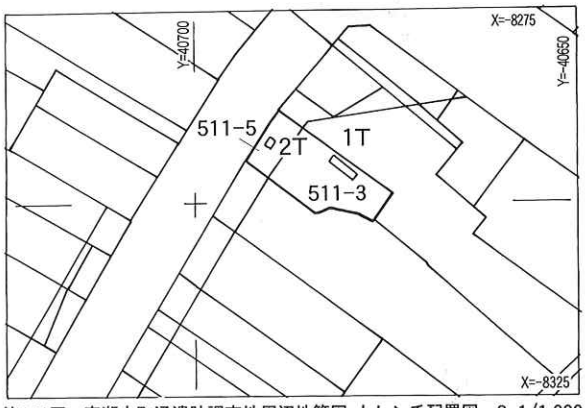
担当者：蜷父雅史

調査地は、菊池川右岸の自然堤防上に位置し、標高約７ｍの地点である。現況は、建物を解体後、整地されていた。

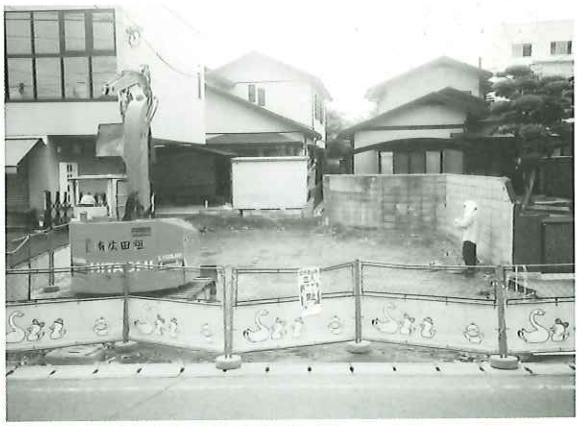
届出地に、１ヶ所のトレンチ（東西1m×4m）を設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、１・２層は現代の整地層であり、約30㎝下の３層で、明治10年の西南戦争による焼失家屋の跡とみられる部分を確認した。多量の焼土と二次焼成を受けた瓦が出土した。『事変西南之役』（県立図書館蔵）に詳細な調書が残っており、当地が火災を受けたことが記録されている。また、焼土層の下位には、凝灰岩を加工した礎石列があった。今回、時代が特定できる明確な遺物は出土しなかったが、近世に建造された家屋が、明治10年に焼失したと考えられる。さらに礎石の直下には、約40～70㎝四方の安山岩自然石が標高約6.4mのレベルにほぼ頭面をそろえて敷き詰めてあった。この敷石の下層は川の氾濫によるとみられる砂質層であり、地盤沈下防止のための根石と判断される。この根石は、黄褐色のローム土（客土）を約15㎝固めた上に置かれていた。また、基礎工事時に立会を行い、さらに石列の一部を確認している。



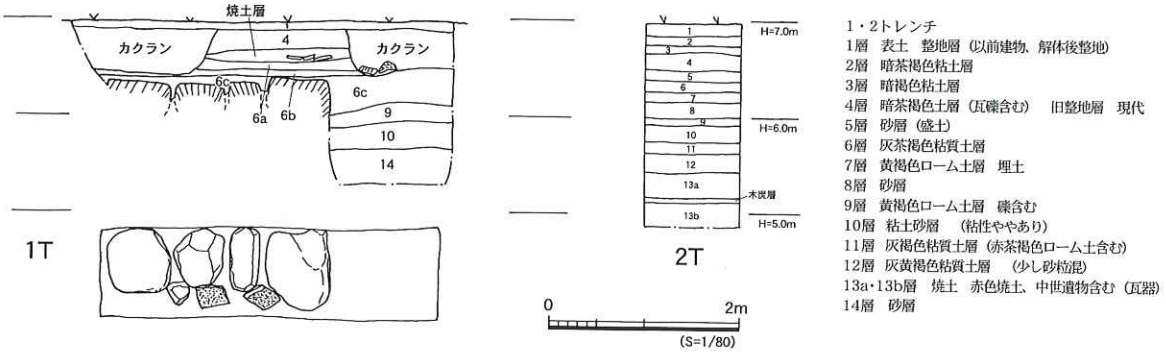
第120図　高瀬本町通遺跡調査地位置図　S=1/5,000



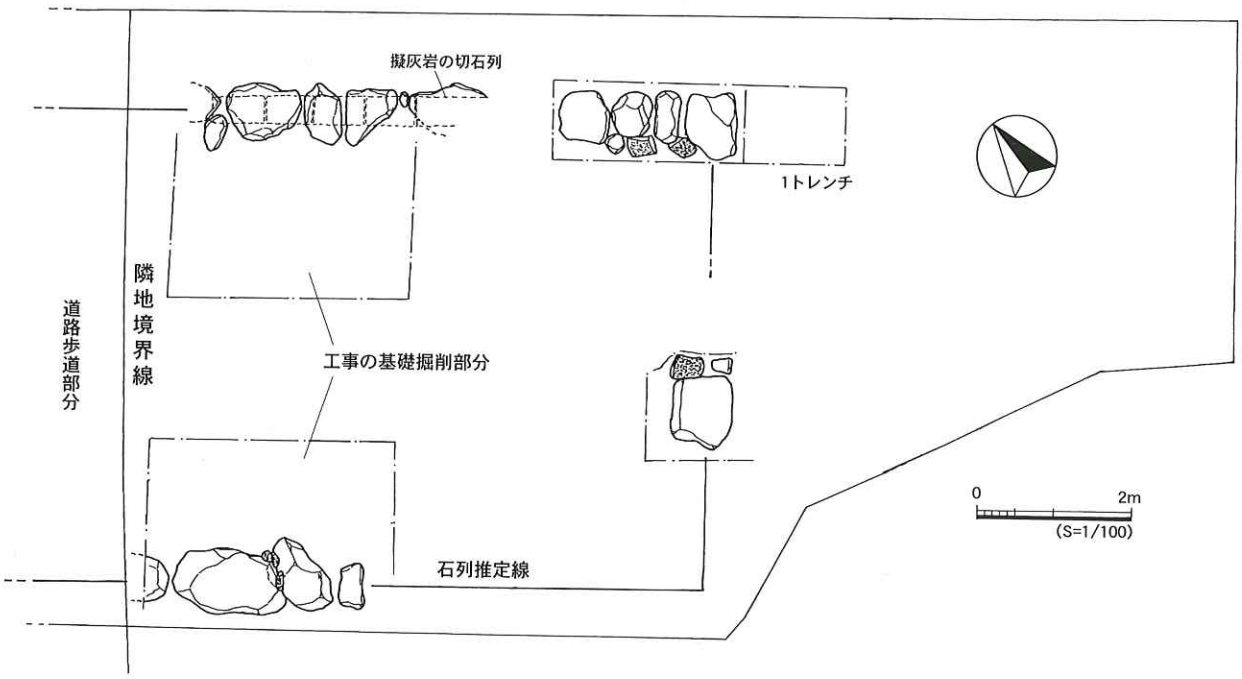
第121図　高瀬本町通遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000



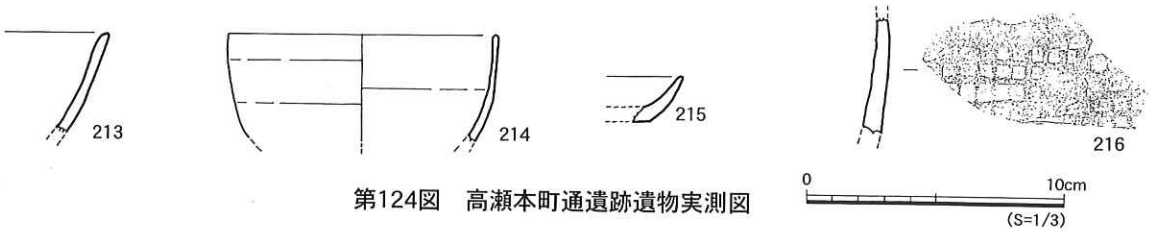
高瀬本町通遺跡調査前状況（西から）



第122図　高瀬本町通遺跡トレンチ実測図



第123図　高瀬本町通遺跡石列配置図



第124図　高瀬本町通遺跡遺物実測図

高瀬本町通遺跡１Ｔ石列検出状況

高瀬本町通遺跡１Ｔ土層堆積状況

１０ 伊倉宮の後遺跡

所在地：伊倉北方字宮の後2668,2700内

対象面積：744.57㎡

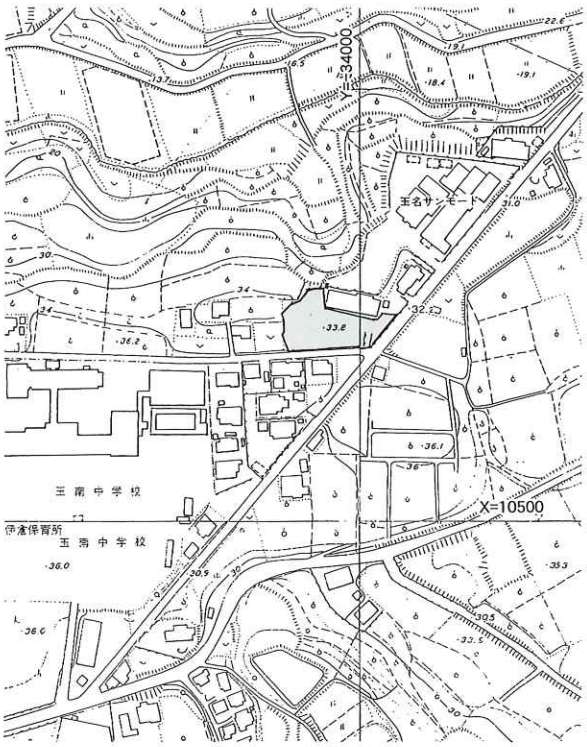
調査期間：14年９月10日

担当者：大倉千寿

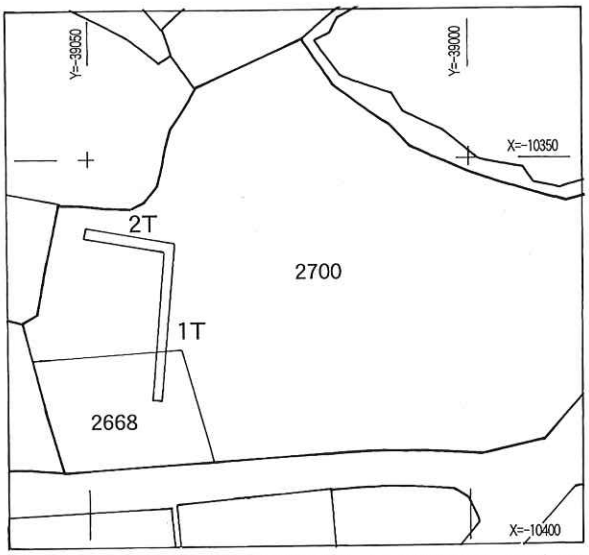
調査地は、伊倉丘陵性台地第1段丘の標高約34m付近に位置する。周辺の地形は若干の起伏があるが、当地の北側は緩やかに傾斜している斜面を果樹園として利用しており、わずかに土器片が散布していた。

調査では、既に宅地造成されている届出地にＬ字状にトレンチを設定して埋蔵文化財の確認を行った。その結果、Ⅰ層は宅地造成の際の整地層を含む表土、Ⅱ層はそれ以前の旧耕作土、Ⅲ層は部分的に堆積しており、畑地造成の際の整地層であると考えられるが、わずかに中世の土師器片が出土した。Ⅳ層は褐色のローム層で無遺物層と判断される。１トレンチの南側部分の、地表面から40cm程下のⅣ層上面で溝状の遺構を確認した。覆土の上層はⅡ層と酷似しており、畑地として造成される直前まで溝として機能していたことが考えられるが、遺物がほとんどなく、時期の特定は困難であった。また、この溝状遺構は１トレンチに直交するように検出されたため、ほぼ東西方向に延びていることが予想されるが、１トレンチの南端、地表面から１ｍ程下に水道管が布設されており、これ以上のトレンチ掘削は不可能で、方向や規模は確認できなかった。遺物は縄文～弥生時代の石器や土器などを検出した。（第128図）

調査後の措置は、慎重工事である。

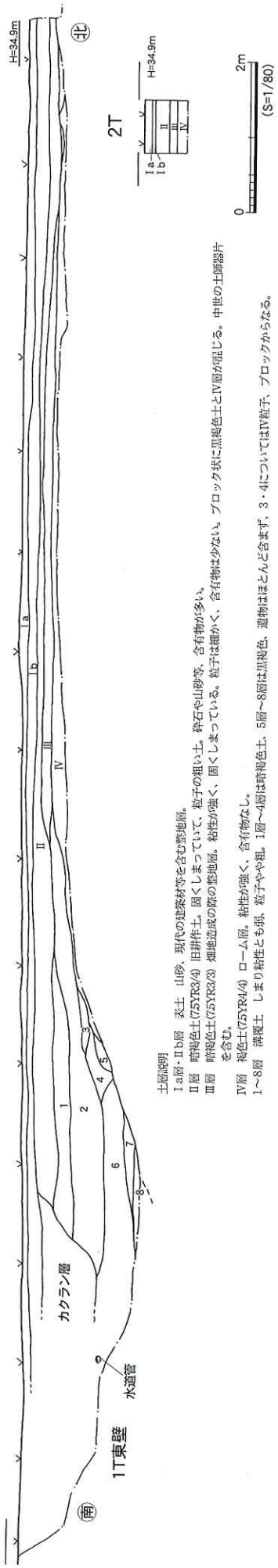


第125図　伊倉宮の後遺跡調査地位置図　S=1/5,000



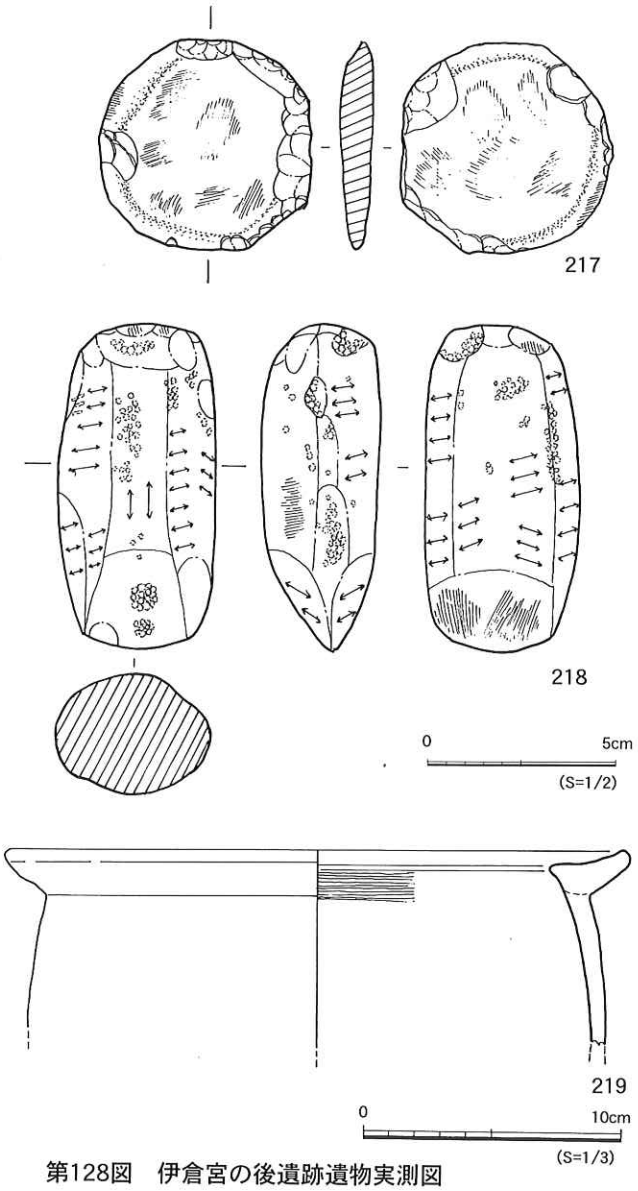
第126図　伊倉宮の後遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

伊倉宮の後遺跡調査状況（東から）

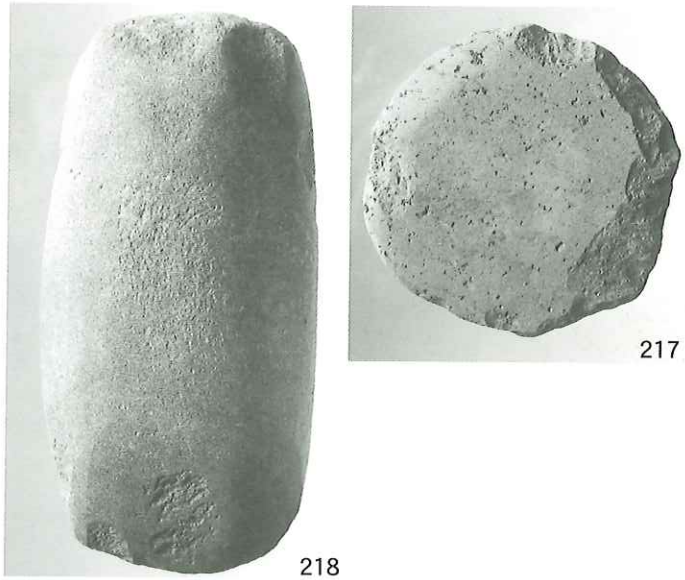


土層説明
Ⅰa層・Ⅱb層　表土　山砂、現代の建築材等を含む整地層。
Ⅱ層　暗褐色土(75YR3/4) 旧耕作土。固くしまっていて、粒子の粗い土。砕石や山砂等、含有物が多い。
Ⅲ層　暗褐色土(75YR3/3) 畑地造成の際の整地層。粘性が強く、固くしまっている。粒子は細かく、含有物は少ない。ブロック状に黒褐色土とⅣ層が混じる。中世の土師器片を含む。
Ⅳ層　褐色土(75YR4/4) ローム層。粘性が強く、含有物なし。
1～8層　溝覆土　しまり粘性とも弱。粒子やや粗。1層～4層は暗褐色土。5層～8層は黒褐色。遺物はほとんど含まず、3・4についてはⅣ粒子、ブロックからなる。

第127図　伊倉宮の後遺跡トレンチ土層図



第128図　伊倉宮の後遺跡遺物実測図



１１　亀甲遺跡

所在地：亀甲上ェ畑187-3

対象面積：399.55㎡

調査期間：14年10月４日

担当者：大倉千寿

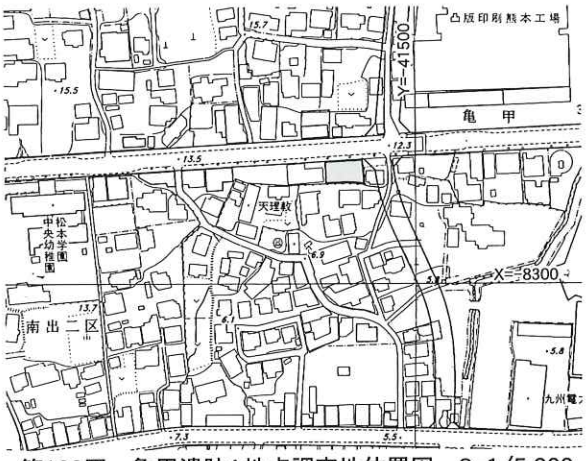
調査地は、国道208号線沿線、現玉名市街地のほぼ中央部に位置し、玉名台地第３段丘の最南端、標高12.3mの地点である。玉名平野との境界にあたる傾斜地に盛土を行い、宅地として造成されていた。

今回の工事は、事務所の新築工事で、南側部分に、設計ＧＬ（現況ＧＬ-20cm）より約1.5mの切土を行い、鉄筋コンクリートの半地下状の建物を建築する。基礎掘削は90cmである。

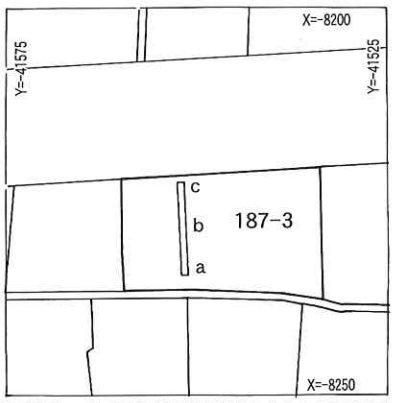
今回、届出地の１ヵ所に南北12.5mのトレンチを設定し、基礎掘削深度に合わせて、0.9～2.05mまで埋蔵文化財の確認を行ったが、全て盛土で、瓦礫やビニール等が混入していた。また、数回にわたって盛土を行っているものと考えられる。

遺物は盛土層から近・現代の陶磁器片や弥生土器片が検出された。（第131図）

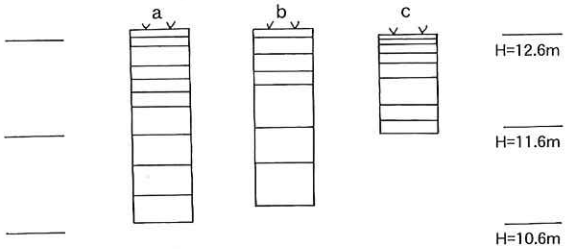
調査後の措置は、慎重工事である。



第129図　亀甲遺跡A地点調査地位置図　S=1/5,000

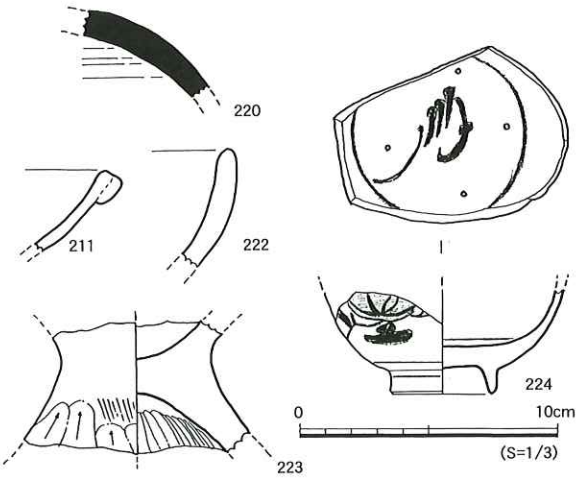


第130図　亀甲遺跡Ａ地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000



第131図　亀甲遺跡Ａ地点トレンチ土層図

亀甲遺跡Ａ地点調査地（東から）



第132図　亀甲遺跡Ａ地点遺物実測図

１２　五郎丸遺跡（Ｂ地点）

所在地：山田字白石533-1

対象面積：1,156.00㎡

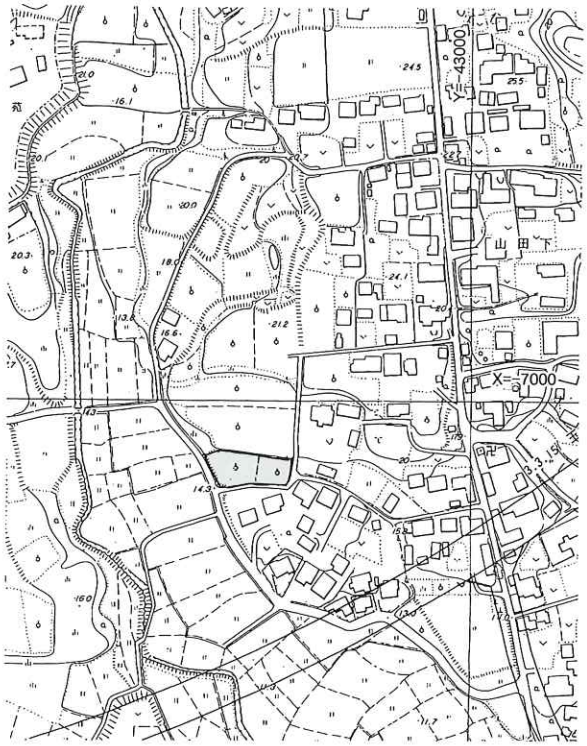
調査期間：14年12月25日

担当者：古閑敬士

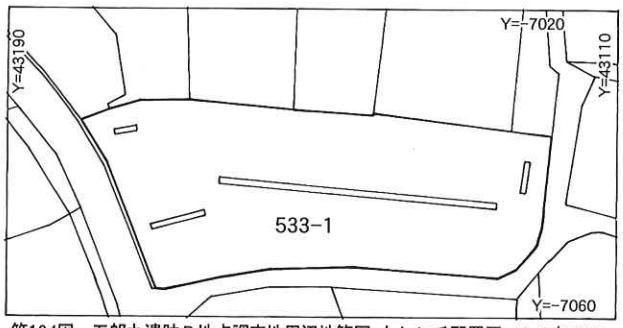
調査地は、山田の集落が所在する丘陵の西側裾部、標高15m程の地点である。敷地は、本来は西側への傾斜地であったとみられるが、既に造成されて畑として利用されていた。

調査では、敷地内に４ヶ所トレンチを設定し、重機により掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、耕作土の直下は無遺物層とみられる砂質土であり、遺構・遺物は検出されなかった。敷地内は、既に無遺物層まで削平されており、遺跡は既に消滅していると判断される

調査後の措置は、慎重工事である。



第133図　五郎丸遺跡Ｂ地点調査地位置図　S=1/5,000



第134図　五郎丸遺跡Ｂ地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

五郎丸遺跡Ｂ地点遠景（南から）

五郎丸遺跡Ｂ地点近景（西から）

五郎丸遺跡Ｂ地点近景（東から）

１３　蓮華遺跡

所在地：築地字南大門2243-1

対象面積：440.46㎡

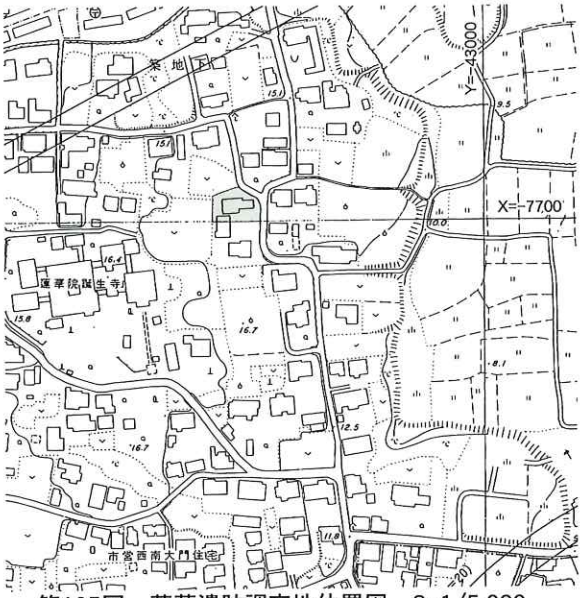
調査期間：15年１月９日

担当者：末永崇

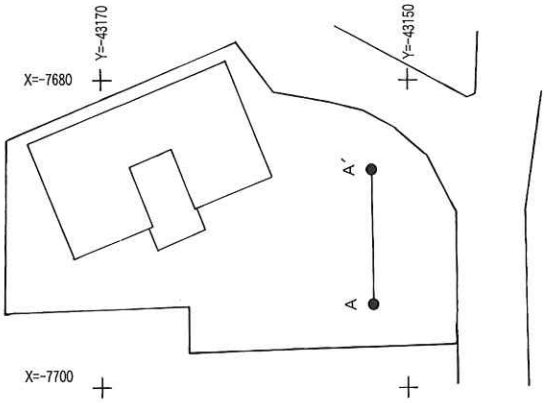
調査地は、小代山から緩やかに南に延びる低丘陵上に位置し、標高13m程の地点である。

調査区周辺は、弥生時代から中世にかけての遺跡が多く所在する。また、おおむね南北350m、東西250m程の範囲で道路が方形に巡っており、その範囲は中世に存在した浄光寺蓮華院の寺域であったと推定されている。

調査では、共同住宅建設に伴い一部駐車場部分が掘削されていたため、その部分の土層を観察した。その結果、敷地内は宅地化に伴い削平されているようであるが、掘り込みを１ヶ所確認した。断面での幅約２m、検出面からの深さ約50cmを測る。遺物は検出されなかったが、覆土の状況からは近現代の掘り込みの可能性が考えられる。

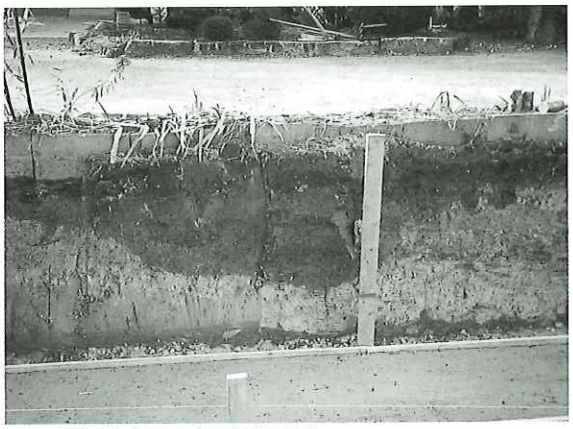


第135図　蓮華遺跡調査地位置図　S=1/5,000

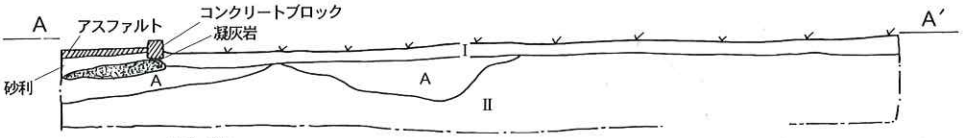


第136図　蓮華遺跡断面位置図（S=1/500）

蓮華遺跡調査地（南東から）



蓮華遺跡調査地土層堆積状況



Ⅰ層　表土
Ⅱ層　灰色粘性土　ややしまり、粘性有す。部分的に黄色がかり、砂粒含む。遺物含まない。
A層　暗褐色土(7.5YR3/3)　ややしまり、あまり粘性有しない。焼土、炭化物を含む。遺物含まない。
築地立願寺線の発掘で確認した、弥生～中世の遺構の覆土ではない。近世以降の可能性が高い。

0　2m
(S=1/80)

第137図　蓮華遺跡土層断面図

１４　亀甲遺跡（Ｂ地点）

所在地：亀甲字北園238-1

対象面積：746.15㎡

調査期間：15年２月19日

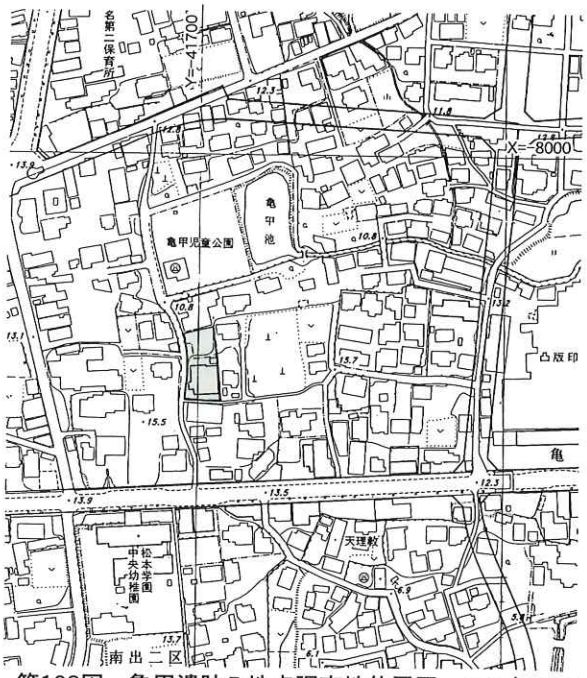
担当者：末永　崇

調査地は、国道208号線北側の玉名市街中心部に位置し、標高14m前後の地点である。周辺は、本来は北側に向けての傾斜地だったとみられるが、現在は造成されて宅地化されている。

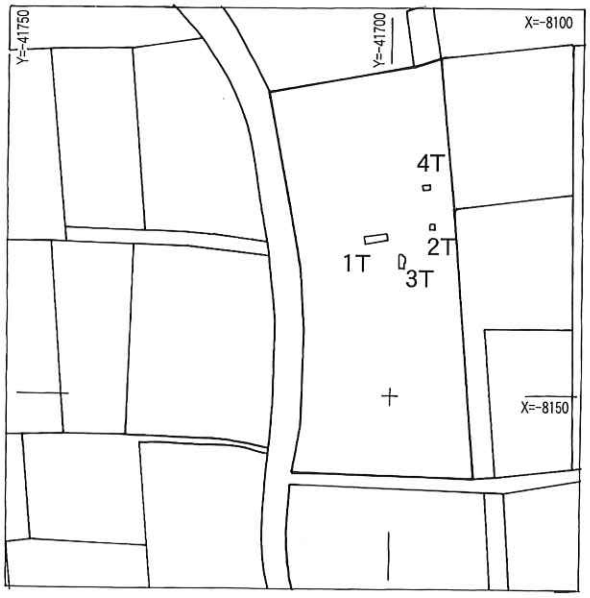
敷地内の現況は既存の建物と、駐車場、庭部分であるが、土地所有者からの聞き取りによると、現在の建物の建築時に造成を行い、地形的に低い敷地北側へ切盛りしたとのことだった。

確認調査では、建物予定範囲の掘削可能な地点を4ヵ所、人力により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。このうち、１、３トレンチでは表土の下から無遺物層と判断される砂や礫片を含む暗褐色土層を検出した。２、４トレンチでは、暗褐色土層を70cm程確認し、鉄滓や近世～近代の磁器片を検出した。今回確認した範囲では遺構は検出されなかった。さらにトレンチを入れていない駐車場部分も、上記のような状況であることから、造成などの影響によって遺跡の存在は低率と推察された。

調査後の措置は、慎重工事である。

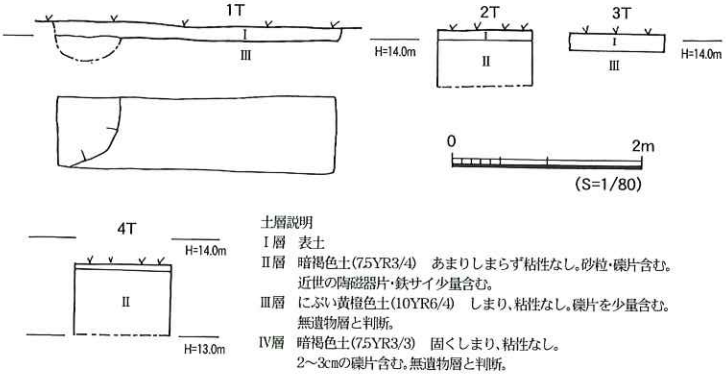


第138図　亀甲遺跡Ｂ地点調査地位置図　S=1/5,000



第139図　亀甲遺跡Ｂ地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

亀甲遺跡Ｂ地点調査区西側駐車場（南から）



第140図　亀甲遺跡Ｂ地点トレンチ実測図

１５　一本松遺跡

所在地：伊倉北方2231

対象面積：5.60㎡

調査期間：15年３月12日～３月13日

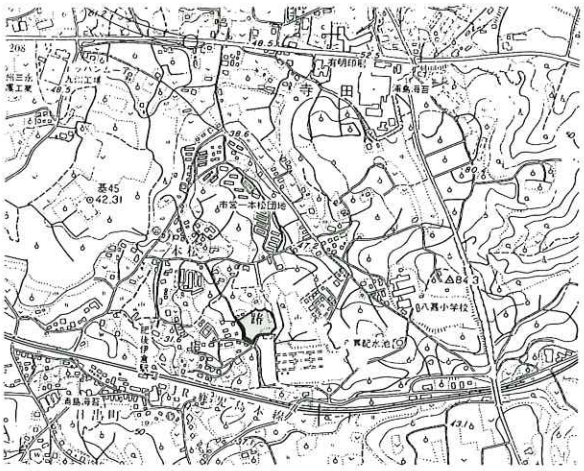
担当者：蜷父雅史

調査地は、伊倉丘陵性台地の標高約53mの地点に位置する。南側隣接地では、平成12年、13年に確認調査を行い、大規模に造成されているようで、埋蔵文化財は確認されていない。

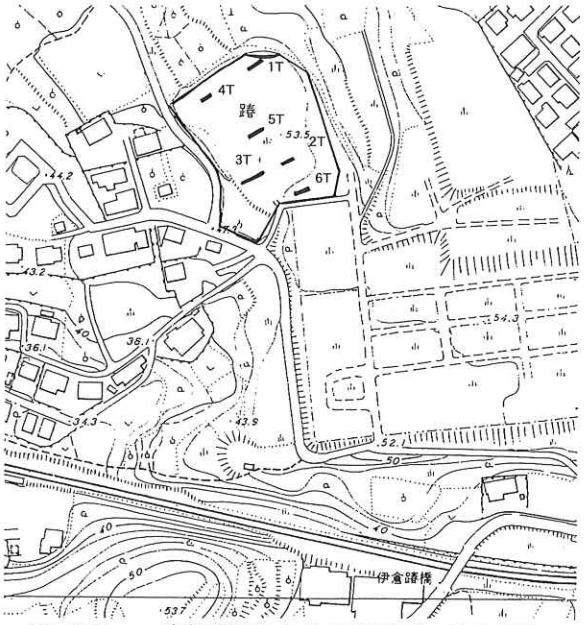
現況は、以前より切土が行われ、旧県養鶏場のグラウンドとして整地されており、その後、隣接する老人ホームの造成に際し、その排土を埋め立てた状況であった。その排土は、平成12年に確認調査を行い、埋蔵文化財は確認されなかった部分のものである。

今回、届出地に６本のトレンチを設定して、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、ほとんどが排土の埋立てによるものであり、約1.5m下に無遺物層と判断されるローム層が確認され、そこまで削平されていた。

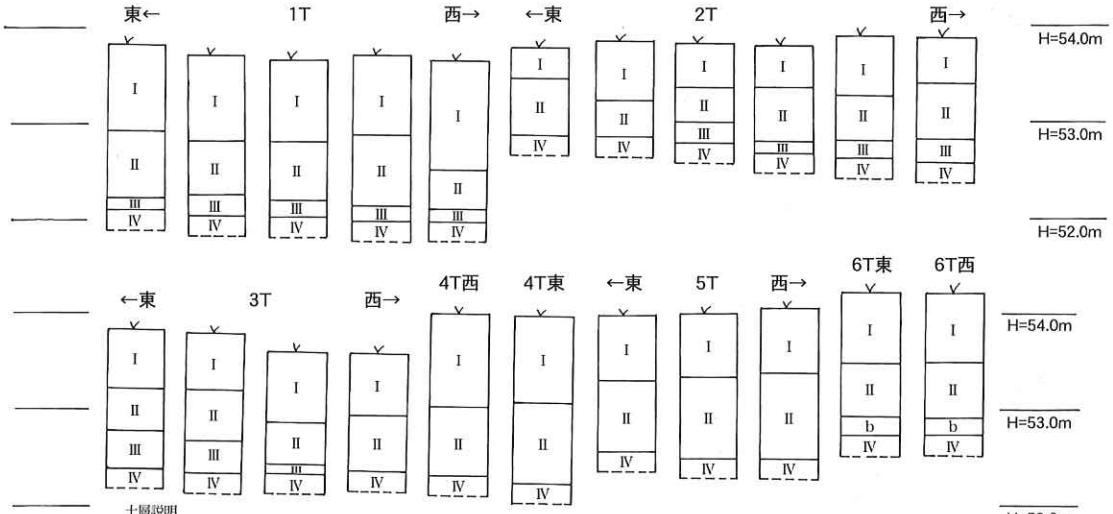
調査後の措置は、慎重工事である。



第141図　一本松遺跡調査地位置図　S=1/20,000



第142図　一本松遺跡トレンチ配置図　S=2,500



土層説明

Ⅰ層　客土（第2期埋立）　隣接する老人ホーム造成時の排土である。遺物も含まれない。現代の廃棄物含む。

Ⅱ層　客土（第1期埋立）　やや灰色をおび、Ⅰ層の客土とは異なるので、以前の盛土(埋立)。現代の廃棄物含む。

Ⅲ層　オリーブ灰色土(10Y4/2)粘質土層　枯草など含む。かつての排水溝にともなうものと思われる。遺物なし。

Ⅳ層　橙色土(5YR6/6)　かつて、切土された整地面(旧グランド面)ピンク色をしたローム土で、黄や白色の礫粘土を多量に含む。無遺物層

第143図　一本松遺跡トレンチ 土層図

１６　保田木城跡・光蓮寺跡

所在地：高瀬83,83-6

対象面積：639.00㎡

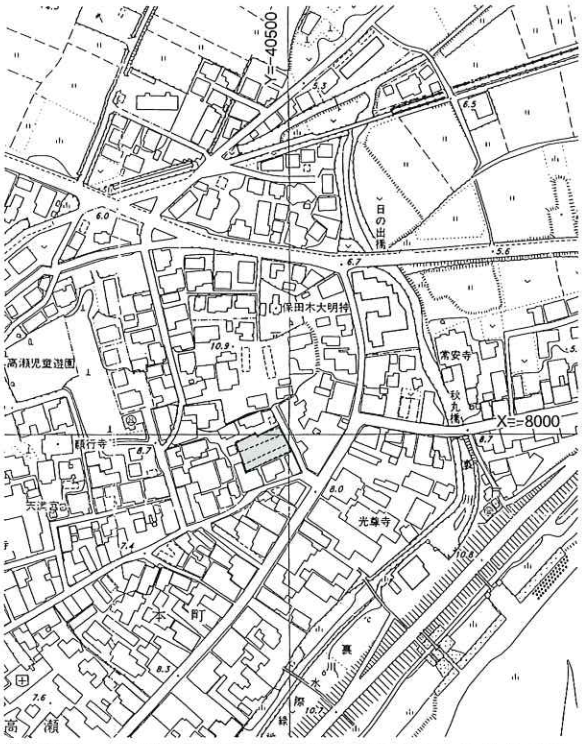
調査期間：15年３月17日

担当者：蜷父雅史

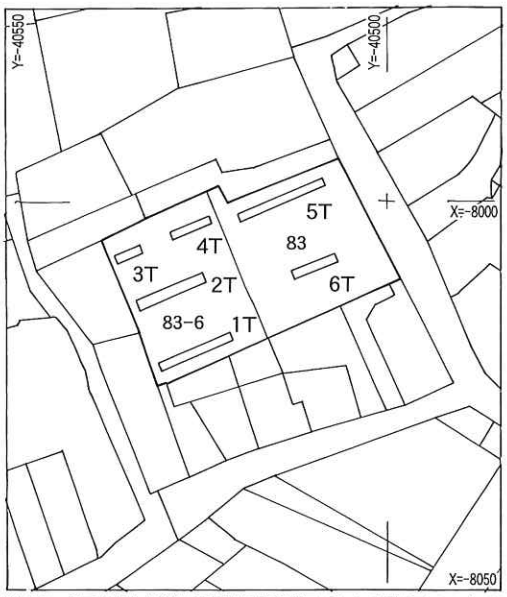
調査地は、菊池川と繁根木川に挟まれた標高約8.5mの地点に位置している。嘉永７(1854)年の高瀬町図には「光蓮寺」とあり、昭和50年代に移転し、跡地は駐車場として利用されていた。

今回、届出地に６ヵ所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、約60cm下に光蓮寺の礎石と思われる凝灰岩の切石が確認され、その上層は近・現代の遺物を含む寺院解体後とみられる整地層であった。礎石の下位は、暗褐色粘質土で中世～近世の遺物を含み、寺院建立以前の堆積層と考えられる。今回、１・５トレンチにおいて約1.5m下で無遺物層と判断される明褐色粘質土を確認した。しかし保田木城跡に伴う遺構等は確認できなかった。旧地形は南側へ緩やかに傾斜していると思われ、以前より盛土などの造成が繰り返されて、現況のレベルになっている。

調査後の措置は、慎重工事である。



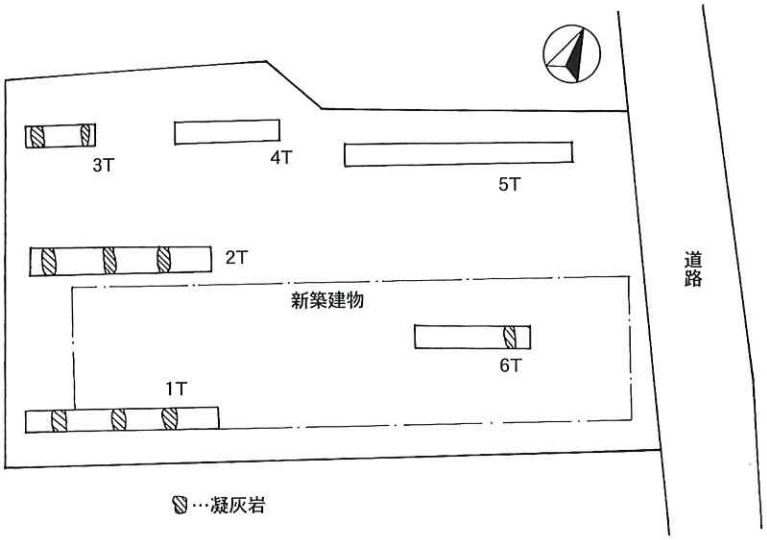
第144図　保田木城跡・光蓮寺跡調査地位置図　S=1/5,000



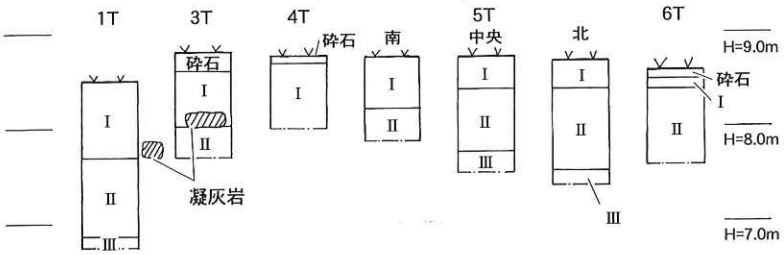
第145図　保田木城跡・光蓮寺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図　S=1/1,000

保田木城跡・光蓮寺跡周辺（工事後南から）

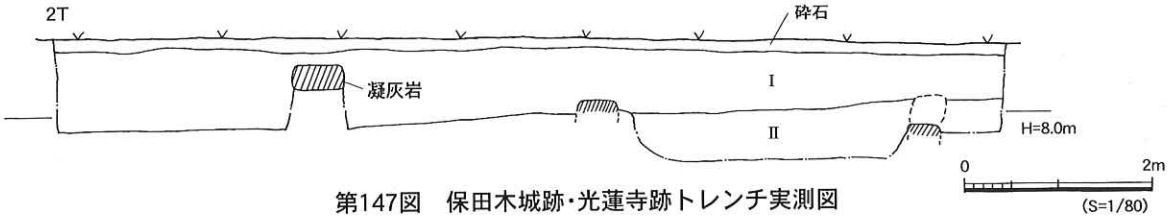
保田木城跡・光蓮寺跡調査前状況（東から）



第146図　保田木城跡・光蓮寺跡トレンチ配置図　S=1/400



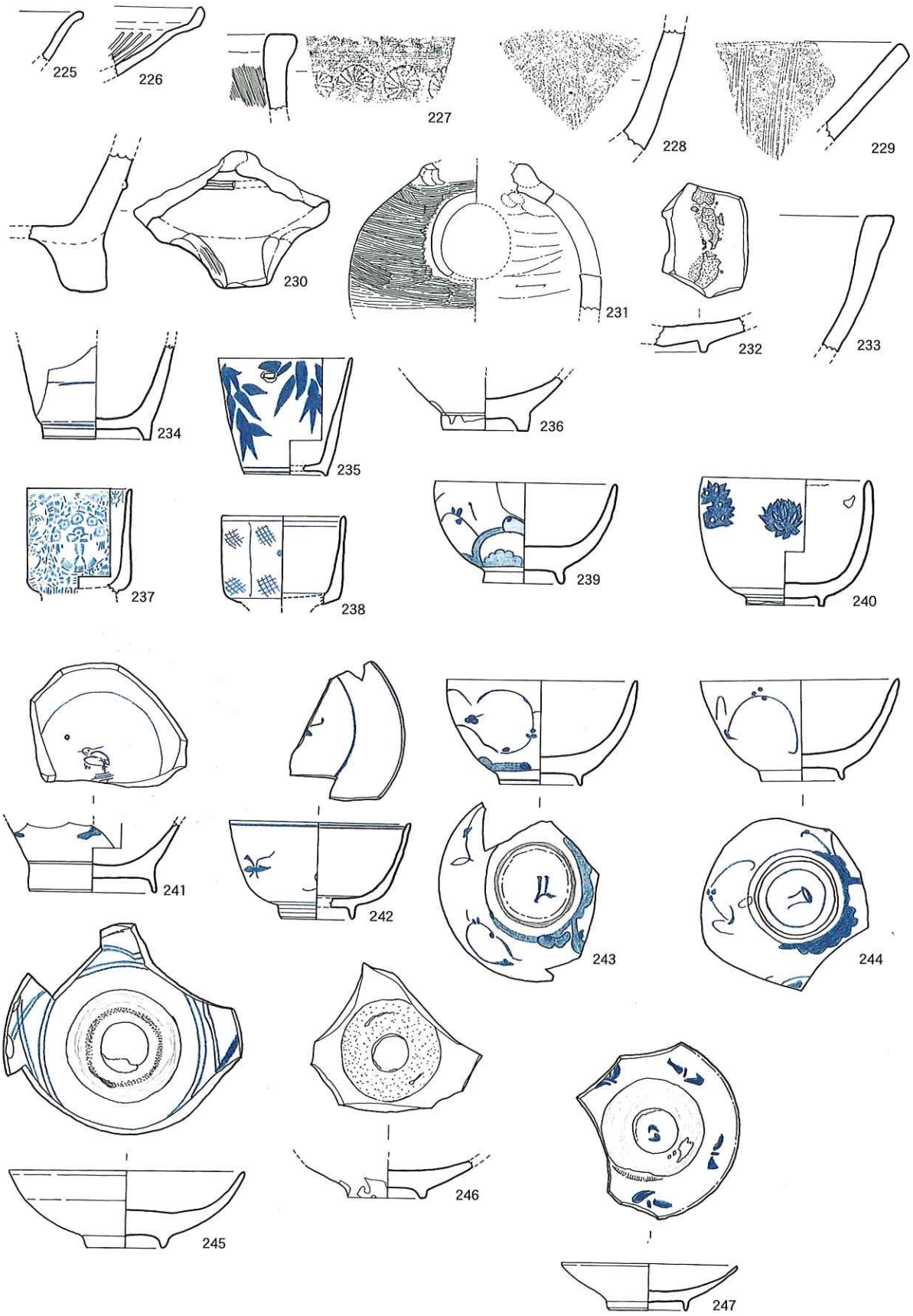
Ⅰ層　盛土(客土)
近現代遺物含む。旧光蓮寺移転解体後の造成に伴う埋土。
Ⅱ層　旧盛土　中世～近世遺物含む。光蓮寺建立以前の盛土(しかし部分的には、盛土内で攪乱あり)暗褐色粘質土層。
Ⅲ層　無遺物層(ローム層)
(7.5YR5/6)明褐色粘質土(白色の粘土を含む)
※礎石はすべて凝灰岩製切石で、約20cm四方のものである。今回9個確認した。(旧光蓮寺の礎石と思われる)しかし、寺院建立当時から、現位置をとどめているかは、わからない。
※Ⅱ層は細分しようと思えばできるが、全体的な盛土である。時期差は、あまりないとみられる。



第147図　保田木城跡・光蓮寺跡トレンチ実測図

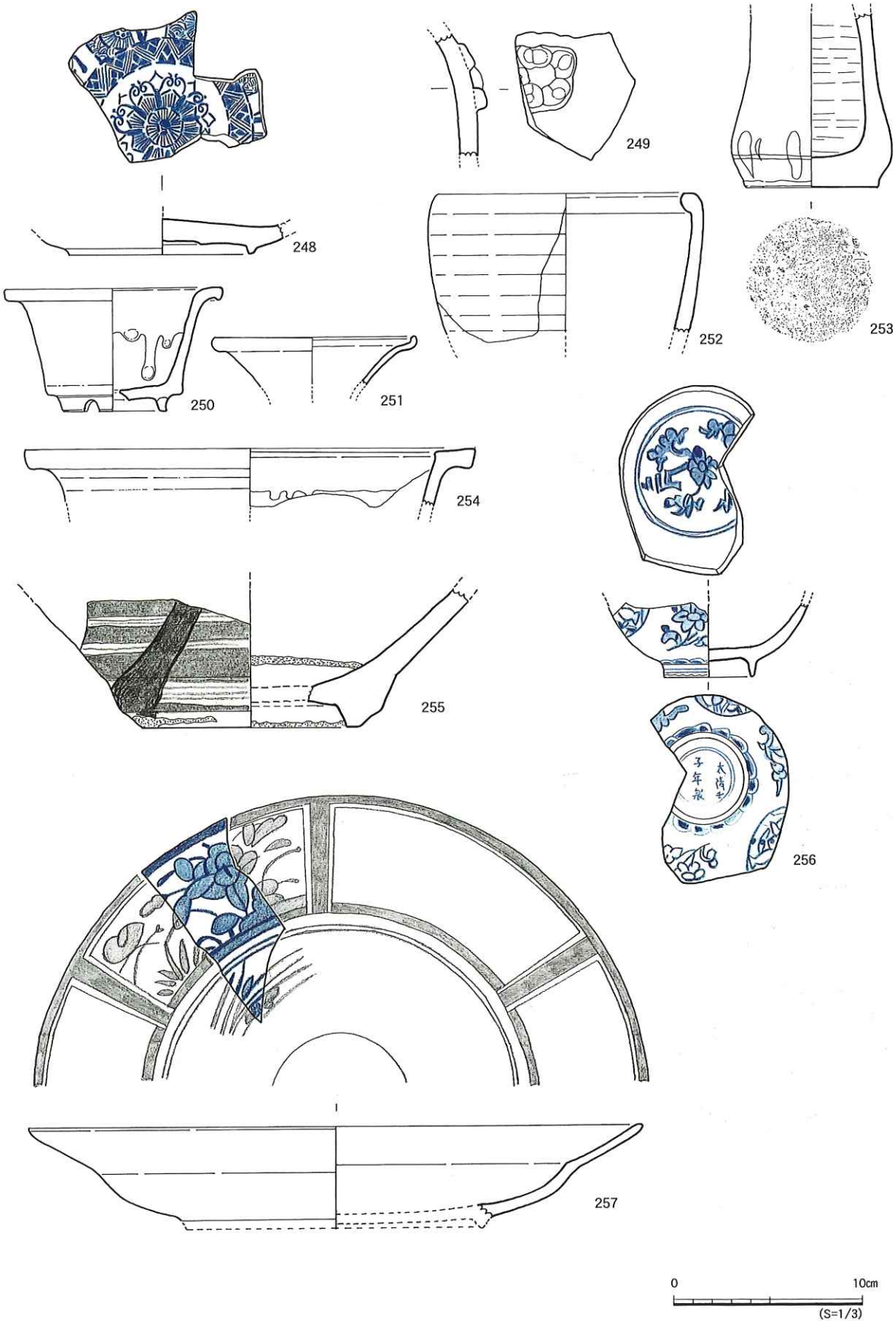
保田木城跡・光蓮寺跡２T(東から)

保田木城跡・光蓮寺跡２T凝灰岩出土状況



第148図　保田木城跡・光蓮寺跡遺物実測図(1)

0　10cm
(S=1/3)



第149図　保田木城跡・光蓮寺跡遺物実測図(2)

保田木城跡・光蓮寺跡出土遺物

１７　ふれあい広場建設予定地

所在地：立願寺地内

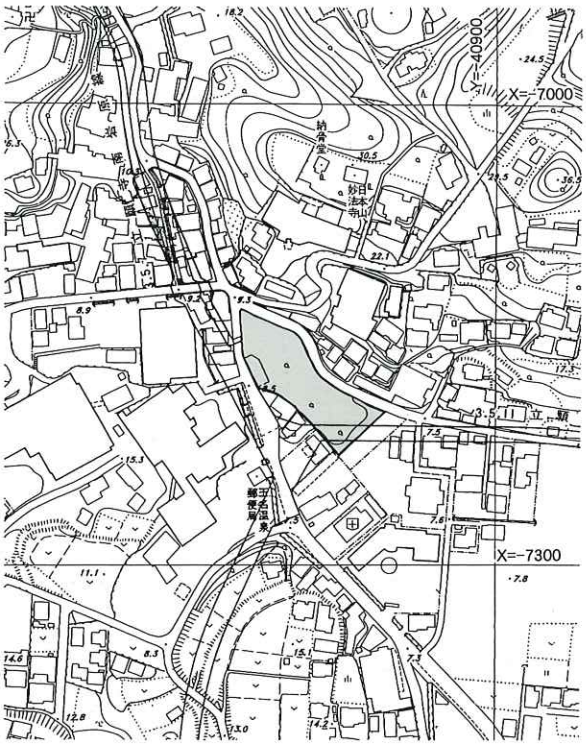
対象面積：3,000㎡

担当者：蜷父雅史

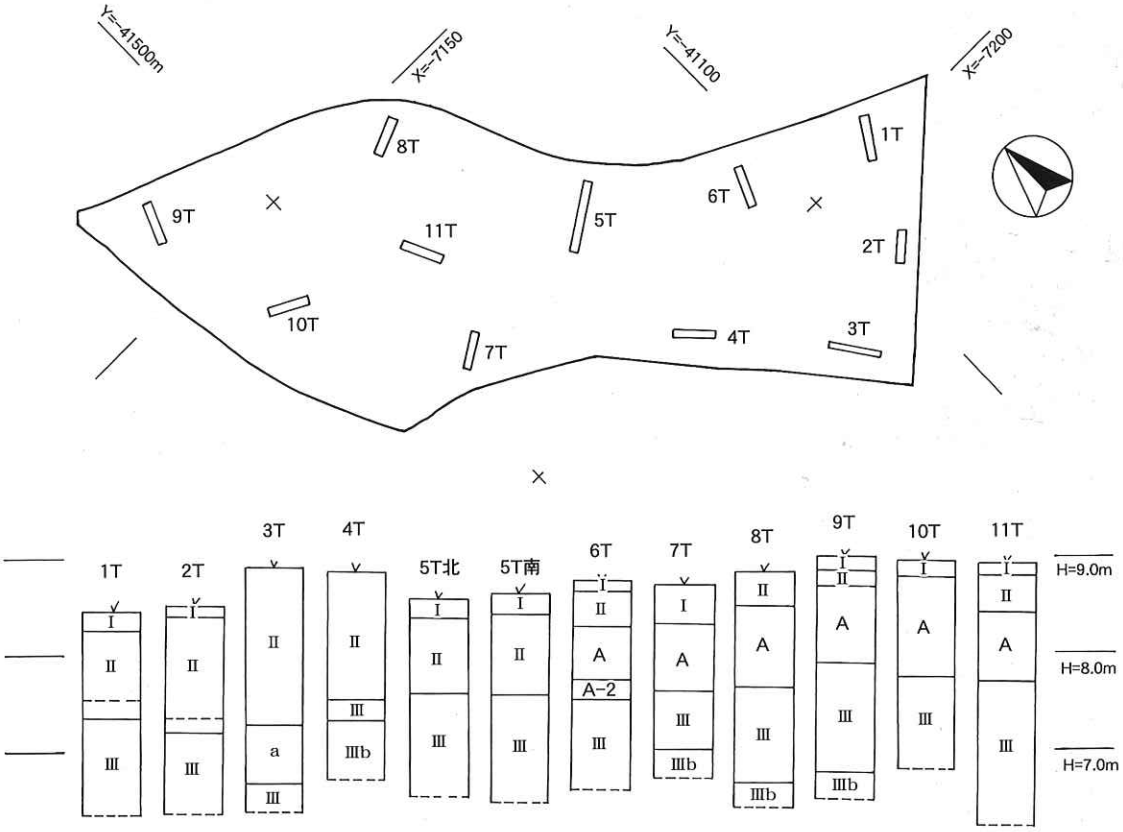
調査期間：15年3月19日～3月20日

調査地は、繁根木川右岸の平野部に位置し、標高9m程の地点である。北側から舌状に延びる丘陵から降った谷部分であり、以前は宅地として利用されていた。

調査では、敷地内に11ヵ所の試掘溝を設定して埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、全体的に現在の地表面より約1～1.5m下までは山砂や現代の遺物を含む層で、近年において造成されていると思われる。さらに下層は暗灰色の泥炭層で、湧水がみられた。



第150図　ふれあい広場建設予定地調査地位置図　S=1/5,000



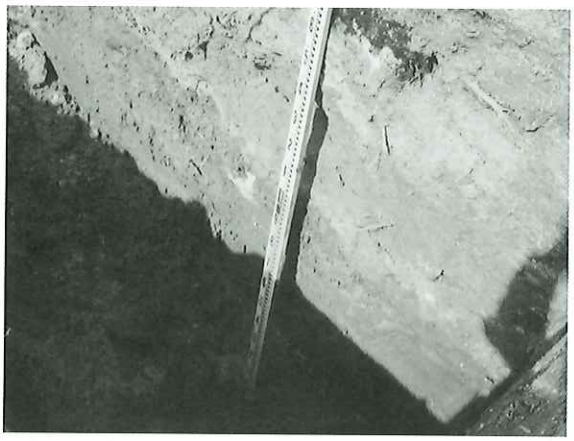
1層　表土(砕石等)
2層　砂土(埋土)
A層　灰茶褐色粘質土(建物造成時の盛土か)
a層　にぶい赤褐色土(5YR5/4)微砂粒多量に含む。
Ⅲ層　褐灰色土(7.5YR4/1)
Ⅲb層　褐色粘質土(7.5YR4/3)

※おおむね敷地の東半分が山砂の埋土である。西側は建物が並んでいたので、その時に盛土行い、造成されたと思われる。それ以前は、標高7.5m前後の低地であり、水田または沼地であったと思われる。

※Ⅲ層は、細分できるが、色調が微妙に異なることを除いて成分や成因は同じとみられる。

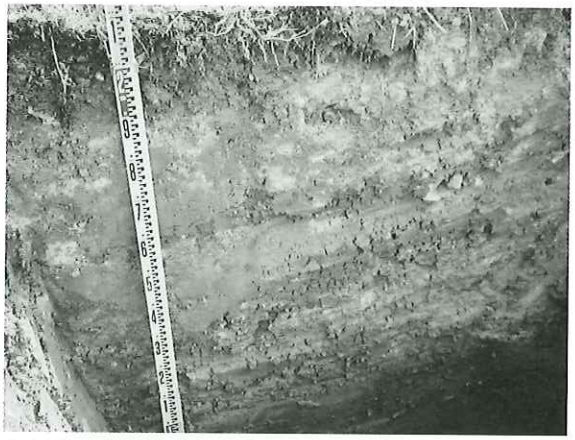
第151図　ふれあい広場建設予定地トレンチ配置図・土層柱状図

今回の調査では、最大2.5m下まで掘り下げて調査したが、埋蔵文化財は確認されなかった。調査後の措置は、慎重工事である。



ふれあい広場建設予定地４T土層堆積状況

ふれあい広場建設予定地調査前状況(南東から)

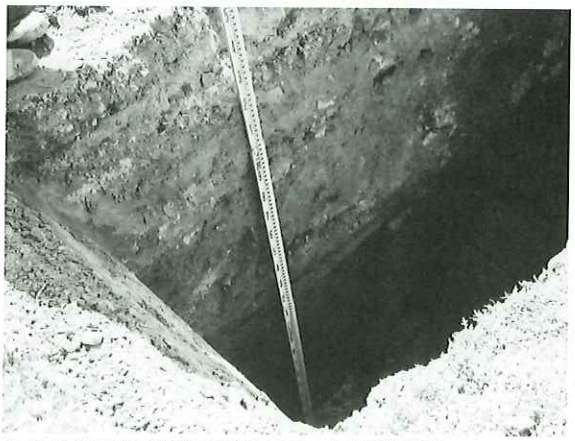


ふれあい広場建設予定地５T土層堆積状況

ふれあい広場建設予定地調査前状況(北西から)

ふれあい広場建設予定地８T土層堆積状況

ふれあい広場建設予定地調査状況



ふれあい広場建設予定地９T土層堆積状況

１８　中村館跡

所在地：中1426-1,1386-1

対象面積：600.00㎡

調査期間：15年3月25日～3月27日

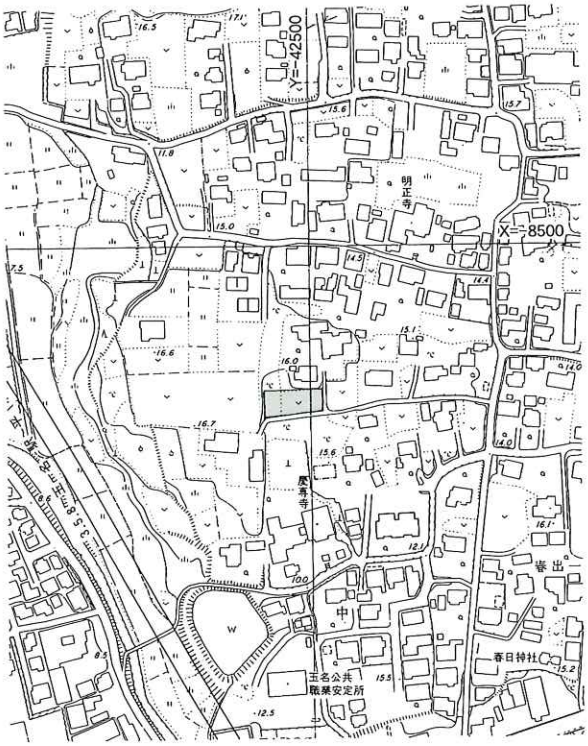
担当者：蜷父雅史

調査地は、境川左岸、小代山から南に緩やかに傾斜する低丘陵上に位置し、標高20m程の地点である。遺跡内は古くから宅地などに利用されているが、部分的に土塁状の遺構や溝などが残っている。道路部分についても、場所によってはかつての溝などの地割に伴う遺構であったと思われる。

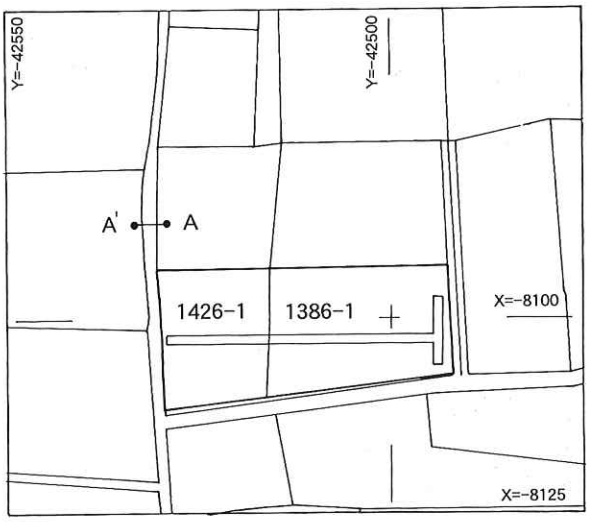
『肥後国玉名郡村誌』には、玉名郡中村の項に「中村館跡」とあり、永禄～元亀年間（1558～1572）に大野左馬介紀親連の従弟の大野加志麻呂・登得麻呂兄弟が居している時に、竜造寺隆信の軍勢が高岡の城と中村館を攻略し、加志麻呂・登得麻呂兄弟は討死、親連は降伏したことが里俗説として紹介されている。

また、玉名郡村図の中村の絵図では、村の中心部の宅地を山林が取り囲んでいるような状況がみられ、山林とあるのは土塁又は溝・堀の部分を示していると思われる。それら土塁などの位置と、地割や現地の状況などを検討して館の全体像を想定したのが第154図である。概観して、土塁や堀などで囲まれた区画が3ないし4つほど存在するようである。現在の明正寺や慶専寺が所在する部分で、南北に3区画ほどと、春日神社が所在する部分にも1区画があったと推察される。全体の遺跡の範囲は、南北400m、270mほどに及ぶとみられる。

調査では、遺跡の西側に南北方向に延びる溝に隣接する敷地内で、東西方向にT字形にトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、館の堀とみられる遺構を確認した。現地表面からの深さは西側の堀が3m以上、東側の堀が2m以上を測る。調査区北側にかけて現況でも確認できる土塁状遺構と、両側に掘られた堀状の遺構の延長であるとみられる。

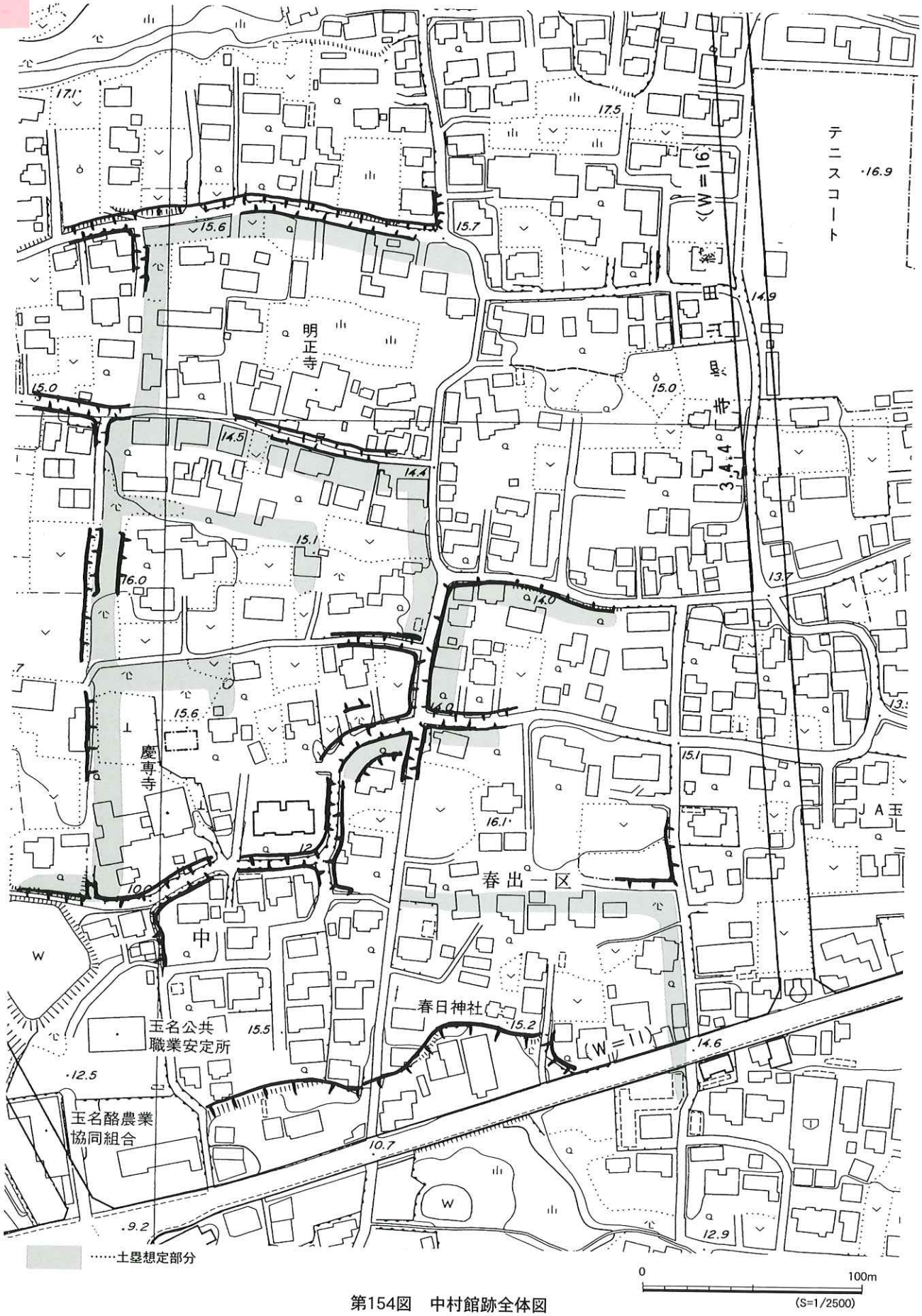


第152図　中村館跡調査地位置図　S=1/5,000

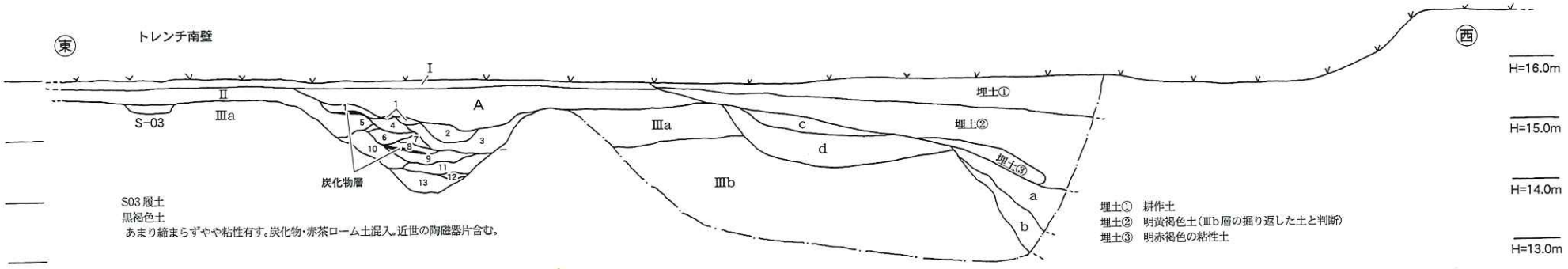


第153図　中村館跡調査地周辺字図・トレンチ配置図　S=1/1,000

今回の調査の結果から、館の西側については、南北に延びる土塁とその両側に掘られた2重の堀が配置されていたと考えられる。



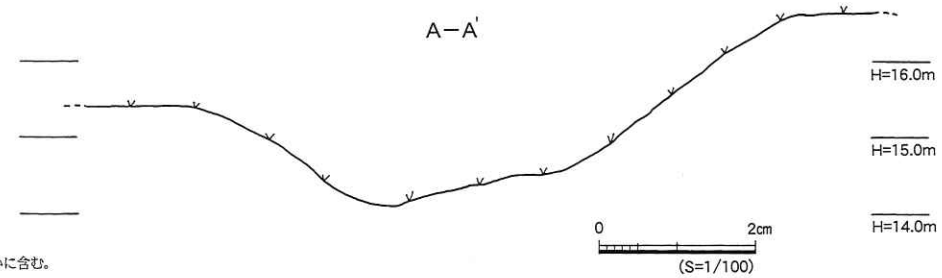
第154図　中村館跡全体図



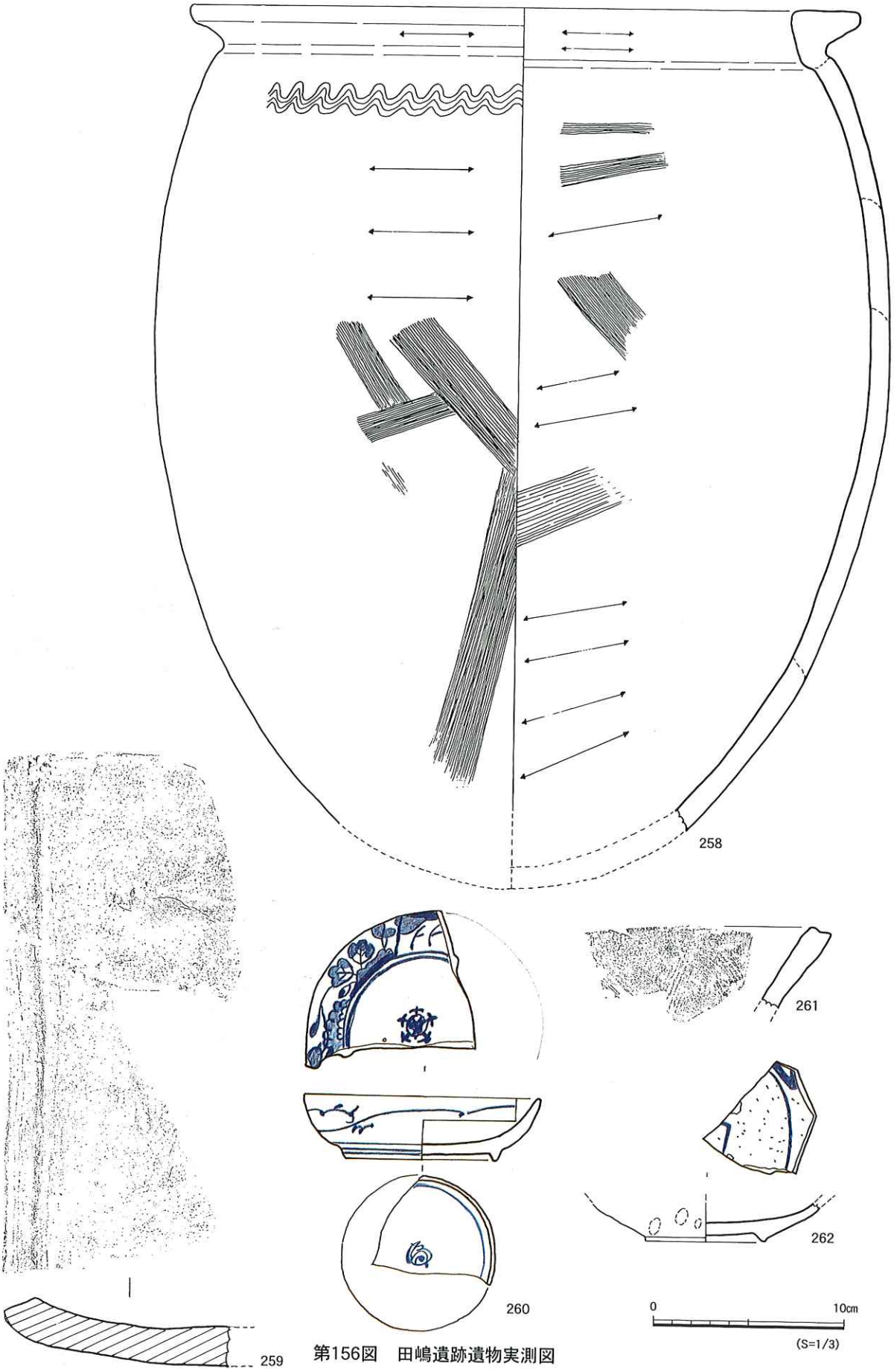
Ⅰ層　表土(耕作土)
Ⅱ層　黒茶褐色土　あまり締まらず、やや粘性有す。中世～近世(陶磁器片)含む。
Ⅲa層　赤茶褐色土　締まりが強く、粘性有す。黄褐色の粒土を混入。無遺物層。
Ⅲb層　黄茶褐色土　粘性土と砂質土が互層状に堆積する。締まりの強弱も部分的に異なり、全体的に粘性あまりない。レキ片・砂を多量に含む。
A層　明褐色土(7.5YR5/6)Ⅲb層に近似し、掘り返した土と判断される。

1層　黒褐色土　締まりなくやや粘性有す。炭化物含む。
2層　砂質土　A層が混入する。
3層　黒茶褐色土　あまり締まらず、やや粘性有す。小石・微砂粒・炭化物わずかに含む。
4層　黒茶褐色土　しまりなく粘性なし。砂粒含む。
5層　褐色土　締まりなく、やや粘性有す。
6層　黒茶褐色土　e層に近似し、赤茶褐色粒土混入。炭化物含む。
7層　黄茶褐色土　A層に近似する砂質土で、小石・レキ片含む。
8層　明茶褐色土　あまり締まらず、やや粘性有す。炭化物・焼土塊含む。
9層　黒茶褐色　締まりなく、やや粘性有す。小石・砂粒わずかに含む。
10層　茶褐色土　あまり締まらず、粘性有す。炭化物・赤茶色粒土含む。
11層　灰黒褐色土　締まりなく、やや粘性有す。
12層　黒茶褐色土　やや締まり、強い粘性有す。
13層　黒茶褐色土　やや締まり、粘性有す。

a層　黒褐色土(7.5YR5/6)　やや締まり粘性あり。赤色粘土わずかに含む。
b層　暗褐色土(7.5YR3/3)　締まり粘性強い。小石、砂粒含む。
c層　黒色土(7.5YR2/2)　あまり締まらずやや粘性有す。小石、砂粒含む。
d層　黒褐色土(7.5YR3/2)　あまり締まらず粘性わずかに有す。小石、茶褐色粘土含む。



第155図　中村館跡トレンチ土層図



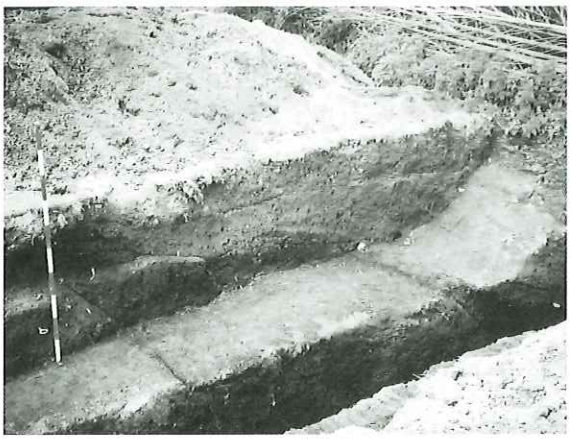
第156図　田嶋遺跡遺物実測図

中村館跡調査地西側(北から)

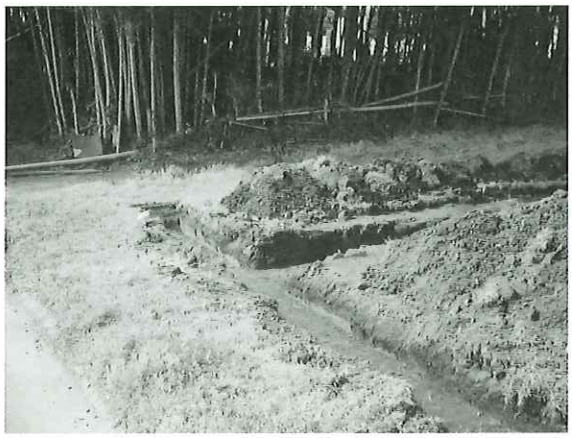
中村館跡調査地西側堀状遺構(北から)

中村館跡調査状況(東から)

中村館跡調査状況(西から)


中村館跡トレンチ西側土層堆積状況

中村館跡トレンチ土層堆積状況


中村館跡トレンチ東側(北から)

中村館跡調査後(西から)

１９　築地東遺跡

所在地：築地1852,1854-1,1854-3

対象面積：2,500.00㎡

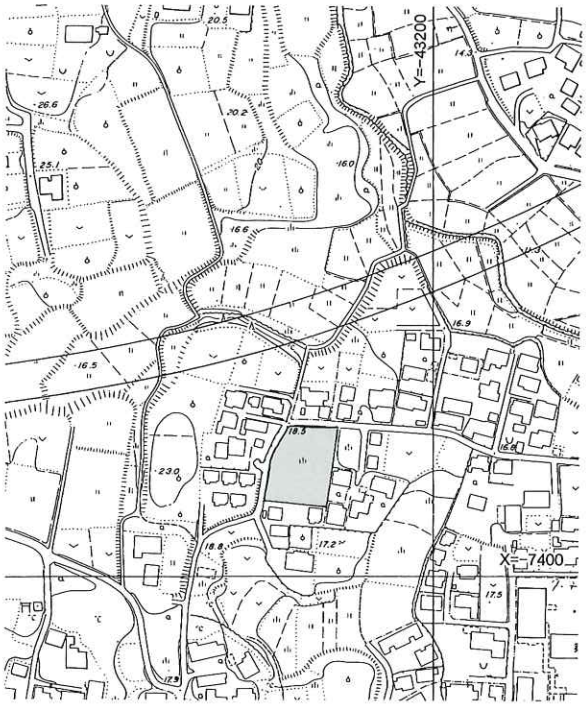
調査期間：15年3月28日

担当者：蜷父雅史

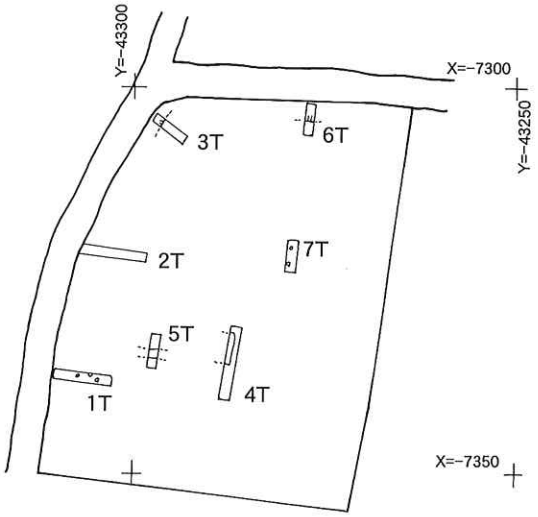
調査地は、小代山から南側に延びる低丘陵上に位置し、標高19mほどの地点である。道路を挟んだ西側の敷地は、中世城館の築地館跡の推定範囲で、道路と隣接する敷地では1m程の高低差がある。

今回の調査では、遺跡周辺の宅地化が進みつつある中で、遺跡の範囲内容等の把握を目的として行った。

調査では、敷地内に7ヶ所トレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、Ⅰ～Ⅲ層を確認した。Ⅰ層は畑の耕作土、Ⅱ層は灰赤色を呈する層で、近世の陶磁器片や土師器片を含む。Ⅲ層は黄褐色を呈するローム層で無遺物層と判断される。このうち、3層上面で住居址とみられる遺構を検出した。遺構内から古墳時代前期とみられる土師器の甕が出土した。(第160図)また、道路部分は未調査であるが、隣接する築地館跡の堀又は溝である可能性も十分考えられる。



第157図　築地東遺跡調査地位置図　S=1/5,000



第158図　築地東遺跡調査地トレンチ配置図　S=1/1,000

築地東遺跡調査地(北から)

築地東遺跡調査地(南から)

Ⅰ層　表土(耕作土)
Ⅱ層　暗灰黄色土層(2.5YR4/2)ややしまり、粘性強い。部分的に砂粒、木炭、赤黄色粒土(2㎜)含む。
　　わずかに土師器、近世陶磁器片などの細片含む。
Ⅲ層　黄褐色土(10YR5/6)ローム土であるがやや濁る。黒茶褐色土が混入。しまりは強く、粘性も強い。

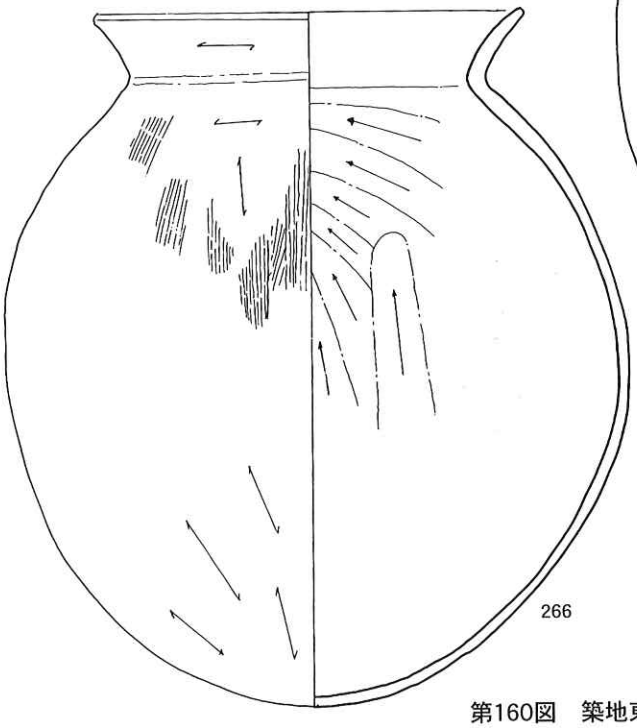
※2トレンチの3層は、他の3層の土と異なる。レンチの途中から、
西側にかけて赤褐色のローム土から白灰色のローム土に変わる。
自然堆積によるものとみられ、色が異なることを除いて、成分は同じである。

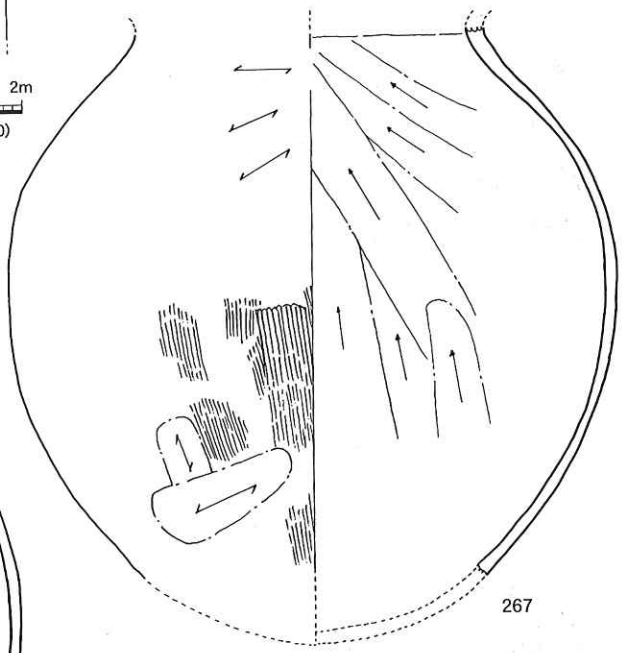
3トレンチ
a層　黒茶褐色土　しまりが強く粘性有す。木炭・砂粒・小石・ローム土塊含む。
b層　茶褐色土　しまりが強く、木炭、微砂粒含む。
c層　黒茶褐色土　ややしまり、粘性有す。赤茶褐色粒土を混入。
e層　暗褐色土　しまりがあり、やや粘性有す。砂粒、黒褐色土、赤茶色粒土を混入。

※1・2・3・6トレンチはすべて道路に面する土手の断面観察を行なった。この土地の西側一体が、築地館跡の推定地であり、現在の道路がかなり低い。これらの土手の落込みが堀(外掘)になる可能性もあるが、単なる道路造成時の切土によるものかもしれない。しかし3トレンチにおいては、落込み方が堀らしくもある。この落込みの覆土から、中世の瓦器片も出土している。

※6トレンチにおいては、住居跡とみられる遺構を確認した。また、2b層と細分した。時期を特定する遺物は未確認。
a層　暗褐色土　ややしまり強く、粘性を有す。木炭をわずかに含む。
　　砂粒、赤色粒土混入。
b層　黒茶褐色土　a層と微妙に異なる。粘性有す。砂粒・茶褐色土を含む。

第159図　築地東遺跡トレンチ実測図





0　10cm
(S=1/3)

第160図　築地東遺跡遺物実測図

遺物観察表（14年度の調査）

図版番号	遺　跡　名	出土地点	種　類	器　種	部　位	口径	底径	器高	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎　土	焼成	実測番号	備　考
160	青野原遺跡	1T内	陶器	皿	口～底部	(12.6)	4.3	3.3	-	回転ナデ	褐(10YR4/4)	明赤褐(2.5YR5/6)	0.3mm以下の白色砂粒微量含む	良好	120	
161	青野原遺跡	表採	青磁	碗	底部	-	(1.6)	(1.3)	-	-	(釉)オリーブ灰(10Y6/2)	(胎土)灰白(10Y7/1)	黒色粒子含む	良好	118	
162	青野原遺跡	表採	須恵器	-	-	-	-	(6.9)	格子状タタキ	同心円タタキ	灰(10Y5/1)	灰(10Y5/1)	白色微砂粒少量含む	良好	116	
163	青野原遺跡	表採	須恵器	-	-	-	-	(5.9)	平行タタキ	平行タタキ	灰(N4/)	オリーブ灰(2.5GY6/1)	黒褐色粒土多く含む	良好	117	
164	青野原遺跡	表採	青磁	碗	口縁	-	-	(3.0)	-	-	(釉)オリーブ灰(10Y5/2)	(胎土)灰(7.5Y6/1)	精選されている	良好	119	
165	稲荷山古墳	神社裏	円筒埴輪	底部		-	(14.2)	(14.5)	ハケ目	ナデ	明赤褐(2.5YR5/8)	明赤褐(2.5YR5/8)	白色砂粒多量(0.5～5mm大)カクセン石少量、雲母片わずかに含む	普通	198	
166	稲荷山古墳	神社裏	円筒埴輪	胴部		-	-	(9.2)	ハケ目	ナデ	橙(2.5YR6/8)	橙(2.5YR6/8)	白色砂粒(0.5～5mm大)多量、雲母片極少量含む	普通	199	
167	稲荷山古墳	神社裏	円筒埴輪	胴部		-	-	6.0	ハケ目	ナデ	橙(2.5YR6/8)	橙(2.5YR6/8)	白色砂粒(0.5～5mm大)カクセン石少量含む	普通	200	
168	高岡原Ｊ遺跡	Ⅲ区Ⅲ層	石製品	石匙		(4.0)	(2.8)	(1.0)	-	-	-	-	-	-	129	サヌカイト製
169	高岡原Ｊ遺跡	Ⅰ区Ⅲ層	石製品	円盤形石器	緑色片岩	(4.7)	(4.2)	(0.9)	-	-	-	-	-	-	136	緑色片岩製
170	高岡原Ｊ遺跡	Ⅱ区Ⅳ層	石製品	石斧		(6.3)	(3.9)	(2.9)	-	-	-	-	-	-	128	流紋岩製
171	高岡原Ｊ遺跡	Ⅱ区Ⅰ・Ⅱ層	石製品	石斧		(6.5)	(4.2)	(2.4)	-	-	-	-	-	-	127	
172	高岡原Ｊ遺跡	Ⅰ区Ⅲ層	石製品	すり石	安山岩	(6.8)	(4.4)	(4.2)	-	-	-	-	-	-	135	安山岩製
173	高岡原Ｊ遺跡	Ⅳ区Ⅲ層	石製品	すり石	安山岩	(9.8)	(5.2)	(3.4)	-	-	-	-	-	-	134	安山岩製
174	高岡原Ｊ遺跡	Ⅲ区Ⅲ層	石製品	すり石	安山岩	(8.4)	(6.7)	(8.1)	-	-	-	-	-	-	137	安山岩製
175	高岡原Ｊ遺跡	Ⅲ区Ⅲ層	不明	高坏	坏部	-	-	(1.9)	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	白色微砂粒、赤茶色粒土含む	不良	130	
176	高岡原Ｊ遺跡	Ⅳ区Ⅲ層	不明	甕	口縁	-	-	(2.8)	ナデ	ナデ	明黄褐(10YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	カクセン石、砂粒少量含む	普通	131	
177	高岡原Ｊ遺跡	Ⅴ区Ⅲ層	不明	不明	底部	-	(8.8)	(2.4)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、雲母わずかに含む	不良	132	
178	高岡原Ｊ遺跡	Ⅰ区撹乱	不明	不明	胴部	-	-	3.6	ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	褐(7.5YR4/3)	白色微砂粒	普通	126	
179	高岡原Ｊ遺跡	Ⅴ区Ⅲ層	鉄製品	不明		(3.4)	(4.5)	(3.3)	-	-	-	-	-	不良	133	
180	高岡原Ｊ遺跡	Ⅰ区Ⅲ層	須恵器	坏蓋		-	-	(1.9)	回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗赤褐(2.5YR3/2)	橙(2.5YR6/8)	カクセン石わずかに含む	良好	125	
181	狐ん路遺跡	S-1	弥生土器	甕	底部	-	-	(4.3)	ナデ	ナデ	明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(7.5YR6/6)	石英、白色砂粒、雲母含む	普通	144	
182	狐ん路遺跡	S-3	弥生土器	甕	底部	-	(11.5)	(4.5)	ナデ	ハケ目	黄橙(10YR8/4)	黄橙(10YR8/4)	白色砂粒(0.5～2mm大)、赤茶色粒土(1～2mm大)含む	良好	149	
183	狐ん路遺跡	S-2	弥生土器	甕	底部	-	(11.9)	(3.7)	ナデ	ナデ	赤褐(2.5YR4/8)	赤褐(2.5YR4/8)	白色砂粒(0.5～3mm大)、赤茶色粒土(1～2mm大)雲母(0.5mm大)含む	不良	146	
184	狐ん路遺跡	S-1	弥生土器	甕	底部	-	(7.0)	(2.3)	ハケ目	ナデ	褐(10YR4/6)	にぶい黄褐(10YR5/4)	砂粒(1～3mm大)、金雲母(0.5mm大)含む	普通	145	
185	狐ん路遺跡	S-1	弥生土器	高坏	柱部	-	-	(5.2)	ナデ	ナデ	明赤褐((5YR5/6)	橙(5YR6/6)	白色砂粒(0.5～1mm大)含む	普通	148	
186	狐ん路遺跡	1T(拡)	弥生土器	高坏	柱部	-	-	(8.0)	ハケ目	ケズリ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、カクセン石少量	普通	143	
187	狐ん路遺跡	S-2	弥生土器	壷	底部	-	-	(6.1)	ハケ目	ナデ	赤褐(5YR4/8)	明褐(7.5YR5/6)	白色砂粒(0.5～5mm大)多量	不良	147	
188	長福寺跡	1T-B(6･7層)	染付	仏飯器	底部	(7.5)	-	(3.2)	-	-	(釉)明オリーブ灰(5GY7/1)	(胎土)(灰白N7/)	-	良好	163	18c後、肥前産
189	長福寺跡	1T-C	陶器	碗	口～底部	(7.9)	(3.0)	4.2	-	-	(釉)オリーブ灰(5GY5/1)	(胎土)灰(N5/)	-	良好	170	松絵文
190	長福寺跡	1T-B(6.7層)	陶器	擂鉢	口縁部	-	-	(7.0)	-	カキ目	(釉)赤黒(2.5YR2/1)	(胎土)にぶい赤褐(2.5YR4/4)	-	良好	167	
191	長福寺跡	1T-B(6.7層)	陶器	擂鉢	口縁部	-	-	(5.3)	-	カキ目	(釉)赤灰(2.5YR3/1)	(胎土)明赤褐(2.5YR5/6)	-	良好	166	
192	長福寺跡	1T-B(5層)	染付	碗	口縁	(8.4)	-	(2.5)	-	-	(釉)明青灰(5BG7/1)	(胎土)(灰白N7/)	-	良好	157	連枝文、19c前
193	長福寺跡	1T-A(7層)	染付	碗	口～胴部	(8.7)	-	(4.5)	-	-	(釉)明緑灰(7.5GY8/1)	(胎土)灰白(2.5GY8/1)	-	良好	155	見込雷文、18c後
194	長福寺跡	1T-B(6.7層)	染付	皿	底部	-	4.8	(1.5)	-	-	(釉)明緑灰(10GY8/1)	(胎土)灰白(2.5GY8/1)	-	良好	165	梅花文、陽刻
195	長福寺跡	1T-B(6.7層)	陶器	瓶	底部	-	-	-	-	-	-	-	-		169	陶胎染付
196	長福寺跡	1T-C(7b層)	陶器	甕	胴部				-	-	-	-	-		175-B	小代焼(瀬上窯)
197	長福寺跡	1T-C	染付	鉢	底部	-	(5.4)	(4.8)	-	-	(釉)明緑灰(7.5GY8/1)	(胎土)灰白(10Y8/1)	-	良好	172	見込みに鷺文
198	長福寺跡	1T-A(7層)	陶器	土瓶	口～頭部				-	-		-	-		153	小代焼(瓶焼窯)

図版番号	遺　跡　名	出土地点	種　類	器　種	部　位	口径	底径	器高	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎　土	焼成	実測番号	備　考
199	長福寺跡	1T-A	陶器	皿	口～底部				-	-		-	-		171	高田焼・象嵌
200	長福寺跡	表採	陶器	灯火具	底部			4.5	-	-		-	-	良好	175-A	糸切、19c
201	長福寺跡	1T-C	染付	碗	口～底部	(10.1)	(3.2)	5.5	-	-	(釉)灰白(10Y8/)	(胎土)灰白(7.5Y8/)	-	良好	175	松絵文、19c前
202	長福寺跡	1T-B(5層)	染付	皿	底部	-	-	(1.5)	-	-	(釉)明緑灰(10G7/1)	(胎土)灰白(N7/)	-	良好	158	二次的火熱受ける
203	長福寺跡	1T-B(6.7層)	陶器	甕	胴部	-	-	(9.7)	-	-	(釉)赤褐(10R4/4)	(胎土)赤(１０R4/6)	白色微砂粒(0.5～1mm)少量含む	良好	168	二彩、鉄絵、刷毛目
204	長福寺跡	1T-B(6.7層)	染付	碗	底部	-	(7.1)	(5.4)	-	-	(釉)明緑灰(7.5GY8/1)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	162	幅広高台
205	長福寺跡	1T-B(6.7層)	染付	碗	口～底部	(9.5)	(5.8)	5.1	-	-	(釉)灰白(5GY8/1)	(胎土)灰白(7.5Y8/1)	-	良好	159	幅広高台
206	長福寺跡	1T-C(9a層)	磁器	碗					-	-	-	-	-		175-C	波佐見産
207	長福寺跡	1T-A(7層)	陶器	甕	口～頭部	(16.2)	-	(6.5)	-	-	(釉)灰白(10YR7/1)	(胎土)灰黄褐(10YR5/2)	白色微砂粒(0.5～1mm)わずかに含む	良好	152	松鉄絵
208	長福寺跡	1T-B(6.7層)	染付	皿	底部	-	(5.5)	(1.5)	-	-	(釉)明オリーブ灰(5GY7/1)	(胎土)灰白(5GY8/1)	-	良好	161	溝詩文、高台に銘款
209	長福寺跡	1T-B(6.7層)	染付	碗	口～胴部	(8.8)	(3.7)	5.0	-	-	(釉)明緑灰(7.5GY8/1)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	160	18c後～19c前
210	長福寺跡	1T-A(5層)	染付	皿	口～底部	(13.2)	(9.2)	4.7	-	-	(釉)灰白(5GY8/1)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	156	18c、肥前
211	長福寺跡	1T-C	染付	皿	口～底部	(14.8)	(7.9)	4.3	-	-	(釉)灰白(2.5GY)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	173	型紙摺印判
212	長福寺跡	1T-A(7層)	寛永通宝	1点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	154	
213	高瀬本町通遺跡	2T(13層)	青磁	碗	口縁部	-	-	(3.9)	-	-	(釉)オリーブ灰(5GY6/1)	(釉薬)オリーブ灰(2.5GY6/1)	白色微砂粒(0.5mm大)わずかに含む	良好	181-A	
214	高瀬本町通遺跡	2T(10～12層)	磁器	碗	口～胴部	10.6	-	(4.2)	-	-	(釉)明オリー灰(2.5GY7/1)	(胎土)灰白(5GY8/1)	-	普通	179	肥前系
215	高瀬本町通遺跡	2T(13層)	土師器	皿	底部	-	-	1.8	糸切	ナデ	橙(2.5YR6/8)	橙(2.5YR7/8)	赤色粒土少量、雲母少量	良好	180-A	
216	高瀬本町通遺跡	2T(13層)	瓦質土器	不明	胴部	-	-	(4.3)	格子状タタキ	-	暗灰(N3/)	灰(N6/)	黒色土粒多量、雲母少量	普通	180-B	
217	伊倉宮の後遺跡	排土表採	石製品	円盤形石器		8.2	8.0	1.3	-	-	-	-	-	-	177	安山岩
218	伊倉宮の後遺跡	排土表採	石製品	磨製石斧		12.6	6.2	4.6	-	-	-	-	-	-	178	安山岩系
219	伊倉宮の後遺跡	排土表採	弥生土器	甕	口～頭部	(24.3)	-	(7.5)	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/8)	白色砂粒(0.5～2mm)、カクセン石含む	普通	176	
220	亀甲遺跡	盛土層	須恵器	坏蓋		-	-	(3.4)	ナデ	ナデ	黄灰(2.5YR4/1)	暗灰黄(2.5Y5/2)	黒色粒土少量含む	普通	194	
221	亀甲遺跡	盛土層	土師器	不明	口縁	-	-	(3.2)	ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR7/6)	雲母少量含む	普通	195	
222	亀甲遺跡	盛土層	土師器	不明	口縁	-	-	(4.5)	ナデ	ナデ	黒(7.5YR2/1)	黒褐(7.5YR3/1)	雲母少量含む	普通	196	
223	亀甲遺跡	盛土層	弥生土器	甕	底部	-	-	(5.0)	ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR6/3)	にぶい褐(7.5YR6/3)	白色砂粒、カクセン石少量	普通	193	
224	亀甲遺跡	盛土層	染付	碗	同～底部	-	4.2	(4.1)	-	-	(釉)明青灰(10BG7/1)	(胎土)明青灰(5PB7/1)		良好	197	
225	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	青磁	碗	口縁	-	-	(2.5)	-	-	オリーブ灰(10Y6/2)	灰白(10Y8/1)	黒色粒子含む	良好	211	
226	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	青磁	皿		-	-	(3.5)	-	-	(釉)オリーブ灰(10Y6/2)	(胎土)灰(N6/)		良好	208	
227	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	瓦器	火鉢	口縁	-	-	(3.8)	ナデ	ナデ	黒(10Y2/)	黒(10Y2/)	砂粒(0.5～1mm大)多量、雲母片少量	普通	212	
228	保田木城跡・光蓮寺跡	5T(Ⅰ・Ⅱ層)	瓦質土器	擂鉢	口縁	-	-	(5.5)	ナデ	カキ目	灰(5Y4/1)	灰白(5Y7/1)	白色砂粒(0.5～1mm大)雲母片少量含む	普通	231-A	菊花文スタンプ
229	保田木城跡・光蓮寺跡	5T(Ⅰ・Ⅱ層)	瓦質土器	擂鉢	口縁	-	-	(5.2)	ナデ	カキ目	灰白(2.5Y7/1)	黄灰(2.5Y5/1)	白色砂粒(0.5mm大)少量、雲母片少量	普通		
230	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	瓦器	火鉢	脚部	-	-	(7.1)	ナデ	ナデ	黒褐(2.5GY3/1)	灰黄褐(10YR6/2)	白色砂粒(0.5～1mm大)極少量	普通	210	突帯あり
231	保田木城跡・光蓮寺跡	2T(礎石下位)	瓦器？	不明		-	-	(7.3)	ナデ	ナデ	黒褐(10YR3/1)	黒褐(10YR3/1)	白色砂粒(0.5～5mm大)多量、雲母片少量	普通	220	取手あり？
232	保田木城跡・光蓮寺跡	2T(Ⅰ層)	陶器	皿	底部	-	-	(1.7)	-	-	(釉)灰黄(2.5Y7/2)	(胎土)灰白(2.5Y8/2)		良好	217	砂目痕
233	保田木城跡・光蓮寺跡	5T(Ⅰ・Ⅱ層)	瓦器	片口？	口縁	-	-	(7.0)	ナデ	ナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	黒褐(2.5Y3/1)	白色砂粒(0.5～1mm大)茶褐色粒土(0.5～1mm大)雲母片少量	普通	230	
234	保田木城跡・光蓮寺跡	4T(Ⅰ層)	磁器	猪口	底部	-	5.3	(5.1)	-	-	-	-	-	良好	231-F	
235	保田木城跡・光蓮寺跡	3T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	猪口		7.0	4.4	6.0	-	-	-	(胎土)灰白(5Y8/1)	-	良好	223	竹文、肥前、18c
236	保田木城跡・光蓮寺跡	5T(Ⅰ・Ⅱ層)	陶器	碗		-	4.4	(2.7)	-	-	(釉)緑釉	(胎土)灰(2.5Y8/2)	黒色粒子多量に含む	良好	228	嬉野系
237	保田木城跡・光蓮寺跡	3T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	湯呑み		5.3	-	5.5	-	-	(釉)灰白(10Y8/1)	(胎土)灰白(7.5Y8/1)	-	良好	224	型紙摺印判

図版番号	遺　跡　名	出土地点	種　類	器　種	部　位	口径	底径	器高	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎　土	焼成	実測番号	備　考
238	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	筒型碗		(6.5)	-	(4.4)	-	-	(釉)灰白(10Y8/2)	(釉)灰白(10Y8/1)	-	良好	231-G	18c後、肥前
239	保田木城跡・光蓮寺跡	2T(Ⅰ層)	染付	碗		(9.4)	4.1	5.2	-	-	(釉)明緑灰(7.5GY7/1)	(胎土)灰白(7/)	-	良好	214	18c後、波佐見焼
240	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	碗	口～底部	8.7	4.0	6.5	-	-	(釉)明オリーブ灰(2.5GY)	(胎土)灰白(N7/)	-	良好	204	18c前、コンニャク印判
241	保田木城跡・光蓮寺跡	2T(Ⅰ層)	磁器	碗	底部	-	6.4	(3.5)	-	-	(釉)明青灰(10BG7/1)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	216	広東型、肥前系
242	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	碗		9.3	3.7	5.1	-	-	(釉)明青灰(5B7/1)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	207	蝶文、18c
243	保田木城跡・光蓮寺跡	5T	染付	碗		9.8	4.2	5.4			(釉)灰白(10Y8/1)	(胎土)灰白(7.5Y7/1)	-	良好	226	高台に鳥居文
244	保田木城跡・光蓮寺跡	3T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	碗		10.1	4.3	5.2	-	-	(釉)灰白(10Y7/1)	(胎土)灰白(5Y8/1)	-	良好	222	18c後、波佐見焼
245	保田木城跡・光蓮寺跡	2T(Ⅰ層)	染付	皿	口～底部	12.1	4.1	4.0	-	-	(釉)灰白(N7/)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	213	蛇の目釉ハギ
246	保田木城跡・光蓮寺跡	2T(最下位)	染付	皿	底部	-	4.0	(1.9)	-	-	-	-	-	良好	221	蛇の目釉ハギ
247	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	皿		9.0	4.0	2.4	-	-	(釉)灰白(10Y8/)	(胎土)灰白(N8/)	-	良好	205	蛇の目釉ハギ
248	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	皿		-	9.6	(1.7)	-	-	(釉)明青灰(5B7/1)	灰白(2.5GY8/1)	-	良好	206	型紙摺印判
249	保田木城跡・光蓮寺跡	4T(Ⅰ層)	磁器		胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	良好	231-C	小代焼(瀬上窯)
250	保田木城跡・光蓮寺跡	4T(Ⅰ層)	陶器			(11.4)	(5.6)	6.3	-	-	-	-	-	良好	215	小代焼(瀬上窯)
251	保田木城跡・光蓮寺跡	2T(Ⅰ層)	磁器	仏花器	口縁	(10.6)	-	(2.4)	-	-	-	-	-	良好	231-D	小代焼(瀬上窯)
252	保田木城跡・光蓮寺跡	4T(Ⅰ層)	陶器	香炉	口～胴部				-	-	-	-	-	良好	231-B	小代焼(瀬上窯)
253	保田木城跡・光蓮寺跡	2T(Ⅰ層)	磁器	瓶	底部	-	6.8	(9.0)	-	-	(釉)褐灰(7.5YR4/1)	(胎土)赤褐(2.5YR4/8)	-	良好	218	糸切り
254	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	磁器	植木鉢	口縁				-	-			-	良好	231-E	小代焼(瀬上窯)
255	保田木城跡・光蓮寺跡	1T(Ⅰ・Ⅱ層)	陶器	擂鉢		-	11.3	(7.0)	-	カキ目	(釉薬)赤黒(10R2/1)	(胎土)赤褐(10R4/3)	白色砂粒(0.5～1mm大)極少量	良好	203	砂目あり
256	保田木城跡・光蓮寺跡	5T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	碗		-	4.6	(3.8)	-	-	(釉薬)灰白(10Y8/1)	(胎土)灰白(5Y8/1)	-	良好	227	銘款あり
257	保田木城跡・光蓮寺跡	3T(Ⅰ・Ⅱ層)	染付	皿		(32.0)	-	(4.9)	-	-	(呉須)深い藍色と淡い藍色	(胎土)灰黄(2.5Y7/2)	-	良好	225	
258	中村館跡	1T(S-1)	土器	甕		(34.8)	-	(43.0)	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	明褐(7.5YR5/6)	明褐(7.5YR5/6)	精選されている。わずかに砂粒(0.5mm大)含む	普通	183	波状文
259	中村館跡	1T(S-2)	瓦	軒平瓦		-	-	-	ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	小石粒(5mm大)少量、カクセン石、雲母片少量含む	良好	187	
260	中村館跡	表採	染付	皿	口～底部	(8.2)	(12.7)	3.4	-	-	(釉)明緑灰(7.5GY8/1)	(胎土)灰白(2.5GY8/1)	黒褐色粒子を含む	良好	182	五弁花文
261	中村館跡	1T(S-2)	瓦質土器	擂鉢	口縁	-	-	4.2	ナデ	ナデ	灰(N4/)	灰(N5/)	白色微砂粒(0.5mm大)わずかに含む	普通	185	
262	中村館跡	1T(S-2)	染付	皿	底部	-	(6.3)	(2.0)	-	-	(釉)オリーブ灰(5GY6/1)	(胎土)緑灰(10GY6/1)	黒茶色粒子多量に含む	良好	186	
263	築地東遺跡	3T・中層	須恵器	坏蓋	破片	-	-	(1.9)	ナデ	回転ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR6/2)	黒茶色粒子少量に含む	不良	188	
264	築地東遺跡	4T(S-1)	石製品	石包丁		(4.5)	(3.4)	(0.8)	-	-	-	-	-	-	191	玄武岩？
265	築地東遺跡	4T(S-1)	土師器	鉢	口縁	-	-	(3.6)	ナデ	ナデ	明赤褐(2.5YR5/8)	明赤褐(5YR5/8)	雲母含む	不良	189	
266	築地東遺跡	4T(S-1)	土師器	甕	-	(17.0)	-	27.0	ハケ目	ヘラケズリ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	1mm以下の砂粒、雲母含む		192-B	
267	築地東遺跡	4T(S-1)	土師器	甕	胴部	-	-	(21.0)	ハケ目	ヘラケズリ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい赤褐(5YR5/4)	白色砂粒(0.5～3mm大)少量、雲母片少量含む	普通	192-A	

Ⅳ．石橋の調査

1．乙宮橋

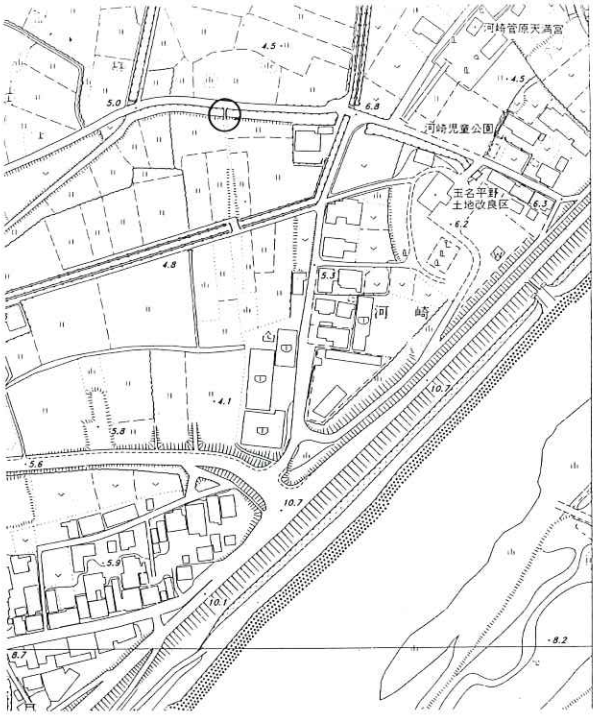
所在地：河崎地内

調査期間:平成10年5月

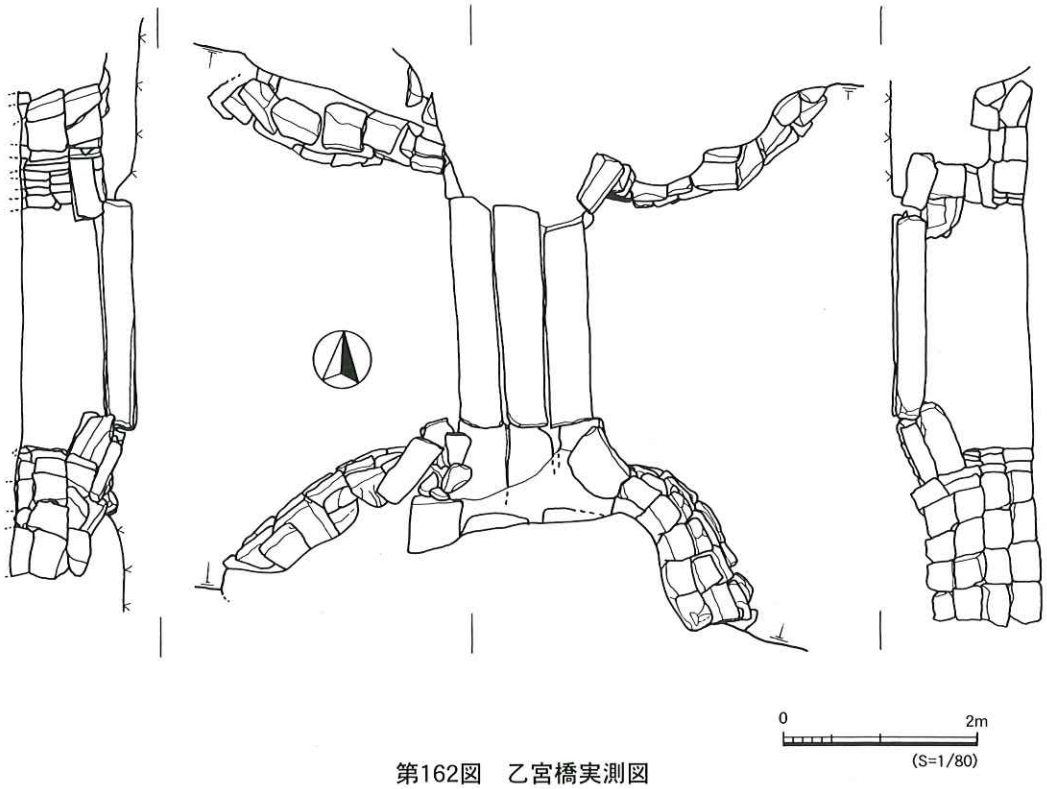
担当者：末永　崇

乙宮橋は、旧高瀬町から北東へ300m程の日出川に架かる石造刎橋で、橋長約5.6m、幅約1.4m、支間約2.4mを測る。桁は4列であったとみられるが、調査時点では西側の1本は脱落しており、石材は川床からは確認されなかった。調査後に桁1本分をコンクリートで補強されている。

乙宮橋は、南に140m程の地点にある乙宮への参道として利用されていたようで、付近住民への聞き取りでは「乙宮さんの橋」「サキタ川の橋」などの呼び名があったそうである。



第161図　乙宮橋位置図　S=1/5,000



第162図　乙宮橋実測図

乙宮橋近景
（西から）

乙宮橋（北から）

乙宮橋（南から）

乙宮橋修復後
（東から）

乙宮橋修復後

乙宮

2．石造十六橋

所在地：山田地内

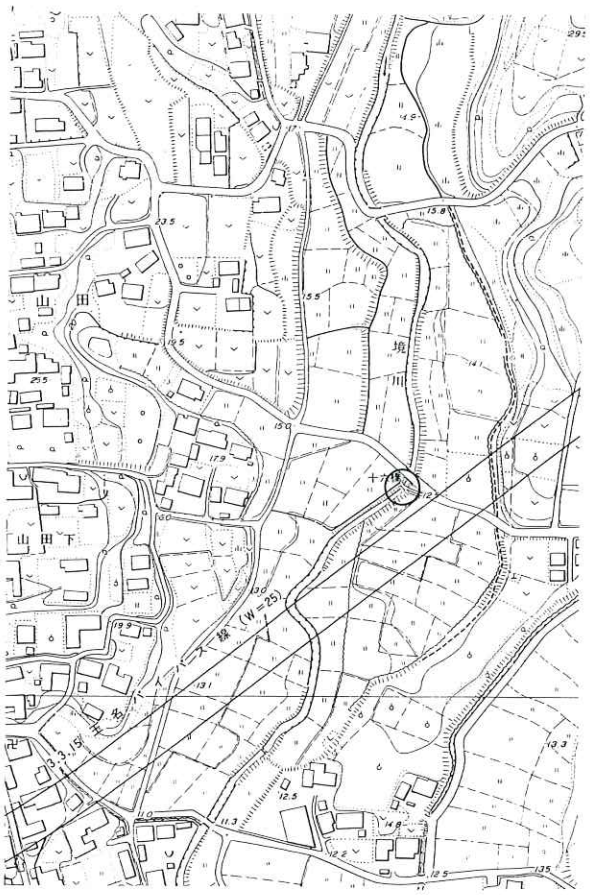
調査期間：平成10年5月

担当者：株式会社文化財環境整備研究所

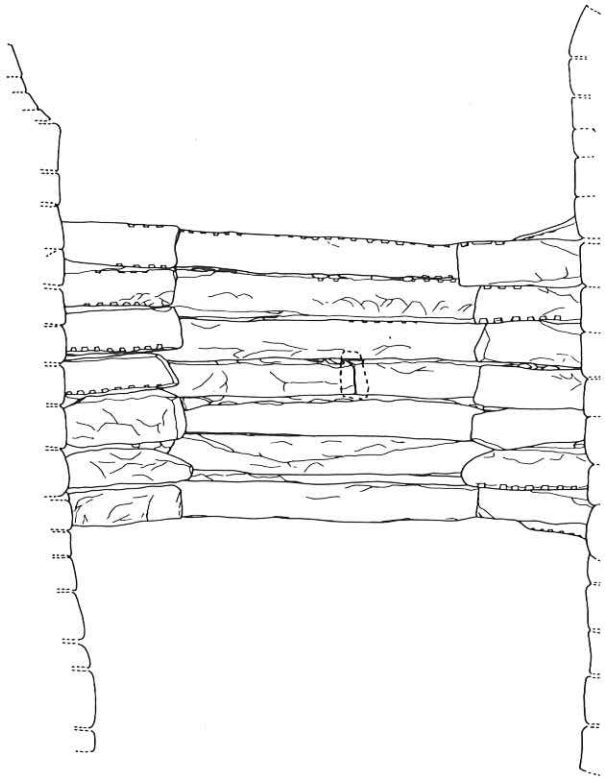
石造十六橋は、山田の集落が所在する丘陵東側の境川に架かる石造刎橋で、橋長約6.9m、幅約2.9m、支間約5.3mを測る。桁は2段7列で、中央部分に支柱が1本ある

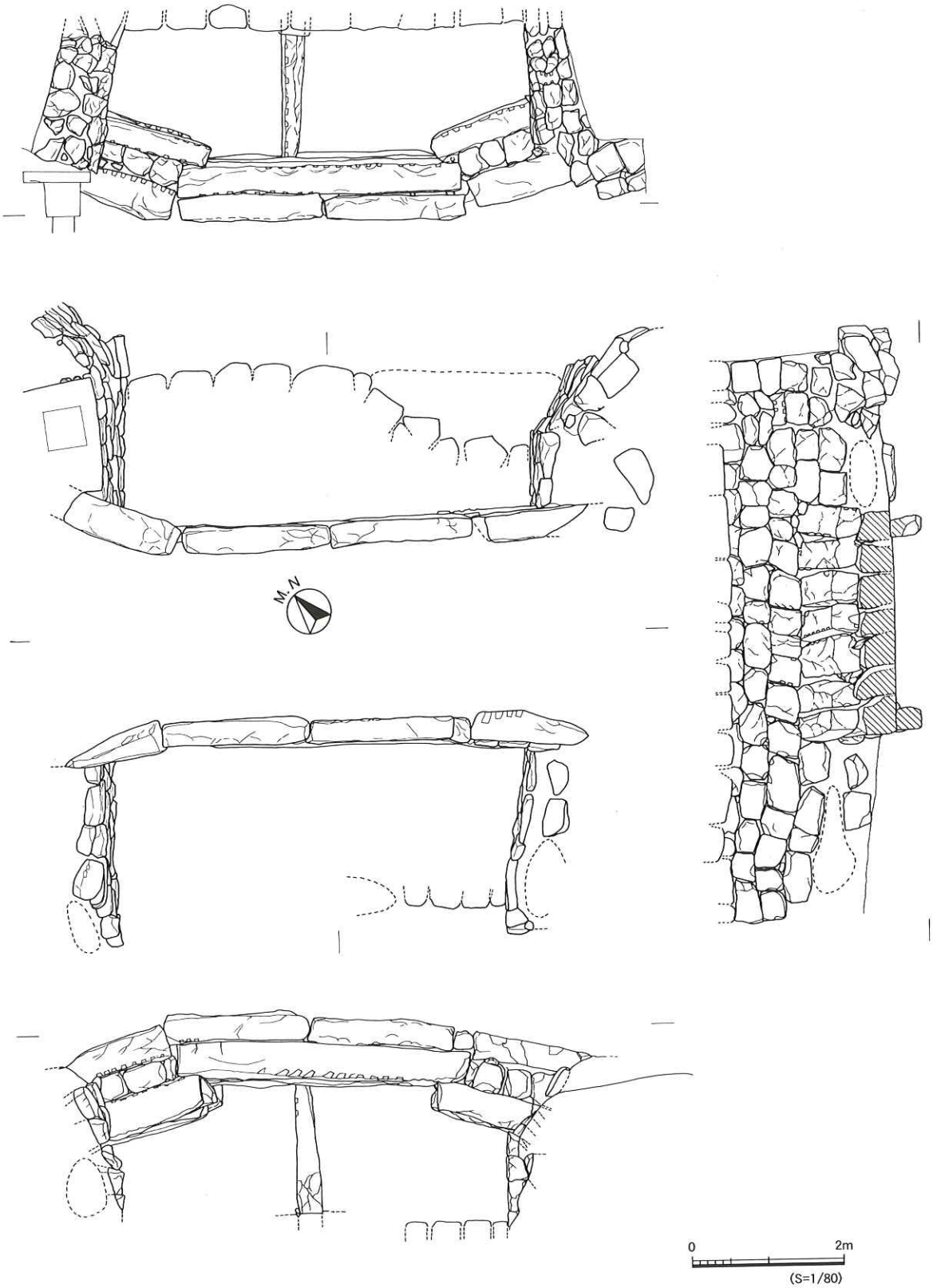
現在は、北側にコンクリート橋が新設されており、それが十六橋となっているため、石橋は旧十六橋とされていたが、玉名市保護審議会での審議の過程で石造十六橋となっている。

建築時期は、名称の由来にもなっているように明治16年とも伝えられているが、詳細は不明である。



第163図　石造十六橋位置図　S=1/5,000





第164図　石造十六橋実測図

石造十六橋近景
（南西から）

石造十六橋
（西から）

石造十六橋
（南から）

3．石貫車橋

所在地：石貫地内

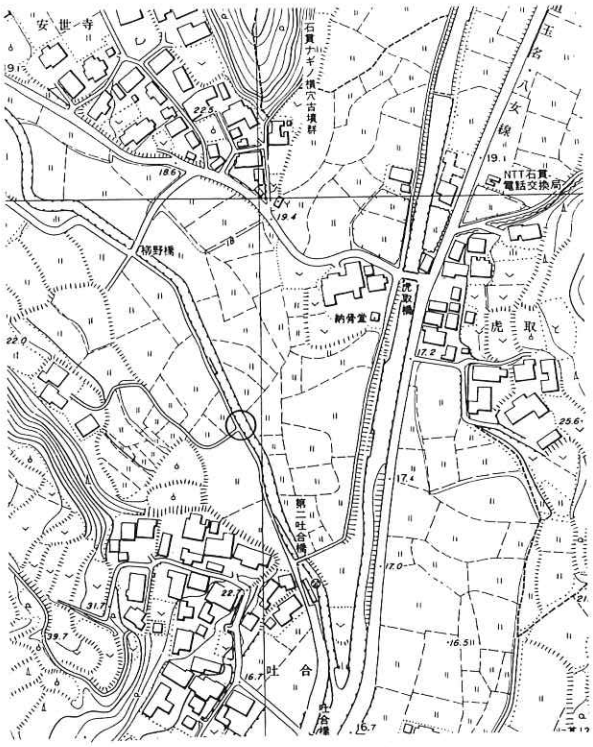
調査期間：平成15年1月20日～1月24日

担当者：末永　崇

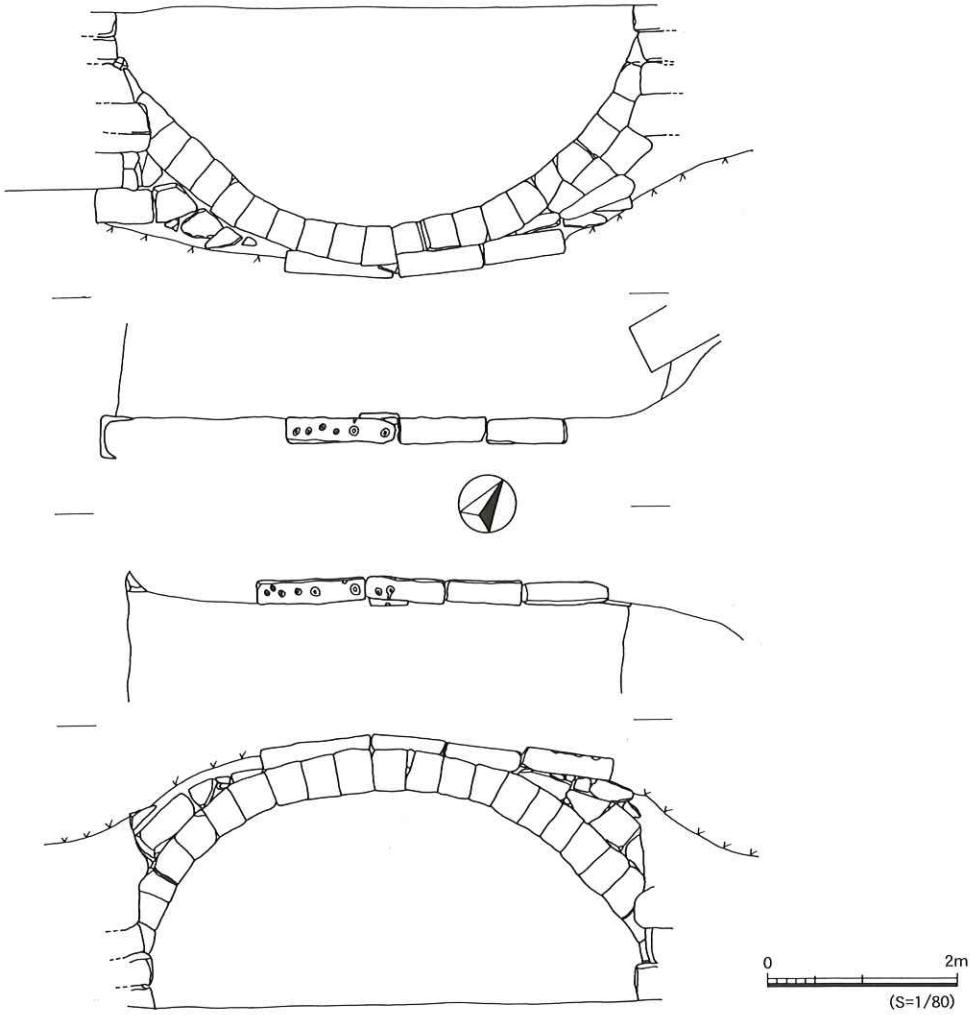
石貫車橋は、繁根木川の支流山口川に架かる、単一アーチ式の石橋で、長さ約6.0m、幅約２m、径間約5.5mを測る。

かつて石貫ナギノ横穴群が位置する丘陵上に所在した、熊野座神社への参道として利用されていた。神社は80年ほど前に焼失し、その後移転されたために現在は丘陵上には存在しない。碑文などの史料については今のところ確認されず、建造年等は不明である。

車橋は、他には南に1kmほど離れた繁根木川に架かっていた石造アーチ橋が存在したが、昭和50年代に流失しており、その後再建されて広福寺橋となっている。



第165図　石貫車橋位置図　S=1/5,000



第166図　石貫車橋実測図

石貫車橋近景
（南西から）

石貫車橋
（南西から）

石貫車橋
（南から）

付論　近世における「高瀬」の側面と出土陶磁器

―確認調査の結果から―

蕨父雅史

1．はじめに
2．高瀬町について
3．近世礎石建物跡の一例
4．高瀬の近世陶磁器
（1）陶磁器の出土遺跡
（2）陶磁器の器種と分類
（3）「染付ＶＯＣ芙蓉手文皿」について
5．おわりに

1．はじめに

玉名市では近年、都市計画に伴う道路などの開発が進み、確認調査の事例も増加している状況にある。今回、論題とする高瀬地区も例外ではなく、市道の拡幅や店舗の新築工事に伴い、「高瀬本町通遺跡」や「高瀬御茶屋跡」などの近世遺跡における調査で陶磁器の資料を得ることができた。

高瀬は、近世において肥後五ヶ町に数えられ、県内でも重要な貿易拠点として栄えた港町である。この高瀬から出土する近世陶磁器は、時代背景と共に意義深いものであると考える。

そこで、陶磁器を中心に出土遺物の分類を行い、時期特定などにつながる要点を整理したうえで、その流通状況を概観する。また、高瀬町の確認調査によって、近世の建物跡を検出したのでその例を報告し、ここで併せて近世における高瀬町を考察したい。

2．高瀬町について

高瀬は、もともと菊池川と繁根木川に挟まれた中洲（砂嘴）であり、浅瀬で当初は「高洲」と呼ばれ、その後「高瀬」という地名がついたとされている（『肥後国誌』）。中世において、菊池一族の系統を引く高瀬氏が出現し、ここに保田木城（別称：高瀬城）を築き、次第に町並みが形成されていった。中世の頃から、高瀬に津（湊）が置かれ、韓半島や中国・明などの海外貿易港として発展し、多量の青磁などが輸入されている。現在でも、湊跡の川床からは12世紀以降の青・白磁の破片が採集される。(注1)　菊池氏が、菊池川下流の高瀬に着眼したのは、何よりも菊池川を支配し、なお有明海を介する対外貿易を目的とするためだったと考えられている。

近世において高瀬は、肥後藩主・細川重賢の藩政改革により、「肥後五ヶ町」（熊本・川尻・高橋・八代・高瀬）の特別行政区として独立し奉行所が置かれ、高瀬町は大きく上・中・下の三丁（本町・

下町・八日町）に分割された。<注2

湊は国内移出の拠点へと変化し、大坂へと肥後米（いわゆる高瀬米）を輸送するために「御蔵」や「舟着場・俵転がし」といった付属施設が造営され最盛期を迎える。菊池川水運は“高瀬下り”とも呼ばれ、高瀬は、県北の穀倉地帯を代表する集積地となった。菊池川に併行して開削された「裏川」が町並みを流れ、そこに架かる多くの石橋などによって様々な物資が運搬され、玄関口として「高瀬目鏡橋」（県指定重文）が架設されている。また、三池往還筋でもあり、人と物が往来する商都が形成されていた。

しかし、高瀬は、明治10年の西南戦争で戦火にあい、2月27日の昼に横町を除く大半が焼失している。薩軍は熊本の高瀬まで北上し、ここで南下してきた官軍と対戦、西郷小兵衛（一番隊小隊長）が戦死するなど多くの死傷者が出た。そして官軍側の放火により、火の手は高瀬町に及び商家や民家をはじめ、肥後藩にとっても重要な施設であった高瀬御茶屋や御蔵などもすべて焼失した。<注3

熊本県立図書館所蔵の史料に『事変西南之役』があり、当時の高瀬の火災状況が詳細に記録されている。それによれば、高瀬の家屋188戸が焼失したとされ、今回の確認調査においては、高瀬の3地点において西南戦争時のものと考えられる焼土層が確認されている（本編参照）。

西南戦争後、藩直営の施設を失い、また鉄道開通などによって県北最大の集積港としての機能は廃れていった。しかし、今なお残る高瀬の商家や町屋は戦火を逃れ、増改築を経ながらも以後約130年の時間を越えて商店街を形成している。

ここで、本題に入る前に近世当時の高瀬町の人口をあげておきたい。町奉行であった高瀬寿平が記した「大万帳」（弘化5～嘉永元年）によると当時の人口は次のようにある。

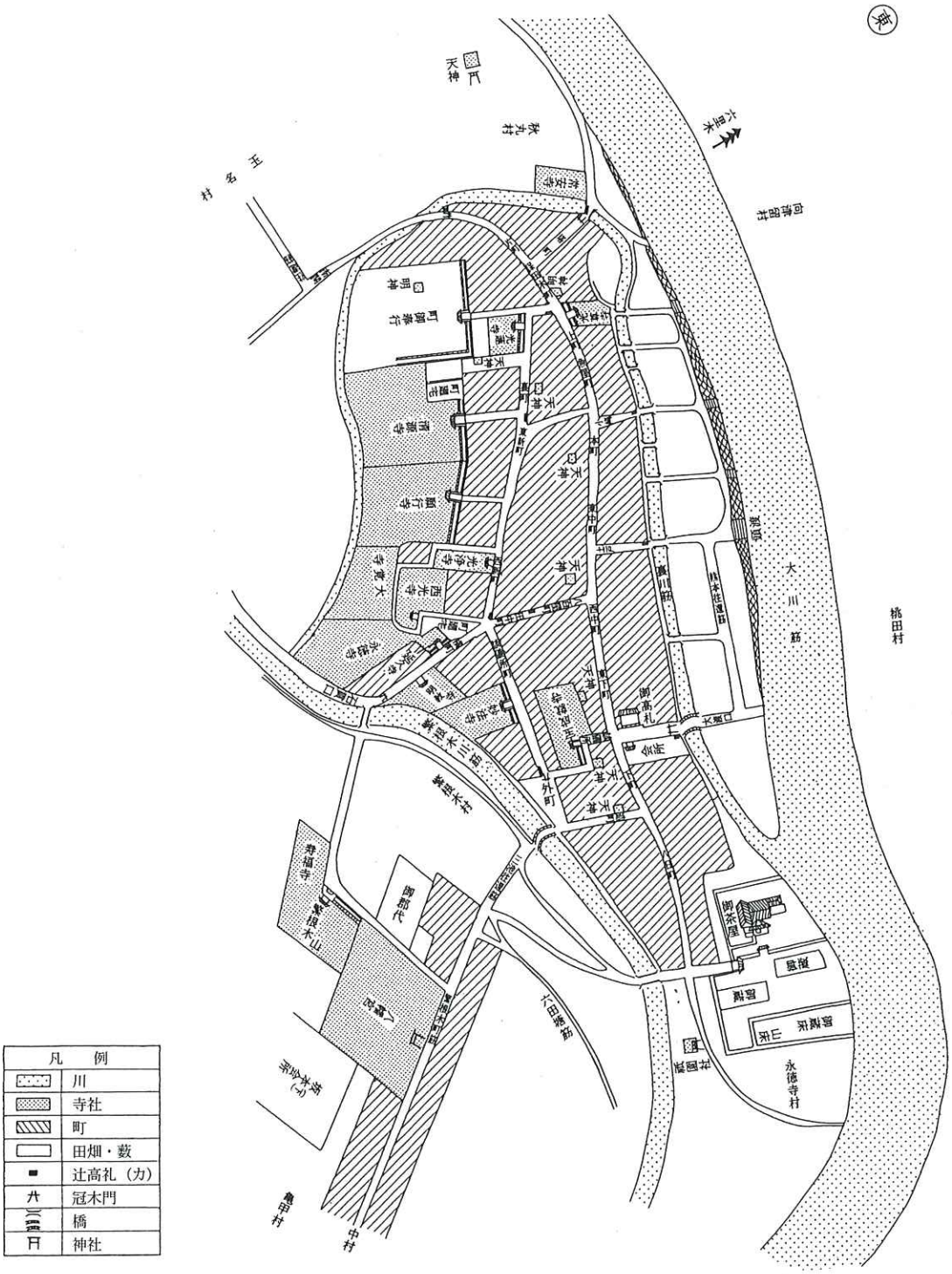
	人口（人）
町　人	1539
職　人	569
役　人	370
僧　侶	67
合　計	2545

第1表　　近世(幕末)における高瀬の人口（1848年当時）

この記録によると約2600人が高瀬に居住していたことになる。ちなみに明治時代（西南戦争前）の高瀬の人口は2897人（明治8年「御間合二付御届」より）で、維新後に約300人増加している。

なお、現在の玉名市の人口は、約45000人で、そのうち高瀬地区に限ると約680人であり（玉名市役所統計）、江戸時代に比べかなり減少していることになる。

※注　近世において菊池川は「高瀬川」と呼ばれていたが、本稿では菊池川で統一することにする。



第１図　　近世における『高瀬町図』　　＜嘉永７(1854)年＞

（『玉名市史／資料篇１(地図・絵図)』より転載）

３．近世建物跡の一例

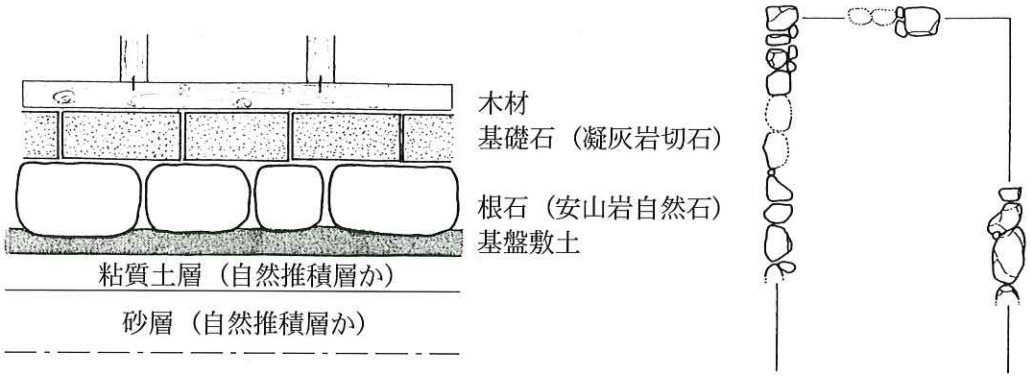
平成14年度に調査した高瀬本町通遺跡から近世の建物跡と思われる礎石が出土した。当初、確認調査によるトレンチで４個の礎石を検出するのみであったが、その後の慎重工事の過程で新たに礎石が出土して急遽、立会調査を行った。その結果、総合して17個の礎石を検出し、ほぼ間口を特定

できる建物一棟分を確認することができた。掘削していない部分も石列は、残っていると思われる。

土層を観察すると、礎石の下層は川の洪水によると考えられる灰褐色の粘土層と川砂による堆積層であり地盤は緩い。高瀬は、前に述べたように砂嘴であり、川の氾濫の度に砂が堆積している可能性があり、以前の中世・高瀬町の生活面からは約３～４ｍ上面が現在の生活面とみられているのである。

礎石の構造をみると、まず粘質で締りの強い黄褐色粘土（おそらく周辺のローム土）を敷き、人為的に基盤の代わりとして固められている。近世の土木工事などでは地盤が緩いとき、土台木や梯子土台などの技法が用いられることがあるが、高瀬においては「裏川」の石垣で止杭と土台木の使用が認められている。<注4

この敷土の上に約40～80cm四方の安山岩自然石が天端を揃えて設置され、その直上に凝灰岩切石（約40cm四方）が並んでいた。



（S＝1/40）　　（S＝1/200）

第２図　高瀬における近世礎石建物の模式図と平面図

今回、検出した礎石建物は、間口の寸法が礎石中心で約６ｍあり、「３間」であったと判断でき、奥行も５間程までは確認した。近世において高瀬の場合、各戸の規模は間口３間未満が約半数で平均的とされ、本通り・上町で８間が数件、本町・中町で４～５間、下町から八日町にかけては３間が多かったといわれている。<注5　今回の調査は、下町でありそれを裏付ける一例となる。また、高瀬は敷地自体も間口が狭く、奥行が長いのが特徴だが、他都市の町屋よりも長いといわれ、狭いために隣家と壁を共有する共壁が用いられた。礎石も隣家と共有する形であったのかもしれない。

県内において、城郭を除き近世建物の完全な発掘はほとんど行われていないに等しいが、参考に類例を挙げれば、長崎県の出島和蘭商館跡の発掘調査において、間口３間×奥行５間の礎石建物（一番蔵跡）の出土例がある。<注6　今後、近世における町屋との比較、及び高瀬の他地点におけるデータを蓄積し、町並みなどを文献史料と共に検証していくことが課題と考える。

（※補記）平成15年度における高瀬下町の確認調査でも、一軒の礎石建物跡を確認した。同じように焼土層下に安山岩の礎石列が東西方向で検出できた。

4．高瀬の近世陶磁器

（1） 陶磁器の出土遺跡

これから本稿で紹介する陶磁器が出土した遺跡について、具体的な概要を述べたい。主に平成13～14年度にかけて行った確認調査地であり、調査内容についての詳細は本編で述べているので省略する。　（調査地点については第４図参照）

①高瀬町奉行所跡

高瀬には、肥後五ヶ町として町奉行が置かれ、明治２年に廃止されるまで同地にあった。町奉行とは町の政治責任者であり、高瀬の場合、藩庁の町局に属する二百石高の平士一人が任じられていた。<注7　高瀬目鏡橋の架設に関わった高瀬寿平もその一人で、後に宮内省の天皇侍講となった元田永孚が町奉行の最後を務めている。

県の遺跡地図では「保田木城跡」と同じ範囲で、同一の複合遺跡として扱ってある地点である。確かに保田木城跡の一角に、近世になって奉行所が置かれたが、保田木城跡は中世の遺跡であるから、近世陶磁器は出土しない。基本的に中世の遺構を切って、近世の建物跡及び、陶磁器が出土するので、本稿では遺跡名を「高瀬町奉行所跡」で統一する。ちなみにこれまで本格的な発掘調査が行われていないので、奉行所跡などの具体的な遺構は未確認である。また、同じ遺跡範囲内で奉行所の南には「光蓮寺」という寺院が近世に建立されている。現在はないが、この跡地にあたる所を調査することができ、多量の近世陶磁器を採集した。

②高瀬本町通遺跡

現在の国道208号線より北側に延びる中町商店街を中心に広がる遺跡で、江戸時代に形成された町並みが今も色濃く残っている。しかし、本来は中世の高瀬町を含めた意味での複合遺跡である。

以前、下水道工事の際に多くの中世遺物（瓦器・青磁・漆器・中国貨銭など）の出土例がある。<注8

近世になって、現在のように表通りと裏川の間に沿って商家が建ち並ぶ景観となった。西南戦争での被害も本町は比較的少なかったため、当時の商家が最もよく残っている。今回、一部の近世礎石建物跡を確認している。

③長福寺跡

八日町に建立された中世寺院跡であり、大野氏が造営したともいわれる。<注1　中世の高瀬において、貿易の実務にあたったのは禅宗などの僧侶であり、早くから各宗派の寺院が数多く建てられた。その代表が宝成就寺であり、周辺は門前町の様相を呈していた。この長福寺はその後、保田木に位置を変えたともいわれ詳細なことは不明な点が多い。確認調査では、寺院に伴う直接的な遺構は検出できなかったものの、その後の近世～近代にかけての建物跡、西南戦争時の焼土層、そして陶磁器が出土した。今後、長福寺跡の明確な位置やその範囲の特定が課題である。

④高瀬御茶屋・御蔵跡

高瀬御茶屋は、細川藩主の巡検時の休泊施設であり、現在のJR鉄橋北側の永徳寺に造営された。

明治10年の西南戦争で焼失し、今は当時の井戸が2ヶ所残るのみである。永青文庫所蔵の史料に『高瀬御茶屋絵図』があり、御広間・御居間など江戸中期とされる詳細な平面構造が記録されている。

高瀬御蔵は、全国の米が大坂の堂島に集められ、米経済が成立するに至り、肥後藩直営の年貢米御蔵として造営されたものである。各藩は、米相場を見計らい輸送するようになるが、肥後藩は村方を通じて年貢を集めるという効率的な方法に変え、最大の穀倉地帯であった菊池川水系の年貢は、藩直営の大小4棟の高瀬御蔵（25万俵収容可能）に収められることとなった。実際に、大坂への輸送で肥後藩からの40万俵という量は全国一で、その中でも高瀬からは約半分が積み出されていた。<注9

御蔵は、西南戦争により焼失しているが、薩軍がこれを奪取しようと迫ったため、官軍により火が放たれたといわれている。跡地には石垣と礎石のみが残存し、以前に御米山床の一部である石積みの発掘調査例がある。<注4

（2）陶磁器の器種と分類

ここで掲げる「陶磁器」とは、基本的に本編の実測図と対応するものであり、出土地や出土状況などは前で報告しているので省略し、総合的に「高瀬町出土」として一括して考えたい。

また、本編に掲載している陶磁器が調査で採集したすべてではない。遺物台帳作成における分類で、特に小片や特徴の少ないもの、他と類似するものなどは除外した。そのため、以下の分類・考察などの文中に、実測図が掲載されていないものの事項も含んでいる。

a．陶器について

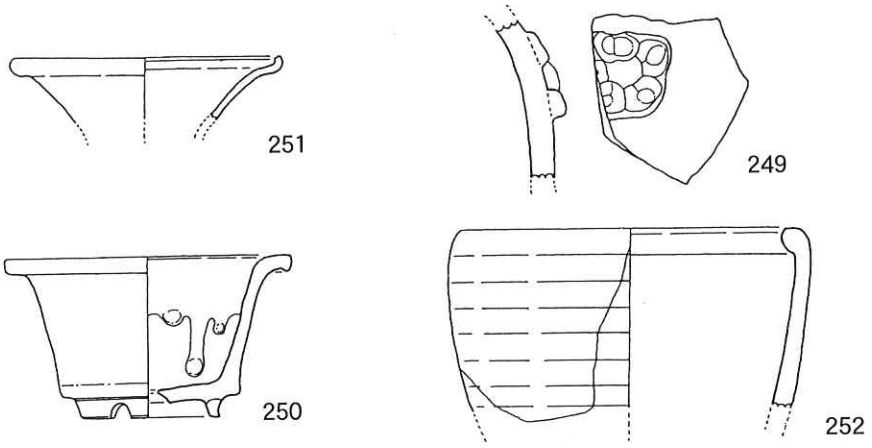
今回、高瀬における確認調査で出土した陶器を器種別に分類すると「碗・皿・鉢・壷・瓶・摺鉢・徳利・香炉・灯明具・植木鉢・水盤・土瓶・仏花器」などがある。これらの産地としての分類は、肥前の有田産の他に、唐津産、福岡産、そして地元の熊本産の陶器があった。具体的には、肥前の場合、波佐見系、嬉野系、内野山系、唐津の弓野窯系のものがあり、福岡は高田町の二川焼、大分日田の小鹿田焼、熊本は南関の小代焼と八代の高田焼の陶片が含まれていた。他に小片が多く、産地の特定が困難なものがあったが、陶器の場合、唐津系のものが多数含まれているようである。実測していないが、絵唐津葦文壷片と思われるものもあった。また、備前や萩など遠方産の特筆すべき陶器は、今回確認できなかった。

装飾技法からみると、鉄絵、二彩、刷毛目、白化粧、象嵌、陶胎染付などで表現されたものがあり、釉薬には透明釉と無釉の他に緑釉・飴釉・鉄釉・藁灰釉・木灰釉があり、それらを地掛釉、上掛釉として二重掛けを施して仕上げたものがある。

なお、熊本の小代焼については、坂本重義氏の御教示により、南関の瀬上窯・瓶焼窯で江戸後期～幕末にかけて生産されたものを数点確認した。その器種は、甕・土瓶・仏花器・植木鉢・香炉で特に瓶焼窯の特徴である「飛鉋技法」が施されたものがある。<注10　小代焼は、高瀬でも庶民に親しまれていたと思われるが、いつ頃から流通しているのかを明確にするのが今後の課題である。

瀬上窯は1836(天保7)年、他国産の陶磁器流入に対抗しようとする藩の方針によって始められた殖産窯である。今回、瀬上窯の江戸末期のものが主であったが、そのような背景のもとに多く流通

していたとも考えられる。



第３図　　高瀬出土の小代焼（瀬上窯産）　　（S＝1/3）

八代の高田焼は茶器が多いとされるが、出土したのは小皿で、見込み内に白色を呈した円と桜文の象嵌が施されており三島唐津の象嵌とは異なるものである。八代焼は、上野喜蔵を祖とし、次男・徳兵衛が松尾焼を起こし、その子・太郎助が第３家として象嵌手法を完成させたといわれ、当資料は、松尾焼の系統を引くものと思われる。八代も高瀬と同じ肥後五ヶ町の一つであり、それら陶磁器の流路は当然あったはずである。

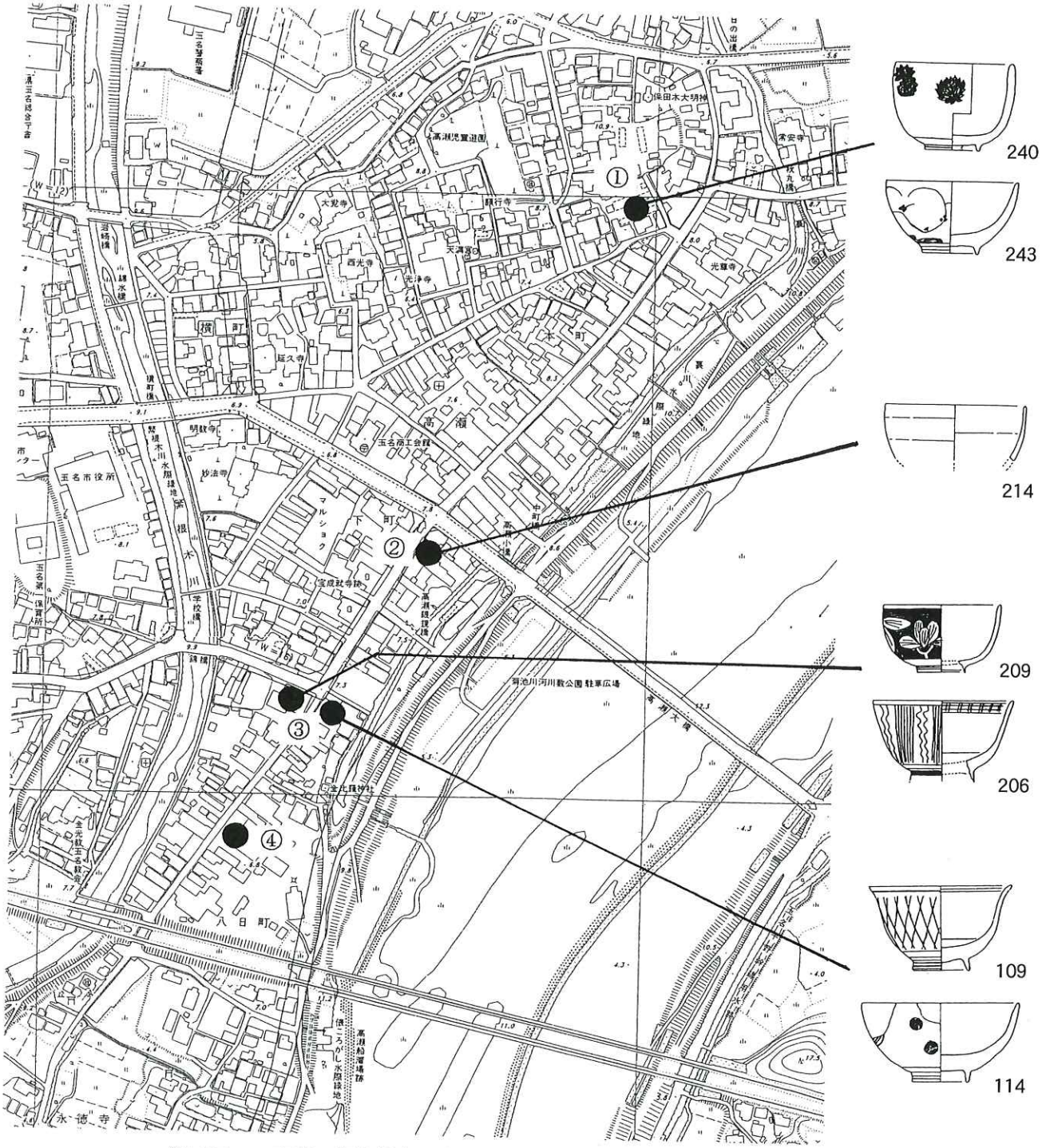
また、特筆すべきは肥前産の皿片で、初期の焼成技法の特徴である砂目痕が確実に見込み内に残るものを１点確認できたことである。おそらく1610～1630年代に生産されたもので今回、高瀬において最も古い近世の陶器資料となる。

高瀬は、中世より海外貿易港として栄え、港町また門前町としての様相をもっていた。よって、今後の調査により海外産（タイ・ベトナムなど東南アジア系）の陶器が出土する可能性もあると考えている。

b．磁器について

出土した磁器を器種別に分類すると「碗・皿・盃・角鉢・猪口・壷・甕・瓶・銚子・段重・茶入れ・徳利・仏飯器」などがある。陶器と同様に、トレンチ調査でありながら、総括すると近世当時の庶民の日常生活に伴う一式の器種が揃っている。それらの器種をさらに細分すると「碗」の中では、丸碗・平碗・端反碗・広東型碗・筒型碗（湯呑）・飯碗に分類される。また「皿」は、大皿・小皿・手塩皿・輪花皿・紅皿に分類できる。

これらの磁器の産地は、肥前の有田・嬉野・波佐見などがあり、中でも窯跡の発掘調査が行われている小樽窯・広瀬向窯・樋口窯など18世紀前半以降の遺物と類似するものが含まれる。銘款のある染付磁器としては、皿・碗・蓋の３点があり、それぞれ高台内に「富貴長春」・「太清壬子年製」・「鬱」とあり、いずれも18～19世紀の特徴を備えている。「富貴長春」銘は十字ではなく二行に配したもので、明末～清の磁器から写したと推測されているものである。特に「太清壬子年製」銘



第４図　　高瀬の調査地点と出土した近世磁器碗　　（地図Ｓ＝1/5,000）

	遺跡名（調査地）
①	高瀬町奉行所跡
②	高瀬本町通遺跡
③	長福寺跡
④	高瀬御茶屋跡

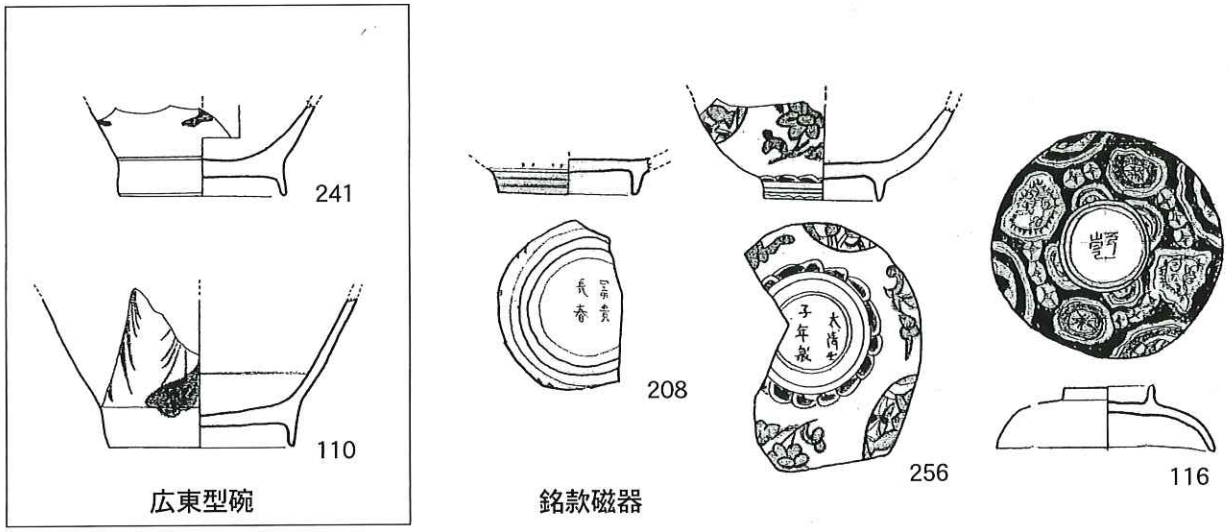
は、中国の国号と年号を転用したもので、通常は“太明成化”など、明代のものが多いが、これは清朝の影響をうけた１９世紀の所産と思われる。他の類例として、「大清雍正年製」銘などが確認されている。「 [illegible] 」銘は、有田の樋口窯などにみられ1780～1860年代に製造されているものに類似している。(注11

なお、染付以外の色絵は今回、確認できなかったが、染付と色絵が混合した磁器の皿片は１点のみ出土している。これは、後世の重ね塗りの可能性もあり、確実とはいえない。

製作技法からみると、見込み内に蛇目釉剥ぎのあるものが碗と皿で３点、また蛇目凹型高台の皿が２点あった。コンニャク印判による染付は、18世紀前半の碗が１点あり、菊花文（団鶴文か）など２パターンの文様が確認できる。18世紀に流行したとされる見込み内に五弁花文様を施す碗があったが、文様の形がかなり崩れ簡略化されたものなので、18世紀後半の所産であろう。その他、明治の型紙刷印判の染付が、皿、筒型碗、段重の３点が含まれていた。

碗の形態からみると、1780年代頃から主流となる広東型碗が２点あり、その時期と共存するとされている筒型碗も揃って確認できる。他に蓋付碗や、そば猪口なども出土したが、それらの器種は庶民の経済力の向上が背景にあるといわれているものである。(注12

なお、高瀬御茶屋跡において、染付の「茶入れ」が出土した。茶道具の一部なのか分からないが御茶屋との関連性など検討を要する。



第５図　　高瀬出土の近世磁器　　（S＝1/3）

肥前産の磁器が大半を占めているが、中でも波佐見焼であるいわゆる「くらわんか」が碗と皿に多くみられ、最も庶民に親しまれた磁器として高瀬町にも普及していたようである。なお、磁器の年代は、全体的に大橋編年（1989）のⅣ期～Ⅴ期に属し、18世紀前半以降に相当ものが主流であった。それよりも確実に先行するといえるものは今回、確認できなかった。Ⅳ期は、全国的に肥前磁器の出土例が増加する時期であり、食器における需要が増大し、機能別に器種が多様化するといわれている。(注12　以上のような結果から、高瀬もその傾向が窺える。高瀬近辺の遺跡では、寿福寺跡や玉東町の世尊寺跡の調査例があり、高瀬とほぼ同時期の肥前磁器の流通状況が知れる。

（3）「染付ＶＯＣ銘芙蓉手鳳凰文皿」について

平成15年３月に行った高瀬字保田木の「高瀬町奉行所跡」における確認調査において、染付のＶＯＣ銘芙蓉手文皿（以下、ＶＯＣ皿）と判断される破片が出土した。また、菊池川の近世港・高瀬船着場跡付近で以前、玉名市の松本秀蔵氏により採集されていた同類のＶＯＣ皿破片をここで併せて参考資料として紹介したい。

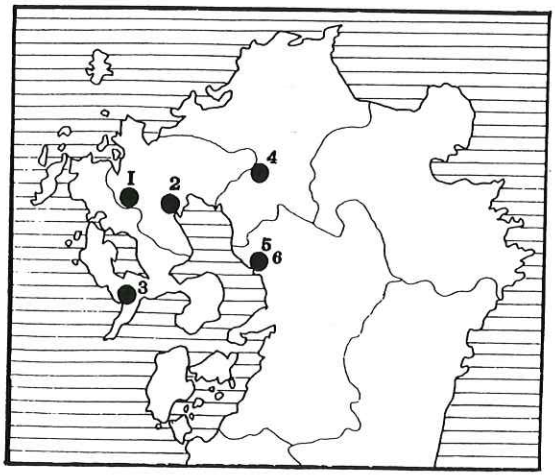
ａ．「ＶＯＣ銘芙蓉手鳳凰文皿」の概要

まず、この皿について概要を述べたい。「ＶＯＣ」とは、「Verenigde Oost-Indische Compagnie：オランダ連合東インド会社」の略名で、1650年以降から有田焼を伊万里港から世界に輸出していた貿易会社の名称である。ＶＯＣは当初、中国の景徳鎮窯などの磁器を代表としてアジア各国に輸出していたが、中国国内の戦乱により廃れ、それに変わる磁器として「有田焼」がその対象となった。

当時、日本は鎖国政策下にあったが、出島を通してのオランダと中国以外との貿易は行われていなかったため、ＶＯＣは独占的に大量の磁器を発注し、ヨーロッパなどに輸出した。また、有田焼の生産も向上し、いわゆる「伊万里」として名声をあげた。このような背景の中で、ＶＯＣが有田の窯元へ自社マークを入れ生産させた特注品がこの皿である。この皿は主に、有田町の谷窯・稗古場窯において製作されていたことがわかっている。皿の大きさは４種類に大別でき、全体的に大皿の類に入るが、直径が40cmを超えるものは少ない。また、皿としてはやや深く、文様は芙蓉手という割付の図柄が施され、二羽の鳳凰、窓絵は６分割されて牡丹と竹梅文が交互に描かれ、中央に「ＶＯＣ」の社名を重ね合わせたマークが入る。(注13)

ｂ．他遺跡における出土例

この「ＶＯＣ」銘入りの芙蓉手文皿は、その会社名を売出すため、主に輸出用として海外に運ばれたものであり、現在でもドイツなどヨーロッパ各地に残されているものがある。しかし、生産地は日本（佐賀県有田町）であり、実際に製作されていた窯跡からその陶片が出土している他、国内において数箇所によりこの皿が出土している。



	遺　跡　名	所在地	出土遺構など
1	稗古場窯跡	佐賀県有田町	※生産地
2	笹谷遺跡	〃　塩田町	藩役所跡(遺構外出土)
3	出島和蘭商館跡	長崎県長崎市	商館員食器として多量出土
4	久留米城下町遺跡	福岡県久留米市	廃棄土坑より出土
5	高瀬町奉行所跡	熊本県玉名市	遺構外出土
6	高瀬船着場跡対岸	〃	表採資料

第６図　　国内における「ＶＯＣ皿」出土地

生産地と同じ佐賀県内の笹谷遺跡は藩の役所跡とされ、ここから遺構に伴わず、径30㎝の皿（約1/3残存）が出土している。なお、これには高台内にハリ支え痕がある。

長崎県の出島和蘭商館跡からは、発掘調査によって最も多く出土している。当時、出島はＶＯＣの貿易拠点地でもあり、出土量や出土状況からも、出島商館員たちの日常食器として利用されていたと考えられている。(注6　福岡県の久留米城下町遺跡では、近世（享保～文政年間）の火災に伴う廃棄土坑から焼土や他の陶磁器と共伴して出土している。(注14　径21cm（約1/2残存）で、これも高台内にハリ支え痕がある。

そして、今回確認した熊本の高瀬町奉行所跡を含めて、以上が、現在確認できた国内における出土地である。主に生産地（佐賀）と、貿易地（長崎）を中心にした九州の範囲内に限られ、当時、国内における消費の拠点であった江戸（東京）・大坂（大阪）においても出土例はないという。(注14

また、注目したいのが九州における出土地をみても、通常の近世遺跡（庶民集落）よりは、藩の官衙的施設などからの出土例が多いことである。

出島は、実際に貿易拠点であるので出土する理由は考えられるとして、佐賀の藩役所跡や高瀬の町奉行所跡、及び久留米城下町など藩の役人が勤務あるいは居住する地点からの出土例が多い。やはり「くらわんか」のように庶民的に流通した皿ではないことが窺われる。生産地である有田から粗悪品などが数点出回り、藩を通して極一部の中で使用され、破損すれば通常のように廃棄されていたようである。本来、輸出用であるため、国内では流通していないし、特別珍重というわけでもなかったのであろう。ただ、それがＶＯＣの皿としてどれだけ認識されていたかは疑問である。

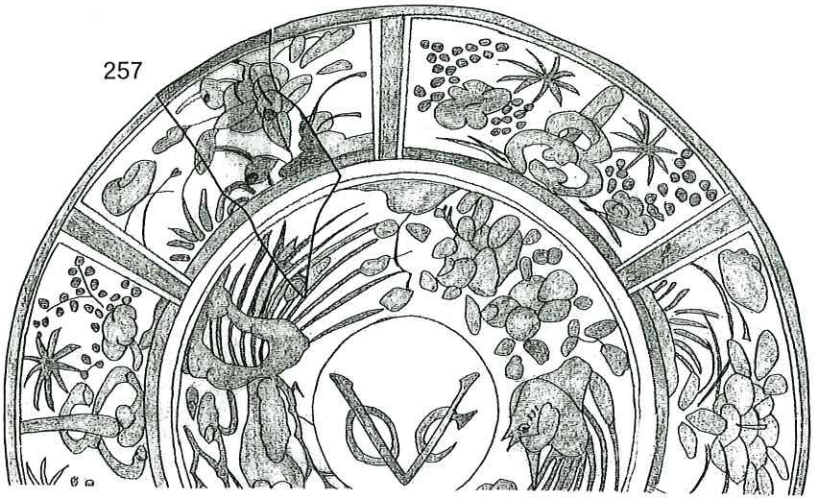
ｃ．高瀬における出土品

①高瀬町奉行所跡資料（**第７図－①**）

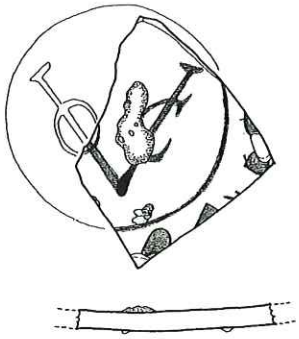
平成14年の確認調査によって、トレンチ内から出土したものである。調査敷地に対するトレンチ数とその面積の割合には多量の近世陶磁器が出土した。

これは、口縁部の破片であるが、おそらく全面発掘すれば他の接合部位があったものと思われる。復元口径は32cmで、口縁の窓絵には芙蓉手文の一部である牡丹と、見込みに鳳凰の尾先が一部確認できる。この図柄の配置構成は、破片ながら「染付芙蓉手鳳凰文皿」であると考えられる。しかし、中央の「ＶＯＣ」マークまでは残存していないため、断定はできないが、別タイプとしてＶＯＣ銘が入らない芙蓉手文皿もある。他の染付磁器をみても、文様構成としての芙蓉手文は多種類あるが、この種の図柄は、他にみられない。全体的な呉須発色の濃淡具合に対しての口縁端部のだみの濃さ、見込み段下の円の空白部、透明釉の貫入、皿の断面をみてもＶＯＣ皿の特徴と近似する。

しかし、出島から出土している資料の中で、図柄構成は同じながら、窓絵の枠線や文様全体に丸みがあり、呉須発色が濃い藍色のタイプ（仮にＡ類とする）のものとはやや異なる。これは、呉須発色が薄く、全体の線が細いタイプ（仮にＢ類とする）で、久留米城下町遺跡のものと類似している。この差異は、生産窯の違いか、絵付師の違いか判断できないが、Ａ類のタイプがより緻密なデザインなので輸出用なのかも知れない。いずれにしても、これは輸出されずに国内に残されたものということになる。



①高瀬町奉行所跡（推定復元・九州陶磁文化館資料等参考）



②高瀬船着場跡付近

第７図　　高瀬出土の「ＶＯＣ皿」片　（Ｓ＝1/3）

②高瀬船着場跡付近採集品（参考資料・**第７図－②**）

この遺物は、菊池川の川床にて玉名市在住の松本秀蔵氏（元・市文化財保護委員）によって採集されたものである。(注15)　菊池川は従来より、土器などの遺物が採集される川として知られ、縄文土器から弥生・土師器・須恵器・瓦器・青白磁・近世陶磁器など年代も幅広く、実に多くの遺物が採集されており、周辺は「高瀬菊池川河床遺跡」として県遺跡地図にも登記されている。これらは、近年における上流のダム建設や堤防工事、砂取業によって水流に微妙な変化が生じ、川床の埋蔵遺物が出土していると考えられるが、特に青磁は中世からの海外貿易港であった高瀬の湊跡から、国内では最も多く採集されている。近世になると、港は別章で述べたように積出港として発展し、肥後を代表する船着場となった。この皿片は、船着場跡と高瀬目鏡橋の中間にあたる川床で採集されたものであるが、他にも近辺から明や安南の青花（染付）皿、唐津系緑釉碗、天目碗、伊万里系青磁など輸入品を含め近世陶磁器が多量に採集されている地点である。(注16)

遺物を観察すると、見込み中央部のみの破片で、「ＶＯＣ」銘が確認できるが、Ｖの左上とＯの字が部分的に欠損している。他に、それを囲む円文と周囲に花弁と葉の一部が確認でき、線が細く、呉須発色の薄いＢ類で、高瀬町奉行所跡で出土した資料（以下、①資料）と同タイプであると思われる。なお、高台内にハリ支え痕が２ヶ所残り、見込み内には一見、砂目にも見える癒着痕が残っている。①資料に比べ、同じ透明釉であるが貫入はみられない。川床の採集品でありながら、ハリ支え痕などから贋物とは考え難い。

ｄ．考察

熊本では、肥後五ヶ町の一つである高瀬において、いわゆるＶＯＣ皿が２点出土している。この皿片が同一固体である可能性もないわけではないが、出土地点も離れているし確実な接点もないので無理がある。２点の相違点を挙げるならば胎土で、①資料がやや灰褐色を呈し、不純物が混入しているのに対して、②資料は白色で不純物の混入がほとんどない。おそらく陶石の違いと思われるが、それを除いて、この２点は破片ながら呉須色・釉調・文様線の太さなどの特徴が共通する。い

ずれもＢ類で、久留米城下町遺跡の資料と同類品と考えられる。また、留意点としては出島・笹谷遺跡・久留米城下町遺跡、及び高瀬船着場跡の採集品には、いずれも高台内にハリ支え痕が残っていることである。通常、焼成技法として砂目積みの方が初期（1600～1650）で、ハリ支え技法は17世紀中頃以降からみられるので、砂目痕とハリ支え痕が同時に残ることはない。よって、②資料の見込みに残るものは、砂目痕よりは癒着痕（フリモノ）とみた方が妥当である。以上のようなことから、これらは同じ技法によって製造されたといえる。また、これらが製造された実年代は断定できないが、胎土からして②資料よりも、不純物の多い①資料の方がやや先行するものと考えられる。

なお、この皿は、主に1650～1730年代を中心に生産されているので、その間かあるいは、その後に伊万里港から船で陸揚げされたか、佐賀～福岡（久留米）方面に陸伝いで高瀬に出回ったものと想定される。

菊池川の採集品については、例として高瀬湊（港）の川床から青磁が多量に出土する理由を挙げると、貿易船が輸出品として青磁を運搬してきて、途中で割れたものは選別し、港に荷揚げする前に船上から投棄していたためとの見方がある。(注17)　また多くの近世陶磁器が同じ川床から出土するのも、そこに近世に繁栄した船着場があったからといえるのかも知れない。当時の交通手段は、街道を除くと海や川の水運が主流であり、特に高瀬町は多くの物資が港から陸揚げされた。

久留米城下町遺跡出土の皿について、園井正隆氏（久留米市教委）は、「久留米藩は、出島の情報を収集するために、長崎に出張所を設けており、貿易品が久留米藩に流れる窓口があった可能性はある。」と述べている。

このように、高瀬の場合も肥後藩、あるいは高瀬町奉行所を通じて搬入されたものと考えられる。

なお、高瀬には「信牌」という幕府発行の長崎通商照票が残存している。これは、長崎との貿易許可書であり、交易があったのは確実といえる。しかし、問題はいずれの資料も破片であり、全国的に出土例が少ないだけに検討するに少々の危険を伴うので、今後の調査に期待することにしたい。

5．おわりに

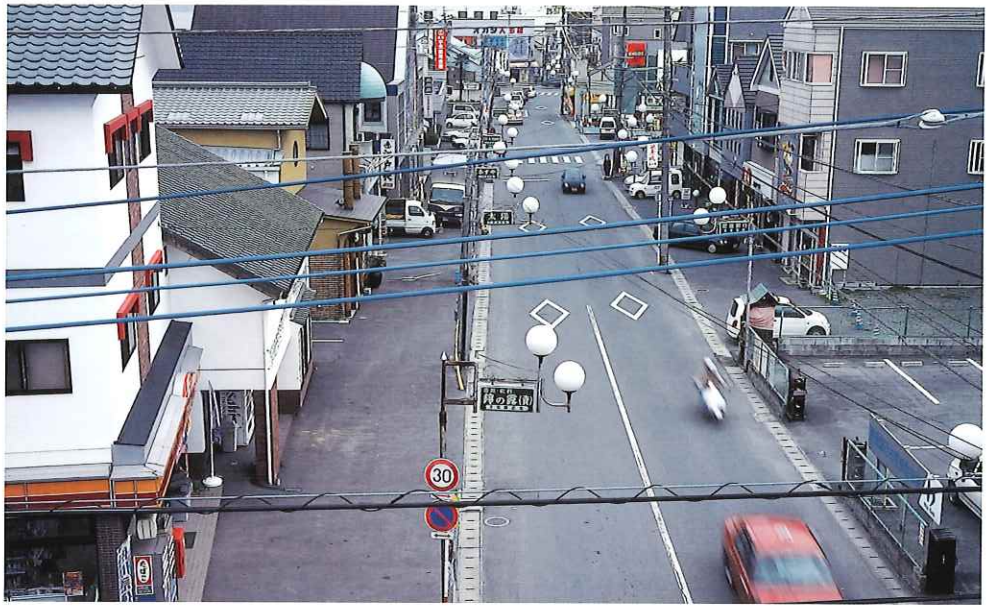
高瀬は玉名にとって、歴史的にも重要な位置を占めている。近世遺跡の発掘は、絵図・文献史料と併せた考察が不可欠とされているが、それに準ずる対象データ及び、考古資料の蓄積が必要となる。しかし、まだ高瀬町の数％しか調査しておらず、完全に検証資料が揃っているとはいえないので不明な点が多いのが現実である。

これで高瀬における出土陶磁器の年代幅を提示するのも無理があるが、概観すれば、今回、1610～1630年代（大橋編年Ⅱ－Ⅰ期）を上限として、以降幕末まで流通し、明治の印判磁器が流入するに至っている。全体的に、中世末から近世初頭の様相を追及するに至らなかったことは不十分であり、また、長崎（出島）との交易、関係がどのようなものであったのか、埋蔵文化財の面からは限界があるので今後の課題とし御指導を承りたい。

最後に、出土した小代焼をはじめ各陶磁器について御教示いただいた南関町教育委員会の坂本重義氏、また採集資料を御提供していただき掲載を承諾して下さった松本秀蔵氏と玉名市立歴史博物館の方々に厚くお礼申し上げます。

引用・参考文献

注１　田邊哲夫　「菊池川口の港の変遷について（私案）上」『高瀬湊関係歴史資料調査報告書（一）』1987
注２　吉田荘一郎　「軒並系図書における高瀬町南部の町の性格について」　同上　1987
注３　田邊哲夫　『戦場そして基地高瀬』玉名市立歴史博物館企画展図録　1997
注４　西田道杢　「御米山床発掘調査」『高瀬湊関係歴史資料調査報告書（一）』玉名市　1987
※補記　肥後五ヶ町の一つ川尻においては、御蔵の建物が一部現存しており参考にできる。
注５　北野　隆　「高瀬の町屋」『玉名市史・資料編３（自然・民俗）』玉名市役所　1993
秋元一秀　玉名市歴史博物館講演会における崇城大学工学部の発表記録による 2004
注６　高田美由紀　『出島和蘭商館跡』復元事業に伴う発掘調査報告書　長崎市教育委員会　2000
注７　田添夏喜　「保田木城跡」『玉名の文化財・総集編』玉名市教育委員会　1974
注８　田添夏喜　「高瀬本町通り遺跡」『文化財めぐり・82』玉名市史編集委員会　1985
注９　田邊哲夫　「菊池川水運・港の歴史」『川と港展』玉名市立歴史博物館企画展図録　1997
注10　坂本重義　『小代焼瀬上窯跡・瓶焼窯跡』南関町文化財調査報告書　南関町教育委員会 1995
注11　大橋康二　「肥前・有田磁器にみる紀年銘について」『研究報告第89集』国立歴史民俗博物館 2001
注12　大橋康二　「近世における肥前陶磁の流通」『研究報告第46集』国立歴史民俗博物館 1992
注13　大八木雄二「稗古場の芙蓉花」『皿山雑話４』
注14　園井正隆　「VOC 銘入り染付芙蓉手鳳凰文皿について」『福岡考古』　福岡考古懇話会　2002
注15　松本秀蔵　「『陶片は語る』を顧りみて」『歴史玉名・第29号』玉名歴史研究会　1997
注16　田邊哲夫　「『陶片は語る』展示目録」玉名市立博物館　1996
注17　桑原憲彰　「熊本県出土の中国陶磁一覧表」『中国陶磁の美』熊本県立美術館　1980
森本一瑞　『肥後国誌』（高瀬町長福寺の項など）後藤是山編・青潮社　1972
田邊哲夫　「菊池川口の港の変遷について（私案）下」『高瀬湊関係歴史資料調査報告書（二）』1988
田邊哲夫　『（伝）世尊寺跡』玉東町文化財調査報告第３号　玉東町教育委員会　1995
森山恒雄　「高瀬町・高瀬津の研究史」『高瀬湊関係歴史資料調査報告書（二）』 1988
西田道杢　「高瀬湊の地理的位置」『高瀬湊関係歴史資料調査報告書（一）』玉名市役所 1987
門岡　久　「近世（三、高瀬町）」『岱明町地方史』岱明町役場　1969
大橋康二　『肥前陶磁』考古学ライブラリー55　ニュー・サイエンス社　1989
大橋康二　「肥前陶磁の変遷図」『古伊万里』大橋康二・西田宏子監修　平凡社　1992
佐賀県立九州陶磁文化館編　『九州陶磁の歴史的展開』佐賀県立九州陶磁文化館　1996
亀井明徳　「熊本県出土の中国陶磁」『中国陶磁の美』熊本県立美術館　1980
園井正隆　『久留米城下町遺跡』久留米市文化財調査報告書第169集　久留米市教育委員会 2001
吉岡康楊ほか「近世窯業遺跡データ集成」『研究報告第73集』国立歴史民俗博物館　1997
成瀬晃司　「江戸の武家屋敷と町屋の発掘」『考古学がわかる』朝日新聞社　1997
槐原慎二　『不動山窯跡群・吉田１号窯跡』嬉野町文化財調査報告８集　嬉野町教育委員会 1998
槐原慎二　『嬉野町の古陶磁窯跡』嬉野町文化財調査報告８集　嬉野町教育委員会 1998
東中川忠美　『内野山北窯跡』佐賀県文化財調査報告第129集　佐賀県教育委員会　1996



高瀬下町線周辺
（南から）

高瀬本町通遺跡
周辺（北から）

高瀬出土
VOC皿片

報告書抄録

ふりがな	たまなしないいせきちょうさほうこくしょに
書名	玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ
副書名	平成13・14年度の調査
巻次	
シリーズ名	玉名市文化財調査報告
シリーズ番号	第13集
編著者名	末永崇　蜷父雅史　竹田宏司　田中康雄　古閑敬士　大倉千寿
編集機関	玉名市教育委員会
所在地	〒865-0051 熊本県玉名市繁根木88-1
発行年月日	平成16年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
いわさきじょうあと 岩崎城跡	たまなしいわさき 玉名市岩崎	43206	221	32°55′46″	130°33′34″			
いわさきはらいせき 岩崎原遺跡	たまなしいわさき 玉名市岩崎	43206	219	32°55′57″	130°33′24″			
こがいせき 古閑遺跡	たまなしついじ 玉名市築地	43206	163	32°55′47″	130°32′17″			
たかせおちゃやあと 高瀬御茶屋跡	たまなしたかせ 玉名市高瀬	43206	208	32°55′24″	130°33′50″			
いっぽんまついせき 一本松遺跡	たまなしいくらきたかた 玉名市伊倉北方	43206	276	32°54′39″	130°35′37″			
たかおかばるいせき 高岡原遺跡	たまなしやまだ 玉名市山田	43206	277	32°56′03″	130°32′53″			
ほたきかいづか 保田木貝塚	たまなしたかせ 玉名市高瀬	43206	278	32°55′40″	130°34′02″			
ほたきしろあと 保田木城跡	たまなしたかせ 玉名市高瀬	43206	279	32°55′40″	130°34′02″			
いなりやまこふん 稲荷山古墳	たまなしはねき 玉名市繁根木	43206	280	32°55′28″	130°33′40″			
たまなへいやじょうりあと 玉名平野条里跡	たまなしまつき 玉名市松木	43206	281	32°55′10″	130°33′03″			
えいあんじあと・えいあんじごとうひぐん 永安寺跡・永安寺古塔碑群	たまなしたまな 玉名市玉名	43206	282	32°56′49″	130°34′37″	平成13年４月１日		個人住宅・
ぬかみねいせき 糠峯遺跡	たまなしりゅうがんじ 玉名市立願寺	43206	284	32°56′08″	130°33′03″	～		共同住宅・
やまだまつおひらいせき 山田松尾平遺跡	たまなしやまだ 玉名市山田	43206	285	32°56′24″	130°32′47″	平成15年３月31日		道路・店舗
ちょうふくじあと 長福寺跡	たまなしたかせ 玉名市高瀬	43206	286	32°55′25″	130°33′50″			等各種開発
ついじいちばいせきあと 築地市場遺跡	たまなしついじ 玉名市築地	43206	287	32°55′34″	130°33′43″			
きくのおいせき 菊尾遺跡	たまなしついじ 玉名市築地	43206	288	32°55′14″	130°31′21″			
いくらふるみやはらいせき 伊倉古宮原遺跡	たまなしいくら 玉名市伊倉	43206	336	32°53′17″	130°35′05″			
たじまいせき 田嶋遺跡	たまなしなか 玉名市中	43206	181	32°55′37″	130°32′04″			
おおつか・そうはざいせき 大塚・惣萩遺跡	たまなしりゅうがんじ 玉名市立願寺	43206	103	32°55′22″	130°33′24″			
かみおだみやのまえいせき 上小田宮の前遺跡	たまなしかみおだ 玉名市上小田	43206	050	32°57′09″	130°35′48″			
かみおだふるやしきいせき 上小田古屋敷遺跡	たまなしかみおだ 玉名市上小田	43206	126	32°56′53″	130°35′48″			
あおのはらいせき 青野原遺跡	たまなしあおの 玉名市青野	43206	351	32°53′17″	130°35′49″			
たかおかはらじょういせき 高岡原J遺跡	たまなしやまだ 玉名市山田	43206	412	32°56′03″	130°33′36″			
ごろうまるいせき 五郎丸遺跡	たまなしやまだ 玉名市山田	43206	063	32°56′10″	130°32′19″			
きつねみちいせき 狐ん路遺跡	たまなしいわさき 玉名市岩崎	43206	170	32°55′47″	130°33′43″			
にしのやまこふんぐん 西の山古墳群	たまなしついじ 玉名市築地	43206	057	32°56′14″	130°31′44″			
たかせほんまちどおりいせき 高瀬本町通遺跡	たまなしいわさきたかせ 玉名市岩崎高瀬	43206	211	32°55′31″	130°33′53″			
いくらみやのあといせき 伊倉宮の後遺跡	たまなしいくら 玉名市伊倉	43206	344	32°53′12″	130°35′01″			
かめのこういせき 亀甲遺跡	たまなしかめのこう 玉名市亀甲	43206	190	32°55′34″	130°33′26″			
れんげいせき 蓮華遺跡	たまなしついじ 玉名市築地	43206	161	32°55′46″	130°32′16″			
こうれんじあと 光蓮寺跡	たまなしたかせ 玉名市高瀬	43206	－	32°55′40″	130°34′02″			
なかむらやかたあと 中村館跡	たまなしなか 玉名市中	43206	－	32°55′37″	130°32′04″			
ついじひがしいせき 築地東遺跡	たまなしついじ 玉名市築地	43206	164	32°55′52″	130°32′11″			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩崎城跡	城館	中世	土塁、堀状遺構	瓦器、瓦質土器、土師器	
	集落	弥生時代後期	住居跡、土坑、溝	弥生土器	
高岡原遺跡	集落	弥生時代後期	住居跡	弥生土器	
稲荷山古墳	古墳	古墳時代	－	円筒埴輪	
糠峯遺跡	包蔵地・甕棺墓	古代・弥生・縄文	溝状遺構・甕棺墓	須恵器、弥生土器、石製品	
菊尾遺跡	集落	古墳時代	住居跡	土師器	
伊倉古宮原遺跡	包蔵地	弥生時代	ピット	弥生土器	
田嶋遺跡	集落	古代・古墳時代・弥生時代	住居跡	瓦、土師器、須恵器、弥生土器	
高岡原J遺跡	包蔵地	古代・縄文時代	溝状遺構・土坑	土師器、石製品	
狐ん路遺跡	集落	弥生時代	住居跡	弥生土器	
高瀬本町通遺跡	包蔵地	中世・近世	－	陶磁器	
中村館跡	城館	中世・近世	溝状遺構	土師器、陶磁器	
築地東遺跡	集落	古墳時代	住居跡	土師器	

玉名市文化財調査報告　第13集
玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ
平成13・14年度の調査

平成16年３月29日印刷
平成16年３月31日発行

編集発行　玉名市教育委員会
〒865-0051　玉名市繁根木88-1

印　　刷　株式会社　有明印刷
〒865-0022　熊本県玉名市寺田123-1
TEL0968-73-2055